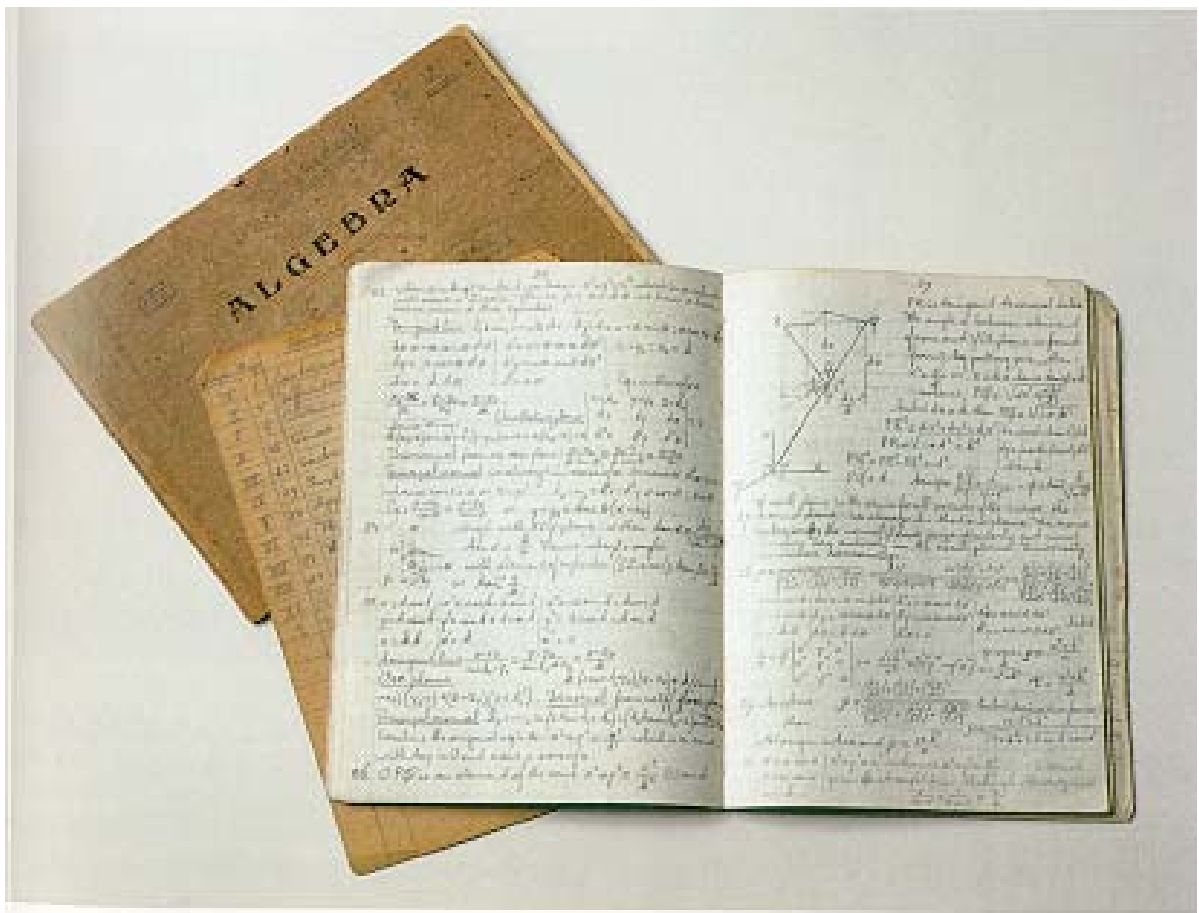


## 日記でみる日本占領時代の蘭印

シ・レンゴ・レンゴに於いて書かれた日記



この出版物はオランダ戦争資料研究所が「日蘭歴史研究プログラム」の一環として行った『日記プロジェクト』の成果の一つである。「日蘭歴史研究プログラム」は、1994年に当時の村山富市首相が提唱した<平和友好交流計画>から生まれ、日本政府による助成金により運営されるものである。

2004年、オランダ戦争資料研究所

A digital version of this manuscript can be studied on <http://niod.nihon.nl>

日記でみる日本占領時代の蘭印

シ・レンゴ・レンゴに於いて書かれた日記

編纂 : Jeroen Kemperman

編集 : Richard Voorneman

翻訳 : Tomoko Schenk-Onishi and Takako Shibayama-Reinhardt



## 目次

背景	1
序	3
移送と収容	26
収容所組織 — 欧州人並びに日本人収容所幹部	80
日本人による被抑留者の扱い	112
食糧及び物資事情	140
就労状況	235
健康状態と医療事情	253
イラスト	335
教育・娯楽・宗教関係	337
性意識	376
「終戦後」の生活への想い / 収容所内の雰囲気	378
人間関係	398
収容所外部との接触	436
戦況の報道と流言	452
収容所への平和通告	479



## 出版にあたって

日本の蘭領東インド占領に関して残された一次資料は数少ない。日本の公文書は終戦時に大量に破棄され、インドネシアの資料は殆ど無いか、またあったとしても、その入手は困難である。一方、オランダの資料は主に戦後になって作成された報告書や声明書に限定されるが、その中で例外が戦時中に記された日記である。この日記を基に十一巻からなる<日記シリーズ>が編纂され、これはそのシリーズの一冊である。シリーズのうち五巻分の日記集はすでに『日記の中の日本占領』シリーズとして、ベルト・バックナー社（アムステルダム、2001－2002年）からオランダ語で出版されている。日記は現実の主観的表現ではあるが、日本占領下での日常生活の様子を良く表している。

ここで言う日記はすべて、オランダ人が記したものである。日本人管理下の収容所では‘書き物’をする事は禁じられていた。収容所外でも、家宅搜索の際に日記が見つかるのと罰を受ける可能性があった。それでも多くの人々が敢えて日記を付けていたことから、日記が書き手にとっていかに重要な意味を持っていたかが窺われる。彼らの個人的な語りは、これまでに形成されてきた日本占領のイメージに新たな視点を提供するものである。

シリーズでは各巻毎に強制収容所、あるいは捕虜収容所に焦点を当てたが、収容所外の生活にも関心を注いだ。シリーズにはある日記を一冊、丸ごと収めたわけではなく、日本占領下の西欧人の日常生活がはっきりしたイメージが得られるように、取捨選択が行われている。

選択に先立って、複数の日記からの情報をいかに明瞭な方法で組み合わせるにはどうしたらよいか、熟考され、長い議論が行われた。一見すると、それぞれの日記から部分を選んで、日付順に並べるのが最も妥当ではないかと思われた。しかしこのように並べると、日記の各々の部分が提供する収容所生活の独立した側面についての情報を全体の中から抽出する事が難しくなり、そのために情報が失われてしまう恐れがあると懸念された。また、我々は日記の部分をさらに細かく項目分けすることで、全体がさらに読み易いものになるのではないかと考えた。さらに最終的には、シリーズには各収容所毎、独立した巻が設けられ、複数の日記が出版されるということがあり、我々は複数の日記からの情報を並べ、比較することができるような方法を見いだそうとした。

そこで結論として、日記を各々、収容所生活の重要な側面を表す項目に分ける方法が選ばれた。項目毎に日記の部分を日付順に並べ、時の経過がはっきりと分かるようにした。さらに、こうすることで、シリーズ内の複数の日記に見られる話題の発展、例えば医療状況を、互いに比較することができる。しかし実際、項目内容はそれぞれ相互関係にあり、分け難い。したがって日記の部分の多くは幾つもの項目に跨るものである。

編纂にあたっては日記原本を使用した。ただし、読み易くするために、文章は現代オランダ語に統一する方法が採られた。また、紙不足から日記の書き手があまり考慮しなかった句読点や段落を付け加えることにより、読み易さを促進した。略語は幾つかの例外を除

いて通常語に戻した。読み易いようにするためか、あるいは説明のためか、いずれにしても原本に後から書き加えられた文章は、すべてカギ括弧で括った。プライバシー尊重の観点から、文中、書き手を著しく傷つけるような文脈、あるいは犯罪的な行為をしたとなどの非難の文章に限り、その個人名を伏せるようにした。時には書き手自身が、ある状況の中では名前を伏せている場合もある。全体として、書き手の認識は個人的なものであり、彼らが置かれていた極端な状況に影響されているものであることを特記しておきたい。

使用した日記の著者およびその近親者からは、我々が彼らを探し出せる限りにおいて、この日記プロジェクトに彼らの日記を使う許可を得ている。



## シ・レンゴ・レンゴ 収容所 序

1944年10月初旬、スマトラ北東部に収容されていた民間人男子抑留者のほぼ全員が、ランタウパラパトから約10キロ離れた内陸部に位置するシ・レンゴ・レンゴ収容所に寄せ集められた。オランダ人の「指導的人物」、英国人及び他国籍の人々およそ160名は、パダン・ハラバンにある他の収容所に移された。スマトラ北東部に抑留されていた約5000名の婦女子は、1945年の4月、5月、6月にアーク・パミーンケの近くにある3つの収容所に集められた。戦後、陸軍補給部第25連隊司令官ヤマモト・ショーゾーは移動の理由を「供給及び保全の不備を回避する適所を選択すべく」（RIOD IC 010.876）と述べた。男子と少年がこれまでに抑留されていた収容所の状況と比べ、シ・レンゴ・レンゴ収容所はあらゆる面においていっそう悪い状況に置かれることを意味していた。この収容所はビラ川沿いの湿地帯のきわめて孤立した場所にあった。川を渡るプラウ船が外部との唯一の経路であった。

## 収容所の住人たちと外観

シ・レンゴ・レンゴに到着した第一陣は、メダン近隣に位置するスンガイ・センコル及びベラワン・エステート両収容所の男子と少年であった。この移動には2日間を要した。汽車でランタウパラパト（キサラン駅一泊）に向かい、その後徒歩でゴム林を通過して収容所に到着した。1944年10月2日と3日にはスンガイ・センコル収容所から550名が、10月4日と6日にはベラワン・エステート収容所から533名の抑留者が到着した。スンガイ・センコル収容所とベラワン・エステート収容所の男子全員がシ・レンゴ・レンゴ収容所に直接移送されたのではなく、両収容所から約100名のいわゆる「丈夫な男たち」が、アーク・パミーンケにある収容所において婦女子の到着に備え、準備のため下車しなければならなかった。1945年の4月と5月になって彼らもシ・レンゴ・レンゴ収容所に移された。

1944年10月8日、ラウエ・シ・ガラ・ガラ（コタ・チャネ近隣に位置する）収容所から261名の男子と少年が到着。次いで10月14日と28日には、メダンの聖ヨーゼフスクール収容所から64名が到着。これによってシ・レンゴ・レンゴ収容所の被抑留者数は10月末に約1400名に到った。1944年12月中頃には、年少者が数名含まれた主に10歳とそれ以上の少年、またブラスタギー、グルゴール、プラウ・ブラヤンそしてタンジュンバライの婦女子収容所からは、60歳以上の男子数名を含む計391名がシ・レンゴ・レンゴ収容所に移された（12月16日と17日到着）。1945年3月、収容所には男子と少年は1770名に及び、そのうち558名が7歳以上17歳未満の少年たちであった。5月18日に聖ヨーゼフスクール収容所からさらに7名が到着。被抑留者数は4月4日（108名）と5月21日（88名）に「丈夫な男たち」が到着した後は一番多く、すなわち1936名に到った。

シ・レンゴ・レンゴ収容所の敷地の広さはおよそ縦320メートル、横250メートルで、鉄条網で囲まれていた。人々は幅約8メートル、長さ40メートルの「ホン」と呼ばれた9棟ある二階建てのバラックに収容された。各ホンには220名が収容され、各自約75cmのスペースが与えられた。ホンは竹で編んだ壁とヤシの葉で葺いた屋根があり、床は土間であった。壁には開閉可能なよろい戸がついた長方形の穴が数箇所あった。バラックはぐらつき、今にも崩れ落ちそうなものであった。照明はほとんどなかった。各ホンには石油ランプが一つか二つあったが、油はごく僅かしか供給されず、夜通し燈し続けることは不可能であった。家具調度品はなく、被抑留者が以前いた収容所から持ち込むことも禁じられたため、椅子や長椅子を所持していた者はごく僅かであった。決して頑丈とは云えない長い板が、バレ・バレ[寝台]としてホンの縦方向に取り付けられていた。一枚の板を複数の人々が利用していたため、いかなる動作も板の共有者と分かち合う必要があった。その上、被抑留者たちは南京虫の襲撃に悩まされた。

豪雨になるとホンは雨漏りし、収容所の外は大きな泥の海と化し、高齢者にとって歩行困難となった。「シ・レンゴ・レンゴはほぼ絶え間なく雨が降っており、人々は一日の大半を風通しの悪い不潔なホンの中で過ごさねばならなかった。しかも乾燥期に熱帯の太陽がたまに照りつける時には、外に長くいることは困難であった。収容所には全く日陰がなかったのである。…中略…泥、泥、乾燥した日にはでこぼこに固まってしまう泥のみである」(ブラント、174ページ)。

スンガイ・センコル収容所からの男子はホン1号棟、2号棟、3号棟に収容され、ベラワン・エステート収容所、ラウェ・シ・ガラ・ガラ収容所及び聖ヨーゼフスクール収容所からの人々は、それぞれホン4号棟から9号棟に収容された。民間人男子収容所に父親あるいは保護者がいない少年たち200名のために、1944年12月にホン8号棟が明け渡された。このホンは少年棟と呼ばれ、日本軍占領前にはブラスタギーのP S V(農園学校協会)寄宿学校長であったJ. マースマンの指導下に置かれた。ほぼ半数が同じく教育関係者である12名の指導員が彼を補佐していた。その他の少年たちは父親、叔父あるいは保護者に伴い他のホンに収容された。

収容所には「ホスピタル」があったが、これは床が板張りのバラックに過ぎなかった。また炊事場、病人用の食事を用意した特別食用炊事場、炊事場用の倉庫、被抑留者の大きな荷物を保管したトランク置場、そして炊事用の薪を割る薪割り場があった。病人の数が多く、早くも病院はベットが不足し、そのため1944年12月にホン3号棟の半分が付属病棟として整備された。1945年3月、この臨時病棟はアーク・パミーンケからの「丈夫な男たち」の到着に先駆け、場所を得るためトランク置場へ引越した。川岸からは日本人とインドネシア人の監視の家や倉庫に沿ってトロッコ線路が引かれ、正門から収容所内に入りホンの前方を通過して貯蔵倉庫まで続いていた。

水道はなく、飲料水は川から汲み出し沸騰させる必要があった。給水改善のため炊事場の傍に井戸が掘られた。個人用の食べ物の煮炊きは日本軍から禁じられていたが、川の

傍にある指定されたバラックで湯を沸かすことだけが許されていた。この湯沸し小屋は同時に被抑留者が水浴するために着替える脱衣場でもあった。水浴は川で為された。浴場は収容所内にはなく、すぐ外側にあった。川の入り口までは柵で閉鎖されており、入り口は決められた時間のみ開いた。川岸は干潮時に数メートルの高さがあり、急勾配であった。そのため水際にたどりつくには、人々は木の柵に沿ってぬかるむ傾斜面に行く必要があった。反対に雨期になると川は氾濫し急流となり、水浴はしばしば危険を伴った。収容所長が抑留者を集団処罰したい時には川が封鎖され、被抑留者の入浴を不可能にし、飲料水不足になるよう計らった。

便所は地面に簡単に作られたふたの付いた数本の溝であった。この溝は川へ流入し、人々は路面電車の乗客のように列をなしてしゃがみこんでいたため「路面電車」と呼ばれていた。当初は僅か数十名分の設備があるのみで、数不足のため被抑留者自身で簡易便所を増設した。「路面電車」はホンから平均200メートル離れた場所にあり、特定の人々にとっては遠すぎた。収容所が泥の海に化したり、真っ暗な夜に無事に簡易便所にたどり着くのは、高齢者や下痢症状の人々には困難であった。指定された場所では用を足せない人々がいたため、収容所のいたるところで大便の悪臭が満ちていた。汚染を防ぐため、1945年1月からは、夜中に収容所各所に排泄された大便を地中に埋める雑役が毎日設けられた。

## 収容所での生活

シ・レンゴ・レンゴ抑留当初の数ヶ月間、日本人収容所長はイノウエという者であったが、1944年12月中旬の移転後から終戦までイケガミ・ノブエ中尉がこの職務を務めた。イケガミは一般に適切な行動をとったが、彼の部下たちは良心的ではなかった。収容所の警備は10名から20名の日本人兵が行い、スマトラでスカリラと呼ばれた原住民補助兵のグループが補佐していた。ほとんどの日本人監視たちは被抑留者からあだ名をつけられていた。多く挙げられた日本人は「ブリレマンス」あるいはすぐに殴った「ブリレヨード」（おそらく本名はハリマ伍長かと思われる）、そして戦後に元抑留修道士の記述による「出っ腹のサミー」である。

「実際は我々の子供たちから好かれたいい奴だった。…中略… サミーはタバコを与えた。サミーはニュースも伝えた。しかし先を見越してもいた。米国人に対して異常な敬意を抱いていた。サミーは私たちに好意的であった唯一人のヤップだったと私は思う」（「メダンの修道士」21ページ）。

オランダ側の日常の監督は、すでにスンガイ・センコル収容所でも同じ任務に当たっていたW.F.ファン・ブルメンダール(メダンの輸入業者)とCh.J.J.ホーヘンボーム（農園主）が従事

した。各バラックはホン（バラック）長の監督下であり、一人ずつ組長のいる4つの組に分けられた。ファン・ブルメンダールとホーヘンボームはほぼ毎日ホン（バラック）長と話し合いを行った。

シ・レンゴ・レンゴ収容所には欧州人医師が十分おり、その数は10名から15名に及んだ。病人の看護には合計約50名から60名が携り、全般にわたる監督は、J.B.ファン・デン・ベルフ医師が行った。欧州人医師と看護人は、日記の中で「ホスピック」と呼ばれた日本人衛生兵の監督下におかれていた。医師には医薬品や医療器具が不足していた。日記の断片に、小さな手術はハサミで麻酔なしのもと行われたことが述べられている（ゴッキンガ 1944年12月15日）。大手術はウィングフート、後にはアーク・パミーンケにある大農園企業病院で行われた。マラリアや赤痢のため数多くの人々が犠牲になり、患者の数は常時被抑留者の3分の1を占めていた。ラウェ・シ・ガラ・ガラ収容所出身の人々が持ち込んだマラリアのため、夜は早く蚊帳に入るか、少なくとも全身を被って過ごすことが賢明だった。

病棟はすぐに満員となり、重症患者だけが収容され、他の患者は自分のホンで待機することを余儀なくされた。数百名の病人に対して便器が4台、室内用便器2台、尿瓶が2本あるのみであった。その上、体温計、包帯の材料、消毒薬、医薬品が特に不足していた。とりわけキニーネ（マラリア治療薬）とダジェナン（赤痢治療薬）の不足で死者を数多く出す結果となった。日本軍はめったにキニーネを支給せず、赤痢に対しては全く治療薬がなかった。自ら薬品を所持していた被抑留者は無論きわめて節約して使い、それを病院に提供することを常に拒む傾向にあった。日本降伏の通告までに少年3名を含む合計113名の被抑留者が死亡した。1945年3月と4月は最悪でそれぞれ15名、22名の死者が出た。犠牲者は収容所裏の丘の麓に臨時に作られた墓地に埋葬された。

被抑留者は自らの手で収容所の保全に努めなければならなかった。特に、日々の食事の準備や、水、薪、食糧の運搬には多くの労力を要した。大炊事場では12名～15名からなる班が3つ、特別食用炊事場は平均6名からなる班が3つ従事した。炊事班は特配があった唯一の雑役で、他の被抑留者より3分の1余分にもらえた。給水班は川から水を汲み出し、炊事場に運ぶ任務。伐採班は収容所の外で木材を集め収容所に搬入、そこで扱いやすい大きさに割ったり木びきをする必要があった。輸送班は食糧をランタウパラパトから収容所に運搬、すなわちトラックで川まで運ばれた物資を、抑留者が自分で荷をプラウ船で川向こうに渡し、全部を倉庫へ通じるトロッコ線路まで運ばなければならなかった。これはきびしい雑役であった。その他に比較的軽い雑役としてトウモロコシの吹き分け、サゴ洗浄、ガブレック（乾燥キャッサバ）割り、ガブレック挽き、ウビ（サツマイモ）洗浄および収容所ウビ菜園の世話があった。最後に日本人監視のためにその傍であらゆる雑用、特に収容所外部にある彼らのウビ菜園の管理をする所謂ヤッペン雑役があった。人々の健康状態が悪化していくに従い、これらの雑役のために十分な人手を得ることが次第に困難になっていった。

娯楽には収容所図書館があり、様々なテーマで講演会が開かれた。おそらく移動の際、プレーヤーとレコードを持ち込んだ者がいた様子で、クラシックレコードコンサートに

ついて日記に何度か述べられているのだ。さらに収容所にはベラワン・エステート収容所から持ち込まれたピアノもあった。クリスマス時期に重宝され、1944年12月25日にはキリスト降誕劇、翌日には寸劇ショーの夕べが企画され、日本人所長が提供したチューバも使用された。これらの劇が必要な気晴らしとなっても、被抑留者の多くにとって収容所生活は耐え難いものであった。

「キリスト降誕劇も、…中略…クリスマスの雰囲気を出すことはできなかった。クリスマスの日々を多少ともお祝いの感じをだそうと寸劇ショーを計画する必要があると考えた人々は、その目的を果たすことが全然できなかった。何も、まったくなにもこの陰鬱な雰囲気を取り除くことはできなかった」（ライクブック、183-184ページ）。

ほとんどの日々が薄暗く退屈に過ぎていった。1945年6月「勇気をもって生きる！」の劇がウィレム・クロスターの脚本と歌で演じられたが、7月初旬収容所監督は状況が余りにも深刻なため上演を暫定的に禁じた。

家族との直接の接触はなく、十数キロ離れているだけのアーク・パミーンケ婦女子収容所とさえも皆無であった。時折数ヶ月前の便りを受け取るのみだった。たとえば1944年11月初旬に、ブラスタギー婦女子収容所からの手紙が届き、その月の下旬にオランダ、英国、タイからの赤十字郵便物が到着した。12月の中旬数百名の少年たちが婦女子収容所からシ・レンゴ・レンゴ収容所に移された。彼らは男たちに妻や子供たちが収容所でいかに生活しているかを伝えることができ、また手紙や小包を携えてきた。1945年4月12日に再度オランダ、ジャワ、日本、マラッカから赤十字社製用紙を受け取った。数日後、収容所の住人たちは抑留期間中2度目（初回はシ・レンゴ・レンゴ収容所以前）の最高50語の短い手紙を送付することを許可された。強制収容所名の記述などは禁じられていた。7月中旬には、アーク・パミーンケにある婦女子収容所に衣類の入った小包を送る機会さえも与えられた。1945年8月14日三度目で最後の赤十字郵便物を受け取った。

日本軍から提供された戦況に関する報道は、日本タイムズの古い版数枚からのものだけであった。その他には、被抑留者により時折密かにスマトラ新聞が一部持ち込まれた（F.J.ボスの日記の断片参照）。これらの新聞は欧州の進展をおおむね完璧かつ正確に伝えていた。太平洋の状況に関しては実際不明瞭で、多くのとっぴな噂を生み出す要因になった。収容所監督ファン・ブルメンダールとホーヘンボームは鉱石電流で作動する無線によって報道を密かに入手した。ヘッドホンの電流は、ココナッツの殻に糖尿病患者の尿を満たして臨時に作った電池から供給された。アンテナには物干し用のはりがねが使用された。受信した情報は、他の抑留者にそのまま伝えられたのではなく、安全を考慮に入れ、噂として「偽装された」。

## 食糧事情

日本軍から出された食糧は質・量ともに不十分であった。シ・レンゴ・レンゴ収容所当初の1ヶ月半、被抑留者は主に野菜が全然添えられていない米とトウモロコシが与えられた。その後いくらかの野菜と（ほとんどが腐っていた）魚が入荷したが、その配給量は二度の僅かな食事になんとか間に合う程度であった。1945年2月初旬には、トウモロコシが一部生サゴに代わったが、サゴにいろいろなものが混じり込んでいたため被抑留者にとっては食糧事情の悪化を意味した、

「それはサゴではなかった。砂、木、樹皮だった。そしてまた何もない時も、そして砂、中にサゴのようなものが入っているのが分った」（「メダンの修道士たち」18ページ）。

十分に洗った後は半分程度が残るのみであった。収容所監督の度重なる嘆願によって、1945年5月によく配給が一日100g増加し、6月からサゴはでなくなった。その他給食は常に量的に10%から20%不足しており、その上日本人やスカリラがすでに乏しい量であった魚を奪い取った。

1945年5月初旬の給食増加によって、収容所監督と炊事班の間に争いが生じた。炊事雑役班はこれまで他の者より3分の1余分に食べ物を得ていた唯一の者たちであった。収容所監督は100gの給食量増加に伴い、3分の1の特配を彼らに与えないと決定した。これに該当する者たちは異議を唱え、収容所監督に譲歩するよう最終的申し入れをした。これは予想外の結果をもたらした。収容所監督の決断に被抑留者が同意した票決によって、炊事班全員の辞職を引き起こした。

1944年11月中旬から収容所幹部は、ランタウパラパト及びタンジュンバライの納入業者に自主的に注文することによって定期的に配給補充を得られるようにした。納品された品物はシ・レンゴ・レンゴ収容所初期に26584.87ギルダーあった収容所内現金から支払われた。この現金は大部分がロンドンにあったオランダ政府からのものでスエーデンの公使館、及び/又は東京の派遣使節を通してオランダ領東インドへ送金された（一人当たりおよそ12ギルダーが1944年9月にスンガイ・センコル収容所とベラワンエステート収容所、おそらくラウエシ・ガラ・ガラ収容所でも受け取られたが、シ・レンゴ・レンゴ収容所で初めて使用可能となった）、これに日本軍から支給された9月分の食費（一人およそ4.50ギルダー）が加わったものである。一人当たり一日0.15ギルダーの食費は、毎月収容所監督に前月分が手渡された。この方法によってその後被抑留者たちに一日3度の食事を与えることが可能になった。

しかし、このシステムは早くも負担となった。その理由は注文した食糧等、すなわちガブレック、乾燥魚、ココヤシ、カチャン・イジョ、タバコなどの価格が急激に上がり、

配給補充の費用を支払うことが次第に困難になったためである。収容所監督は3度目の食事、すなわち朝食を続けるためには月最低16000ギルダールが必要と算出したが、日本軍からは毎月僅か8000ギルダール前後の食費しか受け取っていなかった。収容所監督は不足分を政府がこの金額を戦後支払うことで、被抑留者に債券発行を試みた。1944年12月、1945年1月の最初の貸付金で11300ギルダールが集った。その後抑留者がお金を振り込んでも支払人として直接有利な点につながらなかったことで、次第に困難になっていった。入金者をより多く募るため、入金者は貸付金の20%を現物、すなわち注文品のうちの食べ物やタバコという形で受け取る事ができた。この規定は平等さをはかるため、初回の貸付金にも同様に適用された。

続く3度の貸付け金は次第に減少していった。その上注文品の種類がさらに限定され、1945年5月以降はおおむねガブレックとごく少量の干し魚とタバコが購入できるのみであった。そのため収容所監督は5月に毎日入金すれば、直接20%の返済をタバコまたは干し魚で行うことができる常設貸付けシステムに移行した。このシステムを継続するため、収容所幹部は常にタバコと干し魚を在庫している必要があった。1944年12月から日本降伏の通告までに、合計73500ギルダールが抑留者から貸付けられ、その内80%の59000ギルダールが一般の食費に使用された。

イケガミ所長の協力のおかげでかなりの量のヤシ油とウビ・カユが入手できたのは極めて重要なことであった。1945年1月、3月、5月、7月に約10トンのヤシ油が納入され、1945年3月、4月、5月に多量のウビ・カユが3度入荷した。比較的油の供給に余裕があったおかげで、被抑留者の多くが生き残れた。

「ヤシ油、ビタミンA B C D等、カロリー、とてつもない、脂肪、脂肪。何にでも利用できた。炒めたり、粥の中や野菜に混ぜたり、医師は傷に塗った、肝油としても飲む、まだ靴を持っているなら、柔らかくするために塗ることも出来た」(「メダンの修道士たち」18ページ)。

油とウビはそれ自体妥当な価格であったが、ランタウパラパトから収容所への輸送費が非常に高かつき、ココヤシの搬入にはほとんど支払不能となった。

注文品以外には、収容所内の利用可能な土地でウビを栽培することによって余分の食糧を得た。収容所沿いを流れる川には、ランタウパラパトの市場に向かう食物を積んだ小船が定期的に通っていた。被抑留者たちがこの船に近づくことは禁じられていたが、日本人所長はピサンやキャッサバなどの購入を幾度か許可した。川で魚が釣られ、時には大きなミズガメさえ捕れた。病人に幾分かの特配を与えるために、男子二人が病院用のカメ捕獲を特別に担当した。被抑留者はネズミ、ヘビ、カエル、ネコ、イナゴも食した。夜には何百ものネズミ捕りが仕掛けられたが、その成功率は次第に減少していった。これらの獲物があっても蛋白質不足をおぎなうことは不可能であった。

収容所は非常に辺りな場所に位置していたため、外部とのヤミ取引は極めて少なかった。輸送班はランタウパラパトからなにがしかを持ち帰ることができた。ごく限られた範囲でスカリラとヤミ取引がなされ、時には夜中に収容所から抜け出し、近隣のカンボンで物々交換をした者もいた。「鉄条網の外」に出ることは可能であった。収容所は、被抑留者にとって行くところはまったく無かったため、密閉状態というわけでもなかったからである。当時16歳のH.L.レフェラーは1945年8月18日に、他の二人と冒険を密かに試みこう記述していた。

「ぼくたちは帰りに使ういかだを作ったり、森に新しい小道を作るために、明るいうちに起き出さねばならなかった。…中略… 夕食後、便所から外にはい出した。よく浮いていられるよう服に防水袋を付けていた。三本のバナナの幹でいかだを作り、川岸に準備しておいた。…中略… 6時頃でまだ明るかったため、ぼくたちは1時間以上木に登って隠れていた。たくさんの原住民が道を通り過ぎていった。暗くなって出発した。原住民の少年一人、少女一人と出会った後、ぼくたちの仲介人の所に着いた。…中略… いろいろやり取りをしていたとき、仲介人が魚、玉ねぎ、チャベ、トラシ、グリーンピース、葉巻、カチャンなどをたくさん持っていたことが分った。それから帰り道につく。…中略… 大きな川のそばでいかだを見つけ出すまでに時間がかかった。ぼくたちは誰が泳ぐべきかをくじで決めた。ぼくが当たった。急流を横断するのはほとんど不可能であった。途中、ぼくはかなり流されてしまったのであきらめようかと思った。けれどついにぼくは袋、衣類と一緒に対岸に着いた。…中略… 鉄条網のほうに這い登っていった。収容所から7メートルの所、掘られた2つの井戸の傍で…中略… 二人のスカリラが近づくのが見えた。なお悪いことに泥の塊が井戸に落ちた。スカリラたちはぼくたちから二十歩くらいの距離のところまで立ち止まり、聞き耳をたてた。そして通り去っていった。ぼくたちは無事に中に入った」（レフェラー、「配給」170-172ページ）。

食糧及び健康状態に関しては、書面や口頭で幾度も日本人所長に苦情が述べられたが、彼は上層部の責任に転嫁した。シ・レンゴ・レンゴ収容所には、数度日本人高官の視察があったが、収容所監督は彼らと話し合う機会を持てなかった。明らかにされている限りでは、1945年に収容所を視察した日本人将校および高官は以下の通りである：

- 4月25日 第25連隊参謀将校 オオヒラ大佐
- 6月19日 第25連隊第2近衛師団クノムラ陸軍中将
- 6月23日 メダン・コシの軍政部官史、タンジュンバライの理事官ハンダ
- 7月24日 第25連隊参謀長、ヤハギ・ナカオ陸軍少将



- 8月1日 メダンのイワサキ・ミツジ 市政官（市長）（1942年12月20日から43年12月31日までスマトラ東岸の強制収容所に関する管理責任者）

日記の断片には他に、上記に明確に述べられていない「高官の視察」も記載されている。スマトラ北部強制収容所の医学上の監督で、医薬品補給を受け持っていた第25連隊従軍医ハラ大尉は、少なくとも月1回はその責任下にある全収容所を訪問したことを戦後述べている。日本当局はシ・レンゴ・レンゴ収容所の悲惨な状況を察知していたし、少なくとも推測できたであろう。しかし根本的な改善は行われなかった。収容所監督のホーヘンボームとファン・ブルメンダールは戦後以下のように結論を出した。

「日本当局は抑留者が耐え得る環境にするべき責務を、すべての点で全く顧みなかった。反対に我々が次第に衰弱してゆくようすべてが計算されたかの様に見えた。状況改善をうながす口頭や書面での要請もすべて…中略…ほとんど無視され、それぞれ責任を上層部当局へと転嫁した」（シ・レンゴ・レンゴ報告書、RIOD IC 080.977 10ページ）。

## 戦後

1945年8月15日日本の天皇がラジオ放送で日本国民に向かって降伏を通告した。シ・レンゴ・レンゴ収容所では8月20日以降、給食が不意に一日当り米約500g トウモロコシ200gに増加した。8月24日になって初めて日本軍は収容所で終戦を通達した。被抑留者は暫定的にシ・レンゴ・レンゴ収容所に留まる必要があったが、アーク・パミーンケの婦女子を定期的に面会することは許された。重症患者はウィングフートの病院に運ばれ、丈夫な男たちが数名婦女子収容所へ力仕事を支援するために出発した。平和通告の後にもさらに6名の抑留者が赤痢で死亡、心臓発作で1名、アーク・パミーンケに妻を訪問中雷に打たれ1名が死亡した。

8月31日にはじめて連合軍機がシ・レンゴ・レンゴ上空に飛来し、食品や衣類の救援品を投下した。その後もたくさんの物資投下が続いた。9月4日になってオランダ人C. シッセラー中尉が収容所に到着、彼は7月28日に落下し、それまで原生林に身を隠し続けていた。9月25日少年棟ホン8号棟が激しい雷雨のため崩壊した。幸いけが人は無かった。また他のホンも崩壊寸前であったため、収容所をできるだけ迅速に引き払い、抑留者をメダンへの移動か、それを予定してランタウパラパト郊外の「7号収容所」と名付けられたクーリー詰め所への収容が決められた。シ・レンゴ・レンゴ収容所及びアーク・パミーンケ婦女子収容所の元被抑留者たちは、約300人のグループごとに夜行列車でメダンに移送された。小人数のグループはトラックで運ばれた。移送はシッセラー中尉の指揮下、日本軍が経路をプムダ（インドネシア民族主義青年たちの準軍事的集団）から防御した。まず最初メダン出身者が

避難した。メダン出身者以外は暫定的に7号収容所に留まり、そのうちタパヌリ県や他の「遠距離」地域出身の人々はパダン・ハラバンに向かった。危険な状況のため当分は国内のかつての居住地へ戻れないことが明らかになり、これらのグループもまたメダンに移送された。11月の初めにはランタウパラパト収容所とアーク・パミーンケ収容所の被抑留者たち全員がメダンに移された。シ・レンゴ・レンゴ収容所が明け渡されると同時に日本軍は収容所に火をつけた。

メダンの欧州人ポロニア地区では、家族は住宅へ、そして未婚者は学校やその他の大きな建物に移された。各住居には10名から20名が収容された。1945年10月11日、ベラワに英印軍第一陣が上陸するまで、ポロニアキャンプは最初日本兵に警備されていた。この町の大部分は共和主義者の手中にあった。メダン郊外は非常に危険であったが、町の中でも頻繁に殺人、誘拐、銃撃戦が発生した。1946年当初の数週間によく英国軍が状況のある程度統制した。大部分のオランダ人はオランダに避難した。デリ出身者の多くは、農園企業が一部奪還された第一次警察行動（1947年7月－8月）の後、再度戻った。

## 日記作者

ボス

F.J.(フリッツ)ボスは1914年9月3日に生れる。1939年6月、彼はアムステルダムからオランダ領東インドに向けて出発。当時オランダに残ったリーシェと婚約してすでに3年たっていた。その時点で彼らは最低1年間は再会できないことが分っていた。「我々の熱望と希望がかんうには、少なくとも1940年半ばまで待つ必要があった」（1945年6月13日）。ボスは東インドでメダン、サマラン、スラバヤ、バタビアにチェーンをもつファン・デ・ポール・トコ貿易に勤務した。最初の勤務地はメダンで、そこで1940年5月10日ドイツがオランダに侵攻した日から日記を書き始めた。戦争と占領によってオランダへの（一時）帰国は当分不可能であった。その間に昇進したボスは、1940年12月にバタビアに転勤した。一年後に日本との戦争が勃発、メダン支店長が徴兵されたため、ボスはメダンに戻りその職務を引き継いだ。1941年12月14日、彼はKLM機（経済省大臣に任命されたばかりのP.A.ケルステンズがその夫人及び子供たちとロンドンに向かうため搭乗していた）で出発、トコの支店長代理として従事した。後に送られるはずであった荷物は到着しなかった。

1942年3月13日（「13日の金曜日」）のメダン占領後、オランダ人は全員自宅に留まっていなければならなかった。4月11日オランダ人全員の強制収容が通達されるまで、ボスはトコの二階に住んでいたのですらに約1ヶ月間勤務を続けることができた。

「これは最悪な出来事である。明日から始り、3日以内に収容されるだろう。最初落胆した後は、意気消沈していないであらゆる薬品を買いに行かせる…中略…その他貯金箱と筆記用具と歯ブラシ」。

二日間、ボスとその同居人は何が起こるのを見守っていた。3日目（4月14日）隣人が立ち寄り言ったことは、

「我々はもうすでに収容されているはずだったのだ！彼は我々のために警察に行き、私は警察に出頭させられた。我々は忘れられたのだ。我々は2時に出向く必要があり、その際特別車が手配されるだろう。4時半（通訳を通して）になって日本人将校がもう遅すぎると我々に通達した」。

ボスは帰宅し、翌朝になってベラワンのユニカンポン強制収容所に送られた。1943年7月、ここにいた抑留者たちはベラワン・エステート収容所に送られ、1944年10月初めにシ・レンゴ・レンゴ収容所に移された。

ボスはユニカンポン収容所到着後第1日目に炊事係に名乗りをあげ採用された。炊事場での仕事は多くの利点と特配をもたらし、その中でも大盛りの食事は最も大切なことであつた。これらの利点があるため炊事場で働く人々は一般に好かれていなかった、むしろ嫌悪されていた。価値ある食糧を毎日取り扱っていることで強い不信感を持たれていた。ボスは収容所監督との諍いで1945年5月シ・レンゴ・レンゴ収容所の炊事係をやめるまで、ユニカンポン収容所、ベラワンエステート収容所、そしてシ・レンゴ・レンゴ収容所ので抑留生活ほぼ全般にわたって炊事場で働き続けた。辞任は彼に大きな落胆をもたらし

「3分の1の特配なし、お焦げなし、コップ1杯のトウモロコシ汁なし、無料の紅茶なし、無料の井戸水なし、たまにはお湯を使った水浴なし、予備炊事場での調理なし等で、現在個人的に失望していることは本音だが、そのことをあとで恥じる必要もないと思う」（1945年5月13日）。

次に就いた雑役はかなり役得の少ない浴場監視員であつた。

シ・レンゴ・レンゴ収容所に到着した際、ボスはトランクを一晩見張りなしで川辺に置き去りにすることを余儀なくされ、おそらく印人たちによるものだろうと思われるが、翌日には衣類の多くが盗まれていた。そのため彼は自ずからを収容所内における「持たざる者」としている。彼の日記には密かに入手したスマトラ新聞から集めたかなり多くの戦争記事が書かれている。彼がオランダと欧州における展開に関心を払ったことは明らかである、なぜならそこに最愛の人々がいたのだから。ボスはリベラルプロテスタントの考えに強く共

鳴っていた。シ・レンゴ・レンゴ収容所ではリベラルなW.A.スミット牧師の講演会に出席したが、あえて自分自身を「良きクリスチャン」と呼ぶことはしなかった。

「この収容所で私もおぼろげながら神を信じるようになったが、私自身をクリスチャンと呼ぶとすれば、必ずしも敬虔なクリスチャンとはいえない。私は、クリスチャンとは何を信じているかではなく、何を為しているのかだと思う。そして後者に関しては嘆かわしい状態なのである」（1945年5月3日）。

日本人監視たちの態度は彼にとって不可解なものであった。他のホンの病人たちは全く関与されないにもかかわらず彼とホンの仲間たちが朝の点呼の際、病気のためマットレスに臥せていたのを強く叱責された後、こう書いている、「理由？不明だ！果てしなき自由裁量…」。理由なき乱暴威嚇の後で、人情味ある態度になるという事実は、彼にとっては不可解さがつのるのみであった。

「この不快な出来事の後、病棟担当ヤップが死者のために花束を2つ持って来た。彼らの振る舞いは理解しがたい」（1944年12月7日）。

抑留者たちのお金と時計が軍政部に取り上げられたと聞いて日本人がひどく憤慨したと聖ヨーゼフスクール収容所の人々から聞いたことは、同様に理解しがたいことであった（1944年10月15日メモ）。それから次の話し（誰かが語ったのを聞いた）が日本人のメンタリティーに関する彼の見解とまさしく一致する。

「ヤップのシステム：どこかの海岸で木造の見張り台の上で監視に当たっていた一人の日本兵が台から落ちて両足を骨折。その男はまずムチで体罰をくらったあとやっと看護された」（1945年1月30日）。

太平洋戦争勃発前には、ボスはバタビアの演劇活動に積極的であった、そしてシ・レンゴ・レンゴ収容所で再び活動しはじめた。クリスマス降誕劇の際はコーラスの第1バスを唄い、彼はクリスマス寸劇の指揮をとり、ウィレム・クロスターの「勇気をもって生きる！」のレビューではピアノを演奏した。ボスはクラシックレコードコンサートの愛好家であった。1939年以来逢っていない婚約者のリーシェを思う時には発作的に悲観的、懐疑的になった。長い別れが二人の間にくさびを打ち込むことになるだろうか？この関係は再び昔のようになるだろうか？お互いの気持にすれ違いがないだろうか？お互いをまだ理解しあえるだろうか？6年におよぶ別離で彼女への思慕の気持ちを失っていくこととは反対に、「何年もの間ぼくの内面に少しずつ目覚める情熱的な感情に、苦しまなかった時があっただろうか」（1945年6月13日）。

にもかかわらずボスは抑留生活の肯定的な側面もみていた。彼の人生にとって始めて、昔は決して持てなかった本を読む、話しを聞く、深く考える時間ができたのだ（1944年2月13日メモ）。彼は以前よりより熱烈に音楽、玉ねぎの食事、良書を読むことに楽しみをおぼえた。「これら他国のものを以前とは異なって感じられた。これらのものを昔も聞いていたし、試したし、読んだけれども今はより感動を持つ。だがこれは抑留生活で学んだことである。おそらくこれらの経験は普通の生活に戻ればまた忘れてしまうのだろうか...否や？」（1945年7月19日）。一方食糧不足によって肉体的にも精神的にも彼は怠慢になり、一日中寝床に臥すことを好んだ（1944年3月16日メモ）。

日本の降伏後（元）理事官のベックとブルグゲマンがファン・ブルメンダールとホーヘンボームから収容所監督の地位を引き継いだ。しかし多くの被抑留者たちは、この二人の内務部の役人が抑留期間は指揮を取らず何年間も匿名でいることを大事にし、危険が去った今になって新たに重要な地位に就くことには正当ではないという見解であった。ボスの日記からの下記のジョークが被抑留者たちの気持ちをうまく表現している。

「ベックとブルグゲマンが喧嘩した。どちらもメダンの通りに自分の名前をつけたがった。ブルグゲマン曰く、『あんたのためには”Grote Beck-weg”(オランダ語でGrote Beckは大口を叩くという意味、wegは道。)が似合っていると思うよ』ベック曰く、『あんたにも良い名前がある。一つ通りを作ろう、それはWeg Bruggeman! (このWegは「退け」という意味に使われている。) と言う名前だ』」（1945年8月27日）。9月中旬、ボスはシ・レンゴ・レンゴ収容所の「寸劇グループ」と共にアーク・パミーンケの婦女子収容所へ5日間の巡業に出かけた。彼は何年間もの別離のあと再会した元被抑留者の男子や婦女の反応を、興味深く追求した。「私が尋ねた人々には幸い、思っていたほど3年半後の再会の際でのごちなさや意志の疎通によっての落胆はなかった。このことは私の愛する人との間もない再会に希望と勇気を与えてくれる」（1945年8月27日）。

新しい7号収容所で短期間滞在した後、ボスは10月15日に汽車でメダンへ出発。インドネシア民族主義者が鉄道封鎖を計画しているという噂のため、この移送グループは再度アーク・パミーンケ収容所に立ち戻った。3日後今度は日本軍の厳重な警備の下、再度試みられた。メダンに到着し、ボスはオラニエ・スクールに収容された。12月、この町を散策中に銃撃戦があった

「まったく不意にポロニアウェッハとサウトマンラーンの十字路で我々の耳に銃声が鳴った。示し合わせた通り次の瞬間、移動用防御柵（入り口を遮断するために強い鋸を打った木あるいは梁）の傍に腹這いになった。我々は成り行きを見守ったが、かなりの時間何事も起こらなかった。我々は注意深く立ち上が

った。もう一度立ち上がるや否や、銃撃になり、また近くで銃声が響いた。すばやく臥せる必要があり、そして角の家（ファン・デ・モーレン医師）に最も近道に手足で這いずり、家の入り口にある左右2個の小さな石柱の後ろに臥したまま待機した。…中略… かなりの時間が過ぎて銃撃がおさまった後ようやく我々は帰宅する勇気がでた。特にまぶしく照明された十字路は、明確な標的になり非常に居心地が悪かった」（1945年12月11日）。

これはボス最後のメモの一つであった。メダン到着後はほとんど何事も日記に書いていない。最後の覚え書きは1946年1月9日の日付である。彼は最終的にはアーク・パミンケに抑留していた女性と結婚した。

#### ドライバース

ヤコブス（コース）・ドライバース博士は、1907年8月23日ハーレム近隣のスコーテンで生まれた。彼はライデンで欧亜論理学部に学び、1934年1月「国民参議会及び政府間の争議規定の実践」という論文で博士号を取得した。1934年8月、ギネケ（ギニー）マイエルと婚姻。ドライバースはオランダ領東インドに出発、内務部のコントロールール（監督官）になった。1935年1月より彼の配属はシボルガ、タルチュン、グヌン・テュア及びパダン・シデンパン（スマトラ北部、タパヌリ理事州）と続いた。1935年7月10日息子ニコラース（ニック）が誕生。1940年末にドライバースはかなり重症の糖尿病に罹っていることが判明。病気のため1941年4月1日メダン転勤になり、そこでスマトラの省知事下のスタッフに加えられた。日本軍侵攻の直前彼はメダンで人民の物資や生活必需品の流通担当者になった。1942年3月の日本軍によるメダン占領後、オランダ人官僚は、家族と共に最初スマトラ東岸州理事官の住居に收容された、ドライバースも同様であった。一家は多くの資金を所持しておらず、政府から前払いとして貰った2ヶ月分の給料は予備のインシュリンの購入に使われた。

ドライバースは日本軍よりニッポンワーカーとして指名され、200名～300名のメダン出身者の一人として、メダンの町の公共生活を維持する為に様々な仕事を啓蒙する必要があった。ニッポンワーカーたちは救世軍の児童養護施設收容され、続いて聖ヨーゼフスクールの少年寄宿舎に收容された。彼らの妻子はメダンのセルダン地区に收容された。1943年3月、日本軍がこれ以上欧州人は必要ないと判断し、男子はスンガイ・センコルそして女子はプラウ・ブラヤンの強制收容所に移された。病気のためドライバースは数ヶ月メダンに留まり、はじめ短期間はティモールストラートの看護協会病院へ、その後エマ女王クリニックに入った。エマ女王クリニックで1943年3月、4月に「日本軍占領一年後のインドネシア問題の考察」（1946年ブッスムにて出版）を書いた。ここで彼は

「歴史が戦争の後に1942年3月13日の穂を継ぐなどというのはたわ言である。このようなたわ言を信じ、必要であれば暴力を持って実現しようとする者たちは、もしそれが信じがたいほど危険でなかったとすれば滑稽であったろう、彼らの判断と計画の未熟さを示したのだ。…中略… 東インド政府は東インドが植民地から、自信をもって多くの要求する国となり、彼らの要求の大部分を将来承諾しないとイケないことになる事実を考慮に入れる必要がある」(58ページ)。

1943年9月ドライバーはさらにスンガイ・センコル収容所に移される。この収容所で主に病気の進行状態、受ける食事療法、インシュリンの蓄えの浮き沈みを書き綴った日記を始めた。

スンガイ・センコルでドライバーは健康状態が悪化し、1944年7月にメダンの市立病院に入院。ここでいくら余分にインシュリンを得ることを望んだが、この病院には明らかに予備がなく、彼を診察したジャワ人医師には入手の可能性は全くなかった。ドライバーはきわめて悲観的になり、この時点でインシュリンの蓄えがなくなるだろうと怖れた。医師は彼をある程度安心させることに成功、「医学的には、彼は厳しい食事療法を行い安静を保てば私の病状はそれほど悲観的なものではないとみていた」(1944年7月29日)。ドライバーのような重症糖尿病患者にとってインシュリンは必要不可欠なものである。彼はスンガイ・センコル収容所に何も持たないまま戻った。

1944年8月29日ドライバーは13日分の最後のインシュリン瓶を開始。見通しはきわめて暗たんたるものであった。裕福な収容所仲間の仲介のおかげで、プラウ・ブラヤンに抑留していたギニケが彼を訪問できた。ドライバーはこの訪問について

「本日午後一不意にギニケがここに来た。担架でヤップの事務所に運ばれ一監視の下少し彼女と話しができた。とても健康そうだった。そしてもっと大切なことは彼女がとても冷静なこと。最悪の事態に備えてはいるが、まだ将来に望みを持っている。私にも希望がわく。我々はただ受け入れることしかできない。彼女は幸い冷静に身に委ね忍従している。彼女に再会できたことをどれほど喜んでいるか書き尽くせない。おそらくこれが最後だろう、しかし素晴らしく喜ばしい思い出である」(1944年9月4日)。

2日後、また思いがけずドライバーは収容所仲間が夜中にスンガイ・センコルの農園病院から密かに持ち込んだインシュリンを受け取った。9月中ずっとプラウ・ブラヤン収容所等からさらに多量のインシュリンが届いた。しかし当時生命の危機には直接瀕していなかったが、ドライバーの健康状態は憂慮されていた。

1944年10月初旬スンガイ・センコル収容所の成人男子と少年がシ・レンゴ・レンゴ収容所に出発した。ドライバーを含める数十名の病人および高齢者があとに残った。この

グループは10月11日建物の一部が病棟として設備されていた聖ヨーゼフスクールへ向かった。ここでもドライバーはインシュリンを受け取った、

「今朝事務所のヤップが私にインシュリン5本、計800単位の小包を持ってきた。君には明らかにまた私のために何かものをもたらすチャンスがあったとみえるのだ。なぜならヤップがプラウ・ブラヤン収容所からのものだとやったから」(1944年10月19日)。

10月28日ドライバーは他の数名とシ・レンゴ・レンゴ収容所に出発。1945年1月から病状はさらに悪化。インシュリンではもはや望ましい効果は得られなかった。日記を書くことは少なくなり、入手できるインシュリンの量のみを記載した。彼にとって補充の期待もなく蓄えが少しずつ明らかに減少していくのを見るのは精神的苦痛だったに違いない。1945年3月5日の日記最後の断片には、「インシュリンの量1700単位」と記されている。1ヶ月半後の4月23日ドライバーは享年37歳で逝去。その時点で彼はまだ約85日分のインシュリンを所持していた。

ギニケも出来事を後にすべて夫に話すことができるよう日記をつけていた。その間にニックとアーク・パミーケ収容所に到着した彼女は、1945年7月8日こう記している、

「今日フーベルス修道女から貴方が亡くなったこと聞きました。ほかの人から私に伝わることを彼女は望みませんでした。かわいそうな愛する貴方。すべてが無に帰してしまった、貴方の闘い、私たちの希望、私たちの信頼。全部流砂の上に築いたようなもの」。

## ゴッキング

ヨルクヒール（平貴族）H.C.W.（ヘンリ）ゴッキング公はサバンに住み、そこでオランダ汽船会社（SMN）の代理人として勤務していた。1925年11月、日記にはマームスと呼ばれているヨルクフラウ（未婚貴族の娘につける称号）C.H.J.（コルデュラ）メイエル嬢と結婚、スカートゥ（1926年10月6日誕生）とミース（1927年11月23日誕生）の二人の子供がいた。1940年7月子供たちは入学するためブラスタギーに出発した。太平洋戦争勃発後、サバンはマラッカ諸島での日本軍の迅速な行軍によってはやくも前戦になった。1942年1月18日街に最初の空襲、その後週に4、5回の頻度で爆撃が続いた。そのためこの島の経済生活が麻痺。ゴッキングを含む欧州人の多くが島を脱出。彼の妻はすでにサバンを脱出しブラスタギーの子供たちの所に同居していた。2月中旬のある夜、ゴッキングはボートでスマトラ本島に行



き、それから後は車でブラスタギーへ向かった。近い将来再び戻ることを信じ、所持品の大部分は島に残してきた。

1942年3月16日、日本軍第一陣がブラスタギーに到着。ゴッキングの日記は、カバン・ジャヘに移送され、キリスト教系オランダ現地人学校に収監された4月28日から始まる。彼はここには長くは留まらなかった。5月6日、不意に被抑留者はその日中にベラワンのユニカンポンに出発する必要があるとの通達を受けた。このグループはブラスタギーにたちより、農園学校協会に閉鎖されている婦女子としばしの別れを告げることが許された。ゴッキングはこの出逢いをこう記している、

「君たちに会えてうれしい。しかし別れはつらい。書くことができないほど辛い。特になぜ、なぜと問うミースの瞳。マームスよ、魂が引き裂かれる。なんと辛い別れだろう。マームス、なぜこんなことがおこるのだろうか？私たちはいつの日か再会できるだろうか？」（1942年5月7日）。

彼が妻と娘に再会するには3年余りの年月を経ねばならなかった。

ゴッキングは毎日詳しく日記を綴った。理由は、

「日記を綴らなかつたら、何をしていたのか分からないし、毎日君たちとしゃべるのは楽しいことだ。私の頭脳も働く。日記をつけることは一種の義務と考える。日記に書く前には気分が悪い。君たちと私の毎日のおしゃべりだ。なくてはならないものだ」（1942年7月4日）。

ユニカンポン収容所でのゴッキングの滞在は、1942年7月7日から11月10日まで胃治療のためメダンのエマ女王クリニック入院によって中断した。ともあれ抑留期間の始めにはユーモアの感覚があったはずにもかかわらず、彼の日記の断片が全般に暗い調子なのはおそらく身体的不自由が原因であろう。「我々は彼のそっけない所見に笑わされたこともあった」と同じく日記をつけていた収容所仲間のA.クラウトは記している（1942年11月21日）。ゴッキングはスケッチを好み、日記の中には収容所生活のスケッチが数枚ある。

1943年6月19日、ゴッキングを含む数名の被抑留者たちは息子たちがブラスタギーからスンガイ・センコル収容所に移送されたためそこに出発した。ここでゴッキングはスカートゥと再会、

「スカートゥとまた会えてうれしい、素晴らしい瞬間である。まるで昨日最後に会ったばかりのようだ。だが君のこと思って心を痛めた。君は彼がいなくなって寂しがっていることだろう。彼はとても大きくたくましく優しい子になっ

た。15ヶ月間も会ってなかったとは思えないほどだ。まるで昨日最後に会ったばかりのようだった」(1943年6月19日)。

父と息子は抑留生活の残りをお互いに支えあった、なぜなら、これまでゴッキングはサバン出身なのでスマトラ東岸の人々との面識がほとんどなかったし、しかも収容所住人の多数が彼らで構成されていたからだ。1944年10月初旬、シ・レンゴ・レンゴ収容所へ移動。

ゴッキングは日記に毎日収容所に搬入される食糧の量を正確に書き綴り、また毎日の食事のカロリーと蛋白質の数量を几帳面に計算していた。また被抑留者たちの間で定期的に感情が高ぶっておきる争い、諍い、ののしり合いに大いに関心を注いだ。人間に対する彼のイメージは収容所で否定的なものとなった。彼はにがにがしく「どれほど私は、特に体験により人を疑うことを学んだことか。どうすればもっと良い世の中になるのだろう。不可能。なんと墮落していることか。ここでもだ。いかにそんな連中を私は憎んでいることか」(1944年12月23日)。収容所生活は彼の道德感を踏みにじり、多くの病人や死者をみて恐れ、時には絶望的にさえなった。特に1945年6月、彼自身が病気になった時期には未来が暗たんたるものに思えた。「ああ、元気がなくなり不安になり始めている。もし私がマラリアや赤痢に罹ったら生き延びることができない」(1945年6月26日)。心の内面を時折日記にさらけ出すことで気持ちが楽になった。

収容所で日本降伏の通告があった後、ゴッキングは長期間日記をつけていないが、10月17日に再度書き始めた。当時彼とスカートゥはもうシ・レンゴ・レンゴ収容所にはおらず、メダンへの避難を待機しながらアーク・パミーンケ第3婦女子収容所でマームスとミースと一緒に滞在していた。10月29日一家は汽車でメダンへ出発。これは幻滅的な体験で、

「汽車は30人の嚴重に武装したヤッペンが警備。汽車に機関銃。全行程の駅(すべて閉鎖)には武装したヤッペン、武装したヤッペンと射撃道具。いたるところに民族主義者とその紅白の旗が満ちている。だがすべてが静寂の下何事も起こらなかった。…中略…しかし『自由なオランダ人』がこのように旅をしななければならないとは複雑な気持ちである。これを人々は今平和と呼ぶのだ!!!」。

メダン駅から元被抑留者は軍用トラックで白人クラブの建物に運ばれ、そこで食事が供された。ゴッキング一家は他の16人と共にベアトリックスラーンの住居に収容された。

サバンへの帰還はもはやあり得なかった。ゴッキングは東インドから帰国し恩給生活を送ることを決意した。1945年12月、彼はこう記している

「おそらく今が東インドでの仕事から退陣する潮時だ。東インドはもはや昔には戻らない、だが今ここから立ち去り、再建に協力できないのは残念でもある。

平常に戻るまでには為すべきことがたくさんあるはずだ。いずれにしても何事にも一度は終わりがあるものだ」（第4部81ページ）。

一家は1946年1月にノールダム号でオランダへ出発。到着後ゴッキングは1946年7月にハーグ市のプリンス・ベルナード財団（プリンス・ベルナード財団は1940年ロンドンで戦争資材の購入のため設立されたが、戦後は社会・文化活動の助成基金に用いられた）の会長に就任。ゴッキングの日記は1946年9月11日に終わっている。

## クラウト

アドリアヌス・クラウトは1904年5月25日リールダムで出生。ヤコバ（コー）・ローゼコートと婚姻、1933年3月27日生まれのアドリアヌス・ゲラルデス（アードリアン）と1936年9月29日生まれのアーリ・ヤコブスの二人の息子がいた。クラウトはデリ鉄道会社（D S M）の検査官として働きテビン・ティンギに住んでいた。1942年4月11日メダンのD S M本社事務所に、5月末にはベラワンのユニカンポン収容所に収監された。

クラウトは1942年7月3日に日記を始めた。書き留める価値のない出来事だと思っても、彼はほぼ毎日書き止めた。なぜなら、

「ここには何があるというのだろうか?」（1942年9月4日）。新教徒のクラウトはユニカンポン滞在中に聖書を多く読み、デ・フレーデ牧師の講演会を訪れ、妻子と早く再会できるよう毎晩祈った。彼は抑留中に信仰に密着し、「惨めな時期に神を頼るのは注目に値する、しかし栄えている時期には『神』は多くの者にとって病気あるいは逆境の際考えるのみの観念でしかない。私も然り。神を信じるが以前は祈ることも聖書にある神の言葉を読むこともほとんどなかった。この時点で改心し、もう一度家族のところに帰ることが許されるなら信仰をおろそかにはしないだろう」（1942年7月12日）。

彼は解放の暁には結婚生活において「より以上の完璧さ」を目指すことを決意した（1942年7月11日）。

クラウトは被抑留者間の人間関係について多く記した。彼は洗練された礼儀が大切だとし、この件に関しては収容所仲間の道徳感や人間性にかなり落胆させられた。「人間がとてもエゴイストであることが収容所では極度に分るのだ」（1942年7月7日）。「ああ、なんと人は卑小なもの」（1942年7月9日）そして「しつけや礼儀作法からは程遠い」（1942年8月12日）と頻繁になげいていた。しかし日本人もこの件に関しては道徳感が低いという

のが彼の見解である。ユニカンボン滞在中に彼はこう指摘した、「ヤップが公道で全裸になって水浴する事実からモラルに関しては程度が低いことが分る」（1942年7月7日）。

1943年7月クラウトはベラワン・エステート収容所に、1944年10月シ・レンゴ・レンゴ収容所に出発。ヤコバと二人の息子はプラウ・ブラヤンの婦女子収容所に抑留していた。1944年12月16日当時11歳の長男アードリアンがシ・レンゴ・レンゴ収容所の彼のもとに着いた。アードリアンの存在は、クラウトが収容所でも積極的に養育者の役割を果たすことをもたらした。「彼が社会において成功するよう、しっかりした聞き分けの良い子にしたいと思っている。だからこの年代に私が彼の面倒をみるのは喜ばしいことだと思っている」（1945年4月25日）。彼は、このことでアードリアンにとっては時には高すぎる横木をひき、父子に定期的に絶望を引き起こす結果を招いたが、クラウトは養育過程の一環とみた。

クラウトは収容所では所謂「持たざる者」に対して「持つ者」に属し、必要な予備食や資金そして役に立つコネを持っていた。クラウトの場合肉は残念ながらなかったが非常に有効な機能をそなえた肉挽き器を所有していた。つまり収容所仲間の多くがトウモロコシを少しでも食べやすくするために、クラウトのところに一匙のトウモロコシを支払うことでトウモロコシを挽きにやって来た。この方法で彼は大量の乾燥トウモロコシを集め、彼とアードリアンに十分な食料をもたらした。クラウトはこのことが嫉妬の目で見られていると認識していたが、「哀れまれるより、うらやましがられた方がましだ」という考えで自らを慰めた。抑留最後の時期には彼の資金も底を尽きはじめ、挽いたトウモロコシと「優先挽き券」を現金販売することで報酬を得ようとした。この事業は成功とはいえなかった。

1945年9月1日クラウトは妻と息子アーリに3年4ヶ月ぶりに再会。「私は彼女がとても痩せていたのに驚いた。ぽっちゃりしたオランダのみずみずしい女性はどうなってしまったんだろう?」。10月初旬一家はメダンに出発、そこでボンテクラーンの住居に収容された。11月20日クラウトはオランダの家族からの便りを受け取り、全員生存していたことを知った。その時点で以下の記載を最後に日記を終わらせた。

「早急に再会できることを願おう。これで私の抑留時代の話し終える。私たち皆が生き残れたことを神に感謝」。

1946年7月13日一家はチサダネ号でオランダに出発。クラウトは変圧器工場の保安検査官を勤め、後ナイメーヘン市役所の財務、企業、計画、調整の助役となった。1982年に逝去。

メンデス

1895年6月8日に生まれたヤコブス・フランシスクス メンデスは、日本軍侵攻当時、最大規模のオランダ農園企業の一つであるアムステルダム貿易協会（HVA）の傘下にある、ペマ

タン・シアンタルとテビン・ティンギの中間に位置するドロック・シヌンバ大農園企業で秘書・会計係として働いていた。1921年印欧人ヘレーナ・マルガレータ・ルイーザ（リーケ）・デソーヴァジーと婚姻、二人の子供がいた。1922年7月3日生まれのエレオノーラ・ヨハナ（エリー）と1924年3月7日に誕生したヤコブス・ヒュベルテュス（ヒューブ）である。子供たちは、日本軍占領時代ジャワにいた。1942年4月7日、メンデスは日本軍によってペマタン・シアンタルに移され刑務所に収監され、リーケはシアンタル医師財団に移された。4月末メンデスと同僚たちは再び仕事が進められるよう大農園に送り戻され、妻たちの同伴が許された。しかし7月、婦女子が再度収監されるとの通知が届き、深い落胆をもたらした。大農園が再生産をはじめた際、婦女子がその見返りとして12月に再度戻ることが許された。だがリーケは当初そこには含まれていなかった、日本人所長ハマガミによれば

「彼女はその『自尊心』のために収監された、もし自分は欧亜混血だと申し出ていれば不必要だったのだ」（2ページ）。

農園事務所でのハマガミとの熱烈な討議の後、所長はリーケを不意に家に送り戻した。

ドロック・シヌンバでの職務は次第に印人に引き継がれ、メンデスがここでは必要ないとされた1943年7月にはバリンビンガン農園会社に移された。そこでも同様することがほとんどなく「家でもすべてが円滑に過ぎ、我々はB(バリンビンガン)で幸福な時を過ごした」（2ページ）。9月末メンデスとリーケはメダンに移送され、各々ベラワン・エステート収容所とプラウ・ブラヤン収容所に収監された。ベラワン・エステート収容所でメンデスは日記をつけはじめた。最初のメモは1944年8月27日シ・レンゴ・レンゴ収容所への引越しの1ヶ月余り前に書かれた。

メンデスはドロック・シヌンバですでに慢性の小腸炎に罹っておりそのため食事療法をしていた。シ・レンゴ・レンゴ収容所到着直後に、赤痢と診断され、深刻な内臓障害に罹り、収容所生活の大半を食事療法とマットレスの上に拘束されることになった。ゆえに彼の日記には健康状態が重点的に扱われている。

メンデスは教えを実践しているカトリック教徒でそこに支えを見出していた。彼は慰めと安らぎと身をゆだねことを信仰に見出した。これに対して例えばそこにいた担当医師の一人は「支えにする根本的な見解、信奉する宗教も持たない…中略…それでたえず『意気消沈』している」（1945年2月11日）とメンデスは考えていた。長期にわたる入院生活中、衰えた健康状態のため雑役から免れ、神の手に委ねられていたと見ていた。収容所で大勢が死亡してゆくのをみて良い結末を心配することはあったが、神を疑うことは決してなかった。状況が良い方向に向かわなかった場合は「ただ神にひざまずき、上の方に顔を向けることがクリスチャンの義務なのだ」（1945年2月9日）。

メンデスは同胞にはあまり敬意を持っていなかった。収容所は「粗野でずうずうしくて騒々しい無教養な」（1944年10月23日）人に支配され、病棟でさえも無礼な人から免れないと遺憾ながら認めざる得なかった。

「ここにあっても同様に…中略…おならをしたりゲップをしたり、一日中、口をクチャクチャとさせているだけだ」（1945年5月9日）。

彼は多くの収容所仲間たちのメンタリティーに啞然とし、以下の結論を出した。

「交友関係を装っているが、人々は狭量で非常に嫉妬深く、この時代は善人にとって正しい考えにたどりつける時ばかりか、人の深い内面を良く知ることを学ぶのである。「紳士」と呼ばれているものでさえ、意見の食い違いでその表面の見せかけが剥がれ、日雇い労働者のように罵倒するのである」（3ページ）。

これらの体験により、彼は家族や日常生活を切望する気持ちを強くしていった。

シ・レンゴ・レンゴ収容所での平和通告後、メンデスはアーク・パミンケのリーケを定期的に訪問することができた。10月6日彼はランタウパラパトとアーク・パミンケの途中にある新しい7号収容所に移った。11日後この収容所の人々も内陸部が危険な状況のため、近日中にメダンに移されるだろうと通知があった。「これは農園企業に戻れるだろうと思っていた我々ケボンからの者にとっては大きな落胆であった」（1945年10月17日）。メンデスとリーケは1945年10月27日汽車でメダンに向かい、そこで他の20名の人々と共にイレーネラーンにある住居に収容された。1946年1月、ジャワからノールダム号で到着した子供たち、エリーとヒューブとの4年ぶりの再会をした。その直後メンデスの日記は終了している。1946年秋、オランダへ出発したが約1年後再びメダンに戻る。1950年の植民地委議の後には、オランダに永住した。メンデスはハーグ市にて1976年3月6日逝去。

Rantau Prapat-omgeving	ランタウパラパト周辺
Station Paminke	パミンケ駅
Aek Paminke	アーク・パミンケ
Station Padang Haraban	パダン・ハラバン駅
Station Marbau	マルバウ駅
Station Milano	ミラノ駅
Kamp Si Rengo Rengo	シ・レンゴ・レンゴ収容所
Station Rantau Prapat	ランタウパラパト駅
Rantau Prapat	ランタウパラパト
Sei. Bila	ビラ川
Soengei Bila	スンガイ・ビラ
Wingfoot	ウィングフット

出典：戦時のスマトラ北部 APⅢ 1945年、1992年、22ページ

## シ・レンゴ・レンゴ収容所見取り図説明

### ランタウパラパト近隣シ・レンゴ・レンゴ収容所の様相

- ビラ川
- 船着き場へ
- トロッコ線路
- 日本軍監視所
- 柵
- 点呼場
- ホスピタル
- 図書館
- 診察所
- 霊安所 1945年7月8日
- 薪割り場
- 付属病棟
- 埋葬場
- 倉庫
- 野菜洗浄小屋 1945年6月
- 炊事場
- 教会広場
- 特別食用炊事場
- 階段
- 湯沸し小屋
- 湯沸し場
- 便所
- 建設中の病棟
- [ホン]1号棟、2号棟、3号棟、4号棟、5号棟、6号棟、7号棟、8号棟、9号棟
- = 道、小道
- ザイルストラ氏の野外学校

### xxx 鉄条網

ホン [バラック] :           長さ約45メートル  
  ホン間の幅約19メートル

便所31、そのうち便座付き5ヶ所。

1945年8月新設の便所、便座付きが24ヶ所。

### // 扉

ホン :                           28ペタック (区分け)  
  ペタックには上下に4名ずつ、長さ3メートル

//// ウビ・ランバット (サツマイモ)、テロン (ナス) などの菜園

## 移送と収容

ゴッキングガ（スンガイ・センコル収容所より）

1944年9月26日

我々は9月30日に不詳の地へ引越させられる。…中略… この引越の際、各自半立方メートルのバラン〔物資〕を持っていくことが許されている。後に残った品物はヤップが送ってくれるかも？ ふたつのグループが出る。10月1日と2日だ。我々は10月2日に出る。バラン〔荷物〕に記載：ゴッキングガSS 514/5。

ゴッキングガ

1944年9月27日

一日中荷造りした。スカートゥが余分に料理した。私のマットレスをもう詰めてしまったので、板の上で寝る。固い。

ゴッキングガ

1944年9月28日

詰め終えた。みんなが荷造りしている。何と騒々しい。我々は板の上に寝た。

ゴッキングガ

1944年9月29日

早朝に起床。明け方に一杯のお茶をもらった。我々のバラン〔荷物〕は既にその一部が2キロ離れたスンガイ・メンチリムへ運ばれ、又、一部は牛車に積まれて。みんながそわそわと。我々は遅くまで荷造りし、何人かは夜なべで。



ゴッキングガ

1944年9月30日

各自はヤップ時間で午前4時頃に起床し、煮炊きする。というのは炊事場が梱包されてしまい、もうないからだ。ヤップ時間の午前6時には、ティラム [マットレス] を出さなければならなかった。炊事場がなくなったため、我々はもう3日も食事なしである。ヤップから魚だけもらった。これを我々は自分で料理しなければならない。収容所からは3日分の米400グラム、この3日分全部を各自が炊くのである。

ゴッキングガ

1944年10月1日

猛暑、華氏100度。第1班350名がヤップ時間午前8時に出た。旅立ちのためにいろんな人から衣類、また靴をも借りた。スカートゥと一緒に我々の椅子をスンガイ・メンチリムへ運んだ。かなりの道のりで2キロだ。何とも騒々しく雑然とした様。

ゴッキングガ

1944年10月2日

我々は最初、400グラムの米を炊き、トウモロコシ、そしてウビ [サツマイモ] を炒ったあと、午前7時には整列しなければならない。そしてスンガイ・メンチリムへ向かう。老人は牛車で。スカートゥと私は毛布、バケツ2杯の食糧、水筒を棒につけて運んだ。

スンガイ・メンチリムでは雄牛に引かれるデリ社のトロッコ6台が線路にあった。その中へバラン [荷物] と病人が入れられ、デリ社の煙草園を横切り6~8キロの道を線路沿いにディスキーへヤップ監視のもと向かう。恐ろしいほどのぬかるみと暑さだった。時折立ち止まる。ぬかるみにはまらないようにトロッコにしっかりつかまって。幸い、我々はエンゲルベルクでスキーをしたことがある。これほど役に立つとは！

11時半にはディスキーに。そこで無蓋の家畜車に積み込まれた。1両に45名、長椅子に座る場所が不十分だ。家畜のごとく貨車で行ったのだ。我々は514と515の番号で。この番号はヤップからもらった。旅が続き、テビン・ティンギではひとりのヤップの指揮下、ちょっと表に出ることが許されたが、他のヤップに銃の台じりでもって追い返された。幾人かは途中すっかり疲れ果ててしまったり、気を失ってしまった。タラップから用を足さねばならなかった。うだるような暑さと横揺れする車両。ヤップから食べ物や飲み物の配給なし。

機関車の火の粉が車内に飛び入り、シャツにも焦げ穴がたくさん。夜を明かすキサランへ直行。

到着の際、一杯のお茶。初め、貨車内で眠らなければならなかったが、あとになってホームで寝ることが許され、大方の人々、私とスカートゥも石のホームにじかに横になった。何千匹かの蚊。ヤッペンは殴ったり、罵倒を發した。我々は歩いたり、立ったりしてはならなかった。大勢がすっかり疲れ果ててしまったり、気を失ってしまった。便所へはヤップに伺い、見張りされて行く。便所は道路沿いに掘られた溝で、その上に腰をおろすのだ。何という扱い。こんな時、戦争を身をもって体験。特に、高齢者や病人は惨い。こっけいなひとときもあり。まさに体験。貨車内にはヤップとスカリラ[日本軍インドネシア人補助兵]。

ゴッキンガ

1944年10月3日

(キサランにて) 8時にヤップから一杯のお茶、そしてテビン・ティンギにある病院のゴスリングス医師と夫人がトウモロコシ、サユール [野菜]、米と干し魚、合わせて一日分の食事約300グラムを煮炊きした。彼らは余計に作ったが、ヤップに捨てられてしまった。我々はここで一日中、共に動かされた。11時半に雨の中を出発。キサランには昨晚9時に到着した。

ゴッキンガ

1944年10月4日

昨日は一日中横揺れする車両で走り続け、ランタウパラパトに午後4時に到着。我々はくたくただった。人数を数えるため整列。バラン [荷物] を肩にし、向かったのだ。コタ [町] の外を通過して、ゴム農園企業を横切り、アサハンのシ・ロト・ロト<sup>1</sup>にある収容所へと8キロを速足で行った。

午後7時頃に疲れ果てて到着した際、一杯のお茶が出た。毛布と蚊帳以外、我々は何も持っていなかった。板の上で寝た。ゴム園の端で、我々をトロッコ線路へ運ぶ渡し船があるカリ・ビラ [ビラ川] の前に突然出た。そこでは第一班の大勢が我々を手助けしてくれた。そしてさらに1キロ歩き、収容所に。まるで地の果てだ。何とも辺りな場所だが、美しい。山々に囲まれた平地にある収容所。大きなバラック、照明なし、220名用の二階建て。給食はなかった。照明も水もない。我々はカリ [川] の水を使って煮炊きしなければなら

---

<sup>1</sup>このシ・ロト・ロトは、シ・レンゴ・レンゴを指すと思われる。

かった。眠ったあと、今日我々はまた他のバラックへ移らねばならなかった。夕方、ベラワン・エステートの最初のグループがどしゃ降りの雨の中に到着した。何んとも哀れな様子。

ボス（ベラワン・エステート収容所から）

1944年9月27日

収容所内が動揺：近日中に、この収容所は引越さねばならぬとのヤップからの通告。ここから11キロ離れたスンガルにある小さな駅舎まで歩かされるようだ。目的地不明。各自運べる限りのバラン〔物資〕の持参を許される。患者21名は看護人25名とともにしばらく留まることができる。病人は3日後に続く予定。

この通告があつてから、収容所リーダーは、体力がとても弱った人々を11キロも歩かせ、荷物を持って移動させることは全くもって考えられないとの抗議文を作成した。ヤップは言った。「死んじまえ」…中略… この抗議文の中でさらに、医師によると二、三百人は歩ける状態にないこと、及び90%が荷物を運べる状態でないことが加えられた。2年半もの長期にわたる栄養不良にある我々がこのような方法では移動できない。然るに、輸送手段の利用を要求。我々側としては意志がないという問題ではなく、できないということなのである。

ボス

1944年9月28日

引越は、来る10月3日に実行される予定で、朝8時にヤップのいる建物の前に集合しなければならず、最初は丈夫な男たちが個別に100名と、そしてその他の者240名。その際、スンガル駅までは歩かなければならないことになっている。残りは10月5日に続く。10月2日には車がバラン〔荷物〕を取りに来る。各自、1立方メートルのバランを渡すことが可能だ。ベッドは持っていけない。1立方メートル以上手渡したときには椅子等は捨てられる。

第1班は炊事場の荷物を半分一緒に持っていく。8時前に朝食を済ませること。汽車での長旅となるので二食分を持参のこと。…中略… カチャン・イジョー〔小粒のグリーンピース〕と米はまとめて出し、炊事道具と一緒に運ばれる。全部のバランが検査される予定。新しい収容所では自分で煮炊きしてはならない。

ボス

1944年9月30日

明日の日曜日に、100名と230名が検査のためバラン [荷物] を持って5時に路上に集合しなければならない。しかし、ホン [バラック] 別 (A1-2、B1-2等) に当初から分けられた者たちでなく、アルファベット順のAからKまでだ！

ボス

1944年10月2日

車が来る。合計4回走るはずのトラックが5台。最初にトランク、そのあとマットレスと他のバラン [物資]。椅子はだめ。炊事場用には我々のバランを含めて2台だけ。2台目の炊事場用の車がひっくり返った。パーム油がバランとマットレスにかかってしまった。マンドール [現場監督] カシェの指揮のもと我々の仲間25名が積み替えのため鉄道へ向かう。今晚は板の上に寝る。荷造り、運搬そして出発する人々のために350グラム余計に米を炊く。ウムー！板の上ではうまく眠れない。

ボス

1944年10月3日

どしゃ降りの雨の中、囚人番号817 (札付き) の出発。7時に粥。自作の (ジュート) リュックサック、やかん、書類入れを携え8時に整列。5回人数を数えたあと9時15分に出発。ずぶ濡れになって12時15分、シングルに到着。汽車：木摺りの付いた、完全に無蓋の家畜車。1時出発、メダンに1時15分、テビン・ティンギに5時半、キサランに夜10時10分。

恐ろしい旅。バネがない車輪と溶接不備の線路上でのひどい揺れ。どの小さな駅でも停車した。汽車は30両以上の編成で負担過多。我々の貨車は普通車に連結していた。キサランで闇の中に側線に入り、進行しなかった。お茶が出た。動き回ることは禁止。窮屈なところで座ったまま眠る。「恐怖の夜」、私の生涯で最悪の夜。

横になれなくて、死ぬほど疲れた。ホームの上で寝ることは禁止。無数の蚊。下車するのは禁止されていて、密かにやるしかない。小便は車両の木摺りの間から放出。大便の用足しは：便器も排出口も水もなく、灯かりもない一室なのであきれる。ちょっとした間に、不潔そのもの。言い表しようないほどの悪臭を放つ大量の大便。何という屈辱感！朝まで車内に留まれという命令と同時に、足を伸ばす必要なしと発表された。

戦争であること、そしてそれゆえに各地でたくさんの人々が死に到ることを、我々は十分に悟らねばならなかった。膝にひじきをつけ、うずくまり、居眠りし、垂れ下がったり、立ったり、伸びたりして一晩中起きていた。飲み水はなかった。頭痛。3人の「感じいい」護衛。

ボス

1944年10月4日

今朝8時に明るくなる。何と長かったことか！ 出発まで汽車に留まる。9時に食事を載せた車：トウモロコシが混じった赤い米、サユール・カンクン [野菜]、少量の干し魚、そしてお茶、これ全部で一日分だ。キサランを正午に出発。強い日差し。終点のおよそ50キロ手前にあるアーク・パミーンケで丈夫な男たち100人が下車した。5時10分前にランタウパラパト着。どしゃ降りの雨の中に到着。徒歩での恐ろしき旅。駅周辺の住民は警察に制止された。

点呼のあと、疲れたからだで行進。100メートルしてもうずぶ濡れだ。ジュートのリュックサックを背負っている者はとてもひどい。ゴム林、ぬかるみ、泥沼を通過。ヤップが道を知らなかったために間違っただけで歩かされた。5キロすると、大きな川「ビラ川」に出る。ぬかるみに下降し、足を滑らせ、そしてロープに掛かったプラウ船で渡る。その後、ぬかるみの道、そして…やっと7時15分に収容所へ。

アラン・アラン [茅] が生える広い開墾地。山の谷間のカリ [川] 沿いに位置する。見事な自然、ひどい収容所。全世界から遮断、つまりは安置されて。一階と二階に200名を収容するアタップ [ヤシの葉でできた屋根]、竹製の壁の大きなホン [バラック] が9棟ある。就眠用の板あり。ホンの長さは約50メートルで、幅は約8メートルだ。生活空間（マットレスを含め）は一人当たり75センチ。寝場所は二列になっている。中央の通路は土だ。

我々は雨の中を到着した。大勢が転倒してしまった。私はといえば、底なしの靴で到着：無くしたのだ。無念！ ホンに詰め込まれた。通路が戸外より低いため、水が流入する。各自ができるだけからだを乾かしたあと（私：フラウトマンの身の回り品を借りたおかげ）、がっかりすることには、雨の中で点呼が行われた。整列し、またまた濡れ、どなりつけられるとは、何とひどいことか。

クラウト（ベラワン・エステート収容所から）

1944年9月27日

今朝、引越に関するヤップのセンセーショナルな発表あり。我々は小さなトランクを携え、シングルへ向けて11キロ歩かねばならない。要するに、運べる限りのものをだ。残りの品は後で送ると言うことだけは言っている。21名の病人は留まり、3日後に25名の看護人ととも

に続く。予備食とベッド等は「処分」！この人たちは対処できる状態でないと、収容所監督は強硬に抗議した。あるヤップによると、プラウ・ブラヤン婦女子収容所にそのまま残るとのこと。今月にはこれは行われぬであろう。

クラウト

1944年9月28日

通告：1944年10月3日、8時に100名の丈夫な男たちが出発。他の者たち240名はヤップの事務所付近に集合すること。各自1立方メートルの荷物を車で運ばせることができる。この荷物は10月2日にまず積まれる。椅子は持っていかれる。2食分を持参すること。米、カチャン・イジョー [小粒のグリーンピース]、豆、油は炊事場へ出すこと。ヤップはまとめて煮炊きされると言った。全ての予備食が没収される。雰囲気は陰気味。落伍者が大勢出ると思われる。

クラウト

1944年9月29日

今日は荷造りに忙しかった。一体どこからこんなにがらくたが？100名の丈夫な男たちは別に発つ。プラウ・ブラヤンの女性たちを手伝うためらしい。ところで、これには様々推測されている。収容所の住人が炊事場へ出したもの：カチャン・イジョー [小粒のグリーンピース] 10袋、米15袋。私は5kgの米と4kgのカチャン・イジョーを出した。エスマイエルのところはビン入りの油を5本。これが一番と願いつつ。全てが賭けだ！

クラウト

1944年9月30日

荷造りしたり止めたり忙しい。ヤップはまたまた変更した。今度は、アルファベット順に出発せねばならない。10月3日の火曜日には、AからJとKの幾人かまでが。さらに、その人たちのバラン [荷物] は10月1日日曜日の5時には検査のために表に出されていなければならない。看護にあたる人が多すぎた。ヤップはファン・ボーン・ファン・オクセーの長い名前のため等、また何かしの指示を出した。炊事場の2人だけが残されるようだ。

クラウト

1944年10月2日

よく眠れなかった。みんな早朝からすでに忙しくしていた。9時半に小型の自動車が5台着いた。収容所の道路はひどいがらくたの山。車は5回でなく4回走行、つまり、4掛ける5は20だ。一部の椅子は木材の束とともにヤップが自動車から降ろしてしまった。そこで私はバケツと木炭を入れる大きな木箱を急いで作り始めた。

クラウト

1944年10月3日

昨夜、全員が文字の札を取りに行き、胸に留め付けさせられた（アルファベット順）。またもよく眠れなかった。昨日は椅子がたくさん残された。一晚中雨、そして午前中も。行進は決行された。幾人かは重い荷を携えていた。コールホーフエンはテクレックス [木の履き物] で歩いてた。哀れな様子だった。

クラウト

1944年10月5日

8時に我々は出発するはずであったが、ヤッペンの事務所前にそれより早くいたのに、50名のグループになって出発したのは9時15分前だった。ヤッペンは厳しくて、前進しない者をどなり、時には殴打した。私も帽子のうしろを打たれたが、蹴られそうになった時に私は尻を引っ込めた。我々はピコラン [かつぎ竿] の調子を良くするのにちょっと戸惑っていた。竹竿はすぐに折れてしまい、とりわけこのバラン [荷物] には弱すぎる。それでも、ヤップは他の棒を探す私の頼みにとても快く応じてくれたのだ。良い天気だったし、12時にはスungal駅に着き、そこで我々40名は長椅子付きのSL（家畜車）に乗せられた。

落伍者は少なかった。メーウセやタックでさえも持ち堪えたのだ。何人かの病人も牛車で運ばれていたが、牛車が一台、落伍者を乗せた。テビン・ティンギでお茶がもらえるはずだったが、出なかった。警備は非常に厳しかった。近くに寄って来た原住民は追い返された。テビンにある我が家は原住民が住んでいた。我々がキサランに到着したのは、あたりがすでに暗い9時だ。便所は、- こう呼ぶことができただが - 外にあった。そこへ行くとき、我々はまず、日本人指揮官にお辞儀しなければならなかった。プマタン・シアンタルにあるクラブの元経営者フェルブントはこれを怠ったために、顔をこぶしでひどく殴られた。私はマラリアの発作で約40度の熱が出た。

見張り場の長椅子に横になっていいか尋ねたが拒否された。それで車両の床に横になることにした。恐ろしき旅！

クラウト

1944年10月6日

朝には幸いにも回復し、熱はもうなかった。こうして車内で夜を明かしたあと、我々は8時に挽割りトウモロコシ入りの米飯、野菜、ソースと少量の魚をもらった。とてもおいしかった。何せ一日中付き合わされたのだから。11時に我々は出発し、ランタウパラパトには4時に到着した。いろいろな人がトラックで行ったが、我々はさらに6キロを歩かねばならなかった。僅か2キロ半の道があるというのに、コタ [町] を歩かせたくないがために、我々はゴム林（栽培園）を通過して行った。

18時に渡し船がある川岸に着き、そこから我々40人は一度に対岸へ運ばれた。そのあと、さらに数百メートル歩いた。すでに大勢の人々が待っていた。当然、再び待たされ、数え上げられたり。ファン・ボーベネ・ファン・ゲントが、私のために席を確保してくれたのは、非常にありがたかった。

竹でできたホン [バラック] が10棟ある。我々は上と下に寝る。各自が75cmのスペースを持つ。さらに、便所（即ち、簡易便所）が5箇所があり、それぞれ20人の利用を対象としている。

マンディ [入浴] は川です。そこはひどい泥沼。老人にはほとんど無理。川に到達するまで、まず10回も粘土の中に足踏みし、梁をつたわりながら下へ降りる。炊事用の水もそこから運ばれるようだ。我々は一日に2食だけ授かる。午後1時と6時半にだ。朝、我々8人で100グラムの米を特別に炊く。つまり、コックと彼の息子二人、シュキユールビールス（警察署長）、ファン・ゲントと息子のフランク、ベルナデレ・デ・ラバレット（教育調査官）。皆、穏やかな人たちだ。夜はぐっすり眠った。一日にお茶が二、三度。

メンデス（ベラワン・エステート収容所から）

1944年9月27日

本日、抑留されて丸一年。その記念に、ごく近いうちにこの収容所全体とスングアイ・センコルとも引越しなければならないとのヤップからの「大変すばらしい」通告を受けた。プラウ・ブラヤンではない。どこへかは不明である。バランは本当に少しだけ持っていける。というのは、スングル駅までの道を歩いて行かなければならないからだ。要するに、トランク、ティラム [マットレス]、予備食等は後に残すことになるのだ！



メンデス

1944年9月28日

この引越は、340名が10月3日に出発し、バラン〔荷物〕は10月2日に車で運ばれるとの変更  
に到った。

メンデス

1944年10月3日

最初のグループは、雨の中を徒歩でスングル駅へ向かった。

メンデス

1944年10月4日

私が属す第二班のバラン〔荷物〕が運ばれて、夜は固い寝台の上で、まあ、どうにかこうにか「眠った」。

メンデス

1944年10月5日

とても不安な、うんざりする夜が明け、我々は朝9時にベラワン・エステートを出発し、ヤップが非常に粗野に振るまういやな旅をして11時半にスングルに着き、そこですぐ、我々40人は半分を長椅子が置かれた家畜用の貨車に入れられた。機関車から飛んでくる灰で衣服が焦げどうしだったとても辛い旅のあと、夜10時頃キサランに着いた。

キサランで我々は、キャサリン病院のゴスリングス医師にお茶をもらった。そして、闇の中、道沿いのパリット〔溝〕で用を足すために10分間下車することを許されたが、見張りのヤップの気まぐれにあい、かなり大勢が平手打ちを食らい、用を足さずに車両へ戻された。そのあとは座ったままの姿勢で夜を明かした。

メンデス

1944年10月6日

朝、病棟からの一日分（まったくもって不十分だが）、そして再びお茶、米、サユール〔野菜〕と魚をもらい、その後、我々はニッポン時間の12時頃にランタウパラパトへ向かった。ランタウパラパト駅で再び、今度の収容所周辺を流れるビラ川まで炎天下に約5キロの道を苦勞して進み、おんぼろの渡し船に積み込まれ、向こう岸に渡った。そのあと、約800メートルを行くと、指定のシ・レンゴ・レンゴ収容所に着いた。それは我々の予想よりはるかに悪い状態だった。

アタップ〔ヤシの葉〕でできた屋根をした、ビリック〔編んだ竹の壁〕が付いた長さ約45メートルのバラックが9棟あり、炊事場とグダン〔物資〕用に同じ材料でできた小屋が何棟かあった。これらバラックには、樹木を使った無細工な板をつなぎ合わせた、各所で崩れ落ちる恐れのある220名分の「寝場所」が上下の階にある。身動きや寝返りもできず、下の住人が上の住人のゴミを隙間から頭上に落されるごとき約75cmの居場所を各自が持っている。用を足す所は、竹、木材、ヤシの葉でできた5つの小屋が20に小分けされている。これらはホン〔バラック〕の一番端っこにあるが、その悪臭がバラックの中にも漂ってくる。飲料水の設備に関しては、多分、最大に嘆かわしいこととなろう。これは入浴や洗濯をする川から来るのだから。…中略…収容所幹部は特に努力を惜しまず、精力的に対処している。直ぐにも、菜園を作ったし、便所の改良や炊事用水の井戸掘り等も。

ゴッキンガ

1944年10月5日

早く起き、我々の居場所を整頓した。バラン〔物資〕は椅子を除き全部届いた。ここに来る道中、私は感染症になってしまった。足がむくんだがあまり心配ないようだ。病人は直ちに、病棟に収容される。朝食はなく、生煮えのオートミールだけ食べた。ここには現在1000人収容されている。

ボス

1944年10月5日

また、一夜を板の上で。しかし、今回は良く眠れた。お風呂！川でだけだ。粘土の湿地をずうっと急斜面まで行き、そこから高さ約8メートルの柵をつたわりながら、1メートル以上間隔のある踏み段を跳ねながら降りていく。これは細い幹でできている。上では早くも転ぶ

者もいる。水浴に行くことは誠に難儀な事。英領インドにある川の急斜面で水浴するようなものだが、あそこでは石の階段がある。ビラ川は幅が約50メートルあり、岸边ですぐに深くなる。からだとかからだを寄せ合う、うごめく人々の大きなかたまり。敢えて流れから遠く離れようとする、見張りがその者の頭上に石を投げつける。浴場は10時から5時まで開いている。鉄条網に衣類を掛ければ、奴等がぬかるみにほうり投げしてくれるさ。…中略… 便所は排水設備のない穴の上に一列に並ぶ小屋である。立ち込めるひどい悪臭とハエ。お隣りさんの尻を鼻先に見るような具合に建てられている。ホン [バラック] 4号棟での最初の夜を過ごしたあと、炊事場に働く人々がみんな住んでいる最後部のホン9号棟へ引越した。だから、少なくとも頭の上に他の者のゴミが落ちてくることもないし、さらに真っ直ぐに立つこともできるのだ。木材、ウビ [サツマイモ] のたぐいはトロッコで運び入れられる。

ゴッキングガ

1944年10月6日

ベラワン・エステートから二番めのグループが到着した。

ボス

1944年10月6日

私はトロッコ線に携わる運搬人かつ川辺での出迎え人だ。

ボス

1944年10月7日

同じように昨日もベラワン・エステートからの人々の balan [荷物] にあくせくした。…中略… 我々はクーリーのごとく働いた。炎天下、そしてどしゃ降りの雨の中。半ズボンだけを身につけてだ。ヤップのピアノをどしゃ降りの雨の中、川を渡さねばならなかった。川の兩岸ではクーリー追いをするいやらしい監視人。…中略… 向こう岸のビル・ハルディングは、マンドール [現場監督] と奴隷監視人の役を演じた。ベンとハリーは汽車側担当。ヤップが突如調べに来たため、密輸 balan [物資] の俵と「木箱」にスサー [厄介事] が。ノエ、ファン・ブルメンダール、そしてホーヘンボームと打合せ。

命令あり：その一：全ての balan はメダンへ送り返す。（私は突如、ウン（コ）したくなった）。その二；全ての balan はグダン [倉庫] へ行き、給食にあてられるが、特配

なき。その三：全てのバランはグダンへ出すが、3袋の米はヤップのもとへ。米は全部炊事場で炊く。米は収容所内で炊くことは許されないので分配してはならない。米だけに関してだ。カチャン・イジョー [小粒のグリーンピース] 一俵はノエがヤップの気を引いている間に積み替えなければならなかった。同様に、二俵目も我々がこれをヤップの宿舎へ運んだあとにカチャン・イジョーが入っていることがわかった。仕方なし？ ひとつの米袋が渡し船で着いた。ヤップが「置いとけ」と言った。ヤップが向こう岸に着くや否や、我々はすでにそれを確保していた。トロッコでヤップの宿舎へ。その際に、でぶのジャハット [邪悪な] 警官が彼の持ち場にいることがわかった。フィッサーは冷静な態度で彼に近づき、「ニッポン様の赤い米を白米と交換したいのだ」。答え：「ボレー！」 [よろしい]。こうして我々はカチャン・イジョーを再び手にして進んだ。見事な技！

運び込んだ新らたな俵を、我々はトロッコに載せて、ティカル [マット] と木箱でカモフラージュして分からないようにして通過させた。油も全部同じようにようにして通した。結局、私自身は大変運が悪かった。ベンが最終の便で私の所持品全部（トランク2個、缶、マットレス）の入った箱を運ぶ手配をしてくれた。どしゃ降りの雨の中、絶対に通過するはずの、つまりは積んだ箱もできるはずであったウビ [サツマイモ] 用の最終トロッコを待った。ものすごい雷雨だった。ヤップは「待て」と言ったが、警官は「ハビス・アジョ・ピギ」 [済んだから行け] と言った。川の両側には様々な箱や他のバランが置かれていたので、これがまさにこの警官の意図とすることだったのだ。結局、私の箱のそばで追い飛ばされ、泥んこ、ぬかるみ、そして雷雨の中を収容所へ戻された。幻滅感で一杯だった。あそこにはどしゃ降りの雨の中に...略奪者の犠牲になる私の箱が置かれている。トロッコの線路が雷雨に打たれた。ジュリー・ペーターセンは地面に打ちのめされた。ピアノもあとで運ばねばならなかったが、これも別のすばらしいお話。予備の井戸用ロープ（10メートルに付き75ギルダー）があったおかげで、それをうまく処理することができた。明日には、従って私のバランを取りに行く。

ゴッキングガ

1944年10月7日

雨。ぐちゃぐちゃのぬかるみとゴミだらけ。ホン [バラック] は雨漏り。板の上で良く眠れた。ホンの中ではいつも身をかがめないとだめで、まるでイモムシごっこ。

ボス

1944年10月8日

早朝に、川へ向かう。異常なる幻滅感。私の箱が夜中にこじ開けられ、衣装ケースが中身ごとすっかり盗まれてしまった。多分、（印人）警官による。その中に入っていた物は、パンツ4枚、長ズボンと上着各3着、最後の空色の（オランダ製）パジャマ（ハッセルマンは最終日に60ギルダーの値をつけた代物）、髭剃り道具一式（新しい固形石鹸、剃刀、ブラシ2本（その一本は新品）、革の新しいスリッパ、ベルト、スレート、アンダーシャツ、ペンデックス [半ズボン]、炊事作業用ズボン4枚、エナメル皿、手鏡、ヘアブラシ、オランダ製浴用タオル、多数のネクタイ、多数の靴下、スポーツ用長靴下等々。現在の食費をベースにして換算すると確実に千ギルダー以上だ！ また、他の大勢の者の箱、トランク等もこじ開けられ、バラ [荷物] が盗まれた。その者の中には、デ・ハース、スレッデ、ケルクホフが。特に、衣類が盗まれた。

失望は実にもものすごかった。私の怒りは、その警官が立ったすきに彼の小さな長椅子を持ち去り、トロッコに載せてしまったほど大きなものだった。ヤップが我々から米を3袋取り上げたあと、彼は再度、もう2袋を取ってしまった。フィッサーは見張りのいない合間に、ヤップの宿舎からおよそ100キロある一袋を落ち着き払って盗み取ったのだ！ ラウエ・シ・ガラ・ガラから（コタラジャ、サバン等からの人々）約330名が着き、その中にはビルの義理の兄弟、ゲラルト・セルマイエル技師（ヤンの兄弟）、サバン社の社長がいる。ベラワン・エステートで面倒をみることができずに後に残した病人（14名）のうち、ハルムセン（農園企業主）が赤痢で亡くなった。（その後、聖ヨーゼフスクールに移された）。ラウエ・シ・ガラ・ガラの人々はベラワン・エステートに泊まった。

ゴッキング

1944年10月8日

長椅子を外で作った。テーブルはない。暑い日。全員（サバンから？）、またヘンドリックスとストルティングを含むラウエ・シ・ガラ・ガラからの人々が到着した。何とも言えない様相だった。10歳の少年たちも一緒だった。ヤップはトロッコに乗ってる病人を竹で叩いた。哀れだ。

ボス

1944年10月9日

この収容所にはオランダ人、ベルギー人、英国人、そして6人のギリシャ人がいる。また、マレー語を話す（当時、宣誓したが、再び収容された）欧亜混血人も。親なしのとても若い子供たちも。

ゴッキング

1944年10月9日

泥だらけで、急流、そしてワニがいるカリ [川] で水浴。

ゴッキング

1944年10月10日

川岸は病人や老人には険しすぎる。そんな訳で若い連中がカリから水を持ってきて、お年寄りのからだにそれを注ぐ。川岸の高さは約6メートルあって、急勾配だ。梁ごとに足を進めなければならないし、大きな粘土のぬかるみがあって危険だ。…中略… 便所のひとつはすでに沈下してしまい、閉じられた。

ゴッキング

1944年10月11日

支柱ごとに棒を設けた。さもなければ、落っこちてしまうから、特に夜はだ。登るためには小さなはしごを。日中は寝具を巻き上げ、寝る前にひろげる。まだ依然として灯かりがない。…中略… スペースなし。全ての物が天井に吊り下がっている。

ゴッキング

1944年10月12日

焼けつくように暑い日。ここは谷間で非常に暑く、ホン [バラック] の中は華氏90度。夜は涼しく、朝はそうでもない。…中略… ヘンドリックスは今日、暑さにあたり失神してしま

った。スカートゥが暑さや日差しを負担とせず、嘆くこともないのは素晴らしいことだ。ありがたい。

ヨングは達者なようだ。カリに一日中横たわっている。裸のご老人が洗われるままに立っている様子を目にするのはみじめだ。床屋が活動を開始し、ファーベルが私の頭を刈ってくれた。すばらしい自然。…中略… 夕方に雨。そのため、ひどく退屈だ。依然、照明なし。…中略… ここの我々は万物、万人から見捨てられ、まったく辺りな場所に暮らしている。二番目の便所も危険な状態となり、処分された。我々は安眠できる。…中略… 猿が朝、起こしてくれる。猿は憂うつな声を出す。…中略… この収容所は平地にあり、全体が山に囲まれていて、サバン湾にととても似ている。同じような山々と植物群があるため、日中は暑い、自然はすばらしい。また、カリはととても美しく、急流だ。広大な裸の平地、樹木なし、収容所内にもだ。全体で200～300メートルある収容所が2千人用。ホン [バラック] の周辺にある一本の小道だけが散歩コースだ。ホンは二階建てで、高さは8メートル。上下に220名、すし詰めだ。上は危険。全てが粗末な造りで、数ヶ月後には崩れ落ちそう。階上で歩くと、全所が揺れ動き、跳ね返る。負担過多に対する警告が。

大きな穴の上にテントを張ったのが便所だ。ここで伝染病にかからないとは、誰が知ろう。マラリア用のキニーネなし。大変だ。渡し船のところには見張りが。収容所の周りのチョト [丘] の上に小さな監視所がいくつかある。一帯は広大なララン [葦] のある平地。ホンの中は暗く、よろい戸付きの幅50センチで高さ1メートルの小窓がある。上階は以外と涼しく、埃も蚊も少ない。下の階は泥土の床とバレ・バレ [寝台]。上階は板だけ。3年前にベラワンにいた時と同じように再び寝床の上で書く。

ゴッキンガ

1944年10月13日

シ・ガラ・ガラから40名の子供がここに到着した。痩せて、栄養不良、ものすごい。補充食なし、何もなし、かわいそうな子たち。…中略… 川の浴場は午後5時に代わって午後7時まで開いている。…中略… 依然として、ホン [バラック] には照明がない。ここの混乱、きたなさ、不便さ、障害の状態はことばでは言い表せない。自分の寝床以外は座る場所も何かする場所もない。夕刻には10時半に全員静粛にしていなければならない。

ボス

1944年10月14日

聖ヨーゼフスクールから48名到着（現在1391名）。同様に、いわゆる自動車整備工たちも。後者は3ヶ月ごとに1回、野菜運搬車にネジを取り付けていた... およそ4、5ヶ月前に輸送中の兵士を乗せた船が魚雷にあい、105人が溺れた。（その中に、ブシンク、デーハナース、シユクライヴェスキューダー医師、スペッター）、HVA<sup>2</sup>の46人！連れ出された牧師、神父、管理者、警察官は、ビンチャイからの英国人とともにここから約30キロ離れたパダン・ハラバン・エステートへ移送された。

クラウト

1944年10月14日

昨日、ローマンが亡くなった。我々の出発前、彼は39度の熱があったが、スングルと一緒に歩かされたのであった。これが彼にとっては命取りとなった。実のところ、たくさんの半病人にとっても、まるでいいことにならなかった。道中、我々は動物の群れでもあるかのようにせきたてられたのだ。しかし、ありがたいことにもう終わり。…中略… マンディ [入浴] は最悪だ。通称レクリエーション室で衣服を脱ぎ、一步一步と泥の中に踏み入りながら降りて行き、そのあと、川に下りるために粗末な梯子をつたわる。

我々は一日に3回お茶をもらえ、その他、水も沸かす。度々、妻と子供たちのことを思う。ああ、どうかこの様な収容所生活からは免れられますように！我々は前の収容所ではよく愚痴をこぼしていたけど、ここに比べると申し分なかった。10日間位、骨折って働いたあとは、また休息できた。

ゴッキング

1944年10月14日

今日の夕方に80名が入所した。焼けつくように暑い日、どこにも日陰なし。嫌だ。…中略… 聖ヨーゼフスクールから48名加わり、合計1392名。

---

<sup>2</sup> HVA、アムステルダム貿易協会は当時、スマトラで有力な栽培企業であった。



クラウド

1944年10月14日

今週は、物干し用ロープを張り、テーブルを2台作った。我々は現在、雨や強い日差しから我々を守るための一種の小屋を作っている。

ゴッキングガ

1944年10月16日

全てが泥、泥、そしてまた泥。…中略… 午前中はいつも濃い霧。良く晴れた日には、西方にブキット・バリサン<sup>3</sup>が見える。ここの自然はまったくすばらしい。川はバンジレン [氾濫] し、すでに数メートル上昇した。

クラウド

1944年10月17日

ベラワン・エステートで渡した5kgの米のうち、55%返してくれた。つまり、2.75kg。また損したのだが、トランクの中身を盗まれた者のことを聞くと、この損失はまだ我慢できる。我々は今、もう放棄することに慣れた。…中略… このホン [バラック] は4つの組に分かれている：ホンの4分の1のスペースが56人を対象、床面から上の住人までの高さは2.35m。

ゴッキングガ

1944年10月18日

本日は南京虫の初演、好評な幕開け。…中略… ランプはちょうどお互いがぶつかり合うのを避けれるほどの明るさで燃えている。

---

<sup>3</sup>ブキット・バリサンは山脈。

ボス

1944年10月18日

ここの収容所で支配していること：飢え、仕事（幾人かにとり）、南京虫、便所の悪臭、蚊（！）、暗やみ、屈辱感、ぬかるみ、そして…睡眠。まったくひどい所だ。

クラウト

1944年10月19日

昨夜は、ランプがふたつ夜10時まで燃えていた。ヤップが少し灯油を支給した。…中略…  
便所は不潔だ。大便にウジがうじゃうじゃいる。ここでは「ココヤシの皮」と言ってヤップを警告する。

ゴッキンガ

1944年10月20日

ホンのすぐそばに非常用便所が作られた。なぜなら、大勢が夜、間に合わないことが度々あることが朝になって分かるから。ああ、何という暮らし。何とひどいこと。これは人生でなく、動物の暮らしだ。…中略…ホンは幅8メートル、長さ50メートル、高さ約10メートルあり、一寸の余分なスペースもない所におよそ220人がマットレスをびっしり敷き詰めて暮らしている。二階で誰かが寝返りすると、全てが崩れ落ちるのではないかというほどものすごく揺れ動くのだ。

ここにはホンが9棟、病棟、食事用バラック（笑うなかれ）、トランク置場、炊事場、川辺の脱衣場、同じく水小屋、特別食炊事場、そして6つのうちすでに2つが壊れてしまった便所がある。便所は我らのバラックから約150メートル行ったところにある。この収容所は山々に囲まれた小さい平地の一面にあり、サバン湾に似ている。背景にブキット・バリサン山脈が。よく雨が降り、夕方には雷雨。日中は焼けつくような暑さで、これといった木陰は全くなく、太陽の位置が高いためバラックの影すらない。…中略…川岸は高さが約8メートルあり、ぬかるみと泥だらけ。実のところ、収容所一帯が泥だらけだ。この川岸に沿って、階段として梁と柱が約50cm間隔で設置されていて、無事に降りてまた昇れるよう気をつけなければだめだ。上に到達すると、足元には粘土とがらくた。バラックとその近辺では、頻繁にスリップ事故発生。危険だ。

ゴッキングガ

1944年10月22日

便所が3つ解体された。凶面上に混乱が生じるということで指揮官はこれを許さなかったが、結局許した。ホンは日本語の張り紙ばかり。

クラウト

1944年10月22日

便所の大便が日毎に増加する。幾つかの便所は、すでに使用禁止になった。不潔だ。新しいのを作ってる最中だ。…中略…ここでは蚊に食いつぶされる。夕方には、フランネルのズボン、ワイシャツ、上着を着る。トランクの中にしまっておく必要もないだろう。私は何せ、マラリアにかかりやすいのだ。

ゴッキングガ

1944年10月24日

異なる、改善された排水口のある新しい便所が建てられる。朝方、収容所の道辺には大量の排泄物がある。急を要する場合には、ホン [バラック] から便所までの距離があり過ぎるのだ。

ゴッキングガ

1944年10月25日

ここでは突如に、大雨を伴う激しい雷雨が発生し、そのあとは一面が大きな粘土のぬかるみと化す。その暑さと汚さといったら、まるで石鹼が南京虫を追いやってくれるかと思えるほどだ。

ゴッキング

1944年10月26日

夜通しの雨で、あちこちで雨漏り、そして壁に吹き込み、湿気を除く冷たい風。…中略…今朝は、ぬかるみだらけで、靴で歩くことは不可能。くるぶしまで粘土のかたまりの中に。悪魔の仕業か、私は何度か便所へ。プイ！便所までの150メートルは、地面と同じ色をした大便でいっぱいだった。ハエだけがそのありかを教えた。便所でもそこらじゅうに排便されていて、そこを裸足で入り、再び、そのままティラム [マットレス] やマットレスに上へと。ここで絶対に伝染病にかからないとは、神のみぞ知る。何とひどい汚さ。…中略…カリは約8メートル上昇し、階段が押し流されたため、水浴びができなくなってしまった。…中略…どこもかしこも泥、泥、水浴びしたあとは、杭と細い板をつたわって川岸を8メートルよじ登らねばならない。上にたどると、またまた泥の上にぎこちなく立つことになる。同じ理由で洗濯は無意味だし、しかも石鹸すらないのだから。

ドライバース（この時点では、聖ヨーゼフスクール収容所抑留中）

1944年10月26日

我々は明後日に出発しなければならんことが、今日、決定された。明日12時に大きなバラン [荷物] が運ばれる。明後日の早朝に我々が出る。この旅は収容所へ直行することになる。

クラウト

1944年10月27日

昨夜はまた雨。ものすごいぬかるみ。ほとんど歩けないほどだ。炊事場付近では、占い棒で水脈がわかった。十分に水が出るはずの井戸が掘られることになった。未だ、便所を使わず、ホン [バラック] の外で用を足す収容所仲間がいる。

ゴッキング

1944年10月27日

カリの水位上昇、激しい流れ。入浴はまったく不可能だから、我々はもっと汚くなる。まだまだ大丈夫だから、どんと行け。

ドライバース

1944年10月27日

荷造りに忙しい日。 balan [荷物] はもう出た。椅子を除いて全てが運ばれた。引越ごとに残念ながら何かを失うものだ。我々は今夜はそのため、マットレスなしで寝なければならぬ。朝7時半、すなわち太陽時の5時に出発し、一日かかって移動させられる。

ゴッキンガ

1944年10月28日

通告：明日、カリ側の新しい便所の使用を開始。その上にまたがってすわること。足の間に溝。 …中略… 寝床に横になっているときに上の誰かが歩くと、床全体が踊り出し、気分が悪いときには吐き気がしてくる。 …中略… 焼けつくような暑い日。何という所だ。専門家によると、12月以後も耐え難い暑さとなるらしい。すばらしい予想。 …中略… 夜11時半に聖ヨーゼフスクールから病人が到着した。午前9時にメダンから約12人。ファン・デル・プランクはパダン・ハラバンで下車した。

クラウト

1944年10月29日

昨晚遅く、聖ヨーゼフスクールからさらに、手紙<sup>4</sup> に関係したフィッサー（ロイド）事件に密告者として行為した人物を含む18名が到着した。彼ら（収容所住人）は、その男のトランクを偶然にみせかけ、川へ放り投げてしまった。

メンデス

1944年10月29日

昨晚遅く（12時）、スンガイ・センコル及びベラワン・エステートに残され、その後、聖ヨーゼフスクールへ移された病人がここに到着した。

---

<sup>4</sup> 1944年8月、ベラワン・エステート男子収容所で婦女子収容所と密かに手紙がやりとりされた。この事件の密告者と容疑者は厳罰に処された。

ゴッキング

1944年10月29日

不安な夜。蚊帳で捕まえたもの：大きいゴキブリ、ムカデ、トカゲ、蚊、まるで動物園。新しい便所の使用ができるようになり、これはカリへ排出されるが、大雨の場合を除いて、毎日、給水班が水で洗い流している。ここで物をきれいにしておくことは不可能だ。豚も同様な格好で、タオルも真っ黒。モットー：できる限り、清潔を心がけること！！

ゴッキング

1944年10月30日

今日、私のいるホン[バラック]で小さなバケツで水浴びした。カリでこれはまだできない。

ドライバース

1944年10月30日

遅れ馳せながら、二、三書き記しておこう。金曜日（10月27日）の夜から土曜日（10月28日）はきわめて短かった。我々は4時に起きた。出発は8時で、駅まで歩かなければならなかった。我々は、プルーン・ファン・デル・プランクを含む、健康な者たち7人と病人11人と一緒だった。9時10分前に汽車が出た。我々は3等車に当てられた。この旅は中断することなく14時間も続いた。そこからは車で川まで。幸いにも晴天の満月。その後、収容所までさらに歩かされた。12時に到着した。

長い、特に暑さの中での旅でからだ中が乾ききっていたので、熱いお茶を出されてうれしかった。収容所については言うまでのものでない。翌朝、明るくなって全景を目にし、まったく驚いてしまった。おんぼろバラックと飲み水なし。水は全てスンガイ[川]から運ばなければだめ。…中略…ここは日中、ものすごく暑い。でも、ホン[バラック]内は涼しく、夜間は冷えるほどだ。…中略…少し荷物を整理したので、午後には私の本を何冊か選り分けた。バラン[物資]のうちで椅子だけでなく、小さな戸棚も届かなかった。とても残念だが、我々は今だからこそ、非常に簡素な暮らし方をしざるを得ないのだろう。

ゴッキングガ

1944年10月31日

ホン [バラック] の2号棟で壁に穴が開けられた。これをまたふさがねばならない。さもなければ、ヤップは彼らが新鮮な空気を望むものとして、外で寝かせることになる。…中略… 新しい便所は好評でさらに清潔に。病棟でもいくつか便所が増設されたが、排出口はない。

ゴッキングガ

1944年11月1日

ホン [バラック] 9号棟は崩れ落ちかけ、補強が必要だ。やがて大半が同じことになるだろう。

ドライバース

1944年11月2日

寒さで昨夜はあまり良く眠れなかった。我らのホン [バラック] 8号棟も今度、病人用となるため、明日には、ホン6号棟へ引越さねばならない。

ゴッキングガ

1944年11月3日

我々のホン [バラック] は昨日の大雨で倒れかけたため、今日、我々が森から採って来る木で補強される。…中略… 報告：ホン8号棟は、図書館を除き、病棟と同じく便所が増設される。…中略… 上階を靴等の履き物で歩かぬこと。要注意！

ドライバース

1944年11月4日

昨日、ホン [バラック] 6号棟へ引越した。ここはもっと狭苦しいが、それ以外ははるかに快適だ。

クラウド

1944年11月4日

昨日の午後、木材を採ってきた。これはホン [バラック] の補強に使われる。構造が悪いため、建物は既にながたが来ている。

クラウド

1944年11月5日

ここの夕刻はまるで縁日の境内のようだ。外に大勢がたたずみ、一方、ホン [バラック] からはハーモニカやバイオリンを奏でる音が聞こえてくる。この収容所は谷間にあり、察するところ、本来は欧州人全員をここに収容しようとしたらしい。自然環境はすばらしい。丘に囲まれた谷間。炊事用の薪はこの丘で採集する。

ゴッキング

1944年11月6日

昨夜の雨はひどい降りだった。ホン [バラック] 2号棟は浸水し、テクレックス [木の履き物] 等がみんな浮かび漂い、粘土のままの床だから余計そのきたなさが想像できる。

ゴッキング

1944年11月11日

我々のホンは内側も外側も支えが付けられた。内部はまるで森。柱だらけで、暗やみでの歩行は危険極まる。ホン全体が傾いている。近いうちには地面に倒れる。…中略… 泥沼と雨漏り。

ゴッキング

1944年11月14日

ホン [バラック] はあまりにもブスーク [悪い] ため、ヤップすら言う：支えるべし。我々は今度、自分たちで支える木を切り、補強しなければならないのだ。



クラウド

1944年11月15日

便所を含め、排水用のパリット〔溝〕の改良作業が続けられる。そしたら、川辺の階段に取り掛かる時期となる。植物はこの粘土層ではあまり大きく育たない。我々は今、戦記にたくさん書かれているごとく、シラミとぬかるみを体験する。

ボス

1944年11月17日

浴用タオル掛けが川のバンジレン〔氾濫〕で、我々のロープ（10メートルに付き76ギルダ）とともに流された。入浴？

クラウド

1944年11月17日

川辺の階段が洗い流された。…中略…病棟の籐張りの床は板に取り替えられる予定だ。ここにも進歩がみられる。患者37人の収容が可能となる。

ゴッキンガ

1944年11月18日

すばらしい晴天の夜。ああ、何と美しい星空だろう。そして山々の姿もくっきりと。ここの自然はすばらしい、特に、カリの岸辺は最高だ。植物の見事な生長、その豊かさ、そしてその美しさ。

ゴッキンガ

1944年11月21日

このところ、幸いにもお天気が続いている。カリで洗濯した。粘土の水であるが故、むずかしい。

ゴッキングガ

1944年11月26日

灯油が切れ、あたりは再び、心地よき闇。

ゴッキングガ

1944年11月27日

混乱状態。バラックの修理のため、収容所に中国人。ヤップは何台かの野戦ベッドを始末した。相変わらず、いじめが。…中略… 目下は、年配の人のスンガイ [川] での水浴は事実上不可能。彼らには降りることも登ることもできない。

クラウト

1944年11月27日

野戦ベッド等を始末せねばならない。我々は板の上で寝るようとヤップが言う。

ゴッキングガ

1944年11月28日

ホン [バラック] 5号棟と6号棟は中国人が修理した。ヤップとスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が監視する中、各自がバラック [物資] 全部を外に出さねばならなかった。修理は無駄のようだった。…中略… 私は、自分の豪華なベッドを解体しなければならないし、全員が板の上にじかに寝なければならないのだ。今日、蚊帳で新しいトリックを試みた。まさしく、シラミ軍団を見た。

ボス

1944年11月29日

ものすごい速さで、ホン [バラック] に支えが付けられ、5つの大きな中華なべがその近辺に。

ゴッキング

1944年11月29日

ホン [バラック] 9号棟と8号棟が修理された。…中略… 今度の便所は好調、非常によろしい。

ゴッキング

1944年11月30日

カリが大きく上昇。川縁に立つこともできないし、お年寄りや泳げない人には大きな負担となる。

クラウト

1944年12月1日

ものすごい泥沼だ。昨晚、ファン・ディストは熱湯を持ったまま転倒し、あごからへそまでやけどした。300人が新しく来るとの噂。

ボス

1944年12月1日

ヤップの命令で、ホン [バラック] の向こう半分を空ける。大移動、絶望的混乱。新入者あり。内に南京虫、外は降り続く雨でひどい泥沼。

ゴッキング

1944年12月1日

本日はものすごい泥沼。前後に滑ったり、よろめいたり、あちこちでぬかるみに倒れてもがき、食べ物を持った者、持たない者、まるで全員がスキーかスケートのレッスンでも受けているかのようだ。…中略… 一定の深さの細い溝の上に新しい便所が幾つか作られ、それを通じて収容所の下水が排出され（特に、雨のときは好都合）、また必要とあらば、そこに水を流すことができる。このようにして、初めの頃に穴の中に溜めて置いたのとは違って、全

部がカリへ流出する。…中略… 数百人がさらに来るとかで、ホン[バラック]8号棟は一部、図書館も引越した。にぎやかになるぞ。

ゴッキングガ

1944年12月3日

一日中、蚊帳をひもや細い針金でなおすのを試みた。全てが今、南京虫でうめ尽くされてしまい、そこらじゅうを這い回っている。人間はあらゆることに慣れるものだ。

ゴッキングガ

1944年12月4日

カリ沿いに新たに、階段と踏み台が作られた。大きな進歩。

ゴッキングガ

1944年12月9日

全部のホン[バラック]は今、外側から支えが付けられる。…中略… 雨の日、全てがぬかるみ、不潔に。

ゴッキングガ

1944年12月10日

シラミの異常発生が頻繁となり、時折、幾人かは夜、寝床の中でシラミに悩まされ、外で歩いている。いつも読む本の表紙にさえシラミでいっぱいだ。プイ！シラミは軍隊のごとく梁に沿って歩いている。

ゴッキング

1944年12月11日

物干し用ロープ等全てを取り外し、木材（支柱）は病棟の床の修理のために病棟へ持っていかねばならない。収容所は今、むき出しに。

クラウト

1944年12月11日

あの日本人所長はへびだ。今朝、我々は「テンパット・ジウムラン」 [物干し場] を取り壊し、支柱を病棟へ運ぶ命令を受けた。その結果、物干し用ロープと同時にマットレスを干す台も外された。

ボス

1944年12月13日

今日は南京虫捕獲数の最高記録を：10匹。たいていこれは、毎日数匹「だけ」。

ゴッキング

1944年12月14日

4時に降り始め、収容所全体が水浸しとなり、ホン [バラック] の中へさえも水が流れ入った。我々は早くも午後7時頃、一斉に寢床へ入り、驚くだろうが、我々の時間でこれは4時半頃なんだ。そして、次の朝の8時まで寢床の中にいたのだ。ぬかるみがどういうものか想像もつかないだろう。夜、いつものように靴を履いて表へ出たら、泥の中にはまり込んでしまったため、雨の降る中、自分の靴の横に裸足でぬかるみに立っていたのだ。

ゴッキング

1944年12月15日

午前中晴れ、午後は再び、どしゃぶりとどろぬま。全く頭にくる。どうしたらいいか、自分でも分からないし、どこにも行けないし、どこにも座れないのである。 …中略… 浴場に新

しい階段ができた。左側通行で、上りにひとりと下りにひとりを守ることが要求されている。木材がもうないのに、物干し用ロープを新たに張ることをヤップが許した。

ボス

1944年12月16日

ブラスタギーとグルゴールから168名が加わる。そのほとんどが、10歳、11歳、12歳の少年で、加え、幾人かのご老人だ。ブラスタギーにいる母親は自分の子供たちがどこへ連れて行かれるのかさえ知らなかったのだ。両方の収容所の女性たちが、ことのほか涙にむせんだことは疑いの余地なし。何とむごいことを！

ゴッキンガ

1944年12月16日

本日、炊事場は、ヤップが本日の到着を予定する150名分を余分に調理しなければならない。明日はさらに150名が来るそうだ。事実、夕刻には150名、全員ブラスタギーから雨の中を到着した。いかなる状況、いかなる旅路を彼らは経験したことか。最初に会った人は私が以前手伝ったことがあるヘルデルマンで、君たちのことを伝えたら、彼もよろしくと言ってくれた。元気そうだった。彼が言うことには、ミースはとても愛らしく、お行儀の良い（このことはゲットゲンス公証人もスカートゥも言っていたこと）、極めて美しい女の子に成長したらしい。皆の気持ちが楽しくなるニュースだね。…中略…

子供たちの何と悲しげな様相。特に父親がここにはいない子供は、くるぶしまでぬかるみにつかって、雨の中で泣いていた。かわいそうな子供たち。夜の9時頃に、全員がそれぞれ一皿のごちそうと一杯のお茶をもらった。そう簡単に忘れ得ないほど、全てに無残な姿。バラン〔荷物〕は翌日になって初めて届くはずである。さらに、ヘリングとアイセルステインが君によろしくと言ってた。こういうことを耳にするのは気持ち良いものだし、特に、健康であることは喜ばしい。何人かの若い連中は、スカートゥがやせてしまったと言った。一晩中の激しい雨、ぬかるみ。夕刻には、無数の人々が食べ物を手にしたりしながら、ぬかるみと闇の中に転倒した。明かりがどこにもない。まったく恐ろしい。アブラハムセはスリッパしてくるぶしを骨折してしまった。

クラウト

1944年12月16日

誰もが、今後、到着するはずの300名のだれそれを憶測する。アーク・パミンケあるいはパダン・ハラバンからか？ ブラストギーとグルゴールの10歳以上の少年たちが、ブラスタギーと聖ヨーゼフスクールからの幾人かのご老人とともに、夜8時に到着したときの驚きといたらどんなに大きかったか。そういう訳で、今日はアードリアンに会えるはずだ。もちろん、とてもうれしいが、コーはきっと、大泣きをいただける。でも、愛する妻よ、歯を食いしばって頑張るんだ！ 終わりが大事だ。157名が到着した。夕方、彼らは一杯のご飯をもらった。ほとんどの少年が裸足だった。これまでに一番純な移住者だ。悲劇だ。

クラウト

1944年12月17日

今日は、私の息子のために仮の寝床を作ろう。今夜は私の隣りに彼が横たわることを望みつつ。昨夜、あまり良く眠れなかった。長男のことばかり想っていた。彼が気に入るよう、できるだけのことをしよう。いずれにせよ、彼は寝ることはできる。私が昨日、米を分配している最中、ちょうど18時に最初の若い連中が到着した。仕事を終了したあと直ぐに、ホン[バラック] 8号棟へ行って、アードリアン・クラウトを探した。やっと、帽子をかぶった男子が二階に現れた。彼は元気そうで、まじめに頑張った、要するに、予想通りの若者が目前にいた。直ぐに、食べさせた。だが、彼はあまり食欲がなかった。彼は母親について、そしてアリについてたくさん話してくれた。ほっと、ひと安心した。コーの体重は60kg。アリは今、良く勉強するとのこと。少年たちのバラン[荷物]を運ぶ手伝いをした。夕刻にまた雨、夜には激しく降った。アードリアンはここに来て、とてもうれしそうだ。そして、私も彼を身近に置いて幸いに思うのだ。

ゴッキンガ

1944年12月17日

夕方にはまた、ブラスタギー、タンジュンバライ、プラウ・ブラヤンから女の子を含む、289名が到着した。何人かは18歳に満たないし、父親がここにはいない子供たちがたくさんいるのは、何とも惨いことか。かわいそうな子供たちだ。言葉につまる。このことを忘れてならない、決して。…中略… カイザーの息子たちは少年棟へ行く。私は彼らの世話をする予定であったが、彼らの両親の親しいソバット[友人]であるラーヘマンが大部分を整えた。

ボス

1944年12月17日

224名到着：プラウ・ブラヤンとブラスタギーの若い連中と若干の老人。…中略… 少年のひとはやせこけた実の父親を見分けることができなかった。悲劇だ。現在600名以上の若者がいる至上の休暇村。

ゴッキンガ

1944年12月18日

ここに到着した少年のうち何人かは、自分の父親に見覚えなかった。それと同じように、父親の何人かは自分の子供に見覚えなかったのである。彼らは一緒に渡し船に乗っていても、お互いに見分けがつかなかった。ある人が少年たちにプラウ・ブラヤンのX夫人を知るか、また彼女の様子はどうかと尋ねたら、簡潔な返事が戻ってきた。「アア、その人は、一ヶ月前に亡くなった」。尋ねた者は、妻の死について何も知らなかった彼女の夫であった。何という有り様。

我々は今日の午後、ここのホン [バラック] の一部が病棟となるため、(我々のホン3a号棟とb号棟から) ホン9号棟へ突然移らねばならなかった。ここは要するに病棟の向かい側にある。我々全員は拒否した。もっと時間が必要なのだ。そこで、これは明日行われることになった。ホン9号棟は炊事場のそばにある。寝床の配置は今と同じにすることにした。

ドライバーズ

1944年12月19日

土曜日(12月16日)に到着した最年少者の中に、グルゴール婦女子収容所からの子供がかなりいた。彼らは10歳になっていた。母親の元からこれらの子供を引き離すとは、何と意地の悪いことか。いかなる軍事利益がこのことに関係しているのか、私には理解できない。また、ブラスタギーからも子供連れの何人かの大人が、日曜日(12月17日)には、残りが到着した。同じく、君たちのプラウ・ブラヤン収容所からの少年たちもだ。…中略… ここの状況は、人口400人増加のため顕著に悪化した。



メンデス

1944年12月19日

本日普通の引越：到着した少年たち全員は、マースマンの保護を受けるホン [バラック] 8号棟へ収容され、ホン3号棟の半数はホン9号棟へ、また臨時病棟であるホン8号棟はホン3号棟へ移された。南京虫の被害が比較的少ない - 我々のところではシャワーのごとく身体じゅうに降りかかるのだが - ホン8号棟（臨時病棟）がこれから体験すべきは、収容所、そして、あのホン3号棟には南京虫ははびっこしている故に、もうその業務を清潔に保つことができないことだ。

ゴッキング

1944年12月20日

全部で400名が新しく加わり、現在合計で1787名 …中略… ここホン9号棟での我々は、ホン3号棟にいたときと同じメンバーで同じ配置である。ホン3号棟は、今、病棟の別館だ。

ゴッキング

1944年12月21日

蚊がものすごい。襲いかかって来るのがわかるのだ。ここからブキット・バリサンを望むすばらしい見晴らし。物干し用ロープ問題が解決：ホン [バラック] の前面ではだめだが、横ならよし。少年約200人は全員、ホン8号棟でマースマンのもとで暮らしている。子供たちの話し声はみんな何とも活気があり、にぎやかだ。幼い子供のようにおじけつき、何とやせっぽちだろうか。小さいというだけなら良いけど、彼らは慢性の栄養不良、同時に特別な栄養の欠如から、何ともひどくやせこけている。しゃべる言葉もとても粗野だが、一体どこで覚えたのだろうか？ 彼らが今日、砂糖をもらったときは大はしゃぎしてた。大勢の子が未だに母親を慕ってよく泣いている。かわいそうに。まったく、ひどいことを。

ゴッキング

1944年12月22日

夜に雨。雨漏りのためレインコートを寝床の上に張らなければならなかった。

メンデス

1944年12月24日

この状況（大雨）にあつて、私は真夜中に、ひどくぐちゃぐちゃなぬかるみがあつて危険な場所にある病棟の便所へ行かねばならなかつた。睡眠も相変わらず非常に不安定だ。ひとりが動くと、簡単に付けられた板の上の5つか6つ離れた寢床の者がこれを感じ取り、ショックで目が覚めてしまうほどである。

メンデス

1944年12月26日

「クリスマス気分」もあつて、昨日の朝は南京虫を50匹蚊帳で捕まえたが、「クリスマス二日目の朝」前の影響で、夜、かゆみをおぼえたにかかわらず、再び、25～30匹の南京虫どもを捕獲。すごい！むかむかしてくる。

ゴッキンガ

1945年1月6日

通告：水中に潜ってはならぬ。本日、ある少年が潜って木材に当たった。彼はひどいけがをし、傷口を縫合してもらわなければならなかつた。便所の（柵のような）座台は、高齢者のみの利用にあり、若者用でない。使用した場合は処罰される。

ゴッキンガ

1945年1月8日

スンガイ [川] での水浴び、洗濯、魚釣り等は、水泳小屋の前のみで行ない、同小屋から上流もしくは下流では決して行なつてはならない。

ゴッキングガ

1945年1月9日

スンガイ [川] は今後、午後7時に代り午後1時に閉まる。…中略… ビリック [編んだ竹の壁] が食いつぶされている。それは、ものすごくたくさんの南京虫や蟻やほかの昆虫の餌となる。そこらじゅうにシラミが、衣服、寝具、書籍、靴、靴下の中にも、それこそいたる所にだ。…中略…

少年棟であるホン [バラック] 8号棟では、暗やみの中で便所を捜す子供が夜毎、きまって落ちこちる。…中略… 親のない子供がここでほったらかしにされ、粗暴になるのは何と嘆かわしいことか。夕刻に激しい雨と多量の雨漏り。

ゴッキングガ

1945年1月10日

スンガイ [川] の入口は毎朝、遅くれて開く。水が必要な洗濯、入浴、他の家事においては絶望的だ。昨夜は再び、シラミとその他虫けらのハイキングコースや遊園地と化した。刺されさえしなければ、いまさら何の文句なし、と言えるまでに私はもう馴れたのだ。刺されることだけには、まだ、馴れるようにしないといけない。この状況は、「鬼が島」のかつては不思議で信じられなかったり、想像でしかなかったことが、今、まさに現実となり、それに似てきた。こんなことが有り得るとは知らなかった。

ゴッキングガ

1945年1月13日

昨夜は小便のため頻繁に起きたが、便所までの距離があり過ぎる。ほとんど間に合わない。大半の若い子供は間に合わず、収容所と便所のいたるところで用を足してしまうため、朝にはひどい汚れをきたすのだ。小さな子には暗やみでするのは無理である。そこいらじゅうにぶつかったり、穴や溝に落ちたりするからだ。動物はその点、簡単にすませるが。…中略… 食事中、南京虫が私のからだの上を這いずり回る。

ゴッキング

1945年1月14日

実際そこに、一匹の蟻が大きな南京虫と一緒に私のノートをつたい歩いている。何とすばらしきお芝居だろう。…中略… 本日、ある男の子がカリで流されて溺れかけ、「助けて、助けて」と泣き叫んでいた。

ゴッキング

1945年1月20日

収容所は今朝も排泄物で一杯だ。最近は、ホン [バラック] 内ですらそれを済ませる者がいる。

ゴッキング

1945年1月24日

スカートと一緒にカリで水浴びし、相変わらずに、石鹼で洗った。新しいP.S.V.のタオルが利用できるようになった。…中略… 共に歩いたり、話したりしている最中、平然としてお互いにシャツやズボンから掃い取るほどにはびこるシラミ。

ゴッキング

1945年1月25日

夜に害虫がものすごい。耳の中にさえも這いずるし、そしたら出てくるまで待たなければならないのだ。でないと、耳の中で押しつぶしてしまうことになるからだ。私はほとんど一晩中、害虫に邪魔されて眠れなかった。

ゴッキング

1945年1月29日

我々のホン [バラック] の周りにある溝の汚さは最悪。何も対処されてない。ただ、苦情のみ。

ゴッキング

1945年2月6日

浴場に若者たちのために専用の階段が作られた。若者には快適さ、老人には安らぎを。

ゴッキング

1945年2月11日

昨夜はあらしと雨。夜中に、ぬかるみの雨の中を便所へ150メートル遠征しなければならないときには、まるで悪魔のいたずらと思えるほどだ。今度もまた、水浸しの溝にはまり、びしょ濡れの靴や靴下等。うんざりする。

ゴッキング

1945年2月12日

蚊帳を外へ出す。実際に見なければ信じられないほど大量の南京虫が出て来たのだ。…中略… 石鹸でからだを洗い、少々、手入れをした。自分では人間らしくなったと感ずるのだけど、害虫には関係ないようで、からだを這いずり回り、一時間もするとまたきたなくなる。我々の組に夜間の照明用に灯油が300cc。

ゴッキング

1945年2月13日

ホン [バラック] 8号棟のヤン・テ・ハッセローは、真夜中に二階から落ち、ものすごい悲鳴をあげていた。ホンの全員がとっさに行動できず、まるで蜂の巣、大騒動だった。でも、かわいそうだった。幸いにも、損傷なし。一日中、陰気で絶望的。夕食後にまた雨、やがてどこもかしこもぬかるみに。

クラウド

1945年2月15日

今日の午後の強風をともなう雷雨の影響で、アタップ [ヤシの葉でできた屋根] の真ん中の何箇所かが風で飛んだ。様々な人々のマットレスが雨で濡れてしまった。

メンデス

1945年2月16日

4ヶ月近く臨時病棟で過ごしたあと、今日、やっと自分のホン [バラック] へ戻る。病棟では全てが私のために用意されていたのが、ホンでは全部を自力に頼るしかないのでなかなか難しい。加えて、いわゆる乾季にもかかわらず、絶望的な悪天候でひどい泥沼だ。そこを通過して「大小の用を足しに」、特に夜間はかなり危険だ。

ゴッキング

1945年2月18日

何と時には、ブキット・バリサンはこうも美しいのだろう。すばらしく、なお且つくつきりと木々や裂け目が見えることか。ああ、何と山々は魅了し、彼方に引き付けるのだろう。

ゴッキング

1945年2月21日

南京虫は何とも恐ろしいものと化す。24時間、そこらじゅうを這いずり回り、衣服、本、枕、寝具や全てのものから出て来る。床、梁、針金や紐を這いずり、食べ物の中にも潜り込むいやしい奴だ。処置なしだ。まるでペット。だから降参してお手をするように仕込めば、多分もう刺すこともあるまい。

ゴッキングガ

1945年2月26日

できれば我々はホン [バラック] 7号棟へ引越したい。あそこには (サバンからの) 知人が大勢いる。ここホン9号棟はうんざり。上で寝ることも、はしごの昇り降りも、そして夜は特に。全て寝床で行うのである: 食べること、飲むこと、睡眠、読書、接客、食べ物の分配、食事の用意等。感染のチャンスがいたるところにあるのも不思議でない。掃いたり、拭いたりするのも無意味。

メンデス

1945年2月27日

夜に決まってシラミや南京虫でからだじゅう、かゆみに襲われる以外に、今は、ネズミも夜中にお祭り騒ぎをし始め、昨夜は何たる大騒動だったこと。

ゴッキングガ

1945年3月6日

ここ数週間にわたり晴天が続き、今はものすごく暑くなりはじめた。一筋の影もないこの谷間のぎらつく光にはまったく耐えられない。ひどい。

ゴッキングガ

1945年3月8日

ホン [バラック] 3号棟にある臨時病棟は、明け渡しされるはずのトランク置場に移転する必要がある。そしたら、我々のトランクは一体どこへ? 我々の寝床の上の梁のどこにでも置かせるつもりなのかも。トランク置場は我々のホンの向い側にあるので、病人が我々のすぐそばにくることになる。感染の危険があるため、まったく不愉快だ。また、ここは悪臭を放つ便所があり、その全部が炊事場から約50メートルの位置にあることは、まさしく感染源となる。結局のところ、婦女子収容所、多分、アーク・パミーンケから移り来る200名が加わることから理解できる。

ゴッキング

1945年3月9日

午後に、彼らは13名ほどの人を使って、我々のトランクをグダン [倉庫] からホン [バラック] へ運び入れ、母屋桁の間に押し込んだ。

メンデス

1945年3月9日

トランクグダン [トランク置場] は、病棟別館設置のために急遽、空にしなければならない。というのは、アーク・パミーンケから200人の「丈夫な男たち」が来るらしく、そのためホン [バラック] のいたるところで場所を空けなければならない。

ゴッキング

1945年3月17日

本日、各ホン [バラック] は一個の常夜灯に適う少量の灯油をもらいに行ける。我々がここに来てからずっと照明はなく、常夜灯のみ。そのため、夕暮れや夜間も闇に包まれ、雨だどことさらひどい。

ゴッキング

1945年3月20日

昼夜の雨、ひどい泥沼、寒く、じめじめして暗い。ああ、何と憂うつにさせることか。もう耐えられない時もある。栄養失調、疾患、赤痢、マラリア、死亡などで頑張り通せないような気がする。衰れた病人が雨とぬかゆみの中を150メートル離れた便所まで滑りながら行くのを目にするんだ。転倒する者もいれば、溝に落ちる者もいる。衣服をまとわず、上着や靴も履かずに、雨の中を便所の前で列になる。道端のいたるところには、間に合わなかった者の排泄物がたくさんある。このような状況で、人間が生きていくことができるか、また人間らしくいられるか、それは言葉では言い表せないし、想像もつかない。非道だ。



ゴッキング

1945年3月22日

昨夜は南京虫、それも何百という生まれたての小さい奴のせいで眠れなかった。ふい！  
…中略… 夕方に雨、そしてぬかるみになり、ここは最低。暑くて寒く、晴天と雨降りと、  
変てこな気候。

ゴッキング

1945年3月23日

自分の寝床で過ごす時間といたら相当なものだ。炊事、雑役、入浴、便所を除いては、マ  
ットレスの上に横たわる。まったくうんざりする。長い間、洗濯してない。日差しは弱すぎ、  
カリはバンジレン [氾濫] して泥水だらけ。自分が豚に見えてくる。この泥水をも飲むのだ。  
…中略… あたりはどこも濡れすぎていて全く置くところがないので、我々は寝具も衣類も  
全然、日に干さない。

ゴッキング

1945年3月26日

雨の夜、大量に雨漏り。もう48時間も雨が降り続き、どこも水浸し、いたるところに、ホン  
の中にさえもぬかるみが。みんな濡れてしまった。木材も。そのため炊事場は朝食を作る薪  
がなく、だから朝食も出ない。読書するには、ちょっと暗すぎる。カリはバンジレン [氾濫]  
して石のように冷たいし、私はこの48時間も入浴してない。あちこちのぬかるみでスリップ  
して転倒する人々を目にする。

メンデス

1945年3月28日

相も変わらず雨、雨。ホン [バラック] の外だけでなく、屋根が壊れているためにホンの中  
にも降る。

ゴッキング

1945年3月31日

我々は実に、この半年というもの自動車等の音を何にも聞いたことがない。…中略… 図書館が収容所監督の事務所から分離して、病棟のそばに建てられる。…中略… スリップ防止のため、ココヤシの皮を水泳小屋へ運ぶ命令が。

メンデス

1945年4月1日

ここで我々がさせられる暮らしは、まったく人間生活に値しないものである。畜舎より優るともいえないホン [バラック] には、220人の人間がイビキをかきながら眠り、オナラし、食後も口をチューチュー鳴らし、おどしの汚いことばを使って喧嘩し、遠慮なしに素っ裸になり、小屋にいたりする等々… ここにいるのが長ければ長いほど、ごく普通の家庭生活をさらに強く望むようになり、この豚小屋でのこんな人間の集まりから解放されたい。

メンデス

1945年4月4日

森林を伐採し、食糧栽培園を開墾した（プラウ・ブラヤンタあるいはジュンバライにその者の妻が収容されていない）103名の男子と少年が、アーク・パミーンケから昨夜の3時に到着した。彼らは、ヤップの良好な食事（一日につき450グラムだ！）と闇取引のおかげで、太って、栄養十分な様子をしている。彼らは今まで一度もサゴヤガプレック [乾燥キャッサバ] を食べたことがなく、自ら、米、トウモロコシ、コーヒー等の十分な予備食をも持参して来たのだ。

ボス

1945年4月4日

真夜中に、アーク・パミーンケの「丈夫な男子」220人のうちの108人が着いた。収容人員はこれで現在1864名だ。D.S.M. [デリ鉄道会社] を利用した彼らの汽車の旅は、約35キロの距離で結構、楽だった。アーク・パミーンケ駅では、転てつ器が見つからず、彼らが乗るべき家畜車を切り離すことができなかった。そのためヤップは「しぶしぶ」3等車へ我らが仲

間の乗車を許した。ランタウパラパトまでの中間点で、機関車が切り離された。この機関車は薪が足りなくなってしまう、車両を再び動かすために、まずランタウパラパトへ薪を取りに行ったのだ！

クラウト

1945年4月4日

夜中の3時にアーク・パミーンケから、つまり独身者とブラスタギーにその者の妻が収容されている男子108名が雨の中に到着した。タンジュンバライとプラウ・ブラヤンにその者の妻が収容されている男子はそのまま残された。

アーク・パミーンケには特殊な収容所が三つある。家族収容かと、またまた推測されている。…中略… 新入者は元気な様子をしている。幾人かは体重が15kg増えたくらい。ここの収容所とは雲泥の差だ。彼らは向こうで、9.5ヘクタールにトウモロコシを栽培したが、育たなかったようだ。我々のところへ、さらに家族収容がなされるのだろうか？ ぬか喜びはごめんだ。我々は今まで十分この点に関して、失望を味わってきたのだ。新入者の大半が予備食を持ってきた。…中略… 医師は、この連中が健康な太り方をしてなく、むくんでいると見た。からだに赤い斑点をした者もいる。

ゴッキンガ

1945年4月4日

夜中の2時にアーク・パミーンケから110名の丈夫な男たちが到着したことにより、これまでの合計1759名が1869名に増えた。彼らはゴム林を伐採して、畑にし、7000名用のバラックを建てた。ここでは、家族収容が実施されるらしい。その者の妻がグルゴールやプラウ・ブラヤンに収容されている90人の男子はそこに残り、未婚の男子と他のところに配偶者が収容されている男子がここへ来た。ブラスタギーは暫定的に存続。24棟のバラックがあり、一階建てで中が小部屋に仕切られている。これ、本当なのかな？ …中略… 彼ら全員は主に、ホン3号棟に収容される。

ゴッキングガ

1945年4月9日

アーク・パミーンケの病棟は今月15日に準備が整う。我々が引越し、ここの医師がひとり多分そこへ行くとされている。収容所リーダーはこの収容所への女性の移動に抗議した。

ゴッキングガ

1945年4月14日

焼けつくように暑い日、どこにも影らしい影がない。身の置場がない。南京虫は今日もひどいもんで、食事をしている最中に私の皿の周りを歩いてた。

メンデス

1945年4月23日

今月の初め以降、我々はパトック [小部屋、プタックと同義] でヘーステルマンズの甥が加わったために4人で暮らしている。区画は、各自が66cmの「居場所」を保持できるように2.64mかっきりの大きさにされているが、ということは夜にはお互いが重なり合って寝ることになる。

ゴッキングガ

1945年4月30日

上の住人は、ゴミを缶に入れ、階下に掃き落とさないようにしなければならない。二階で缶や壺に小便することは禁止されており、医師の指示がある場合だけ許されている。二階の窓からは決して物を投げてはいけない、要するに、種やそれに似たものを窓から放つのもだめだ。ホン [バラック] の周りがあるパリット [溝] の上部には、今後、バケツ等のために台を設置してはならない。

ボス

1945年5月6日

引越の噂が広まる中、我々が過密して暮らすため… ホン [バラック] が2棟さらに建てられると、ヤップによる報告がされた。

ゴッキング

1945年5月6日

昨夜、この谷間で雷雨があり、私が思うところ、それは今まで一度も経験したことがないものだった。稲光と雷鳴、全てが頭上で同時にだ。そこらじゅうが揺れ動いてた。火の中にいるかのような感覚。恐ろしい。便所に行かないで済めばと思ったとき、私は完全に恐怖症となり、急に腹痛を催した。しかし、もしどうしても行かなければならないことになったら、ただ単に裸で溝の上に座るのだと決めた途端、正気を取り戻したのだ。何と大変な一夜だったことか。

この三年間の緊張、いらいら、栄養不良の結果として、今、まさに普通の生活を切望するのだ。我々はここにすでに8ヶ月もいるが、その間、雑役以外は寝床と汚れのなかで暮らしてきた。8ヶ月も椅子やテーブルに着いたことがない。8ヶ月をあぐらを組んで寝床の上で過ごした。8ヶ月を味気のない、いつも同じ冷たい食事。この単調さが何か恐ろしいものとなった。…中略… 収容所幹部へのヤップの通告：我々は手狭の状況にある。ホンを2棟とその後、病棟を作らねばならない。そして引越、再びこれもまた中止。もし、我々が自分たちで建てなければならぬとすれば、出来上がる前にこの戦時体制が全て終了している。

クラウト

1945年5月6日

ランタウパラパト (シ・レンゴ・レンゴ) 収容所には、1022名の家族 (男子並びに少年) を含む1400名が収容されている。…中略… ホン1棟と病棟の建設用地を調べにある請負業者が収容所を訪れた。一体、どんな意味があるのか知れないが、好きなようにしろ！

メンデス

1945年5月6日

移転の噂とは反対に、今日、ホン [バラック] が8棟と病棟がひとつさらに建てられる予定との通告があった。

ボス

1945年5月7日

ヤップは「模範」収容所の形態で、あと9つのホン [バラック] を建てるそうだ。

ボス

1945年5月13日

ヤップは、9つのホン [バラック] の建設を中止し、だが、ホン [バラック] ふたつと病棟ひとつの新築を決行すると通告した。

ゴッキンガ

1945年5月14日

少量の砂糖で蟻を誘きだすことにより南京虫が減少。赤蟻は幼虫を食べ、シラミを噛み切る。大蟻は噛まれたシラミを運び去る。見よ！ 人類が手助けする戦争を。

ボス

1945年5月18日

7名が新しく加わり、その中には、聖ヨーゼフスクールからの病人が。

ゴッキング

1945年5月18日

夜中の2時に、聖ヨーゼフスクールから7人、ウイングフートからふたり到着し、現在の合計は $1844+9=1853$ だ。

ボス

1945年5月19日

ヤップからの通告：アーク・パミンケへの引越は中止。月曜日の夕刻に、アーク・パミンケから88名が着く。これで、我々、完全に重なり合って横になるなり。ホン [バラック] ひとつにつき220名以上、各組55名以上の人員数だ！！ 4月22日、23日、24日にプラウ・ブラヤンD収容所がアーク・パミンケへ移転した。同様に、グルゴールの女性76名も。5月4日、6日、7日に、ベラワン・エステートはアーク・パミンケへ移転した。目下、アーク・パミンケには1000～1200名の女性がいる。

ゴッキング

1945年5月19日

アーク・パミンケへの我々の引越は最終的に打ち切られ、すでにそこに収容されている88名は5月21日にここに着く予定で、女性は一部がすでに収容されているが、全員その収容所へ行く。…中略… 引越が中止となった今、スカートゥと私は幸いにも、君たちと同じように一緒にいられる。誠にありがたい。我々の組にあと5人が加わるはずだ。下に3人と上に2人だ。要するに、ここはまたさらに手狭になる。

クラウト

1945年5月19日

ホン [バラック] 内で、その通告についてのコミュニケが朗読された。ヤップはアーク・パミンケへの引越の中止を伝えた。アーク・パミンケの男子たちがここへ来る。女性の引越は分けて行われる。話しによると、三台の小型車両ですでに移送されたそうだ。欧印人が一ヶ月前に抑留された。場所は不明である。

ボス

1945年5月20日

現在の各自のスペースは85cm！ 階下でも79cmだ。

ボス

1945年5月21日

アーク・パミーンケからのみんなが加わる。再び、我々の仲間が全てそろった。

ゴッキング

1945年5月21日

午後2時に22名、午後4時に22名という具合で、88名全員が到着した。…中略… アーク・パミーンケからの男子は、そこでは女性たちに会えなかった。持参した食糧、トランク、イカン・テリ [塩干しの小魚]、米、インゲン豆等はヤップが取ってしまった。

クラウト

1945年5月21日

今日、アーク・パミーンケにいた残りの男子88名がここに到着した。彼らは昨日、10時にトラックで出発するという知らせを受けた。この連中はそこで最近、あまり良い目に会わなかった。同様に、闇取引もだめ、音信なし、要するに、完全に孤立していた。彼らは特に、たらふく食べた様子ではなかった。その地で既にふたり死亡：カイパースとペリンクホフだ。彼らはそこで女性たちに会えなかったが、現在すでに、1200人が収容されていると推定している。

数日前、そのヤップが言った。「明日、お前らは配偶者に会える」そしてその後しばらくして、「出発せよ」と。ヤッペンなんか、いつもこんなもんだ。突然の移転の理由は何か？ 父親とその息子との対面が行われた。彼らは自分の息子がもう5ヶ月もここにいたかのように、もちろん、とてもぎこちない面持ちで立っていた。



メンデス

1945年5月21日

本日、アーク・パミンケに残っていた大部分の男子が着いた。ピート・カイパースを含む、他の者は今夕来る。我々の友人であるティニー・カイパースが高熱を出して、他のひとりと去る4月30日にアーク・パミンケで亡くなったと、突然の知らせを受けた。皆が彼はとてもしっかりした男だったと言うのを聞くにつけ、未だに私は信じられない。

メンデス

1945年5月24日

ピート・カイパースが夕方、臨時病棟に私を見舞いに来てくれ、しばらく一緒に話をした。彼は今、16歳で、がっしりした大男だ。彼は父親の死をひどく痛み、以前と変わらぬやさしい、礼儀正しい青年である。彼は、父親とともにグループにいたあのスプレンガーの保護下にある。このままうまく行けば最善だ。ダメなら、私が彼の面倒を見よう。

ボス

1945年5月25日

収容所人員総数：1936人！

クラウト

1945年5月29日

用を足すために便所の前に毎日、どれだけの人が列を作って待っているのを見るのはおもしろい。雨の降る夜には、道端で済ましてしまう者たちがいる。18の大便の山が片付けられたことがある。大雨の日には、滑りやすい粘土の地面でスリップしないよう、みんな杖で武装して便所へ行くのだ。下痢をして、夜に7回も8回も出向かねばならない者の心境のいかに描写することはできない。

クラウト

1945年6月27日

いわゆる新ホン [バラック] の工事は、2、3日前から何も行われていない。加えて、今ではアーク・パミンケへ女性がひとりも移送されてない模様だ。そこにはプラウ・ブラヤンD、グルゴール、ベラワン・エステート、タンジュンバライから約1200名が収容されているはずだが。コーがプラウ・ブラヤンCで未だ無事に暮らしていることを願う。これも最近、何事かが起こっていることの証拠なのだろうか？

クラウト

1945年6月27日

ひどい泥沼。聖ヨーゼフスクールから2人到着した。プラウ・ブラヤンの女性は全員、現在はアーク・パミンケにいる。つまり、またまた全然違うニュースだ。ブラスタギーの女性たちもそこへ行かされる。彼女らは全ての物を持っていくことを許された。アーク・パミンケには病棟に2人の医師、ゴセスとラインストがいる。聖ヨーゼフスクールから来たあの連中は、パミンケ経由でここに着いた。Socony (ニュージャージー・スタンダードオイル会社) とベラワンは2、3週間前に重爆撃を受けた。プラート夫人は、プラウ・ブラヤンからアーク・パミンケへ行く汽車の中で亡くなった。彼女は聖ヨーゼフスクールへ戻された。ヤップが板を与えなかったため、戸棚でお棺が作られた。

ボス

1945年6月27日

アーク・パミンケからふたりの男が加わる。ヤン・スロートと... (RMCA) フッフナーヘルスが無残に殴った男だ。グルゴールとプラウ・ブラヤンの200人を除いた女性は、アーク・パミンケへ移され、ブラスタギーは10日後に続く。現在およそ2000人の女性がアーク・パミンケにいる。工場だったその収容所では水がほとんどなかった。ヤップが言った。「ティダ・アパ！」 [かまわん]。女性たちは汽車の中で夜を明かさなければならなかった。その後、4.5キロから6キロにわたりバランとトロッコにあくせくした。14日前に、メダン (Socony、ベラワンの道路、飛行場) が大爆撃。婦人たちは、長い時間マットレスの下にいた。

メンデス

1945年6月28日

ふたりの新入りの男たちから得たニュースによると、ブラスタギーの女性たちもアーク・パ  
ミーンケへ行き、これに関する彼らの話で、そこの施設はどこもかしこもあまり明るい感  
じでないことが分かった。

ゴッキンガ

1945年6月28日

我々はここでホン [バラック] に加え、病棟と流し場を自分たちで建てるつもりだ。ヤップ  
はどうせ資材を支給するだろうし、自分たちの時間でやるから建築作業には干渉しないし、  
殴られることもないのだ。既に志願者が20人いる。

クラウト

1945年6月28日

20人の男たちが新しい病棟の建設に携わっている。ヤップが口出しするやいなや、彼らは中  
断する。ふたつ（建て増し）のホンをヤップは不適とした。ヤップは霊安室の建設を許可し  
た。…中略… 二個所の便所が何ヶ月も使用できない（若い連中は使ってたが）状態にあっ  
たあと、新しい便所（簡易便所）が今、やっと掘られることになった。そこらじゅうで小便  
がされる。ひどい悪臭だ。

クラウト

1945年7月21日

数人のクーリーが、新しいホン [バラック] の建設資材がないために、病棟の新築工事を手  
伝っている。

クラウド

1945年8月5日

24人の使用を可能とする新路面電車（便所）がオープンした。とてもすばらしい。何と云うか、落ち着いた雰囲気の中でクソをするだ、これは。

ボス

1945年8月7日

改組大作業。ヤップの命令で、我々はベッドを持って下へ行かされた。さては、8人用の檻（「犬小屋」）が建てられたのである。しかるに、カブース（船内調理室）型リビングは保持される。

ゴッキンガ

1945年8月8日

焼けつくように暑い日、かんかん照りだ。私の寝床の上の壁に穴を開けた。見張りともっと光を入れるための我らの舷窓。危険なときは、小さな竹ですばやく覆う。

メンデス

1945年8月14日

再び、雨季に入り、まとった衣類は腐っていくし、寝具も湿気でだめになる。

ゴッキンガ

1945年8月15日

カリがバンジレン [氾濫] し、川水は三段目の高さにある。兩岸の渡し船が流されてしまい、渡し船のロープの上に一本の木が倒れた。木材を採りにカリをもう渡れなくなってしまった。  
…中略…

大雨が降った夜のあとには、収容所はまた排泄物でいっぱいになる。こんないやな天気だと、そう簡単には便所に行かれないのだ。老いも若きも、これはどうしようもないのだ。

クラウト

1945年8月17日

物干し用ロープは、今度、ホン [バラック] の縦方向に張らねばならない。ヤップはいつも何か新しいことを抱いている。私はもう、自分のひもをしまい込んでしまった。

ゴッキング

1945年8月19日

君たちのところも南京虫いるかね？ 我々は砂糖で蟻を誘き出したのが功を奏し、やっと、それとはおさらばしたのだ。

クラウト

1945年8月19日

同様に、私がいつもトウモロコシを挽いてる私のテントもヤップ衛生兵の命令で取り壊さなければならぬ。ロープはホン [バラック] の縦方向に張らねばならない。

ゴッキング

1945年8月22日

クーリーによる病棟の建設がストップした。なぜか？ これからは、我々が自分たちで続けよう。

## 収容所組織 — 欧州人並びに日本人収容所幹部

ボス

1944年10月7日

ここの監視には、ヤップ以外に特別訓練を受けた（インドネシア人）警察部隊がいる。ヤップよりもっとジャハット [邪悪] だ。彼らは怒鳴っては殴打する。

ゴッキング

1944年10月11日

ホン [バラック] は、A、B、C、Dの組に分かれている。我々は3 B組にいる。食事は組毎、番号順に配給される。我々の番号は52/53だ。

クラウト

1944年10月15日

ベラワン・エステート出の収容所リーダーが、ホン [バラック] の班長になった。監督は、ファン・ブルメンダールとホーヘンボームとの二人のセンコル収容所リーダーが行う。

ゴッキング

1944年10月17日

禁止条項：ニワトリをホン [バラック] 内へ入れること、又はこれによるトラブルをもたらすこと。 - 夕暮れ以降に火を焚くこと。 - 水を沸かす以外に、煮炊きすること。 - カリにいるオランダ人水泳選手である二人の監視員の指導に従わない場合は、14日間の入浴禁止。浴場は2時から3時まで閉場。

ゴッキング

1944年10月18日

パラン [斧] 等は、夕方、ヤップに引き渡し、朝、改めて分配しなければならない。赤痢の予防を心掛ける方法が知らされた。ニワトリ小屋はバラックの間に置かなければならない。

ゴッキング

1944年10月27日

水泳小屋の外で煮炊きすることと夕刻前にディナーの音楽を奏でることは禁止。…中略…  
ホーヘンボームとファン・ブルメンダール両収容所監督は努力を惜しまない。私は彼らを大変尊敬している。いやな仕事だ。

ゴッキング

1944年10月28日

我々全員は、公の3万ギルダー（収容所内現金）の出費を収容所監督に委任するため、リストに再び署名しなければならないが、これで2度目で、1500個のココヤシ以外は何ももらったことがない。例えば、10歳が3、20歳が5、35歳が6など、名前や他に何も記入しない紙切れだけの新しいリストがヤップのために作成された。

ゴッキング

1944年10月30日

公式発表（ぞっとするオランダ語で行われた）：便所は馬乗りになって使用すること。我々の3万ギルダーから注文した食糧はまだ何も到着せず。図書館は11月1日より開館。ホン [バラック] 1号棟から5号棟まで対象に、月曜日、水曜日、金曜日の10時半～12時半、4時～5時。その他のホンは、これ以外の曜日。本1冊、貸出期間は1週間。  
病院長はファン・デン・ベルフ医師。回診はヤーコブス医師とファバレー医師。診療所は1時～5時までがボレン医師、5時～9時までがリーゼンベルク医師。病棟での夜警6名募集。

ドライバース

1944年10月31日

今後は毎朝、点呼が行われるようである。私は必要以上のことには加わらないことにする。というのは、毎度のことで、きりがいいから。

クラウト

1944年10月31日

本日、又も点呼。いやな雨模様。おなじみの泥沼。点呼が毎朝行われる予定だ。我々が十分敬意を表すならば、もっと食べ物がもらえるだろう。どうせ単純な人種なんだ。台湾上陸が彼らをひどくどぎまみさせているようだ。この情勢があとどのくらい続くのだろうか？もっとひどくなるはずはないと思うが。ひとりの中国人（中国人クーリー）に1.60mのスペースが与えられているが、ここと違って、彼の上には誰も寝ないのだ。日本人所長は今日、我々側の收容監督に訓示した。彼は人間であり、我々も同じく人間。我々はお互いにスサー〔厄介事〕を避け、敬意を表さねばならない。そうすれば彼は食糧の面倒をみるだろう。

ゴッキング

1944年10月31日

朝、不意打ちの点呼。そのまま寢床にいた。ヤップは收容所監督と班長らに訓示し、その中で、我々は十分にオルマット〔敬意〕を表すこと、スサー〔厄介事〕を起こさず、（我々がスサーを起こすなら、彼らもう十分起こしてきたではないか。我々は同じ人間だし、我々には血が通っているし、ヤッペンもだ。我々がもらう食事は事実、少なすぎる、等々）、彼らをスナン〔満足〕させるなら全てが好転するよう我々の注文に応じ、手配するであろうこと。その後、彼らはお辞儀のレッスンを受けたのだ。

ヤップによると、野菜と魚は既に到着しており、11月1日からは全て良くなるようだ。今後は、毎朝8時起床、蚊帳をしまい、8時20分に点呼を機敏に行わねばならぬ。…中略…時刻表：午前8時起床、8時10分点呼準備、蚊帳をしまい、10時雑役のため集合、午後1時30分休憩開始、午後3時休憩終了、午後10時30分消灯。雑役の適正を健診。スナイダース歯科医10時30分から1時30分まで、ノーステン医師12時から1時まで。ホン〔バラック〕周辺の溝の上に流し台を置いてはだめ。感染を防ぐため病棟へ本の貸出なし、そのため見舞い時間も7時から7時30分までに短縮。水をはったバケツは依然としてホンに置いてならない。我々は従順で礼儀正しくなければならぬとヤップが言っている。



ゴッキング

1944年11月4日

ホン [バラック] での点呼は、もうヤップでなく、我らの収容所監督により行われる。…中略… 通告。歩き回る家禽は全羽、法の保護を奪われたものとする。犬はつながなければならない。…中略… スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] には全員新しい衣服等が。収容所の隅々に小さな監視所あり。

ゴッキング

1944年11月5日

スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] は新しい者と交代し、話しでは、日本人所長も去り、ベラワン・エステートの所長に代わると言うことだ。チョト [丘] の上の監視所が今、初めて使われている。

メンデス

1944年11月9日

収容所裁判所が再開し、これまで煙草、シャツ、それこそマットレスまで、いろいろな盗難事件を処理し、裁定してきた。

クラウト

1944年11月13日

収容所内通知：私有の手斧やパラシ [斧] は収容所監督に引き渡すこと。さもなくば、家宅捜査を強行するとヤップが脅かしたからだ。

ボス

1944年11月14日

現在の監視人：ヤップ20人とスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] 30人！ ヤップはお辞儀をしないと殴る。そして、これはかなり頻繁に起こったのだ。

クラウト

1944年11月14日

最近、ヤップお偉方の視察が多い。彼らの到着前に漁師が追い払われた。

ゴッキンガ

1944年11月18日

通告：ホン [バラック] 付近での小便禁止。違反した場合には雑役刑（結果：みんなホン付近に立つ）。手斧、包丁等を夕方、引き渡すこと、さもなくば、班長が叩かれる。

ボス

1944年11月27日

野戦ベッドや簡易ベッドを引き渡すこと。手持ち衣類のリストがヤップ用に作成される。

クラウト

1944年11月28日

記入すべきもの：傷んでないシャツ、パンツ、ズボン、靴、シーツ、毛布、蚊帳。… 中略  
… 記入：パケアンス [衣類] 2枚、蚊帳1つ、毛布、靴一足、シーツ、帽子。そこでヤップはまたまた気分を悪くした。

ゴッキンガ

1944年11月29日

スカートゥと私は、我々のホンの防火警備班にいる。たまらないほどおかしい。

ゴッキング

1944年12月5日

収容所運営部は、ヤップが支給してくれないクギ、亜鉛、鉄板、ペンキ、包帯（2週間でなくなる）、布切れを提供するよう要求。紛失：短い柄付きスコップ。要返却。

クラウト

1944年12月9日

ヤップは夜中に一度、防火訓練をすることを望んでいる。それでバケツに水を入れておかねばならない。ホン [バラック] での喫煙は禁じられている。

ゴッキング

1944年12月9日

ヤップ所長は、バケツに水をなどの防火措置を立て続けに強制する。ホン [バラック] での喫煙は禁止。

ボス

1944年12月17日

幸いにも、新しい所長となる。これで改善となるに違いない。

ゴッキング

1944年12月20日

本当に新所長が、そして前のイノウエは去った。…中略… 我々は日本人所長にもっとオルマット [敬意] を表さねばならない。ホンのよろい戸に何も書いてはならない。

ボス

1944年12月20日

ホン [バラック] 8号棟は、(ブラスタギー学校の) マースマンの指導のもと少年棟となる。220名の少年に16名の世話人。とても賢明なる処置。

ボス

1945年1月7日

28名の(ブアジャ) [ならず者] の警官が去り、話しの相手となれる若いスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] に代わった。

ゴッキングガ

1945年1月7日

スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] の部隊が前任者と交代するため到着。カリへはますます遅れて開かれるが、スカリラの機嫌によるのだ。…中略… 日曜日。またいつもの動物園見物。我々は、軍刀ある無しのたくさんの訪問を少なからずも歓迎させて頂くのだ。あと何回の日曜日を我々は見物に当てられるのだろうか？…中略… スカリラは1オンス、つまり100グラムの食事をもらう。彼らはほとんど靴もなく、足は傷だらけだ。

ゴッキングガ

1945年1月12日

ヤップ監視は人員16にて強化された。

ゴッキングガ

1945年1月16日

お偉方の視察、本所長かな？…中略… これに関連して、午前8時10分点呼。(これは太陽時の午前5時30分だ) が、我々はこれを15分延ばすようにする。だが機敏に整列し、点呼が円

滑に進行したときのみだ。というのは、同じ時間にヤップのもとへ報告しなければならないからだ。

ゴッキンガ

1945年1月17日

点呼は今は、15分遅くなった。

ゴッキンガ

1945年1月29日

医師、収容所幹部とヤップの医師とのミーティングでキニーネ問題と同時に、食糧事情が議題となった。正式には、我々は少なくとも米200グラムとトウモロコシ100グラムをもらえることになっている。栄養不良による多大な死亡数が指摘され、総合で少なくとも500グラム必要と強調した。東京が300グラムと決定していた。将校は我々のこの要請を伝えるようだ。本当に？

食糧不足の件でヤップは、我々がウビ[キャッサバ]畑を広げるべきだと言ったが、収容所監督は、その作業に満足に従事するには病人や衰弱した者が多すぎるため、これは解決策とならないと言った。

クラウト

1945年1月29日

収容所監督は、今日の午後、キニーネ並びに食糧事情に関する話し合いを3人の医師、日本人所長とともにいった。死亡数が示された。抵抗力の不足した病人がたくさんいる。これからは名目上、200グラムの米と100グラムのトウモロコシ(正式には171グラムと90グラム)。これは完全に不足しているため、何ともものを成すために500グラムまでに増加すべきとした。ヤップが上層部にこれを伝達するよう要請された。

ヤップは、ウビ[キャッサバ]畑を指摘した。我々のリーダーは、大方の者が就労可能な状態にないと指摘した。そのうえ更に2月になる前には、「バランカリ」[多分]トウモロコシの代りに - さらに質の悪いもの - サゴを支給するとの通告あり。近日中に嘆願書が海を渡る。今晚、ペネス医師が再びヤップの元へ。後者は、トウモロコシの半分の量をサゴ(ことによると、ウビ粉)に代える予定と言った。

ゴッキング

1945年2月2日

収容所中に「お客」と一斉に響き渡る。これは視察を意味する。

クラウト

1945年2月3日

ペネス医師により、栄養不足、悪い住環境、病人の多いこと、医薬品がないこと（特に、キニーネ）、多大な死亡数に関する報告書が作成され、これをもってヤッペンの昔ながらの公正さを請うことになった。食事は一日につき280グラムに代わって500グラム、タンパク質の増強等を要求する。どんな効き目を及ぼすか興味あり。

ゴッキング

1945年2月4日

日本人医師が死亡者リストのためにここへ来た。彼は、和平の際にそれが必要であると言ったが？

クラウト

1945年2月5日

スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] は不満だ。彼らは、米を一日につき650グラムと約束されているにもかかわらず、450グラムのみもらっている。さらに、彼らの家族は約束どおりに擁護されていない。

ボス

1945年2月9日

ヤップのプリンタ [命令] : スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] に対してもお辞儀すること。つまりは、新たなる屈辱。

ゴッキング

1945年2月9日

ヤップの命令：スカリラに対し、水泳小屋や湯沸かし小屋にあっても習慣に従った方法で挨拶しなければならない。それゆえに誤解、トラブル、打ち合いが生じることを予想できる。

メンデス

1945年2月10日

昨日、スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] に対しても、日本式にお辞儀せよとの屈辱的な命令が出たのだ！

ゴッキング

1945年2月10日

私のドクター番号は20で我々の図書館番号は349。それを忘れると大変だ。

クラウト

1945年2月10日

今朝、屋外で裁判が開かれた。地方裁判所のルフト長官を真ん中に、その左に眼鏡を紐で耳に掛け、破れたシャツを着たハイマンス氏、右にはフェッター氏が。証拠物件からガブレック窃盗 [乾燥キャッサバの盗難] が明らかとなる。

ゴッキング

1945年2月19日

収容所監督は、ヤップに我々がもらう食事が少なすぎると言ったことから、雑役への良好な参加を要求している。食事が少なかったために、人々は衰弱しすぎていたのだ。ヤップは現在、いわゆるウビ [キャッサバ] (既に、なくなったが) をもっと出すようになったが、雑

役<sup>5</sup>の就業もこれまでのところ僅かだった。ヤップは不機嫌となり、収容所監督はいくらか窮地に追い込まれた。

ゴッキンガ

1945年2月21日

拍車付きの長靴を履いて、軍刀を携えたおよそ8名からなるお偉方の視察団。サゴを見せて味見させ、全てがいかにも不潔であるかが指摘された。ヤップが黄色っぽい野菜を見たとき、それがゴミかと尋ねた。我々の食べ物であると知らされて、彼らはひどく面白がった。我々もまた笑える時が早く来ますように。…中略… 収容所監督は、視察の際、サゴに関して尋ねた日本軍の医師に胃腸や内臓障害等で人間の食物としては非常に有害であると指摘した申立て状をドイツ語で書いた。ヤップは、「日本でもサゴを食べる」と言ったのだが、ムー！

クラウト

1945年2月24日

紀元2605年（1945年）1月31日付けの医師報告書よりの内容の一部：一日のカロリーは約1860cal、タンパク質33gだが、これは非就労者は名目上、最低2200cal、就労者は2500calから2800calまででタンパク質は50g必要とする。影響：飢餓浮腫。収容所近辺でのウビ〔キャッサバ〕栽培は次の理由により補充するものとして不適である。

1. ウビは食物として粗悪。タンパク質なし。
2. 労働能力は栄養不良のため低下。10歳の子供が250名、50歳以上が457名。赤痢発生数は一日に約80件。過密状態が原因（便器、水、石鹼、消毒）。抵抗力の低下で回復の希望は少なし。牛乳、卵、肉、医薬品（エメチン、ヤトレン、ダジェナン）が不足。被抑留者の半数がマラリア患者。たくさんのマラリアを媒介する蚊（ハマダラカ）による。大方の者がまともな衣服や蚊帳を持っていない。キニーネは急患、すなわち一日約30件に対応するには不十分。ここ数日はキニーネがまったくなく、危うい状況に。要請：その一、現在一日に付き280gである米、トウモロコシ、豆の配給を500gに増加すること。その二、現在一日に付き32gである魚の配給を75gに増加すること。その三、医薬品；一日に付き1錠0.3gの錠剤を最低90錠。死亡率は4%で、通常の4倍。おわりに：”The Japanese have, from oldest times,

---

<sup>5</sup>これに関する詳細は、「食糧及び物資事情」1945年2月17日と18日の抜粋参照。



the reputation of being fair and generous enemies, we hope the present generation will uphold this tradition.”

「日本人は古来から敵に対し公正かつ寛大であると知られているが、今日の世代にあってもこの伝統が保持されていることを願う」

ゴッキンガ

1945年2月28日

日本当局へは、我々が一日に摂取する一人当たり1680cal、タンパク質35gは少なすぎると報告された。軽作業には2200cal、重労働には2500cal、加えて50gのタンパク質を必要とする。抵抗力は減退し、めまいを感じる者が作業を満足に行えない。危険な状態になる。ウビ〔キヤッサバ〕は質の悪い代用品である。我々は一日に一人当たり少なくとも75gの魚を強く要望。抑留者の半数、つまり約800人がマラリア、その他の多くに疾患。非常に不安定な状況だ。貧困のクーリーさえ一日に150gの米に加え、魚、卵等々をもらう。だが、我々の暮らしはもっとひどい。800人ものマラリア患者がいて、その数もさらに増加しているにもかかわらず、薬品のキニーネがまるでない。極限にある現状を踏まえた改善が要求される。古来から日本人は、常に高潔なる人間であったが、現在の世代の人々もそのごとくにあることを願う。

ゴッキンガ

1945年3月8日

サトー収容所長（多分、歩哨隊長？）は荷物を持って去った。彼のあとがまはない。

クラウト

1945年3月15日

ヤップは10歳以下の者、10歳から20歳、20歳から25歳、26歳から30歳の者のいずれが就労に適すかに関する報告書を今また要求している。加えて、病人と疾患状態に関する日誌を作成しなければならない。現在、31の様々な病気がある。同時に、毎日の回復状況も記録しなければならない。毎日30%の人々が病気である。

メンデス

1945年4月5日

着いたばかりのアーク・パミーンケの男子が得た良好な栄養に関連して、収容所幹部はヤップ所長と長時間の話し合いを行った。彼らも医師も今後の責任を負うことができなかったためだ。その際ヤップは、来月からサゴの代りにトウモロコシに、加えて、月に2回9トンのウビ・カユ [キャッサバ] を支給することを約束した。この約束に伴い、我々は再び行動に移らねばならない。

ゴッキンガ

1945年4月5日

収容所監督は、栄養不足、高い死亡率、赤痢、衰弱者等と薬品の欠如により衛生状態は悪化し、医師がこれ以上責任を負えない旨をヤップに指摘した。アーク・パミーンケからの人々を例にとり、少しだけ栄養が優っていることがどのように影響するかを指摘した。ヤップは全ての収容所に向けて当局が一定の給食を決めたと主張したけれども、今月の10日と20日には9000キロのウビ [キャッサバ] の支給を約束した。そういう訳で、我々は更にもっとたくさんの炭水化物を摂ることになるが、タンパク質が必要なのだ。又、4月1日からはサゴでなくトウモロコシをもらうことになる。うまくいくように願う。

クラウト

1945年4月8日

衣服販売にヤップの僅かながらの協力が問われた。でも、彼は未だに参加しない。彼は他の奴等と違って賄賂を贈らないのだ。

メンデス

1945年4月11日

高い死亡率とこれに関係した食糧並びに衛生状態、つまり薬品の欠如、高い患者数、人的障害の件でヤップに対し、詳細を記した嘆願書が収容所監督により提出された。抑留者合計1860名中、現在の患者数は500名、50～80歳の男子は400名、16歳以下の少年は約500名だ。

正式な給食は米200g、サゴ50g、トウモロコシ50g、魚30gだが、常時、10%下回る。当時、我が国が収監したドイツ人とはまるっきり正反対だ。

クラウト

1945年4月11日

その嘆願書は、ホン [バラック] 班長全員同席のもと、収容所監督によりヤップに手渡された。主に以下の事柄に関する。1.高い死亡数。2.過密化による影響。3.薬品の欠如。4.病棟の悲惨状況。5.栄養不足。1945年1月31日付けの嘆願書の参照を促す。比較に、我が国が収監したドイツ人に対する給食が示された。極端な差。この収容所には、50歳以上の男子が400名、16歳以下が600名いる。どうなることやら興味深々。

ゴッキング

1945年4月11日

我々が食べている物と我が国が収監したドイツ人が食べていた物の報告をもとにした抗議文をヤップに提出。…中略… この抗議文をヤップに手渡す際には、収容所監督、ホン [バラック] 班長、又、全体の説明を行った我々の医師が同席した。死亡数は、これまで10月に2名、11月に1名、12月に9名、1月に7名、2月に5名、3月に15名、4月の第1週には4名であった。合計43名である。

栄養不良、…中略… ひとり一日につき250グラムのみ、ホン内の人員過剰、約220名もいるための過密化した状況は耐え難いと我々は判断した。現在500名が病気を患っており、病棟には医薬品がまるでなく、バケツ、器、包帯等もない恐るべき状況にある。食べ物を入れるバケツが、赤痢患者の衣類の洗濯にも使われている。雑役の今後の実施は不可能である。病後の人はもはや就労できない。加えて、ほとんど雑役に従事できない老人は400名、16歳以下の少年は400名いる。サゴをトウモロコシに代えた完全給食、一ヶ月に2回の9000kgのウビ [キャッサバ] を要求。現在少なすぎるタンパク質の増加。…中略… 我々は、鮮魚か塩魚、カチャン [インゲン] と他の豆類、医薬品、バケツ200個、その他の物資を要求する。男女子供7000人の一般市民を結局のところ死に到らしめることがヤップ政府の意図するものであるまい。

衛生状態も最悪であるため、総括して完全なる緊急事態にある。収容所監督は、異常かつ不測な事態に今後、全責任を負うことを拒否した。みんな、医師も同じく絶望している。為すすべなく、ネズミ同様に我々を死に追いやるのが目的なのか。

クラウト

1945年4月13日

今朝、伐採班が出るはずであった。しかし、雨で濡れ過ぎているので、ヤップは彼らを引き戻した。収容所監督はその時、「明日、500人死んだら、あなたの罪である」とヤップにどなって言ったのだ。そのあと監督は怒って去り、「クパラ、クパラ」[責任者]と大声でヤップが言うのにも耳をかさなかった。昨日朗読された嘆願書の補足に医師たちの嘆願書が読み上げられた。(1945年)3月の死亡率15%。予定されるアーク・パミーンケへの女性の移動に抗議。

クラウト

1945年4月18日

日本人お偉方の視察に関連して、その連中(伐採班)は12時半になって初めて外に出ることを許された。薪の補給はこのため停滞するのだ。お偉方ヤッペンが入場して来たとき、私はちょうど仕上げたネズミ捕りをあらゆる角度から観察していた。

(収容所リーダー) ホーヘンボームとファン・ブルメンダールは、「皆様、ご注目を」と言うことになって、そのためかえってヤッペンの注意を更に引いたのである。これはまさに私のねらいと同じだった。その殿方はネズミ捕りを見るために私のテーブルの脇に立ち止まると、それは何かと尋ねた。私は、「タンカップ・ティクス、クラン・ダーギン、ムスティ・アーカン」[肉不足だし、食わなきゃならないので、我々はネズミを捕まえるのである]と述べた。ホーヘンボームは、「続けてまじめくさった顔をしておれ」とも言った。私は上手に演技した。殿方は実に真剣な面持ちで見詰め合っていた。この実演は満点で合格した。

ゴッキンガ

1945年4月18日

ネズミの皮を剥いている見て、理由を尋ねたお偉方視察団。答え:「これを我々は食べます。というのは、もらう食べ物が少なすぎるから！」

クラウト

1945年4月23日

日本軍将校は、昨日、1時間にわたり（収容所リーダー）ホーヘンボームのベッドに腰を下ろしていた。彼の話によると、死亡数に関する報告は既に4回も行われたそう。更に彼は2日おきに塩魚が食べられるよう努力するようだ。…中略…

日本軍将校は、昨晚9時半から11時半まで収容所運営部にいた。アーク・パミンケにある中央病院について知らされた。4月25日には、参謀将校と軍医がここを訪れる。彼らとは引越の可能性、食糧等が語られる予定だ。

ゴッキンガ

1945年4月23日

収容所運営部は、悪状況と高い死亡率について再度、苦情を申し立てた。そういう訳で、4月25日には参謀将校と軍医が事態を話し合うためにここに来る。みんな喜び、改善を願っている。私は別だ。こんなことはしょっちゅうあったし、その後も何も起こらなかったからだ。大日本帝国政府が何か影響を及ぼすことができる場合には、更に悪化するだけだ。また、同じ日に、アーク・パミンケへの移動とそれに該当する者について決定される。我々も再び必要な引越を待つのかな？ しかしまあ、汚染地から我々が来たとしたならば。…中略… 必要なときに備えて、女性たちが収容されている場所のリストの作成。

ゴッキンガ

1945年4月25日

我々は3日後に、カード方式の正確さを調べるヤップのコントロールを受ける。…中略… お偉方の視察は収容所を素早く駆け抜け、10分以上もかからなかった。彼らは何にも、それこそホン [バラック] の中すら見なかった。正門から収容所の反対側にある炊事場に直進し、後退したのだった。収容所監督が「マウ・ビチャラ」 [言いたいことがある] と述べたとき、彼らは「ティダ」 [だめ] と言った。これは、我々が提出した申し立ての苦情を話し合う要求であった。どこに改善を期待することができよう！ いつも希望を抱く人が未だいるものだ。

メンデス

1945年4月25日

参謀将校が来たが、彼と話す機会を得る見込みはまったくなかった。視察のときはいつも確かにこうなのだ。心配事を引き起こしてはならぬ。収容所監督が対話を願ったときには、単に「うるさがれた」のだ。

ゴッキンガ

1945年4月26日

昨日のヤッペンの視察は何の成果なし。明日、日本軍の医者が来る。所長は我々の申し立てを嘆願書にして提出する予定だ。精神の単純な者とそれを信じる者は何とすばらしい。…中略… ヤッペン用のカードの間違いを細かく調べ、補充せねばならない。緑色のカードだ。スカートゥと私、全員が。記入したこと：抑留年月日、氏名、国籍、役職又は職業、父親の氏名、母親の氏名、妻又は夫の氏名、生年月日、出身地、抑留前の住所、連絡先、特技、備考、その他。

クラウト

1945年4月26日

日本軍将校は今日、不機嫌だった。ウビ [キャッサバ] が着いたかの問いに彼は返事をしなかった。

ゴッキンガ

1945年4月27日

本日、日本人の医師と助手が収容所に。大勢の人々、病人が出席しなければならなかった。彼が行ったことは、人々をかがませ、検便のため尻にガラス管を挿入しただけのことだった。…中略… カウエナール医師、パネット医師、ファン・デン・ベルフ医師はアーク・パミーンケへ行く。ということは、事実上、女性たちがそこに収容されていることを認識できる。あと2人の医師がアーク・パミーンケへ、そして2人がパダン・ハラバンへ行く。…中略… ヤップの医師は非常に悪いはずである我々の現況を改善するために努力するだろうが、かえって何の効果もないだろう。本日、カードを提出した。

クラウト

1945年4月27日

日本人の医師が何人かの助手を伴い訪れた。任意の250人が彼のもとに出席するよう呼び出された。赤痢患者に加え、満腹の連中も含まれていた。彼らの肛門から便がサンプルとして取り出された。この日本人の医師は収容所監督と共に収容所内を回った。彼はドイツ語で書かれた我々の嘆願書を携えていた。彼と一緒にいた3人の医師と収容所監督は、栄養の改善と食糧の増加を懇願した。彼は全てを報告するそうだ。そして、ここの医師5人がアーク・パミーンケへ、2人がパダン・ハラバンへ行かされる。更に、妻と子供の滞在場所の報告をできるだけ早い時期に提出しなければならない。何事がまた決定されるのだろうか？ 家族収容か？

メンデス

1945年4月27日

約束されたにもかかわらず、4月20日のウビ [キャッサバ] は依然到着してない。…中略…  
本日、確かに流行している病気の調査に来た日本人医師は、5人の医師がアーク・パミーンケへ、2人の医師がパダン・ハラバンへ出向かねばならないことを通達した。<sup>6</sup>

ゴッキンガ

1945年5月5日

ヤップは我々のリーダーに「彼は考えを変えた」と伝えた。何を意味しているのか誰にも分からない。…中略…  
ここで作成されたヤップのリストやカードによると、スマトラの収容所にその配偶者が収容されている人数は次の通りだ。この収容所にいる男子513人の妻と子供合わせて家族327人がプラウ・ブライヤンに収容されており、331人はその妻と子供合わせて家族208人がグルゴールに、62人は家族46人がタンジュンバライに、151人は家族123人がベラワン・エステートに、373人は家族273人がブラスタギーにいる。合計で1400人、その家族が1022人、13人がその他いろいろで、残りの男子403人は独身者、男やもめ等である。

---

<sup>6</sup>約束のキャッサバは 1945 年 5 月初旬に収容所に入荷した。「食糧及び物資事情」の 1945 年 5 月 2 日、1 日の抜粋参照。

ボス

1945年5月7日

日本人軍医の助手を伴った視察のあと、彼らは大便を検査に出し、赤痢菌が発見されなかった（原文のまま）と我々に今、報告してきた。我々の医師のミス！ そうなると、赤痢による死亡数は全部うそ。粘液と血が混じった重症患者ひとりの便器にある便を、あきれたことには4つに分け、それぞれ4つの異なる名前を書いたラベルを付けた。

ゴッキング

1945年5月7日

ここで決定される訴訟では、再犯、企業閉鎖、その他判決に関連したことが戦後のために記述される。

メンデス

1945年5月10日

先週、ヤップの医師が細菌性赤痢患者約200人分のプレパラートを持って行った。数日前に、彼の問い合わせが入った。「欧州人医師は何をもとにして診断するのか。なぜなら、赤痢菌は皆目認めることができなかつたのである」（原文通り！）。

クラウト

1945年5月10日

収容所監督は昨日、家族のリストを急いで提出しなければならなかつた。油とウビ [キャッサバ] の配送が問われている。日本人の病院助手の話しでは、我々は5月16日に引越ようだ。2、3日前、我々が11歳以上の娘を何人持っているか質問された。



クラウト

1945年5月30日

朝の点呼は全くばかげている。大部分の人は、元気なのに寢床にいたり、路面電車（便所）や湯沸かし小屋へ行ったりする。

ゴッキング

1945年5月30日

この医師はアーク・パミンケへは行かず、多分、聖ヨーゼフスクールからアーク・パミンケへ向かうようだ。

ゴッキング

1945年6月5日

スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] をいじめることは許されない。

クラウト

1945年6月11日

昨夜、日本軍将校が来て、まだ何か願いがあるかと尋ねた。もちろん、どっさりある。ホン内外を掃除しなければならない。今朝、同じく、日本軍将校のタナカが来て、まだ何か願いがあるかと尋ねた。また始まった。彼は石鹼の支給を約束した。<sup>7</sup>

クラウト

1945年6月13日

収容所監督は、朝の点呼を先週月曜日（6月11日）から独自に撤廃した。

---

<sup>7</sup> 1945年6月21日に事実、被抑留者に液状石鹼が届けられた。「食糧及び物資事情」1945年6月21日付けの抜粋参照。

ゴッキング

1945年6月15日

収容所の家具職人は、今日19日にトロッコで収容所に来る当局の高官のために椅子を作らなければならない。

クラウト

1945年6月15日

お偉方の視察があるらしい。ホン [バラック] 班長は、ヤップのもとに呼び出され、ホン周辺の掃除を約束させられた。ホン [バラック] 4号棟のデ・フリースは何台かのトロッコの中に台座を作らねばならない。その上にこの殿方が腰掛けるはずである。

クラウト

1945年6月16日

今朝はホンの周りの草取りに収容所住人があちこちで忙しくしていた。…中略… 午後は特別雑役：司令官用に川の対岸に階段を作る。

ゴッキング

1945年6月17日

ヤップは今日の18日と19日のお偉方の視察に関連して、収容所に四六時中いた。トロッコはその御車として美しく飾られた。

クラウト

1945年6月17日

私は既に今朝8時には朝日の中に木を切り刻んでいた。道を隅々まで掃除しなければならなかった。

ボス

1945年6月18日

本日、収容所は騒々しい暴力民間ヤップと何人かの兵士による手入れがあり。仕事についてない者はみんな捕まり、どなられ...殴打されたのだ。本物の西部劇上映。大勢がひどく叩かれた。湯沸かし小屋と便所でも洗いざらしにされた。ホン [バラック] の周りでヤップと一緒に鬼ごっこされた。今度のお偉方の視察前に取り壊しが必要な野菜班作業小屋へ人々を送り込むのが目的だった。

ゴッキンガ

1945年6月18日

収容所じゅうが混乱に陥る。ヤップ全員が歩き回り、罵倒を發しては殴打し、ホン [バラック] を空っぽに追い立て、湯沸かし小屋にまでも追い払ったりして。わめき散らし、ことのほかの混乱。あちこちへ逃げ回る大人や子供の姿がそこらじゅうで目立つ。囲いは杭を外に投げるのに使うため押し倒された。大騒ぎだ。明日はどんな予定かな？ スカートゥは午前7時半から午後2時まで炊事場で雑役。

ファン・ラーイは我々の粥半分と引き換えにパンケーキを焼いたが、止めさせられ、ヤップに打ち払われてしまった。…中略… 午前8時に点呼の予行練習。明日の正午以降は湯沸かし小屋で炊いてはならないし、洗濯物を取り込み枕元へ隠すこと。炊事場のそばの新しいバラックもホンの周りにある全部の溝も出来上がり、どこも片付けられ、掃除される。栈橋は修理され、カリーに階段と手摺りが作られた。

クラウト

1945年6月18日

ヤップは今朝、うんざりするほど嫌らしかった。全員が湯沸かし小屋から追い立てられた。何も持って出てはならなかった。ヤップも通訳も棒を振り回しながら歩き、時々、殴りかかった。今日の午後、私は低木を切るために伐採場にいた時、突然、前にヤップが立ち止まり、私の腹を銃の台じりで突き、私が持っていた籠を投げ飛ばし、どなったりちらしたのだ。なぜ奴等が今日、こんなことをしたのか理解しがたい。司令官の訪問に際する手引きなのかも？ 今晚8時に点呼の予行練習。明日の正午以降には湯沸かし小屋へ行ってはならぬ。蚊帳と衣類は見えるところに掛けてはいけけないので背後に吊るさねばならない。お偉方は14時30分～

17時30分の間に来る。将校がいわゆる点呼の予行練習を執り行った。彼は自分の呼集兵を連れてこなかった。全てが非常に平静に進行した。

クラウド

1945年6月19日

各自が物干し竿にある洗濯物を取り込むのに大わらわ。その殿方はホン [バラック] がきちんと整頓されていることを望んでいる。蚊帳は背後に吊るさねばならない。収容所内は午前中、平静な状態を呈していた。掲示板をしまわなければならなかった。物干し用ロープに何も吊るしておいてはならなかった。野菜洗いをする小屋は昨日、急遽建設工事を完了させる必要があった。…中略…

初めに、我々は14時30分に整列しなければならなかった。これが16時30分、17時30分、つまり3回も整列させられたのである。猛暑だったのでその間、我々は何度もホンへ戻った。幸いにも、下っ端のヤップの追い討ちに合わなかった。18時にひとりのヤップが大声をあげた。これが司令官の入場を意味した。彼は事実、トロッコの椅子に座っており、数人のスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] とヤッペンに迎えられた。彼は10人の従者を引き連れていたが、そのうちのひとりには小型の機関銃を持っていた。全員きちんとした身なりをしていた。彼がそばを通った時には、我々はお辞儀しなければならなかった。炊事場へは行かなかった。

ホン4号棟と8号棟の連中に対して彼は、腹が空いているかを尋ねたら全員が手をあげた。彼は戻ると、ホン [バラック] 班長を集め、日本語のスピーチを我々の収容所監督によるマレー語への通訳を介して行った。そのあとホンの班長は要望を申し出ることが許された。そのひとは卵、魚、菓を願い、他が文通を、そしてまたひとりが豆や煙草を。収容所監督はその間にたくさんの嘆願書を手渡した。まあ、成り行きを待つのみだ。やがて彼はまたトロッコの座席について去った。

私は収容所で昨日の午後ほどの静寂をめったに味わったことがない。湯沸かし小屋にも、川にも誰もいないし、薪割りなどなかった。全員が予告されたお偉方の視察を待っていた。それは中将だったに違いない。アーク・パミンケでは実際に司令官が訪れたが、彼はここまで旅するのは多分おっくうであったようだ。

- a. 彼は抑留者が全般的に元気な様子をしているとの印象を受けた。しかしながら、全ての収容所の中で一番ひどいことを認め、改善に努めるそうだ。
- b. アメリカでは、日本人捕虜の扱いが悪かった。
- c. 外部作業は身体に良いこと。それを行えば、青野菜とウビ [キャッサバ] をもらえることになるようだ。

d. 若い者は年寄りと子供の面倒を特別に良くみること。

この話しのあと、要請することが許された。1.より以上の魚、肉、バナナ等。2.カチャン [豆] 類。3.青野菜。4.薬品、キニーネ、ダジェナン。5.文通。6.食べ物の要求が受け入れられた場合には、月に100～150gの煙草。7.医療品と炊事道具。8.サゴは必要なし。9.クラン [甲殻類] は必要なし。病気や死亡などに関する資料も付けて、予め、全て書面にして収容所長に手渡されていた。

ボス

1945年6月19日

随員（14人）を連れて日本軍中将の視察。将官が4人のスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] の押すトロッコ（原文のまま）に乗って収容所に入場する間、我々は全員ホン毎に整列して立っていた。我々は2度お辞儀しなければならなかった。子供たちに彼は食事を十分もらっているか尋ねた。

集合させられた幹部に対しては要望の否かを尋ねた。しかし、長いリストを手渡したあとも何の約束がされなかった。彼はあきれたことには、我々が元気そうだと断言したのだ。（そうだ、上着を羽織ってたんだ！）アメリカの収容所に抑留されているヤップはもっと悪い待遇を受けている。だが、彼が見てきた全部の収容所でここが最低とのこと。

ゴッキンガ

1945年6月19日

10人の追従者を含むヤップ司令官の視察。正門までトロッコでやって来た。我々全員はお辞儀せねばならなかった。彼は収容所を駆け抜け、再び去った。収容所監督は食糧の増量を要求した。約束は何もされなかった。彼は我々が健康そうであること、たくさん仕事するのは良いこと、もっと野菜が欲しければ、我々がもっと大量に植え付けねばならぬと言っただけだった。更に、彼は少年たちにもっと食事と肉が欲しい者は手をあげるよう問うた。ならず者。彼は病棟へは行かず、ふたつのホン [バラック] へは行った。つまり、彼は悲惨な状態を避けているわけだ。病棟を死ぬほど恐れているのである。

メンデス

1945年6月21日

一昨日、中將が視察に来て、食糧、薬品、そして親族との文通に関連する様々な要求が申し出された。来るはずだった司令官は、きっとそこには女性たちがいるからか、アーク・パミーンケから先へは「過労」を理由に来なかった。彼の使者としての同中將は、収容所正門までスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が押すトロッコに乗り込んで到着した。視察団一行は欧州人の身辺だけを巡って回ったが、視察はお馴染みのものよりはばかげた言動が少なかったことは確かだ。この視察が我々が思う通りの成果を生むかは未だ疑わしい。

ゴッキンガ

1945年6月23日

そのいまましい将官が言った。「来年、また来たとき、この収容所が現在と同じようにきちんとしていることを願う」！ 実に、楽観的。

ボス

1945年6月28日

食糧、衛生状態、オバットウ [薬品]、多数の死亡者におけるヤップに対する再三の要求に関連して、所長がニューヨークタイムズの記事を読み上げた。「欧州での戦争は5年と8ヶ月続き、今、終わった。900万人の死者、900万人の負傷者、合計1億4500万人の被害者を出した。戦争捕虜1200万人が今後、交換される」。一体、このことと我々の状況と何の関係があるのか？

クラウト

1945年6月28日

監督は3人の死亡をヤップに報告した。ヤップはカチャン・イジョー [小粒のグリーンピース] を1kgにつき0.36ギルダーで手に入れることに取り組んでいた。加えて、軍政部へは食糧配給が要求された。…中略… ヤップが収容所監督に、「ここの状況は悪くもない。それに比べ、欧州では900万人が死亡し、900万人が重傷を負い、1200万人が抑留されたが捕虜の

交換はまだされていない。総数1億4500万人（民間人、兵士、重軽傷者）。フランスでは共産主義が支配している」と言った。

ボス

1945年7月1日

私が密封しておいた「貴重品」の隠し場所を開けた。腕時計と指輪。リーシェ、突然こんなことになってしまったけど、もう我慢できない。2年以上もこれらの物をしまってた。そんな訳で2年以上も経って、今また指輪をはめた。腕時計はもう動かないが、簡単に直るだろう。私はこの隠し場所を壊してしまった。今後、ヤップの家宅捜査が行われるとは考えられない。

ゴッキング

1945年7月7日

収容所監督はヤップに高い死亡数について苦情を言ったら、答えは「タナ・バンニャック」[土が十分ある]。他の言葉では、墓穴を掘る場所が十分あるということだ。

ボス

1945年7月24日

随員15人を伴う日本軍将官の視察。その将官はトロッコに乗っていた。理由、動機は？ 我々はまた上着を着て整列した。

クラウト

1945年7月24日

今日、再び、お偉方の視察があるようだ。ヤッペンはまだ掃除作業にうるさくする。道を広げたり。お偉方の視察があるときには、我々のところも相変わらず同じ様。午後5時半に将官が来た。この男は乗り物を使わずに、収容所を素早く跳んで回った。炊事場と病棟へ行った。彼は何も言わなかったが、帰る時にはとても愛想よく挨拶した。彼には嘆願書が再度手渡された。

ボス

1945年7月25日

スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] の多くは銃の代りに槍を携えている。止めど無い大笑いが生じる。これは「面目を失う」ことではないのか？ 棒に付いたブリキの小片。それはまるで「ソデット」 [ヘラ] のごとし！ ランタウパラパト槍騎兵！

クラウト

1945年7月25日

スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] は鋭く尖った鉄の棒を持っている。バラックのある少年が、そのソデット [ヘラ] をちょっと貸してくれるかと尋ねた。

クラウト

1945年7月26日

収容所での苦境と悲惨な状態に対する嘆願書が再度提出される。

クラウト

1945年7月31日

ここではいろいろな対策が講じられている。しかし、その実行と遵守にはまだ問題が多い。ウビ [キャッサバ] が一両分また到着した。…中略… 我々に最初に当てられた仕事は、20籠のウビを川向こうから今朝、運び入れることだった。雑役野菜班が待ちに待つ中、およそ1時間半になってやっと、品物を取りに行った。トロッコ2台も更に駆り出さなければならなかった。その作業に指示された者たちを呼び出すのが遅すぎた。渡し船の近辺には、まだ数キロのガプレック [乾燥キャッサバ] があった。これは昨晚、運搬しているときに袋が破れてしまったのだ。誰も気にかけない。



クラウト

1945年8月1日

最初の木材班が2回も木を採ってきたが、この木材の積み込みは許可されなかった。渡し船を掃除せねばならず、階段と線路もだ。つまりヤッペンは気狂いじみていた。（ヤップの）ブリレマンは、木が彼の思った通りに切り倒されなかったために伐採班を収容所へ戻した。カーレル・ノーレン（巡査部長の息子）は顔に平手打ちをいくつか食らった。クローネンブルクは衛生兵から何度も殴打された。ある大佐がその随員と共に来るそうだ。トロッコに座席が設置されたが、彼はそれを利用しなかった。同様に、彼が退場するときもだ。渡し船の中にも座席が作られ、これは殿方の利用に帰した。でも何と全てが滑稽なことか。…中略… 軍政部の長官とその関係者が今朝ここに来た。様々な苦情が申し出され、患者等が明らかにされた。相変わらず収容所の関心とするところ？

ゴッキンガ

1945年8月1日

ヤップの視察。彼は足のむくれた人々を実際に見て、鮮魚に代り塩魚を50kg支給するよう努力すると約束した。でも、いいかげんだ。彼は、我々がタンパク質に欠乏している理由はアメリカの責任だと言った。…中略… お偉方の視察はかなりよくある。

クラウト

1945年8月2日

ヤップ宛ての嘆願書がホン [バラック] で朗読された。

ゴッキンガ

1945年8月3日

野菜作業場と湯沸かし小屋での独占的管理は禁止されているし、雑役従事者との駆け引きは処罰される。チャンクル [鍬] を適時に返却すること。

ゴッキングガ

1945年8月7日

今後は、8時半に組長による点呼が。不在者を収容所監督に報告せねばならない。

クラウト

1945年8月8日

日本当局に宛てた1945年7月28日の嘆願書の内容の一部：「耐え難い状況である。即刻の改善を要する。さもないと死亡数は激増するであろう。本書作成時点までの死亡者数：102人。

1945年1月31日並びに1945年4月8日の記載事項参照。死亡原因：

1. 給食は正味400グラムまでに増加されたが、タンパク質の増強はなし。この欠乏が死者を出した重病の要因だ。青野菜の欠乏。ビタミンC欠乏。
2. 衛生状態、薬品。病棟の改善は何もなされていない。病人の増加。医療品不足は深刻。病棟の現況はまったくひどい。薬品の支給は改善なし。キニーネは今すぐ必要。患者数613人（マラリア149人、赤痢154人）この613人のうち153人は様々な病院に収容。
3. 収容所での労働：病人650人、重労働300人、軽作業250人、高齢者200人、子供500人、合計1900人。病後の回復が困難。

収容所を破滅に到らしめないためにも早急に次の改善が必要である。食糧：まず第一に魚を増量（鮮魚か干し魚）。カチャン [豆] 類：カチャン・イジョー [小粒のグリーンピース]、カチャン・メラ [うずら豆]、カチャン・カデレ [大豆]。ビタミンC摂取に關係して青野菜。トウモロコシと米は約10%不足。毎日の給食で魚と野菜の今月の不足分は25%。

衛生状態、薬品においては緊急を要する。薬品の増量、特にキニーネ、加えて医療品。全部のポンドック [バラック] と病棟の屋根は、（雨漏りが激しいため）新しく張り替えられた。これは1945年6月19日、日本人所長及び中將と何度も話し合いされたことである。近日中に、改善が行われることを願う。この地域、またやこの収容所はまさしく「死の谷」と呼ばれている。署名：ボート医師、ポンドック [バラック] 班長。於シ・レンゴ・レンゴ」

ボス

1945年8月12日

近いうちにまた司令官が「動物園」を見学するようだ。…中略… 視察に訪れた前哨隊は、

将官ひとりと4人のスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] からなっていた。(これらスカリラは自発的に任務についたが、我々の見張りは強いられてやった)。我々の見張りのスカリラ (ヤップをこれを「兵補」と呼ぶ) のひとり、**「スダ・リハットウ・イトウ・アンパット・オラン・バビ！」** [もう4匹の豚を見た] と言った。相互評価！

ゴッキンガ

1945年8月14日

何人かのスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] は再び銃を携えているが、ほかの者は槍を持って歩く。

ゴッキンガ

1945年8月18日

ブルッヘマン、ベック、ワルラーベ、スタールチェス、ティメルは情報を与えるためにひよっとするとメダンに向かうので待機してなければならない。

クラウト

1945年8月18日

ヤップはリーダー格の収容所仲間5人の名前を書き留めたに違いない。彼らはランタウパラパトへ呼び寄せられたという噂が今朝流れた。<sup>8</sup>

クラウト

1945年8月20日

ヤップは、駅へ歩ける者の否かを報告するよう要求した。これに関してもちろんいろいろと意見された。

---

<sup>8</sup> この噂は間違い。

ゴッキング

1945年8月22日

カウエナル医師がヤップのところへ行って、なぜ歩けない患者のリストが入り用なのか尋ねた。ヤップは、「それは二、三日すればわかる」と言った。引越の噂が広まった。ある者の話しでは、ヤップはフランケンに、「近いうちに、君たちはブトゥル [本当に] 外へ出る」と言ったとか。どうかそうなりますように。

クラウト

1945年8月22日

歩けない者のリストを今晚じゅうに仕上げる必要があるので、ヤップはランタウパラパトからランプを持ってこさせた。これからどういうことになるやら？ 平和か？

メンデス

1945年8月22日

歩けない者170名を報告する要求がヤップから出された。また、1日に必要なタンパク質の量も知りたがったし、今晚は、収容所の連中8人は、ヤップが通常、度々要求する事柄、つまり氏名、職業、年齢等の一般的なリストを作成させられた。

ゴッキング

1945年8月23日

平和についての情報が続く。午前8時に突然、点呼。全てが投げやりで、ここだけの話したが、以前とはまるで違うのだ。

クラウト

1945年8月23日

ヤップ用のリスト作りに一晩中費やされたのであった。一体何が起きているのだろうか？ 以前、何度も聞いた平和の噂が今度は事実となるのか？ 日本軍の将官が今晚、リーゼンベ

ルク医師に言った。「ニッポン・バンジャック・スサー」 [日本はたくさん問題をかかえている]。…中略… 今朝、日本軍ブリル将官と衛生兵と共に点呼。ホーヘンボームは煙草を一本もらった。ヤッペンの面持ちはさほど良くない。ホン [バラック] 毎に退散することができる。ヤップ用の記録には日本の年号でなく、1945年と書かれてある。これは注目に値することだ。

メンデス

1945年8月23日

(抑留者の氏名、職業、年齢等のリストを作成させられた) 8人の男子は今朝、ヤップのもとでコーヒーに招待された！ 重大な噂が収容所に広まっている。どこまで本当なのか？ 我々の身に何かが起こっていることは確実だ。

## 日本人による被抑留者の扱い

ボス

1944年10月7日

ふたりの者が川で水浴できるかをヤップに伺った。そのヤップはためらいながらも許可した。ふたりは潜り、水に浮いた。ヤップは（驚いて）、「ビナタン・ハップハップ・ティダ・アダ？」〔噛み付く動物はいないのか〕と。素早くズボンを脱ぎ、彼も水に飛び込んだ。こうして彼はふたりの欧州人を対ワニ用の実験動物として利用した。

ボス

1944年10月10日

ここでは、特に見張りがこっぴどく叩く。中でもアチェ人はすこぶるジャハット〔悪い〕。

ゴッキンガ

1944年10月10日

ある欧州人がスカリラ〔日本軍インドネシア人補助兵〕に打ちのめされた。彼は日本人監視に訴えた。今朝もまたひとり殴打された。

ボス

1944年10月11日

薪を一本盗んだことで、コタラジャからの者のひとりがヤップのところで背中を血が出るまで叩かれた。…中略… ブラストギーのマイエリング爺さんは、片方の腎臓に損傷を受けたほど殴られては蹴られたのだ。

ゴッキング

1944年10月12日

竹で強打された人を見たけど、相当すさまじいものだった。ヤップ所長は全ての鍋の中をのぞき込んだが、鍋の水が沸くのを見ているだけだった。

クラウト

1944年10月17日

病棟助手のステーンは日本人のするノイズを真似した。彼は連行され、痛めつけられたあとに、ヤップのもとに監禁されたらしい。柵のそばを歩いていたワルラーベは、「ハロー」と言ったためすぐさまスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] に強打された。

ゴッキング

1944年10月17日

8時半に我々の収容所リーダーによるホン [バラック] 内点呼。午前9時、炎天下にヤップによる点呼に切り替わった。スパニャーが卒倒。…中略… ファン・デル・ステーンは監視所に監禁されてしまい、彼に手を振ったワルラーベはひどく叩かれた。点呼が実施されようになった現在は、誰一人として他のホンへの移転を許されない。

ボス

1944年10月17日

エンゲルキャンプは、ヤップのための外部作業の際に原住民から買った煙草のことでムチで激しく打たれた。ファン・デル・ステーンはヤップのノイズを真似したため、3日間監禁された。ワルラーベが通りすがりにSに挨拶を。故に殴打さる。鉄条網近辺での小便は禁止：警官は殴ることになっていて、実際にこれを銃の台じりでする…だが、急いで逃げ去ってしまえば別だ。

ゴッキングガ

1944年10月18日

カリである少年が裸のからだをスカリラに竹竿でひどく叩かれた。酷い。

ゴッキングガ

1944年10月23日

要請：所長とナンバー2にお辞儀すること。我々がオルマツト〔敬意〕を示すのがあまりにも少な過ぎると彼らは言うのである。

ボス

1944年10月26日

私は浴場で起こった非常に不快な出来事を目撃者であった。2時にスカリラ〔日本軍インドネシア人補助兵〕は柵を閉めるので、全員「ルカス、ルカス」〔急げ、急げ〕で水から上がらねばならない。幾人かはあまり急がないので、結局、誰かが一番あととなるのは当然のこと。今日は大柄で、でかい頭の男。「待て」と原住民が言い、「お前にいいものあげるから、今にみてる。閉まった後も居残っておれ!」。かくして、この男はふたりのスカリラが見張る中、素っ裸で（ズボンの中に吊るさたままだったから）丸一時間外に立たされたのだ。強烈なる見世物。近くまで寄ってきた者たち（実は大勢が）は興味津々に何事かと尋ねた。すぐに知らされ、「見ろ、実刑だ!」。みんなはお互いに突っつき合い、笑いながら去った。この「ひげ男」はこうして自分のバンサ〔同胞〕にあざけられたのだ。

ゴッキングガ

1944年10月30日

鉄条網を越えたバル少年は収容所で捕らえられ、5人のスカリラ〔日本軍インドネシア人補助兵〕に木材、ベルト、棒、銃や銃剣で強く打たれた。



ゴッキングガ

1944年10月31日

ウェーダはウィングフートから夜9時に戻った。彼が誰とも接触しないよう、終日ヤップに監視されている。向こうで手に入れることができた蚊帳さえ持ち帰ることは許されなかった。彼が到着した際は、素っ裸にされ、メモが捜された。

ボス

1944年10月31日

レオが刑務所の体験話をした。恐ろしい状況、不正。最後の衣類も駄目になった。オバットゥ [薬品] は切れた。毎日、死者が出る。政治犯と闇市のディーラー。女性たちは健在だ。衣類に関してはまずまず。入所した者には死が宣告された地獄だ。ひどく化膿したクーリー傷で不潔な床を歩く。蚊帳もない欧州人用独房のマットの上に女性が5人。

ゴッキングガ

1944年11月2日

ゲットゲンス公証人はホン [バラック] の前で小便した。ヤップが近寄り、彼に罰として棒を両手に高く持ったまま足を広げてトロッコ線路に立たせた。彼は何度か殴打され、スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が見張る中、一時間半頑張り通した後、再び収容所へ戻された。彼は収容所正門前に立たされた。

ボス

1944年11月2日

ゲットゲンス公証人は罰として、両手を掲げ、棒を持ったまま2時間線路の上に立たされた。両腕をおろすとスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] に一発食らった。犯罪：鉄条網での小便。

ゴッキングガ

1944年11月4日

シ・レンゴ・レンゴ到着の際に盗まれた腕時計等を、今日、ヤップが返してくれた。ラウエ・シ・ガラ・ガラから着いた衣類の多くは、大きな束にまとめて梱包されていた。

ゴッキングガ

1944年11月9日

早朝にはヤップ所長による点呼でのけたたましさ。木材が十分に搬入されない場合には、食事なし。

クラウト

1944年11月9日

ヤップによる不意打ちの点呼。整列後、それが機敏さに劣るとして彼は我々を帰した。5分内に整列してなければならなかった。結局やりなおし。まるで羊が檻から突進するごとく。マレー語の番号を左のそでに付けた男たちがだ。何という様か？あとどれだけ続くのか？

クラウト

1944年11月10日

クルス氏が昨日の点呼の際、病気でホンに居残り、便所へ行こうとしたらヤップが彼の背中を藤の棒で殴った。

ゴッキングガ

1944年11月14日

ヤップ所長が収容所内をうろつき、不機嫌にお辞儀をみんなに教えた。

ゴッキングガ

1944年11月15日

医師からパチョレン [鋤作業] を禁じられてるとヤップに言ったモール (?) 氏は、ヤップからひどく叩かれた。痛烈だった。

ゴッキングガ

1944年11月26日

点呼に病欠を届ける際には、医師の診断書が必要だ。

ゴッキングガ

1944年11月30日

ヤップは点呼に人があまり集まらなると文句をつけ、病気を届け出る者の食事を半分に減らすと脅かす。

クラウト

1944年12月1日

ヤップは点呼への出席者が少なすぎる場合には食糧を減らす考えだ。

ゴッキングガ

1944年12月2日

数人のスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] がクレワン [短剣] を引き、棒を持ったりして鉄条網に沿って行く。彼らは少年たちが外に出たと思ったらしい。

ゴッキングガ

1944年12月3日

言うことを聞かなかったある少年は、スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] の前で1時間気を付けの姿勢で立たされた。

ゴッキングガ

1944年12月4日

統制することは炊事場の日々の割り当てにもないし、もう何もないという訳で、ヤップはてんびんを持って行ってしまったので、もう炊事場の日々の割り当ても含み、何も統制することができないのだ。

ゴッキングガ

1944年12月4日

木材搬入班の男たちはクラ [クラックの略でお焦げ、パンの耳] や煙草をヤップからもらうが、日によって彼は殴りかかるのだ。…中略… カリで収容所仲間のひとりがスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] に石を投げられ頭に穴が開いた。

ゴッキングガ

1944年12月6日

ヤップはある欧州人を呼んだ。スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] も同じことをした。最初にヤップのもとへ行ったら、そのあとスカリラからひどく殴られた。つまり果てしなきもの。

ボス

1944年12月7日

点呼劇。ヤップが点呼を行った。スキッパーがホン [バラック] には何名、そして病棟に病人4名、ホン4号棟には病人5名と報告したら… ポンと頭に一発! 「病人を連れてこい!」。

我々5人（マラリア、胃腸障害、下痢等疾患）は毛布にくるまり、一列に整列させられた。

（マラリアである）デ・ウェールトは、- 多分 - ヤップの望み通りに気を付けの姿勢をしていなかったとかで左脇を激しく蹴られ、頭に一撃を食らった。クパラ [責任者] はよく聞き取れない声でわめいた。デ・ウェールトはふらつき、そして転倒してしまった。ホーヘンボームとファン・ブルメンダールが彼を運び出した。ヤップは平然としてスピーチを続けた。私は小声でファン・ブルメンダールに医師を呼んでくれるか頼んだ。そうすれば、我々が点呼に不在だった理由を証明されるだろうからだ。ドカーン！長い棒で私の頭上を強打。

病棟担当ヤップが体温計を取りに行かされた。その間、我々は自分の名前を記入させられた。私は体温計を脇の下に入れて測るべき者に選ばれた。でも相変わらず気を付けの姿勢でだ。37度5分あった。これがまずかった。体温が低すぎた！高熱のない者は病気でない等々。私が平熱以上になかったことで、4人全員がどなられたのだ！

この恥ずべき場面を黙って見ていたファン・ブルメンダールに医師を再び依頼したが、またもや成果なし。我々はずっと立たされた。収容所の全員が退場できたのに、そしてまたホン9号棟の人々もその場を急いで立ち去り、我々をそのままヤップ所長と棒を持ったおよそ10人の援護兵やスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] 5人にゆだねたのだ。我々はその後、所長にどなられ、特に私に対しては理解しがたい要領でだ。ヤップが一休止した時、私は「ティダ・メンエルティ」 [分からない] と言ったら、ファン・ブルメンダールは私に「マレー語が全然分からないのか」と厳しい口調で言った。調べでは、私だけでなく、他のひとりも何も分からないことが明らかとなった。ヤップはどもりながらお粗末なマレー語を話した。結局、我々はマラリアなどであってもなくても、明日の点呼には必ず出ることを約束させられた。15分以上も続いたこの侮辱的な出来事のあと退場することができた。話しによると、同日の朝にはホン内に合計108人の病人がいたと報告されたことが分かった。我々のホンと同じような「上演」はどこにも見られなかった。理由？不明だ！果てしなき自由裁量…

この不快な出来事のあと、病棟担当ヤップが死者<sup>9</sup>のために花束を2つ持って来た。彼らの振る舞いは理解しがたい。

クラウト

1944年12月7日

朝とても早いうちからヤップによる点呼あり。クラウエルが気絶してしまった。かの所長はまさに吠え猿だ。…中略… ヤップは今朝、病気でホン [バラック] に居残っていた者（ホ

---

<sup>9</sup>前夜にふたりの被抑留者が死亡した。

ン9号棟)の体温を計った。1分後、体温計は36度5分を示した。この男と病気を称する他の者たちは外に出された。

ボス

1944年12月10日

ヤップが監督する中、ホン [バラック] の外での補強設置作業のとき、ベルフマンズという男はヤップに従い、一本の小さな杭を地中から引き抜かれなければならなかった。うまくいかなかった。スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が側面を蹴ると、杭は空中にすっ飛んだ。ヤップは怒り、馬鹿にされたと思ったのか、そのオランダ人の下半身と局部を2度蹴り上げた。

ゴッキング

1944年12月10日

我々が雑役に必要な人を早めに集めなかったがために、ヤップ所長は本日収容所内にいた。彼は荒れ狂っていた。あちこちで何もかもずたずたにした。川ではスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] とそこで魚釣りをしていた者との間でいざこざがあった。…中略… 最近、ヤップとスカリラに殴られることが多い。時には、虐待寸前というもので、この種のことが増加している。

クラウト

1944年12月11日

スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] は欧州人を打ちまくっている反面、ヤップに平手打ちを食らっている。

ゴッキング

1944年12月15日

今後は、医師による欠席証明書がある場合を除いて、朝の点呼には全員出なければならない。

…中略… 夕方雨の中に、木材搬入班と伐採班の者たちは集合させられ、ヤップによりグダ  
ン [倉庫] に閉じ込められたが、午後9時頃無条件で釈放された。

クラウト

1944年12月15日

班長の話しによると、輸送班の誰かが35ギルダーと幾らかの煙草を本人のいる小屋から盗ん  
だ。その結果、木材班はどしゃ降りの雨ではあったが、チャンクル [物置] に閉じ込められ、  
19時半になってやっと帰された。

クラウト

1944年12月16日

伐採班の21人が昨日、サトー（以前はいまいましいヤップだった）から煙草をもらった。彼  
は言った。「ボレー・ドウドウック」 [座ってよろしい]。要するに、彼はとても親切だっ  
た。

ゴッキンガ

1944年12月19日

ヤップ所長による点呼は順調に進行した。気絶したのはひとりだけ。

ボス

1944年12月24日

パウル・ファーレカンプは引き渡さなかった斧で木を切っていた。そのため、スカリラ [日  
本軍インドネシア人補助兵] に虐待された。棒で50回と下顎に15回打たれた。彼は腕に打撲  
傷を負った。刑罰：斧を頭の上にかざし5時間立ち、太い木を3本切り倒すこと。

クラウド

1944年12月25日

パウル・ファーレカンプは勝手に所持してはならない斧を持っていた。ヤップは彼を連れ出し、長時間、両手を高く上げて立たせた。だれると平手打ちを食らった。

ゴッキング

1944年12月27日

オン・ディット！ [人の話しでは] 結核患者に特別食をとヤップの医師に要求したら、「そうすれば、あなたは回復を保証しますか？」との質問を受けた。答えは消極的であった。まったく分からなかったからである。そして、彼は言った。「断食させなさい。日本でもこれを行うし、効果あります」。私流に意識すれば、「くたばりやがれ」である。

ゴッキング

1944年12月30日

20歳～30歳、50歳～60歳、60歳～70歳の者は正門付近で体重を計らねばならなかった。…中略… 鉄条網の外でウビ [キャッサバ] 雑役をする少年がアラン・アラン [茅] の中で小さな植物を見つけ、持ち帰った。スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] がこれを見て、「お前、盗んだろ」と言って夕方までその少年を気を付けの姿勢で立たせた。粗暴だ。スンガイ [川] でも再度スカリラに打ちのめされた。

ゴッキング

1945年1月3日

油を運び入れる作業に志願者が求められている。スカートゥが応募した。監視所を通る時は必ずお辞儀しなければならない。微笑みかけた少年は炎天下に立たされてからもう大分経つ。



クラウト

1945年1月3日

ステーンスマ（副理事官）は禁止されてる場所で小便し、ヤップに捕まった。彼は今朝10時にヤップのもとに行かされたが、無事におさまった。

クラウト

1945年1月4日

ステーンスマが今朝、心配そうにあたりを見回しながら小便してた。彼がそばを通った時、私は「落ち着かないね。特に、捕まったばかりだと」と言ったら、彼氏は腹を立てた。

ゴッキンガ

1945年1月7日

ヤップ所長は収容所の数人にお辞儀刑を科した。

クラウト

1945年1月8日

パウル・ファーレカンプは先週、ヤップの命令で彼のヤギ髭を剃り落とされた。最高潮！

クラウト

1945年1月13日

ヤップは彼に敬礼すべきとまたも指示した。再び、何人か叩かれた。中でも今日は、（東南アジアでは耳鼻咽喉科の名医）ノーステン医師だ。

ゴッキング

1945年1月13日

ヤップが銃を持って収容所を回り、きちんとお辞儀しなかった者をその銃で叩いた。…中略… ノーステン医師はヤップに銃で頭をコツンとたたかれた。彼は十分にオルマット [敬意] を示さなかった。ヤップが来た時、もっとオルマットを表わせるよう、我々はお互いに警告することになっている。

クラウト

1945年1月17日

鉄条網の外で果物を盗もうとしていた少年6人が捕まった。結果：川辺の小屋が封鎖。

ゴッキング

1945年1月17日

少年7人が鉄条網の外にいたため、カリが午後4時に突然、閉められた。これらの者は捕まり、監視所で両手を高くして気を付けの姿勢で長いこと立たされた。父親たちが呼び出され、激しく叩かれた。中でも脾臓に異常をきたした者は診療所に収容された。

ボス

1945年1月17日

父親たちが激しく殴られた。年長のブリュダーも打ちのめされた。彼は脇を蹴られ、安静にしていなければならない。

クラウト

1945年1月18日

川への入口が、外に出た少年たちに対する罰として12時半に突然閉められた。収容所監督は人々が水を汲みに行く許可を受けた。つまりは、突進。午後1時にスカリラ [日本軍インド

ネシア人補助兵] が来て、また泳いでもよいと言った。馬鹿。直ぐにヤップは少年たちが外に出たラダン [田畑] を全部刈り始めた。

ゴッキングガ

1945年1月18日

正午に出た通告では、水汲み以外は今後水浴してはならなし、それでカリが閉鎖されるのだ。水汲みに2000人が殺到した。この事態が済んだあとカリがオープンし、再び、水浴を許可すると通告された。私はカリで水浴し、ココヤシの皮で身体をこすった。スカートは病気になるので、私がベッドの上で洗ってやった。

ボス

1945年1月18日

ウビ [キャッサバ] 雑役班はヤップのもとに出向届けをしなかった。全員が戻らされた。あるスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] はブランダ [オランダ人] 全員に平手打ちを食わせる命令をヤップから受けた。この男はヤップのいるときにこれを実行したが、弱すぎた。その後マンドール [現場監督] にあやまり、叩くのが苦手だと言った。彼はニッポンに無理強いされたのだ。「後で」首が切られないよう彼は願う。

ゴッキングガ

1945年1月20日

本日、収容所にはヤップがいた。お辞儀しない者の多くをめぐり、そのためだけに収容所中を自転車で走り回り、お辞儀しても結局、なぐられるのだ。彼は誰も分からないようなことを命令する。それゆえ、何も起こらないし、顔を殴られる結果となる。

クラウト

1945年1月25日

今日の午後、H.B.S.教頭のヘンドリックスがヤップの前でぎこちないお辞儀をした。彼は呼ばれた。ヤップは銃の台じりで彼の頭を叩くと脅しかけた。彼がその殴打をかわしたあとに

大腿部を台じりで激しく打たれた。ヤップは、彼の髭も示した。髭を剃る必要があるのか興味あり。

ゴッキング

1945年1月25日

収容所の数人が銃の台じりで強く叩かれた。なぜに？ 間違ったお辞儀の仕方が原因らしい。ヤップがマンディ場〔浴場〕のそばを通るとき、やせこけた裸の男たちがお辞儀する姿は何ともいただけない。全てが、人の内面まで苦しめるのだ。

クラウト

1945年1月28日

今朝のヤップにはうんざりさせられた。彼はきちんと敬礼しなかった8人を連れ出し、ウビ〔キャッサバ〕の植え付けをさせた。彼は湯沸かし小屋でそのひとりの鍋を火ごと蹴っ飛ばした。

ゴッキング

1945年1月29日

20人が雑役刑に科された。彼らは鉄条網の内側でトランプ遊びや読書の最中だった。所長が自転車で鉄条網の外側を走っていたが、彼らは所長に気付かなかったため、つまりは、オルマット〔敬意〕を表さなかった訳だ。最初、彼らは平手打ちを食らい、その後は、1日4時間の懲罰作業を1週間だ。外出する必要があるときには、自分のホンの中、暗くて不潔なところに残れ。

ゴッキング

1945年2月2日

ファン・オメン少年は、ヤップの命令で連行された。彼はきちんと敬礼できなかったのだ。…中略… ロビー・ベーツはスカリラ〔日本軍インドネシア人補助兵〕に銃剣で刺された。

我々は鉄条網の外側を歩いているスカリラにもお辞儀しなければならないようだが、多少、混乱ぎみで不安定な状態である。

ゴッキング

1945年2月2日

収容所外部に出た少年ふたりが装填した銃を持つスカリラに追われた。それが原因で、我々は入浴を禁じられた。特に、もしヤップが仕返すことになったときには、若者は我々にとって実に厄介な存在となる。

クラウト

1945年2月2日

あるスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] は、午後2時45分に数人の少年が収容所の外に出ていたのを発見した。最終的には川の入口がこの先一日中封鎖されることになったため、多くの者にとっては水不足の状況に立たされた。幸いにも、我々は入浴したし、水もあった。…中略… ヤップと食糧事情についての話し合いを願った収容所監督は、少年が収容所の外に出たが故にヤップに追い帰された。ヤップは川を10日間封鎖すると脅かした。

ゴッキング

1945年2月2日

ヤップが今朝、点呼を行った。平手打ちも罵倒もないとは何と驚き。

クラウト

1945年2月20日

昨日、外部作業中にスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] とヤップに呼び出された。ヤップのひとりが煙草を配った。理解しがたい連中だ。

クラウト

1945年2月24日

昨晚、スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] がどなり散らしていた。誰か外に出た者がいた。今朝は、ひとりのヤップによる点呼。証拠物件に、彼らは靴を一足だけ持っているようだ。ある少年が連行されたが、すぐに帰された。点呼は速やかに終了した。

木材搬入班が休憩中、ヤップに戦争がいつ終わったかと尋ねた者がいた。彼ははっきり言い表すことができず、「アメリカ」とジェスチャーで示した。連中が、「アンビル？」 [乗っ取るのか] と言ったら、ヤップは「アンビル、アンビル」と言った。…中略… 昨夜、少年たちが外出したことが原因で、ヤップはホン1号棟の連中20人を罰として外部作業するよう命じた。…中略… 強い要望もあって、川は昼食時の2時に30分開放された。ヤップは、収容所外部に出た5人の名前を午後3時に知らせるようにと。さもなくば、川は4日間封鎖される。

ゴッキング

1945年2月24日

数人が鉄条網の外へ出た。片方の靴があるヤップに発見され、20人がこの靴を履き試させられた。彼らは自から出頭しない限り、ヤップは10日間のカリ閉鎖を強行すると脅かした。これは井戸水以外では、水浴なし、皿洗いなしを意味する。その為、炊事場には水がなくなり、食事は減らされ、飲み水も不足。すでに閉鎖されてたカリが、本日特別に30分オープンされた時には、入浴や水汲みなどでごった返していた。1777人が30分以内に事を済ませねばならなかった。

ゴッキング

1945年2月25日

スンゲイ [川] は犯人が未だ名乗り出ないため、罰として閉鎖されている。ホン [バラック] 1号棟から4号棟に対しては正午から1時まで、ホン5号棟から9号棟に対しては2時から3時までだけ一時開放されたが、何とかなっている。

クラウト

1945年2月25日

外出した連中は未だ名乗り出てない。…中略… 夜、あるスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が銃を発射。確実に威嚇である。川はホン [バラック] 1号棟から4号棟に対しては正午から13時まで、その他のホンには14時から15時まで再開された。ヤップがまだこうも柔軟であることが理解できない。収容所監督はそれらの者の名前を言わない。外出者が裏切りを脅迫した結果と見られるのを恐れている。ご立派なことだ！

クラウト

1945年2月26日

ヤップが、外出した連中はヤップのもとに出頭するよう要求している。さもなくば、川は今後開かれない。Chr. デソーヴァジーが名乗り出たが、彼の父親を裏切ろうとはしない。ヤップは5人を要求している。みんなこの好ましくない状況に不平を言っているが、未だ何も起こらない。大勢が炊事場のそばにある建設中の井戸から水を汲んできた。ひどく汚い。

ゴッキンガ

1945年2月26日

鉄条網の外に出た者が名乗り出ないため、スンゲイ [川] は一日中閉まったままだ。我々がみんな死んでしまおうが閉鎖を続けるとヤップは言う。それでなくともひどかったのが、今後、さらに水不足となる。炊事場の井戸水は我々の食事用にはどうにかこうにか足りていると思うが、皿洗い、洗顔、飲み水などには適さない。穴の中にネズミなどの死骸が浮いているような井戸の水を沸かさねばならない。十分に沸かせば飲むには何も問題ないと医師は言う。すぐにも吐きださずにはいられない味だ。病棟はこの水不足で相当な負担を被る。これが原因ですでに痛みや病症悪化を起こしてしている。伝染病に関してはかなり予期される。収容所監督に出頭した犯人はクノープとデソーヴァジーであったが、ヤップのもとに出頭すべき人物は5人であるが故、スンゲイ [川] は今後も閉鎖を続けるとヤップが言う。

メンデス

1945年2月27日

夜、収容所の外に出た5人の連中がヤップのもとに出頭しなかった罰として、ヤップがスングエイ [川] を封鎖したため、我々はもうここ数日水なしの状態である。水浴も洗濯も飲み水を沸かすこともできないために非常に不便で、病気の原因を生むことになっている。問題の連中は今日出頭する見込みとされ、それ故に川が今日再開されることを我々は期待している。

ゴッキング

1945年2月27日

スングエイ [川] が午前11時から午後6時半まで突然開かれた。ほっとした。犯人4人が名乗り出たが (?) 話しでは、クノープ、デソーヴァジー、フィッシャーだ。彼らはヤップの処罰を受けなかった。…中略… ヤップは、腹が空いているがために外出する時には、それを彼にまず告げ、脱走は避けるようにと言った！

クラウト

1945年2月28日

外出した4人の名前が全部ヤップのもとに示された。ヤップはその他何も要求しなかった。全く東洋人は奇妙だ。あるスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が先週、ヤップを監禁したならば、何をヤップにあげるかと伐採班の者に尋ねた。即座の返事では、サゴ。「そして、我々は何がもらえるか？」とスカリラが尋ねた。返事は、「煙草を一本くれさえすれば、きつとうまくいくだろう」。噂によれば、スカリラが彼の金のある欧州人に預けたそうだ。…中略… スカリラたちは午後ババット [草刈り] をしていた。これはみな、先週あの4人の連中を現行犯で押さえることができなかった罰である。午後、少年たちはチャベ [唐辛子] を探しに外へ出ることを許された。ヤップなるものは奇妙で、理解しがたい存在だ。

ゴッキング

1945年2月28日

少年たちはチャベ [唐辛子] を探しに外へ出ることが許された。彼らがヤップのために同じように外で草むしりさせられた時には、全員が失せた。



クラウド

1945年3月14日

あるヤップは様々な若者が未熟なバナナをもぎ取ったため、彼らから野菜とナイフを取り上げた。

ボス

1945年4月5日

ルイ・ハーンは、無礼を振舞った - 理由なく - ヘルマンを打ちのめそうとした最も邪悪なブリレマンス（ヤップ）に大口を叩いた。見事。平手打ちなし。

ゴッキンガ

1945年4月6日

収容所の何人かがまたブリレヨードに殴られた。…中略… アーク・パミーンケからの新来者が殴られた。その者のリーダーが苦情を言いヤップのもとへ直接出向いた。彼はヤップに「このことは了承できぬ」と通達した。あるスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が他の新来者を殴った。この新来者はスカリラをすぐにも地に打ちのめした。新来者たちは我々全員や収容所監督にも新しい生命を吹き込んでくれるのだ。彼らは我々の外見や無表情な様子、劣った食事にびっくりし、改善さるべきと言った。我々が必要とするまるっきり違う考え方を持っているのだ。殴ろうとして木材を持ったヤップには、「一発やれ」と言った。ヤップは木材を投げ捨て、「プラン」 [戻れ] と言った。願わくば、我々の暮らしが今度こそ良い方向に向かうこと。

ゴッキンガ

1945年4月11日

亀が一匹捕獲された。ヤップがその肉の大部分を自らのために抱え込んだ。

ボス

1945年4月24日

ヤップのひとり出っ腹のサミーは、今後若者からサミーと呼ばれるたくなかった。というのは、「サミー」は日本語で亀の意味らしいから…

ボス

1945年4月25日

ドゥベルダム（機関士）は、いわゆる敬礼をしなかったとかでブリレマンス（最も邪悪なヤップ）から尻を打たれた。彼は打ち返した。罰としてこのD.は三人のヤップに打ちのめされた。そのあと、ヤップの宿舎の前にある旗ざおに膝を曲げた格好で三時間にわたって縛られた。そして、「アンプン」〔謝罪〕するためブリレマンスのもとへ這えずつて行かされたのだ！！

メンデス

1945年4月25日

午後ドゥベルダムが理由もなく（この奴ではおきまり）（あるヤップ）ブリレヨードから3回も平手打ちを食ったことで、このD.は彼に2度打ち返したのである。そのため、D.は監視所に連行され、3人のヤップに棒で殴られたあと、燃えつくような暑さの中、夕方まで柱に縛り付けられたらしい。

ゴッキンガ

1945年5月10日

鉄条網を潜り抜けた少年ハイデムス（？）が捕らわれた。彼は数時間日照りの中に立たされた。午後には炎天下に。

ゴッキング

1945年5月12日

今朝、デッカーが伐採作業の際、電線の上に木を切り倒してしまったために、息ができなくなるほど彼は喉頭を強く殴られてしまった。病院へ運ばれ、人工呼吸が行われた。

クラウト

1945年5月12日

デッカー（伐採班）は今朝、木を電話線の上に切り倒してしまった。日本軍将校がこれを大変怒り、デッカーは失神（脈拍衰弱）するほど強烈に喉に平手打ちを食らった。伐採班で働いていた医師が人工呼吸を施した。

ゴッキング

1945年5月12日

ヤップに昨日ひどく虐待されたモンキー・デッカーと呼ばれる、アーレンスブルク農園企業のデッカーが回復した。監督はヤップに苦情を言うつもりだ。ファン・レーは鉄条網のそばで小便した。スカリラは彼を監視所へ連行しようとした。彼は拒否し、「ここは君のご不浄、それとも吾のか？」と述べた。

ゴッキング

1945年5月15日

デッカーの件で監督がヤップに行った訴えはうまくいった。ヤップは大方誤りを認めた。ヤップによると、我々に向けた赤十字の救援食糧を載せた阿波丸<sup>10</sup>の米軍による魚雷攻撃についてが朝日新聞に出ていたとのこと。彼らはもちろんそれを自分たちで平らげ、今になってこの報告だ。一体誰が信じるか？ 米国が自国からの救援物資に魚雷で攻撃するだろうか？ これは4月に起こった。残念だ。我々はそれを本当に必要としているのだ。

---

<sup>10</sup>阿波丸は、赤十字社の小包をジャワへ輸送後、日本へ向けて帰航中に米国の潜水艦の魚雷に攻撃された（1945年4月1日）。この時の救援物資はジャワの強制収容所に配布されたことから、スマトラの収容所に宛てたものではなかった。

ボス

1945年5月16日

ウォルフ神父（およそ80歳）は祈祷書を読むため鉄条網に沿って歩いていたら… スカリラ  
[日本軍インドネシア人補助兵] に平手打ちを食らう！

ゴッキング

1945年5月17日

あるスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が年老いたウォルフ神父の顔面を殴った。大  
多数の収容所住民がそのスカリラを野次り、鉄条網沿いに追い駆けた。

ゴッキング

1945年5月21日

夜中の2時に銃剣を持ったヤッペンが不意に現れ、スカリラが収容所内に。そして点呼あり。  
彼らは病人を一時間にわたってしゃがませた病棟のホン [バラック] 3号棟より先には行か  
なかつた。しゃがみ込むことができない人を殴った。更に、便所へ行く者や炊事場にいる者  
全員を銃の台じりで打った。

クラウト

1945年5月21日

今朝の4時に不意打ちの点呼が。ホン [バラック] 三棟を回ったヤッペンは、それで十分と  
した。アードリアンと私はそのまま蚊帳の中に居残っていた。外にいた連中はしゃがま  
された。この点呼の実行は、部外者による誤りだったとあとで述べられた。

クラウト

1945年6月1日

日本人の病院助手と他のヤッペンがテーブルの下にある我々のネズミ捕り3台を目にした。  
それは何かと尋ねた。私は、「タンカップ・ティクス、マカン、クラン・ダーギン」 [肉不

足なので食べていくためのネズミ捕り]と、足の赤い斑点を見せながら言った。彼の返事は、「チィダック・バグス、チィダック・バグス！」 [それは良くない、それは良くない] と。

クラウト

1945年6月3日

出っ腹のサミー（いわゆる善良なヤップ）が若者たちに感動的な別れを告げたあと去った。

クラウト

1945年6月5日

伐採班にしばしば同行するフリッピー（ある厄介なヤップ）は昨日、もう少しでからだに木が落ちるところだった。伐採班の者たちが大声で叫んだために、彼氏はその大半に殴りかかるほど激怒した。

クラウト

1945年6月12日

又もうさんくさいヤッペンが。昨晚、スミット牧師を囲むサークルが追い討ちを食らった。今朝は4人がブリッジ遊びをしていた。ヤップはトランプを取り上げ、ずたずたに切り裂いた。

ゴッキング

1945年6月13日

宗教的集会在ヤップあるいはスカリラにより解散させられた場合、既に収容所監督の了承があったのだから何も動じることはない。…中略… 収容所監督は、雑役班のための人が誰もいなくなってしまう、又、それは厳しすぎるとしてホン [バラック] の新築工事には人を送るのを拒否した。そのヤップは緊張状態にあり、収容所内でわめき散らし殴ったりした。外部雑役班も同様にその報いを受けなければならなかった。入浴するカリが突然閉鎖され、またオープンしたり。なすべきを知らないでの純然たる嫌がらせ。

クラウト

1945年6月6日

ヤップは今朝伐採班の者たちにとり、とてもうんざりするほどだった。彼らがいやがった湿地での草刈りをしなくてはならなかった。そのため即、6人が強くたたかれた。残りの者は収容所へ戻った。最終的には川が午後1時になって初めて開かれた。ヤップは、新しいホンの建設のために木材を採りに行く人が少なすぎると不平を言う。今日、全員（150名）が出なければならなかった。彼らはヤップのもとに1時間待たされたあと、収容所監督が全体を調整するよう呼び出された。今日は川で水汲みと洗濯だけが許された。その結果は当然、みんなが洗濯に行った。

クラウト

1945年7月29日

土曜日（7月28日）は、（デリ鉄道会社員でない）スミュルダースの一番下の息子がヤップのブリレマン（卑劣な奴）にマッサージさせられた。

ゴッキンガ

1945年7月30日

ヤップが魚の入った我々のバケツを3つ盗んだ。これで我々1900人相当が彼の歩哨30人分となる。

クラウト

1945年8月3日

この木材搬入班の少年ふたりがチャベ [唐辛子] を探しに外へ出た。彼らはスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] に捕らえられ、この獲物はヤップ（ブリル）のもとへ持って行かれた。彼は卑劣な奴だ。リーダーのロバトは、皆が悪かったと言った。少年たちもロバトも顔面をひどく殴られた。最初はブリルから、そのあと部下から。密かに持ち込んだ薪を引き渡さなければならない。チャベは驚くべきことに返された。見張りのために一緒に行ったヤップは、伐採班の者たちに日本のことをたくさん語った。日本は壊滅的爆撃を受けた。米国

のB29には対抗できなかったのだ。いかなる戦闘機もこの争いに対応できなかった。又も感傷的な一日だった。

ゴッキング

1945年8月9日

少年カムとファン・ドルセンが外へ出た。彼らはカチャン・イジョー [小粒のグリーンピース] と煙草を密かに持ち込み捕らえられ、ヤップに殴打された。彼らの父親がヤップのもとへ呼ばれ、ホン [バラック] 班長のフェッターも呼ばれた。ヤップはののしり、父親を殴ろうとしたところ、すかさずフェッターが彼を激しくどなりつけた。ヤップはあまりにもびっくりして、彼らを帰してしまった。その後、フェッターとフライシャー (?) が捕まり、ヤップにこっぴどく打たれた。他にまだふたり外へ出た者がいる。ファン・ドルセン少年は槍でいじめられ、その結果は頭部損傷。

クラウト

1945年8月10日

日本軍衛生兵は昨日の午後、パリット [溝] が掃除されてないということで、棚から皿を放り投げるほどしゃくにさわってた。…中略… 昨日は6人の若者が鉄条網の外に出た。彼らはヤップにひどく殴打された。

ゴッキング

1945年8月11日

密輸のために収容所脱走の件で、上官からぶったたかれたヤップはそのあと、捕まえた場合、容赦なく射殺若しくはさんざんに打ちのめすと言った。そのヤップは怒り狂ってた。…中略… 外に出てた若者たちは、そこの原住民から物を盗んだ。そしてこの原住民がランタウパラパトのヤップに訴えた。彼らが平手打ちを食らうのも当然ではなからうか。

ゴッキングガ

1945年8月12日

我々の監督が昨夜突然、憲兵隊に連れ去られたらしい。もし本当なら、我々にとっても面白くない。

ゴッキングガ

1945年8月13日

午後5時にヤップの検査、明日は将校たちの視察、8月18日は軍医将校の視察。何ともお偉方だ。ヤップが5人に仕事をするよう要求した時にすら、全員が午前10時から午後6時まで拘束され、殴打された。ヤップはリーダーのホーヘンボーム、班長ブロウワー（?）、我々の班長を呼び出し、太い木材で彼らを叩いた。我々のバラック班長のフェッターは相当に持ち堪えた。ヤップはその時、収容所内の物干し用ロープをずたずたにし、小さなテントやテーブルを蹴って壊した。我々の一日もまた良好だったのだ。

クラウト

1945年8月13日

ヤッペンは今日もすごかった。物干し用ロープは、決められた方向に取り付けなければならない。食器棚は違って設置しなければならない。要するに、ヤッペンは気狂い。収容所監督がヤップの所にある敷地を掃除する人を誰も送ろうとしなかったために、ホン [バラック] 班長が全員監視所で顔面に平手打ちを食らった。

ゴッキングガ

1945年8月14日

スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] は些細なことでも殴り、暴行すべきと日本人からけしかれた。更に、我々はスカリラにお辞儀しなければならないのだ。外部雑役班が帰舎する際は、ヤップとスカリラにも敬礼するために前後3メートル間隔で入場してくる。その際は、相当な笑いが飛ぶ。だから、多少からかわれている感じがする。これも全て頭のおかしいナンバー2の仕業。所長が10日間の予定でメダンへ向かう。



クラウト

1945年8月15日

あるスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] は彼氏に十分オルマツト [敬意] を示さなかった故に、伐採班の者たちを殴打した。

ゴッキンガ

1945年8月18日

軍医将校は来なかった。我々の裸の尻を彼に見せないよう便所は囲いがされている。

クラウト

1945年8月18日

日本人所長がまた戻って来た。

## 食糧及び物資事情

ゴッキング

1944年10月10日

一日に二度食事がある、すなわち米、トウモロコシ、ウビ[キャッサバ]とココヤシ油のタレ、他にはなし。これだけではやっていけない、野菜、肉、魚など何もないのだ。0.15ギルダ－の手当てもまだ受け取っていないし、スウェーデン公使館からの<sup>12</sup> 8000ギルダ－もまだである。…中略… 毎日水を沸かす必要がある。さもなくば飲める水はない。めちゃくちゃだ。…中略… 炊事場の傍で井戸堀りをしている人たちがいる。

ゴッキング

1944年10月11日

一日20gの油がもらえる。タンパク質の量は補充食と合わせて約30gかと推測する。我々には60g必要である。ビタミン不足もはなはだしい。ともかく気を落とさないことだ。…中略… 日本人所長は我々のために、ピサンなどを注文するためメダンに行っている。

ゴッキング

1944年10月12日

かご三杯の干し魚が届いた。…中略… ブルーバンド製のバター缶が漏れ出した。680gだ。我々は今これを食べ尽くす。味は思ったよりまずいが、まずまずの変化ではある。期待しすぎていた、多分興奮しすぎたのだ。一日100gの米を、一人約10gくらいの僅かな油と一緒に食べる。

ゴッキング

1944年10月13日

本日ウビ [キャッサバ] も野菜もなし、皆無である。米が200gとトウモロコシ80gのみで

---

<sup>12</sup> 詳細は「序」の「食糧事情」の項を参照。

ある。ありがたいことに我々はまだ自前の米とウビ粉がそして油の蓄えを少し持っている。コーパーベルフ医師は現状の食糧で6週間大丈夫とみている。そのあとはみんな死を待つのみ。…中略…スンガイ・センコルから持ってきたのは 3000kgの米、1500kgのカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] と30カレング [缶] の油である。本日各自100 g の米、100 g のガブレック粥 [乾燥キャッサバの粉で作った粥] を補充食として食べた。夜にはコーヒーと葉巻、何ヶ月間も味わったことがなかったものだ。ごちそうである。…中略… 砂糖と塩が一人に100 g ずつ分配された。…中略… 分配された砂糖はヤシ油の味がする。

クラウト

1944年10月14日

幸いなことに、我々は8人（クラウト、コックと2人の息子たち、シュキュールビールス、ファン・ボーベネ・ファン・ゲントとその息子フランク、そしてベルナデール・デ・ラバレット）で朝食に100 g の米かカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] を余分に料理する。だがどれだけの者がこんなことももうできないでいるのか？（スンガイ）センコルのヤミ取引は事実上停止した。…中略… 今日、午後2時に赤い米150 g と幾ばくかのタレ。夕食も同様。ベラワン・エステートに差し出した（カチャン）イジョ4kgのうち3kgと1kgの米が戻ってきた。差し出した米のことはまだ何も聞いていない。ヤップからはまだ野菜も魚ももらっていない。

ゴッキンガ

1944年10月14日

もし抑留者自らが缶を差し出せば、ヤップから油をもらうことができる。缶がなければ油もない。…中略… 本日米300 g と僅かのタレのみ、他には何もない。…中略… 自前の米100 g を余分に料理し、マルキサ（野生）の葉を少し添えた。

ボス

1944年10月14日

9月14日の体重は67.4kg、本日は65.8kg。

メンデス

1944年10月15日

食糧と飲み物はまだ依然として不十分である。すなわち1日に2度の食事は、一度につき米かトウモロコシ150gと僅かの油だけ、野菜などは何もない。9時と4時に300ccの薄いお茶。南洋金<sup>13</sup>とオランダ政府からの給付金の合計約26000ギルダーを受け取り、試用注文に当てられた。もっと多くの食糧が支給されるよう早急に実施されることを願っている。

ゴッキンガ

1944年10月15日

ヤップによれば、現在スウェーデン公使館から我々に当てられた25975.25ギルダーを、食糧注文に使用してもよいということになっている。収容所自治会は至急6500ギルダー分の試用注文を行った、すなわち1000kgのガプレック粉〔乾燥キャッサバの粉〕と1000kgのヤシ油、2000個のココヤシ、50kgのチャベ・クリン〔干し唐辛子〕、コーヒー150kg、カチャン・ケデレ〔大豆〕400kg、一人200gのタバコ(280kg)、ジェルック・ポトン〔柑橘類〕5000個及びイカン・クリン〔干し魚〕300kgである。個人注文は許可されていない。この金額26000ギルダーには我々一人1日の給付分0.15ギルダーが含まれている。現在我々は2度赤い米150gとココヤシ油のタレ少しを食べている。将来どうなっていくのか心配である。不安な時期である。私は余分に自分で100gの粥をマーガリンで料理した。うまい！

クラウト

1944年10月15日

今日、日曜日のために米国赤十字社からの缶チーズを開けた。ヤップから魚と野菜、油脂の配給がまだない。朝食を摂れない者がたくさんいる。

ゴッキンガ

1944年10月16日

ヤシ油1瓶が7ギルダーで買える。お金って何だ？…中略…100gの米を余分に料理、昼食

---

<sup>13</sup> 南洋金はおそらく1日0.15ギルダーの給付金を意味しているのであろう。南洋開発金融公庫はジャワ銀行を買い入れた日本政府の銀行。

に収容所配給の米と自前のイカン・テリ [塩干しの小魚]、いくらかとマルキサの葉でナシ・ゴーレンを作る。長椅子の傍に野生のマルキサ、4本のウビ・カユ [キャッサバ] とチャベ [唐辛子] の木を植える。トウモロコシと300kgの干し魚が届いた。収容所の献立は二度の150gの米とタレ少量、夕食は僅かな干し魚である。野菜なし。何もない。…中略…炊事場から魚を取ってくるために鍋を差し出す。一人一日約10gである。

今日の夜中、間違っって他人の木靴をはいたのは誰だろう？ 暗いとよくあることだ…。片方だけ靴をはき、片方はだし、海水パンツ、ダンス用の靴、テニスシューズ、サッカーシューズなどをはいている人たちが見られる。一言で云うと、靴や足を覆うものに関してはすべてもらったり工夫したりした寄せ集めのものである。なんて惨め、なんと不潔だ。人はここでは獣のように完全に汚なくなり、全く投げやりになっていく。

ゴッキングガ

1944年10月17日

ティアーから少しタバコをもらった。…中略…100gの粥を補充食にした。昼の食事はトウモロコシ100gと米50gとタレ。夕食は米150g、タレ、イカン・テリ [塩干しの小魚] 10gである。…中略…本日ベラワン・エステートの人たちには、かれらの保存米55%の受け戻しがあった。川でいくらか魚が捕れた。

ゴッキングガ

1944年10月18日

スカートゥが釣り針を作って魚釣りをしている。…中略…現在我々はここに15日抑留しているが、米200g、トウモロコシ100g、約20gの油とイカン・テリ [塩干しの小魚] 10gがもらえるもののすべてである。野菜も果物もない。皆無だ。さらに野生のマルキサの葉を数度食べた。苦い野菜である。

クラウト

1944年10月19日

我々は飲み水だけ沸かすことができる。もちろん十分承知している。規則はすでに破るためにあるものだ、ここでも然り。

ゴッキング

1944年10月20日

タンパク質補充のためザイルストラと1kgの米とカチョン・ケデレ [大豆] 1kgを交換した。ヤップから砂糖100gが支給された。ここでは昼夜腹をすかしている。嫌な気分、悩ましいほど気分が悪い。どうすることもできない。

ゴッキング

1944年10月21日

ウビ・ランバット [サツマイモ]、米、トウモロコシと油が入荷した。これは常に大きな安堵をもたらす。…中略… なんと我々はまともな食事を望んでいることだろう。みんなよだれをたらすほど食べ物のことを話している。ズスやテオと一緒にアムステルダムのアメリカンホテルで食べた昼食をまだ覚えているかい？私はなんとそれを切望していることか。

メンデス

1944年10月22日

ここ1週間、夕食に匙1杯のイカン・テリ [塩干しの小魚] が加わり、そして今日から蓄えが許すかぎりウビ・ランバット [サツマイモ] 約100gがもらえる。またいくらか砂糖と塩、一人1個のココヤシの支給もある。どんなに狂喜して受け取られることだろう！実際には何も改善されてはいないにしても人間がすばやく逆境に順応するのは不思議なことだ。

ゴッキング

1944年10月22日

皆にココヤシが一人1個支給される。ハトの卵くらいの大きさのもので0.50ギルダーだとのことだ。…中略… 今日の午後には、夕食に幾ばくかのウビ [キャッサバ] が支給された。だから現在は米、タレ、イカン・テリ [塩干しの小魚] とウビである。野菜はまだ入荷していない。今日ですでに19日間野菜の葉を食べていない。皆僅かな食事で体重が非常に減少している。ありがたいことに健康だと感じるが、もちろん直ぐに疲れる。…中略… 26000ギルダーの注文から750ギルダーと引き換えに1500個のココヤシのみ受け取った。ひどいものだ。…中略… 多くの人々はもう補充食がない。食糧不足は深刻である。早急に改善されること

を望む。…中略… ココヤシは0.27ギルダー、メダンでは0.35ギルダーである。再度1500個注文した。ヤシ油の入手は、他の注文品と同様バニャック・スサー [困難である]。個人注文品も届かないだろう。…中略… 油を数缶受け取ったが、いくつかは空で、一人一日20gのかわりに僅か18g支給されるだけだ。…中略… スカートゥが二匹の小魚を捕った。はらわたを取って食べた。

ゴッキングガ

1944年10月23日

ココヤシ1個を収容所配給の砂糖270gと交換した。今月終わりまで一人一日14g食事が減少、そして10月25日からはもうウビ [キャッサバ] は支給されない。そうなるに僅か286g (一日に米とトウモロコシ) だけだ。誰かが失神した、ベルフマンは栄養不良性浮腫だといったぐあいに行く。いつ我々もそうなるのか?と自問する。ひやひやものである。火をおこすことも禁止されようとしている。そうなるに我々の飲み水と補充食がなくなる。ここでの状況は実に劣悪である。いつまで耐えられるだろう?

ゴッキングガ

1944年10月24日

炊事禁止。個々の食事及び飲料水に関しても。さてどうする? そのため本日、300gの米とカチャン・ケデレ [大豆] 50gとココヤシ1個のスルンデン [おろしたココヤシを焼いたもの] をゴーレン [炒めた]、差し当たって補充食として食べる。補充食がなくなるとどうなるのだろう? 食糧不足による症状が早くも顕われてきている。状況は心もとない。3週間食糧不足、野菜なし、何もない。栄養不良性浮腫とタンパク欠乏の症状が多い。…中略… トウモロコシと米と10gのイカン・テリ [塩干しの小魚]のみ、他には全く何もない状態で我々は生き延びている。絶対に良くない。ゆっくりと命運がついてくる。今リスクを負う必要がある。主よ、早く救いが来てくれますよう助け給え。収容所内での調理が禁止されているのみばかりか、他の場所でももう料理はできない。要望に応じて水泳小屋で湯を沸かすことのみ認められた。明日の朝にはすべての焚き火、窯などを片づけねばならない。小屋で組ごとに湯を沸かすことだけが許されている。我々は8時から10時で、午前中作業のある者は12時から午後2時である。

ボス

1944年10月24日

この収容所に到着以来野菜は配給されていない。いまだに1時と6時に二度粗悪な食事があるのみ。僕は特に朝、腹を空かしている。約1400名分の1日の油供給量は26リットルから16リットルに軽減された。すなわち一人一日約12gということ。

メンデス

1944年10月25日

今日から個々の炊事はすべて禁止。水泳小屋のみで2ホン [バラック] ごとに2時間湯を沸かすことが可能なだけだ。人数が多いこと、そしてかぎられた空間なので、特にコンロのない人々にとってほとんど不可能なことである。

ゴッキンガ

1944年10月25日

一人につき収容所配給タバコ10gをもらった。(スンガイ) センコルタバコだった。…中略… 本日の食事は次の通り、朝9時半におよそ175gのトウモロコシとタレの昼食、夕食は5時半に米、ウビ [キャッサバ]、イカン・テリ [塩干しの小魚] とタレだ。ウビ700kgが入荷した。

ゴッキンガ

1944年10月26日

もし抑留者たちによって薪が運び込まれなければ、炊事はできなくなる。今朝はすでにお茶用の水さえなかった。薪割りをする人間をヤップは幾人か減らして行く。だからますます薪を割る人たちが少なくなっている。その上、切る本数と時間も決められているのだ。木材は遠くの山腹から運び込まれ、それは耐えられない状況になっている。これよりひどいことはない。…中略… 歯を磨くのはお茶が入っていてもいなくともお茶用の水を用い、そのままお茶としてごく普通に飲む。さもなければ足りないのだから。手を洗うのは殆ど不可能だ。石鹸を使って入浴するのも然り。…中略… 我々は10月1日からまだ野菜にお目にかかっていない。我々の0.15ギルダーでの注文と30000ギルダーからは、1500個のココヤシ以外は未だ



に何も入荷していない。これ以上のココヤシ注文は現在ヤップから禁じられている。こんな悲惨な状況は長引くべきではない。

クラウト

1944年10月26日

小屋で炊事する。すさまじい混雑。一人は豆を料理、他の人は米、また他の人はカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] を料理、そしてまた一人は単に湯を沸かしている。ということは、いわゆる規則というものは守られていないということだ。守っていたら生きていけないのだから。私はゆっくりと (カチャン) イジョを料理した。

ボス

1944年10月28日

スローテグラーフが大きなミズガメを生け捕った。生け捕り40kg、正味は18kg。直径1mで25歳ぐらいのカメだ。鋼製の針金にカエルを付けて捕ったものだ。心臓を切り取った後でも、まだ生きていた。このカメは収容所に4kg分の米のために売られた。カメでタレを作った。

ゴッキンガ

1944年10月28日

わたしの左隣に寝ているディトマースさんがバター空缶で素晴らしいコンロを作った。短時間で湯が沸くので薪が少なくすむ。大きな利点だ。簡単に持ち運べる。…中略…スローテグラーフが川で鶏の内臓を餌にしてカメを捕まえた。総重量41kgだ。カメは明日我々の食事になる。釣り師にとって大仕事だ。最初の犬 (ブーヴィエ) が殺された。持ち主のドウシが数日前に亡くなったのでエサをもらえなかったのだ。

ボス

1944年10月29日

ファン・デル・アッカー神父が占い棒で水脈に行き当たったので、炊事場の傍に井戸が掘られた。

ゴッキング

1944年10月29日

来月分のトウモロコシ、米、塩、砂糖と油が入荷した。鶏が扱いにくいのでほとんどが屠殺された。ウビ〔キャッサバ〕はなくなった、残念。…中略… 本日1500個のココヤシ、みんなにまた1個ずつだ。ガプレック粉〔乾燥キャッサバの粉〕はもうもらえない。現在キロあたり2.50ギルダーである。缶入りオート麦は85ギルダーで売られた。カモは35ギルダーの値がつけられたが、それは拒まれた。

ドライバー

1944年10月30日

食事の質が悪だけでなく、食事は一日に2度しかない。新鮮な魚や野菜の搬入はこれまで実施されていない。メダンからの距離がかなりあるために非常に腐りやすいこともある。だから米、トウモロコシ、イカン・テリ〔塩干しの小魚〕のみである。わたしの「特別食」もそうだ。もし特別食用炊事場がスンガイ・センコルの場合と同様の人員配置で、材料がないとしたら、特別食を料理するのもあまり望めないことだ。設備一式は、一言でいえば悲しむべきお粗末なものである。

ゴッキング

1944年10月30日

プラウ船に満載されたピサン〔バナナ〕とウビ・カユ〔キャッサバ〕が収容所を通り過ぎていく。涎が出そうだ。ミズガメのシチューはかなり美味であったし、いずれにしても変化はあった。…中略… 収容所には薪がないためお茶用の水がない。…中略… 今日特別食用炊事場から二度米粥をもらう。トウモロコシはなし。塩がない、油もない、何もないから全部みずくさい。味気のない気分である。

ゴッキング

1944年10月31日

最近は食べ物の夢ばかりみる。しょっちゅう空腹で気分が悪い。収容所の食事はまだ一日二度だけである。米300gとトウモロコシにすこしのタレと一日に一度だけイカン・テリ〔塩干しの小魚〕。ここに到着して以来野菜はないし、何日もウビ〔キャッサバ〕もない。皆無だ。私は今1日に2度柔らかく炊いた米といくばくかのタレ、1さじのイカン・テリだ。空腹で死にそうだ。

ドライバース

1944年10月31日

朝食は米40gの粥とイカン・テリ〔塩干しの小魚〕20g。昼食は30gの米〔7.5gは野菜がないので同等のもの〕とイカン・テリ25g。夕食は米60gとイカン・テリ30g、油が12cc。6日ごとにココヤシ1個をスルンデン〔おろしたココヤシを焼いたもの〕を作るためにもらう。著しく改善されてきている。私も非常に幸せな気分になる。

クラウト

1944年11月1日

来る日々の我々の配給：9時に米80gとトウモロコシ40g、17時30分に米105gとトウモロコシ45g。30kgの魚をヤップから苦勞して手に入れた。補充のためのウビ〔キャッサバ〕はない、だからとてもひどい。本日砂糖75gと塩100gをもらった。ヤップは、抑留者の人数に4.50ギルダーを掛けた6000ギルダー（10月の給付金）を収容所監督に手渡した。収容所監督は我々のために何か購入してほしいとの通達の下、この金額をヤップに戻した。ヤップはまた押し戻した。

ゴッキング

1944年11月1日

空腹だ！空腹感がだんだんひどくなる。我々はどうなるのだろう？…中略… 空腹のためすでにスカートゥはオート麦を1缶こっそり生のまま食べてしまった。今人々は目に見えて痩せていく。…中略… 保存食が飛ぶように減っていく。どうなるのだ？我々の食事は死滅す

るには多すぎ、健康を保つには僅かすぎるのだ。…中略… 朝9時トウモロコシのかわりに80個のココヤシ入り（20人に1個分）の米粥100g、午後5時は米85gとトウモロコシ85gとの通達。

メンデス

1944年11月1日

輸送中に盗まれてしまうため、今日からわずか270gの米とトウモロコシ、さじにも満たない油、7.5gの塩がもらえるだけだ、野菜はまだないし、そして半匙のイカン・テリ〔塩干しの小魚〕だけだ。配給はだからまったく不十分である。幸い私には予備に一日に米100gとカチャン・イジョ〔小粒のグリーンピース〕が20日分補充食としてある。

クラウト

1944年11月2日

13缶の油がまた届いた。合計158リットルだったから少なすぎる。普通の缶の中味は1缶16リットルである。本日粥100gに20gのおろしたココヤシを混ぜて料理した。うまい。

ゴッキンガ

1944年11月4日

2000個のココヤシが6日ごとに注文される。75個が粥用に炊事場に行き、25個がタレ用になる。その他各自に1個ずつ。本日各自に1個のココヤシ。小さいものである。

ゴッキンガ

1944年11月5日

魚ももうなくなった。現在午前9時に各自20分の1のココヤシを混ぜた100gの米粥。午後5時半は米85g、トウモロコシ約85g、それからおよそ15gの油とすこしのスルンデン〔おろしたココヤシを焼いたもの〕入りのタレがつく。野菜、果物はない。皆無だ。…中略… これさえひどいことなのに重労働の必要もある。スカートウのことが心配だ、あの子には食べ

るものが必要である。私は多くもないがまだ270gの米粥がもらえる。食事やお茶の分配ではいつも焚き火の周りに幾人かの粗野な男たちが群らがるみたいな騒動が持ち上がる。

ゴッキングガ

1944年11月6日

なんと大きなバナナを積んでプラウ船が川を下っていくのが見えることだろう。よだれがでるほどである。

クラウト

1944年11月8日

ヤップは収容所監督とランタウパラパトの納入業者を接触させた。ウビ・カユ [キャッサバ] がキロ当たり0.30ギルダー、ガプレック [乾燥キャッサバ] がキロ当たり1.80ギルダー、小麦粉キロ当たり4ギルダー。ヤシ油1缶8ギルダー、ココヤシ油1缶37ギルダー、ココヤシ1個0.25ギルダー、タバコキロ当たり22ギルダーである。6000個のココヤシと1000kgのウビの注文がなされた、納品は来週になる。興味あるところだ。もちろんまた騒がしくあれこれ話している。

ゴッキングガ

1944年11月8日

遺憾ながらまたスカートウの骨と肋骨もめだってきた。覆い隠すのはどうしても無理なようだ。精一杯尽くしてみたが、スンガイ・センコルの食糧事情は最近悪くなるばかり。待ち望んでいた品物は入手することができなかった。…中略… 我々は腹を空かし、そして君をなつかしんでいる。…中略… ヤップによって収容所監督が26000ギルダー分の注文ができるよう業者と接触できた。ほとんど入手できるものはない。入手できる品物の価格は以下の通り。ガプレック [乾燥キャッサバ] がキロ当たり1.80ギルダー、ウビ粉 [キャッサバの粉] キロ当たり4.50ギルダー、ココヤシ1個0.25ギルダー、ヤシ油18リットル8ギルダー [すなわち1瓶約0.30ギルダー]、ココヤシ油18リットルの缶37ギルダー、タバコキロ当たり22ギルダー、ウビ・カユ [キャッサバ] がキロ当たり0.30ギルダーである。魚は漁獲禁止のためもう手に入らない。タンパク質はどこだろう？ 2000個のココヤシと1000kgのヤシ油が2日ごとに注文される。現在、他に何を注文すべきかが医師と協議されているが、我々にはタンパク質が必要なのだ。タンパクータンパク。

メンデス

1944年11月9日

食事はいまだに270gのトウモロコシと米に1さじの油、いくばくかのココヤシだけで、他には何もない。魚も野菜も他にも皆無。これが長引けば致命的で、みんな目に見えて衰弱していく。私の体重もかなり減少している。…中略… 目下また新しく、しかし今の所中国人の納入業者へ3度目の食事ができるよう収容所配給分の注文が出された。ともかく収容所配給の食事がとても少ないので、今度はうまくいくことを願っている。

ゴッキンガ

1944年11月9日

薪不足のためお茶はなし。スカートゥは靴を鉄線で繕った。…中略… 余分のお金で日ごとに注文する。157kgのガブレック [乾燥キャッサバ]、250個のココヤシ、500kgのウビ・カユ [キャッサバ]、ヤシ油2缶で合計516ギルダー。日ごとの配給は、

朝食：米45g、ガブレック [乾燥キャッサバ] 45g、ココヤシ100個。

昼食：トウモロコシ85g、ガブレック30g、ココヤシ75個。

夕食：米140g、ガブレック30g、ココヤシ75個、総重量300gのウビ・カユ。

(昼食と夕食は油20gで作ったタレを含む)

もし一人1200cal分追加があれば、一日約2400calになるだろう。注文はされたのか、あるいは実施されたのか？要請によって、タバコは個人注文のためお金を別にするシステムに変わるだろう。タバコはキロ当たり2.20ギルダーだ。この2.20ギルダーはヤシ油のかたちで、だから5.5瓶分のヤシ油か、あるいはココヤシでは約8個、ガブレックでは1.5kg分の注文になる。ココヤシはだからもう個人注文も分配もされない。

ゴッキンガ

1944年11月10日

本日個人注文が行われた。約5.5瓶のヤシ油とおよそ7個のココヤシ。これが一番栄養価がある。タバコが全部なくなりもう喫うものがなくなったが、やはり私はタバコの注文はしなかった。スカートゥが喫煙しないので、私のみたところではこのわずかな食糧では申し開きできない。…中略… 病棟ではラテックスを包帯の接着に使っている。これで衣類も修繕でき

る。すなわち破れたところの縁にラテックスを塗ってその上に布を張りつけるのだ。私は髭剃り用のブラシもラテックスで繕った。

来る10日間再度10g 食事が減らされ、ほとんど魚も砂糖も油もなしとの通達。献立は次の通り変更、ココヤシもなしだ。粥も作れないからトウモロコシになる。だから11月10日から11月20日まで朝食は89g のトウモロコシとタレ少々、夕食は米171g とタレ少々（これで全部）。一人50g の砂糖と100g の塩、1500名に12.5kgの干し魚。恥ずべきことである。ここはペマタン・シアンタルよりひどい。

クラウト

1944年11月11日

次の10日間の配給がまた減少する。10日間で一人砂糖50gと塩100gだ。魚（質は非常に粗悪）は1490名に僅か15.5kgだ。油も減少。米とトウモロコシは一日10g減少。…中略… 衰弱して横たわっているため、膝が腫れている人がたくさんいる。野菜なしの非常に不十分な食事ではこれ以外なりようがない。

クラウト

1944年11月12日

今日最初の注文のタバコ75kgが届いた。喫煙者たちが喝采した。また同様にガブレック〔乾燥キャッサバ〕516kgと4000枚のダウンニッパ<sup>14</sup>〔ニッパヤシ〕と3000個のジェルック〔柑橘類〕、200個のパパイヤ、干したチャベ〔唐辛子〕20kg。だから始まりである。明後日は3回の食事。

ゴッキンガ

1944年11月12日

スカートゥは魚釣りをしたが何も捕れなかった。昼食に米、カチャン・イジョ〔小粒のグリーンピース〕とココヤシの残り物、サンテン〔ココナッツミルク〕、オンチェ〔小麦粉〕とタケノコを料理した。収容所では素晴らしい食事だ。今度君たちのために料理しよう。…中略… 本日我々の注文品から500kgのガブレック〔乾燥キャッサバ〕が入荷した。万歳、はじ

---

<sup>14</sup> ダウンニッパの葉は巻タバコ用の紙として用いられた。

まりだ。本当にタンパク質がほしくてたまらない。どこから摂取すればいいのだろうか？塩もコショウも何もないが、あえて料理する。そのため嗅覚と味覚が非常に鋭くなることはつきりする。これは思いも及ばなかったことだ。補充食糧の入荷と同時に、多くの（日本人）高官の訪問があった。なんという喝采、収容所全体が蜂の巣をついたごとく騒がしい。不思議なことではない。なぜなら「生きるべきか、死ぬべきか」は我々にとって根本的な問題なのだから。荷は午後6時に着いた。それ自体は大洋の一滴であるが、しかし我々は一本のピサンに喝采をおくるほど、もう釣り合い感覚がなくなっている。1500名は75kgのタバコと紙巻用にダウン・ニッパ [ニッパヤシ] 4千枚、チャベ・クリン [干し唐辛子] 24kg、200個のパパイヤ、516kgのガプレック、3000個のジェルック・ニピス [レモン] に万歳を送る。そしてそれが1500名のものだ。ともかく何かがもらえたことがうれしい。明日はもっと入荷する。

ゴッキンガ

1944年11月13日

注文分から本日個人分を受け取った。すなわち各自ジェルック・ニピス [レモン] 2個、50gのタバコ（紙巻50本）と収容所配給の塩100gである。タバコは悪質な混合物。私はすでに1週間喫煙していない、またタバコを吸いはじめるのか交換するのかをじっくり考える。ファン・ストルティングから鉄線を受け取った。それで釣り糸を作る。このごろは川で半キロ以上のすごい魚が捕れる。スカートゥは残念ながらまだ成功していないが、タンパク質が欲しい故に早く捕れることを願っている。…中略…

ココヤシ2000個、ガプレック [乾燥キャッサバ] 419kg入荷したとの通達。ココヤシ5000個、1000kgのヤシ油、1000kgのガプレックはまだ注文中。薪が十分あるならば、明日から食事が3度になる。すなわち朝食米45g、ガプレック45gに加えて全部で100個のおろしたココヤシだ。…中略… 収容所全体で朝粥のためのガプレックを割った。夕食に突然かご1杯の60kgの新鮮な魚が届き、すぐにはらわたを取って夜10時半に夜食として焼きたての魚が支給された。ついにタンパク質である。

メンデス

1944年11月14日

本日、食糧問題に関しては注文の一部が入荷したためいくらか改善された。すなわちガプレック [乾燥キャッサバ]、ココヤシ、チャベ [唐辛子] とタバコが入荷したのだ。このため本日より3度目の食事が取り入れられ、現在我々は9時に米45gとガプレック45gの300cal、



1時に290calのトウモロコシ90 g、6時に580calの米125 gとガブレック45 gがもらえる。加えて1日分にして約50 gのココヤシと一匙のヤシ油およそ（300cal）がタレの中に入っている。

クラウト

1944年11月15日

昨日の夜8時は一般に満足のいく粥だった。この3度の食事はかなり改善されている。再び新鮮な魚が届く。ともかく12日の日曜日にティメルさんが知り合いの日本人のお偉方に、食事の指図書と実際に受け取った食糧が書いてある書類を手渡したことに感謝しよう。昨日700kgのヤシ油を受け取った。薪対策はまだ定められていない。収容所監督は22時にまだ薪を鋸でひいたり、割ったりしている。ここしばらく私は補充食を止めるつもりだ。6500ギルダ一分の最初の試用注文から各自に200 gのタバコがもらえる。喫煙しない者たちは他の物が良かったのにとかなり苦情を述べている。子供たちもこのタバコをもらう。もちろんこのような過ちがあるのが現実だ。…中略… 現在毎日新鮮な魚が届く。収容所用の物資はプラウ船で運び込まれてくる。

ゴッキング

1944年11月15日

昨日届いたのは（ドラム缶4本の）ヤシ油700kgと40kgの新鮮な魚だ。川での魚釣りは禁止である。…中略… 現在また油が入荷したので、再び炊事場からなんでもおいしくなる良いタレとサンバランが支給される。

ゴッキング

1944年11月17日

魚釣りをしたが、収穫はなかった。…中略… 今我々は緑茶にバター少々と塩、コショウを入れて飲んでいる。スカートウが発見した、悪くない。大きなエビを捕った。お茶用の水がない。お茶は今後現物支給になる。…中略… 入荷したのは我々の注文からのガブレック [乾燥キャッサバ] 1000kgとヤップからの魚72kg（正味60kg）。大小の魚、エビなどなど。ありがたいことに食糧は今いくらか改善されはじめている。もう少し野菜があれば助かるのだ

が。我々はほんとうにこの45日間は生死の境界線をさまよっていた。人はかなり耐えることができるものだ。夜の粥でスカートゥは気分転換においしいパンケーキを焼いた。

クラウト

1944年11月18日

4日ごとに大きな鍋に湯を4人分沸かす。現在食事が改善されたので、米50gあるいはカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] 50g とたっぷりの水、その中にはいくらかのヤシ油に塩、コショウがはいっている。飲み物はブイヨンみたいに飲む。とてもうまい。ほとんど昔は知らなかった蘭印風のご馳走のレシピから書き写したものだ。コーも蘭印の香草を好きになったかどうか興味がある。息子たちはかなり好きになったようだ。デ・ローは4日ごとにおよそ87人の男たちの髭剃りと散髪をする。サトー [日本人] は我々の食事が改善されるだろうと述べた。

クラウト

1944年11月19日

昨日ココヤシ4000個が届く。一人に1個もらえる。合計5000個あれば一人2個ずつだ。他にはヤシ油がすでに900リットル入荷。ヤップのグダン [倉庫] には翌月の配給品が眠っている。最近、夜にはお粥とタレなしご飯が交互にでる。

メンデス

1944年11月19日

本日、日曜日現物でヤシ油1瓶。テンポは緩慢だが次第に注文以外の食糧がたくさん届く。ヤップは現在また1800名分の約30kgから40kgの新鮮な魚を毎日送っている。

クラウト

1944年11月20日

ヤップの熱意のおかげで現在他の納入業者になった。最初はヤシ油がリットル当たり0.59ギルダーだったのが今は0.12ギルダーだ。このうちまた500リットル入荷した。2000kgあれば3

週間2000回の献立の蓄えがあることになる。収容所監督の要請で、ヤップはプラウ船を止めた。またプラウ船の連中から500kgのウビ・カユ [キャッサバ] をキロ当り0.20ギルダーで、ピサンを238ギルダー分、31kgのテロン [ナス] をキロ当り0.36ギルダーで買った。その他メダンから様々な野菜が届いた。これは配給品であるとヤップは言う。注文した200kgのタバコはメダンから届く予定。現在タバコの個人注文は終わった。

メンデス

1944年11月20日

ケデーマネー<sup>15</sup>とオランダ政府からのお金で注文が実施できるため、明日から来る10日間は多量の配給がもらえる。現在いくらかの野菜、ピサン、パパイヤ、ウビ・カユ [キャッサバ] も入荷した。

ゴッキンガ

1944年11月21日

各自、熟してはいないが6本の大きなピサンをもらった。トウモロコシに添えて美味しい魚のシチュー。夜は米、ウビ・カユ [キャッサバ]、野菜、タレ、サンバルだ。空腹に喘いでいた45日間の後ではなんというお祝いだ。

ドライバース

1944年11月22日

食糧事情がいくらか改善されてきた。幾日か前から野菜と新鮮な魚が入荷している。配給もある程度増えている。収容所の雰囲気もこれですこしましになった。油とガプレック [乾燥キャッサバ] もさらに多く入荷したので、ここ何週間は飢えの心配をしなくてもよい。

---

<sup>15</sup> ケデー或いはケダイは店、屋台の意味。ケデーマネーはおそらく民間男性抑留者のために給付された1日15セントの給付金を意味するものと思われる。-

ゴッキング

1944年11月23日

最近数ヶ月はとても大変だった。皆とてもやせ細るばかり、だが君の誕生日（ミースは今日が誕生日）の頃から全てが改善されている。まだかなり気持ち悪いが、現在我々は異常になることなく生存できそうだ。足が皮だけになっている我々と再会しても驚かないでくれ。100gのタバコが300gの砂糖になる。…中略…荷が届く。カチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] が350kg、ウビ粉 [キャッサバの粉] が1800kg、300kgのかわりに180kgのタバコ、干したチャベ [唐辛子] 28kg、パパイヤ、魚20kg（1500名分だ、また食糧事情の悪化が始まったのだ）と籠5杯の野菜。パパイヤは夕食後に食べる。これは数ヶ月食べていなかったものである。

クラウト

1944年11月24日

目下のところ注文し、支払ったものは全部入荷している。最後の品物は11000ギルダー分だ。まだ6000ギルダー残っている。今月の終わりに4.50ギルダーの給付金からの6000ギルダーがもらえるから、まだ12月にココヤシ、ガブレック [乾燥キャッサバ]、油を注文するのにまだ12000ギルダーある。

ゴッキング

1944年11月24日

日曜日に3度続けて昼食にカチャン・イジョスープ [小粒のグリーンピースのスープ] に献立が変わったということは、土曜日に3度続けて一日2度の米だった。これは失敗だったと思う。2000個のココヤシ、300kgの塩漬け魚、そのうち200kgはキロ当り2.40ギルダー、50kg分はキロ当り3.20ギルダー、50kg分はキロ当り3.50ギルダーである。隔日ごとこれらの魚が米に添えられる。ウビ粉 [キャッサバの粉] の価格はキロ当り1.50ギルダー、パパイヤはキロ0.30ギルダー、チャベ [唐辛子] はキロ20ギルダー、ジェルック・ニピス [レモン] は一個0.10ギルダーである。注文品が全部納入され支払われた。およそ11000ギルダーだ。まだ6000ギルダーの余りと、加えて0.15ギルダーの余分があり、今月の末には、だからまだ20000ギルダー残ることになる。タバコはキロ10ギルダーだ。27日分のヤシ油、28日分のココヤシ、35日分のガブレック [乾燥キャッサバ] と40日分のチャベが蓄えとしてある。本日一人150gの粗悪なタバコを受け取る。現在土曜日3回、倍のトウモロコシ、午後と夕方に粥、そし

て3回の日曜日は昼食にガブレックと小麦粉にカチャン・イジョ、夕食にはタレなしのご飯と魚がもらえる。だからおよそ30日間は確保されている、その後はどうなることか。

ゴッキング

1944年11月25日

私はただコップ一杯のおいしい水道水をとても欲している。このまずい黄色い粘土層の水にはあきあきだ。ごく普通の透明な飲み水を欲しがるのは望みすぎではないだろう？

ボス

1944年11月25日

3俵のカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] 2500ギルダー、キロ当たり7.50ギルダーだ！タバコが生きる糧で、多くの人たちにとってすべてを掌握しているなどとは知らなかった。多くの人々にとっては食事やニュースよりもまさに重要なものなのだ。雰囲気をよくするには素晴らしい方法である。

クラウト

1944年11月27日

彼（日本人収容所長）は我々のためにまたサンパン輸送業者から買った。キロあたり0.30ギルダーのウビ [キャッサバ] 430kgだ。

ゴッキング

1944年11月28日

昨日の夜、魚釣りの餌に使う炊事場から魚の内臓を炊事場から手に入れた。白子や卵塊を取り出し、焼いた。素晴らしい香りがする。私は野菜と混ぜてサンバランを作り、今朝粥と一緒に食べた。とてもうまく、補充食として良いものだ。毎日試みてみたい。スカートゥは皆と同様に痩せている。私にはどうすることもできない。栄養の偏りと不足である。何人か眺めれば、骨ばかりの者たちばかりだ。気候、不潔さ、暑さ、不愉快なことなどがそれを助長している。

ゴッキング

1944年11月29日

ヤップは我々に自分たちの木を切り倒したので 630 ギルダーを支給した。これでスウェーデン公使館の 6700 ギルダーと合わせて、約 7000 ギルダーが残っている。もっと油が得られるよう努力する。ムール貝と籠 7 杯の野菜が届いた。炊事場の井戸のでこ作業が終了した。

クラウト

1944年11月29日

ヤップは、我々が自分たちで木を伐採するので620.40ギルダーを支給した。本当に予想外である。給付金は1403掛ける4.50ギルダーで6303.50ギルダーだから、使えるお金はまだおよそ13000ギルダーある。

ゴッキング

1944年11月30日

ヤシ油2000リットル（リットル当たりまた0.50ギルダーになっている。ヤップによると0.12ギルダーではもう手に入らない）、ガプレック粉〔乾燥キャッサバの粉〕2000kg、ココヤシ3000個、ウビ粉〔キャッサバの粉〕1000kg、そしてイカン・クリン〔干し魚〕300kgが注文された。炊事場では現在ココヤシ200個分を粥の日、150個を米の日の食事用に調理する。保存食の現状は、12月16日までの油、12月21日までのウビとガプレック粉、ココヤシは12月22日まで十分である。砂糖はもう配給されない、ハビス〔終了した〕。12月分の配給はまだ届いていない。ヤップは非常配給用に10袋の米と11袋のトウモロコシを供給。…中略… 魚と野菜（半分はブスーク〔悪い〕）が届いた。

クラウト

1944年12月1日

砂糖はもう支給されない。私は砂糖が大好きなので、これは良い兆しだ（配給路が途絶えている）。最初の10日間用の配給はまだ決まっていない。予備食はまだ届いていない。一日当りのココヤシの数は減少するだろう。油はリットル当たり0.12ギルダーではもう納品されない。怖れていたことである。

ゴッキング

1944年12月1日

夜中どしゃ降りだった。…中略… 雨水で全てが満たされた。これはすばらしい飲み水だ。これで不潔な川の水を飲んだり、沸かしたりしなくてすむ。腐ったムール貝のせいで、すごい数のへど、これがこの夜中の雨と泥の中である。想像してみてくれ。

ゴッキング

1944年12月4日

ウビ・カユ [キャッサバ] 460kg、17袋の砂糖と20袋の塩が入荷した。…中略… スカートゥは現在さらに痩せ、毛布をしいただけで眠っている板が堅いと嘆いている。今熟していないデュリアン [果樹] は、若者たちが全部実を摘み取る。…中略… ヤップ配給の12月分の全収容所食糧はヤップのところにある。12月はだからまた大丈夫である。驚くべきことに砂糖もある。魚と野菜は現在定期的に入荷している。

クラウト

1944年12月4日

昨夜は米にまたウビ [キャッサバ] が添えられた。ヤップがプラウ船を停めたのだ。

ゴッキング

1944年12月5日

本日、各自に150gの砂糖、驚嘆。それからベルフマンとタバコ50gと砂糖150gを交換した。だから我々は現在砂糖合計450gと強力な蓄え、そしておよそ100gの配給タバコがある、このようにかき集め続けるのだ。なんてスバラシイ生活なのだ！…中略… エビが入荷した。昔は熱帯では中毒の危険があるため甲殻類は食べなかったのだが、今は食べている。わずかな量なので有毒なものが入っていても、医師によれば中毒の危険は最小限だろうとのことだ。せいぜい気分が悪くなる程度だろう。だからまありスクを負う。

ゴッキングガ

1944年12月6日

ファン・ゲウンスが大きなイカン・グボン [魚類] をわなにはめて捕まえた、そのうちの半分を600 gの米で買った。魚半分の重さはおよそ200 gである。見事な脂身（動物性タンパク質が約80 g、600 gの米には約48 gのタンパク質だ）。この魚は次のようにして料理。まず鍋一杯の水を沸かし、煮立せる。それから煮立った湯の中に魚を入れ、また湯が煮立つまで待つ。煮立ったらすぐに火から外す。素晴らしく美味しい。まるでタラのように堅くて乾燥している。コショウと塩の入った湯はブイヨンになって、脂が上に浮いている。なんて美味しいんだ、最後に本当の魚を食べたのは3年以上も前のことだ。舌がとろける、やっと何かを食べたという感覚だ。スカートゥはデザートにタレなしのご飯と砂糖を楽しんだ。聖ニコラス2日目は末長く我々の記憶に残るだろう。魚がこんなに美味しいとは知らなかった。

ドライバース

1944年12月8日

収容所の食糧事情は、オランダ政府からの26000ギルダーなどからの購入によって著しく改善された。

ゴッキングガ

1944年12月10日

現在1週間に一度新しい献立、すなわち真珠湾スープだ。これは雑炊だ。米、野菜とガブレット [乾燥キャッサバ] を油で炒め、その後全部を混ぜてもう少し温める。かなりいける。骨付き肉が入っていないのだが。何か食欲をそそるぴりっとしたもので栄養のあるものが欲しい。再びおいしいジャガイモに骨付きの切り身やステーキが食べられるのはいつになるだろう？ 近々なることを願おう。

なんて粗悪なものだ。来る10日分のヤップの配給は以前と同じだ。砂糖は一人175 g、塩は100 g。…中略… 本日最後のカチャン・イジョスープ [小粒のグリーンピースのスープ] を食べたので、もうなくなった。余分のトウモロコシももうない。…中略… 川に浮いているイチジクを若者たちが取って炒める。収容所のウビ菜園 [キャッサバ菜園] は、葉っぱを炊事場に提供する。ピサンとパパイアも現在植えられている。かさばった泥のため靴のかかとりが取れた。これは粘土層の地面のせいだ。



ゴッキングガ

1944年12月13日

我々に支給される魚はくずだ。パサール・イカン [魚市場] が終わったあとの残骸で、地方自治体が収集する廃棄物のゴミの山などを思い起こす。全くひどいものだ。近々みんなひどい病気になる。本日夜の献立は、真珠湾スープ。野菜はカンコン [野菜の一種] のみだった。これまた劣悪である。…中略… ラテックスをもらって、たくさん繕った。スカートウの仕事ズボンの引き裂きの縁にラテックスを塗って布をあてがい、そしてラテックスを上から塗って修繕した。そしてテニスシューズも修繕した。もう古くなって縫い継ぐことのできない私のマットレスの穴は、この方法で見事に修繕することができる。また縫い糸を持っていない者たちにとって助かるものだ。その上とってもすばやくでき、職人芸はできなくてよい。

クラウト

1944年12月14日

昨日の朝、炊事場で働いているフェルトホルストがサンバルを作るために使って、そのため刃が壊れてしまった肉挽き器を返しに来た。私はその時不在だった。彼は今日やってこなかった。どうなるかみてみよう。

ゴッキングガ

1944年12月14日

4000個のココヤシ入荷。まだ1000個来る予定。全部入荷すれば各自1個ずつ現物でもらえる。現在食糧は1月12日まであり、小麦粉とガブレック [乾燥キャッサバ] は現状の食事では1月10日までもつ。注文の油が入荷したら1月10日までもつ。だから今のところまた1ヶ月は大丈夫だ。…中略… 久しぶりにまた収容所の焼いた魚。皆ますます痩せていく。不安だ。入浴の時にも夜にもこのことを嘆いている。我々には身体を覆うものがもうない。脂肪はなくなったし、皮膚は透き通った紙のように薄い。川の傍にいる骸骨のような人々を見たまえ。不安になる。反対に南京虫のほうが太り、増殖していくのが気がかりである。

ゴッキング

1944年12月15日

注文より1000個多くココヤシが届いた。合計6000個だったので本日一人2個ずつ現物を受け取った。スルンデン [おろしたココヤシを焼いたもの] を作って保存しよう。あとの2個はクリスマスと大晦日用だ。ココヤシの皮は我々のホン [バラック] の者によって集められ、ホンから便所までの通路に泥よけのためまきちらされた。…中略… 空腹感をますます感じ始める。特に朝早くは空腹で時には目眩がする。人々は本当に衰弱もしてくるし、本当に何か良質の食糧を望んでもいる。いかほどかたっぷり滋養があつておいしいもの。特に何か甘いもの。スカートゥはヤップのためにおいしいもの全部を料理した夢をみた。かわいそうにとても空腹なのだ。彼は昔8枚から10枚のパン、その他を朝食べていたが、いまはおよそ80gの粥(米とガプレックとバター少量)だけで豚の飼料よりひどい。若者たちはちょうど今の時期栄養のある食事がたくさん必要なのだ。時々腹立たしくなる。なんという状況だ。なんてひどい。

クラウト

1944年12月15日

5000個の代わりに6000個のココヤシが届き、一人1個の代わりに2個ずつのココヤシが支給される。その結果あちこちの湯沸し小屋がおそろしく混雑し、多くが便所に駆け込んだりする。タバコの取引も今また復活するだろう。

ゴッキング

1944年12月16日

スカートゥは彼の粥の余りでおいしいパンケーキ3枚とあと野生のイチジクを焼いた。我々はこれにシナモンをかけて食べた。私はまたいくらかのジャンプー・ピッチの葉を病気予防として飲んでいる。スカートゥはおかしな奴だ。私がパイプを吸うのを喜んでいる、彼はそれが楽しい雰囲気を出すと思っている。なんと君に似ているのだろう。…中略… 献立は現在、朝に粥(米とガプレック [乾燥キャッサバ] とココヤシ)。昼食はすでにあるものやこれから入荷してくるものにかかわってくるがトウモロコシ(粒状)、野菜とサンバル、魚のタレ。夕食は米、野菜、焼いた塩魚、タレ、サンバル、その後翌日に真珠湾スープ(米と野菜ガプレック全部を油で混ぜた雑炊)で、その翌日は米とガプレック、野菜の粥だ。このよ

うに人々は献立に変化を持たせようと努めている。ほんとうに劣悪なもので豚の餌のようだ。ゲェッ。

ゴッキング

1944年12月17日

ゲルダーマンからおいしいタバコをもらった。…中略… 収容所配給タバコはここでは100 g が40ギルダー、0.02ギルダーの葉巻は1本1ギルダー、また50 g の収容所タバコは2個分のココヤシである。

ゴッキング

1944年12月20日

全部あわせておよそ25000kgが収容所とヤップのグダン [倉庫] に入荷し、幸い我々の1月中の食糧が確保される。

メンデス

1944年12月20日

1週間前から自前のわずかな保存米（約2kg）を、ウエステルマンが毎日75 g（25%の報酬）で私のために調理してくれる。そして私はこれをあと1週間半続行できる。この補充食と加えてスプーン1杯半のヤシ油が私には必要だ、さもなければ衰弱しすぎてしまう。ファン・デン・ベルフ医師の助言で本日から10日間続けて朝食に50 g の米粥が追加される。

ゴッキング

1944年12月21日

収容所の油は開いた缶で運ばれる。その結果半分はもれ、なくなってしまう。そして油はもうほとんど支給されないのである。

ボス

1944年12月21日

3度の食事を2月まで確保するため自主的にお金を徴集（ヤップが我々のお金を全部取り上げている筈なのに！）して、合計10000ギルダーを集めた。お金自体は今では人々にとってすでに価値あるものではないのだ。

ゴッキング

1944年12月22日

スウェーデン公使館からのお金はなくなった。我々個人のお金からいくらか振り込み、油やココヤシなど一般に有用なものを購入する旨の嘆願を日本人所長が好意的に認めた。受領書があれば、戦争の後に精算されるのだろうか？

クラウト

1944年12月22日

他の収容所と同様、ここでも収容所監督は余分に注文したい旨をヤップに要請した。原則としては同意を得た。ただまだお金を持っている者たちからその一部を借り入れなければならない。どうすれば解決できるのだろうか。…中略… 監督は1月、少なくとも1月3日までは無事に3度の食事ができるよう定めた。このため各自がどれくらいこの目標のため貸し出しできるかの金額を引き出した。喫煙者たちは現在他の者がココヤシを受け取る代わりにタバコがもらえるようになった。ヤップはヤシ油を入手するのが非常に困難だと云った。昨日はここでヤミのタバコがグラム当り1ギルダーで取引された。ということはキロ当り1000ギルダーだ！まったく馬鹿げたことだ。

ゴッキング

1944年12月23日

今日はラテックスでまたマットレスを修繕、その後テニスシューズを全部つくろった。はいっていると蒸れてくるが、これで濡れないでまた長持ちすることを望む。薪拾いをしジャムブーピッチの葉を集める。…中略… 自主的な申し出によるお金が多く集ったので（主にホン第1、2、9 a 及び9 b 号棟なのでスンガイ・センコルの人々からのもの）、3度の食事が2

月まで確保されている、予想以上だ。一部を個人注文に使うことは許されない。又いつかタバコかココヤシを注文してみる（という約束）にとどまった。人々は「炊事係の人たちはなにも負担しない。」と言う。明らかに彼らは十分食べるものがもらえる。どこかで何かつじつまが合っていない。彼らは多くもらい過ぎている。他の者たちも信条として負担を拒否している。

クラウト

1944年12月23日

私はバラン [物資] を買うために10ギルダーを約束した。…中略… 10000ギルダーが申し込まれ集った。そのうちの半分が必要である。

ゴッキング

1944年12月24日

スカートゥはクリスマスイブのために君からの豆でおいしいパスティーを料理した。マームス、舌がとろけるようだ。昼食に彼は熟していないデュリアン [香りの強いフルーツ] で一種のサンバランを作った。美味い。今晚はまた飲み水のための雨水が十分ある。簡単でおいしい。VMF (食糧基金) の申し込みでは10000ギルダーが集った。いまのところ半분을振り込み、そして約6000ギルダー分を注文する。ヤップからの一ヶ月当り0.15ギルダーと残りのベラワン・エステートマネーで現状の食事がたぶん4月まで維持できる。注文品の50リットル入りドラム缶4つ、すなわち200リットルのヤシ油が届いた。ドラム缶を空にする。ヤシ油がもっと入荷するからだ。ばんざい。スンガイ・センコルで作られたドラム缶がようやく戻ってきて、センコルの中国人納入業者に手渡されたのだ。

ゴッキング

1944年12月26日

各自0.50ギルダー分、すなわちタバコあるいは一人ココヤシ2個の注文が許される。二人分のココヤシ4個を注文した。油の入手は非常に困難で、納品できないようである。

ゴッキング

1944年12月28日

皆は食事のことばかり話し夢みる。よだれを垂らしながら横たわっている人さえみられる、それほど人は夢の中でさえ食べることに神経を集中しているのである。我々は一日中腹を空かし、夜中に空腹のため目を覚まし、その凄まじさで再度眠りにつくことがとても困難になる、時には不可能になる。なんという状況だ。人々は夜中にたびたび小便の必要がある。このことからだれもが肉体に脂肪分がなく、その身体（脂肪の場合）が塩分や不可欠な他の食べ物が僅かしかないと水分を吸収できないという事実がみなされねばならない。本日収容所で歯磨き粉（灰）と洗濯用のアルカリ液（同様に灰汁）を受け取った。収容所全体がデュリアン [香りの強いフルーツ] の匂いがする。なぜなら若者たちが（デュリアンの）木から実を全部もぎ取ってしまうからである。スカートゥはほぼ熟した果実を（鋤作業中）外で見つけ、食べてしまった。

ゴッキング

1944年12月29日

昨日魚が届いた、が収容所全員に総重量およそ30kg以上はないのでホン [バラック] 全部には同時に魚は支給されない。順番なのである。

ゴッキング

1944年12月30日

タバコが100g当り80ギルダーになる。恥ずべきことではないか？ 売り手がこれで受け取るお金には価値が全くないことを願う。国際通貨として使用しようとするならば価値はないだろう。507回分のタバコの注文が入荷した。注文した者は各自25gの汚い混ざりもののゲイパータバコがもらえる。2個分のココヤシと同等の0.50ギルダー。だから100g当り2.20ギルダーになり、収容所では25gが7.50ギルダーになる。馬鹿げている。（親切な）マースマンから15枚の素晴らしい大判の紙とファルコンの絵画用3Bの鉛筆をもらった。だからしばらくはこの日記を続けても大丈夫だ。昼食は炒めた魚にトウモロコシと野菜。今晚はまたトウモロコシとタレに野菜とサンバルだけだ。スカートゥが今日の午後お茶を沸かしてトウモロコシのパンケーキを料理した。乾いたものだが、いつもとは違う味である。

クラウト

1944年12月30日

昨晚は薪が粗悪だったため遅くなってからの食事だった。注文のタバコがもう届いた。注文者たちは24.3 g 支給される。…中略… 自動車のバンパーの欠片で現在男たちは肉挽き器の新しい刃を作るようだ。タバコはキロ当り25ギルダー、だから一人分0.625ギルダーだ。われわれにとっては、一人にココヤシが2個半もらえるチャンスだ。アードリアンは良く食べ、見た目はよい顔色である。彼はたっぷりある夜食の粥に食傷ぎみだ。

ゴッキンガ

1945年1月1日

1945年1月1日からの献立は、

朝食：米45 g、ガプレック [乾燥キャッサバ] 45 g、ココヤシ14 g

昼食：トウモロコシ89 g、魚14 g、ココヤシ14 g

夕食：米75 g、ココヤシ14 g、油13 g、ガプレック45 g

…中略… 昨晚遅く収容所監督は2月分のお金、すなわち802ギルダーを受け取った。スカートゥと私の体重はそれぞれ54.5kgと55kgである。1月1日付け我々の自前の蓄えは、油5瓶、[カチャン] イジョ [小粒のグリーンピース] 500 g、塩1kg、[イカン] テリ300 g、うずら豆500 g、カチャン・バタック [小粒のうずら豆] 500 g、茶60 g、砂糖8 g、イワシの缶詰2缶、コンビーフ2缶、ミルク2缶、オート麦2缶、マーガリン340 g、クリーム [ミルク] 一缶だ。…中略… 青豆スープの缶詰めをホン [バラック] で開けた。なんて良い香りだ！突然空腹を感じる。スカートゥも同様。涎が単に口から流れ出す！液状のグラ・バタック [ヤシ砂糖] が一人200ccづつ分配された。今日の午後スカートゥは私をおいしいカチャン・イジョのスープと米で新年を祝い、驚かせてくれた。心ゆくまで味わった。午後急に雨になり、また飲み水がたっぷりだ。新鮮でうまい。

クラウト

1945年1月2日

外出は許可されないとヤップが云ったにもかかわらず、今朝輸送班がランタウパラパトに向かう必要がある。9490リットルの油のトンカン [荷船] が着いたのだ。一人につき1リット

ル受け取る。様々な連中が置き場所をみつけるのに苦労している。現在我々には一人あと2リットル支給される。

ゴッキング

1945年1月2日

チャベ [唐辛子] がなくなった。だから炊事場からのサンバルももうない。昨晚およそ40kgの小魚と野菜が入荷した。カゴがとてもブスーク [悪い] だったので、魚は全部地面に落ちてしまった。野菜は全部カンクン [野菜の一種] のみである。収容所にある木から大きなデュリアン [香りの強いフルーツ] の実が一個落ちた。そしてそれをスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が要求したのだ！待ち伏せていた若者たちにとっては打撃である。ランタウパラバトにヤシ油およそ9500kg入ったタンク車一台が到着した。そのうちの一部は既に収容所に運ばれている。現在皆は現物で1リットル受け取っている。川からの油を収容所に運んだ集団は、体中ヤシ油だらけである。「川の傍で油が道に流れていた」と云った。これは個人注文分の油だ！

ゴッキング

1945年1月3日

ガプレック [乾燥キャッサバ] もほとんどなくなっている。残りは粥用に保存しておく。現在夕食は米だけ、ということは1日45g食糧が減っていることである。だから我々は今日から一人50gの自前の米にちょっと多めの油、すなわち一人一日約30gの油を補充食として始めた。…中略… 現在総計で10000リットルの油が入荷した、そのうちすでに半分が収容所内に届いている。皆は本日また1リットル現物で受け取り、合計2リットルだ。予備は3ヶ月間分確保されている、すなわち一人一日63gである。

ゴッキング

1945年1月4日

ひどい空腹で目が覚めた。嫌な気分だ。…中略… 若い少年たちが収容所を歩き鶏のようにトウモロコシや米の粒を拾い集め、まだ何か食べられるものを見つけるのだ。トウモロコシからコーヒーが作られる、味は変だ、突然違った味だ。小さな子供たちは工夫し、何でもする、まるでノネズミたちのようだ。ヤシ油を全部合わせて今3リットル、3000cc収容所から



受け取った。それでヤシ油の蓄えの合計は今9205cc、一人一日30ccで5ヶ月間、すなわち今年の5月まで十分である。…中略…ココヤシの予備はなくなった。明朝の粥の分だけである。それでもうなくなる。

ボス

1945年1月5日

収容所のヤミ米（我々の蓄えから盗まれた）は、キロ当り70ギルダーで売られている。（ヤシ）油はリットル当り15ギルダーだ。きわめて細く巻いたタバコは、外部では0.60ギルダーのものが収容所内では12.50ギルダーで売られている。さっきタバコ10gを6ギルダーで受け取ったところだ！

ゴッキング

1945年1月5日

収容所のココヤシの蓄えはなくなった、言い換えれば一日一人41gココヤシの実が減ると言うことだ。

メンデス

1945年1月5日

ヤップ配給の食事が全く不十分なので、3度の食事を維持できるよう余分にガプレック [乾燥キャッサバ] などの注文を可能にするため、収容所の人々は14日前自主的にお金を出し合った。その注文したガプレックはまだ届かないし、それで数日前からまた配給が減らされたというのが、現在までの状況である。だから今のところ以下のような食事とカロリー、すなわち朝食75g、あるいは250cal、昼食90g、あるいは300cal、夕食125g、あるいは410calである。油は3匙で324cal、魚は10calで合計1294calのみである。

ゴッキング

1945年1月7日

ヤップはカンクン [野菜] にキロ当り0.60ギルダー、我々に配給される粗悪な魚にキロ当り

2.50ギルダーを支払っている。昔はこのような魚はプラウ船一杯で15ギルダーがパサール [市場] の値段だった。不均衡がめだっており、そしてすべての品物がこういうぐあいになっ  
ていく。こんな話しを聞くと日本のお金は全く価値がないということがわかる。クリッ  
ト・ホルストマンから消しゴムとしてゴムのかかとを受け取った。かかとはすごくありが  
たいものだ。我々は現在トウモロコシをファン・オメンさんの挽き器で挽いてもらっている。  
すりつぶすと味も良くなるし、消化が良くなる。ファン・オメンは一匙分のトウモロコシを  
報酬として取る。ガブレック [乾燥キャッサバ] が入荷し、明日は再びいつものようにガブ  
レックを粥に混ぜる。そして明日の夜は真珠湾粥だ。よって今日の夜は125 g のかわりに175  
g の米である。…中略… 愛煙家には一人0.265ギルダー分の約25 g のタバコが配給される。  
タバコを注文しないものたちにはいまのところ一人当たり1個のココヤシが分配される。…  
中略… エビ、ムール貝、魚が届く、かなりブスーク [悪い] な屑である。6000個のココヤ  
シ、ガブレック3000kgが入荷。スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] がオンス、すなわ  
ち100 g の食事を得る。彼らはほとんど靴をもっていないし、たくさんの傷が脚にある。…  
中略… 我々はだから再び一日一人100 g のガブレックを余分にもらえる。ヤップはジャラッ  
クすなわち万能薬用オイルを納める。多くの人々が下痢だと聞くのも不思議ではない。一人  
一日およそ15 g から20 g もらえるらしい。炊事場は現在一人一日約油55 g を支給する。だか  
ら自前の一日15 g と合わせて70 g 。加えてココヤシなど。だいたい一日100 g ほどになる。

メンデス

1945年1月7日

今日ついにガブレック [乾燥キャッサバ] が届いた。これで明日からの配給がまた増える。

クラウト

1945年1月8日

キロ当たり2ギルダーのガブレック [乾燥キャッサバ] を2558kgと1個0.25ギルダーのココヤシ  
を5000個、本日受け取った。まだ1000個のココヤシが予想されている。そうするとタバコを  
注文しない者たちは一人当たりもう1個半もらえることになる。それからガブレック500kg  
も予定されている。14日分十分ある。4000個のココヤシと3000kgのガブレックを余分に注  
文したので、また1月に3度の食事が確保された。納品された物資の金額は油を除き6366ギル  
ダーだ。

ゴッキングガ

1945年1月8日

本日練り歯磨きを特別食炊事場に取りに行く。練り歯磨きとは、小さな缶に僅かなふるいに掛けた灰のことを云う。同様に石鹼の代わりに灰汁ももらうことができる。このような代替え品の結果、歯、衣類、手、皮膚、髪の毛などすべてが同様に汚く不潔になるのだ。なんと不潔なことか。君たちがまだ我々のように不潔で惨めでないことをいかに感謝していることか。

クラウト

1945年1月9日

いろんな若者たちがデュリアン [香りの強いフルーツ] やピサンを取るために鉄条網の下を這っている。スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] たちは気付いている。

ボス

1945年1月9日

最近の献立は米の粥45g、ガプレック [乾燥キャッサバ] 45g とココヤシ。昼食はトウモロコシ90g とタレ、サユール [野菜]、焼き魚。夕食は米150g とサユール、タレ、サンバルあるいは「P.H.粥」、この意味は「真珠湾粥」、またはほとんど「プーハー」粥と呼ばれている。これは炒めた米・ガプレック・ココヤシ・野菜と油で作られる。全部合わせると最高にうまい！

ゴッキングガ

1945年1月10日

人々は常に内臓のことを心配している。ここでの不潔な食事をみれば不思議なことではない。全ては良質とはもはや云えないもので、しかも汚い屑である。いかに腹や胃がこのような不潔なものに耐えられるのかは驚くべきことである。「暴動がおきても不思議ではない」。この収容所では配給の食糧目録にあるものは入っていないことも私は確信している。調査はもちろん、昔は豚に与えた餌にも劣る屑によるものではなく良質の食事でなされたものである。…中略…人々は2番目の井戸を掘りはじめた。最初の井戸は乾燥期には水を十分供給しない。

収容所の有効な地面はすべて、現在菜園及びウビ [キャッサバ] 菜園に変わったが、土地はやせていて、作物は粗悪で時間をかけないと生育しない。私は魚の残り物から白子・卵塊・レバー・心臓を補充食として取り出すことを試みたが、これは許可されなかった。医師は「ブスーク [悪い]、燃やせ」と云う。だからゴミ籠のそばをまるで腹をすかせた、見苦しい犬のようにこそこそ歩いているのがみられる。小さな子供たちは炊事場の傍に落ちているトゥモロコシ、米、ガプレック [乾燥キャッサバ] の粒をつついていて、彼らがまるで小鳥のように飛び回り、つついてるのは、ネズミによく似ている。ゴミの多くは探索され、食い尽くされる。病気になるのは不思議なのか？大人たちはタバコの吸い殻を拾い集め、それをパイプに詰める。その結果は非常に珍しい病状だ。パイプや紙巻タバコの火もすでにタバコと同様に乏しい。ランタウパラパト収容所の5ギルダールの受領書もらった。一般食糧購入用の収容所資金への私の振り込み分である10ギルダールの一部である。このなかから個々の配給分としてタバコあるいは1個半のココヤシから選んで購入される。509名の愛煙家たち (25g) と1179名のココヤシ愛好家たちだ。一人あたり0.625ギルダール費やされた。タバコ100gあたり2.50ギルダール (収容所では100g当り60ギルダールであった) と1個0.25ギルダールのココヤシになる。

メンデス

1945年1月11日

ある時期から余分に煮炊きするものがなくなったり、「ヤミ」でも何ももらえないこと以外に、喫煙もすでに支払い不可能なほど高いためここ1週間来止めねばならない。タバコはヤミの値段では100g当り4ギルダール支払われ、我々収容所のヤミ商人たちによって100g当り60ギルダールから100ギルダールで売られるのだ。小さな葉巻は1本1.75ギルダールで、時には4ギルダールで売られる。人々は喫煙も否定されるということを受け入れる必要がある。持たざるものたちにとってこのような惨めな収容所生活を、ある程度は快適にできるであろう最後の望みにもかかわらずだ。充分でない食事、飲み物なし、喫煙するものなし、衛生用品もなし、医療品なし、何もなし。皆無、まさしく皆無なのだ。

ゴッキンガ

1945年1月12日

本日扶助品として、砂糖60g、塩50g、緑茶40gを受け取った。砂糖60gと塩50gを交換する人もいるし、その逆もある。またお茶を塩に、或いは砂糖にというように。食事は乾いた薪がないため遅くなってからである。我々の組は魚がもらえず、僅かなエビのみだった。殻

つきのエビが浮き上がっているタレ、美味い。殻だけとは違う。真珠湾粥はもう配給されないと聞く、なぜなのかは聞かされていない。

クラウト

1945年1月12日

肉挽き器は1ヶ月間かけて修理した後、マイエリンクさんによって再現された。今また素晴らしく挽いている。アードリアンはその親分で、デザートスプーン1杯の煮たトウモロコシを挽きに来る客みんなに名指される。今日の午後はすでに20人もの客があった。彼はすでにココヤシの殻に一杯のトウモロコシを持っている。これで我々は美味しい味のクッキーを焼く。アードリアンは（挽き代をもらうのに）非常に熱心だ。良いことだと思う。私の杓子がまたなくなった。一昨日の朝はまだ使っていた。アードリアンは吊り下げたよと云う。

ゴッキンガ

1945年1月13日

噂によれば日本軍には来る3ヶ月間の食糧が貯えられているとのことだ。安心感はある、が3ヶ月は待つ者たちにとって長い期間である。空地はすべて現在菜園に成り変わった。土地はやせ、作物の生育は非常に悪い。…中略… 残念ながら真珠湾粥が再開された。医師によって炊事場で油を多く使うので、下痢予防のため個人で油は加えてはならないという警告が出された。3000個のココヤシが入荷。一人1個半だ。…中略… また魚と野菜がたっぷり入荷。ヤップはスカリラ[日本軍インドネシア人補助兵]たちが我々から魚を取り上げるのを禁じた。

メンデス

1945年1月14日

ガブレック [乾燥キャッサバ] がなくなった、来る日々は食事配給が減る。それで徴集されたお金で注文がなされたが、いまだに届かない。このように我々は生き延びるのである！

クラウト

1945年1月15日

青少年ホン [青少年バラック] の若者たちはスープを食べきれないでいる。今晚も食事は多かった。タレなしのご飯とトウモロコシ（挽き代として稼いだ）。アードリアンと私もコーの誕生日の祝いとして食べた。232kgのウビ・カユ [キャッサバ] が購入された。これはタレに使われる。タバコのヤミ値は100 g 当り75ギルダーである。キニーネは1 g が7ギルダー。明日、人々はココヤシなどの購入のためにどれくらい寄付するのか、再び申し出ることができる。タバコか2個のココヤシかを個人的に選ぶことができる。

ゴッキンガ

1945年1月15日

ヤップが収容所のためにウビ・カユ [キャッサバ] を載せたプラウ船を停めた。ということは一人当たり総計100 g、すなわち正味約70 g である。それは米20 g と同価値である。…中略… 朝から空腹で、一日中腹を空かしている。ますますひどくなる。疑いなく厄介なことだ。いやに肥って傍を歩く炊事班以外は、皆なんと痩せていくのだろう。そして私は今なお喫煙している。最後に残った僅かな粉もなくなって、今は米国人がやって来るまで欠乏したまま、来るのはいつだろう？…中略… 抑留者のために約束された2度目のお金が明日振り込まれる。人々はまた自前でタバコやココヤシの注文を試みるだろう。再度収容所資金にもお金を振り込む。私は5ギルダー。再びタバコとココヤシ注文の登録があり、我々はココヤシを注文した。

クラウト

1945年1月16日

収容所監督によってタバコを十分購入する活動が行われている。抑留者たちに売って儲けを得るためだ。儲けは他の食糧の購入に利用される。…中略… 今週、ヤップは青少年たちにデュリアン [香りの強いフルーツ] を摘み取る許可を与えた。それで時々1個づつアタップダーケン [ヤシの葉で葺いた屋根] からちょうどフライパンの上に落ちてくるのだ。

ゴッキング

1945年1月16日

収容所配給のカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] がなくなってきて、それで重症患者は現在100 g のかわりに一日50 g と小魚が配給される。これでタンパク質不足が原因の栄養不良性浮腫が回復するようだ。…中略… 現在我々の献立は、粥半分と油、午前11時にあと半分の冷たい粥におろしたココヤシと茶匙に溶けたグラ・バタック [ココヤシ砂糖] がつく。粥が冷たいとガプレックの味 [乾燥キャッサバの味] が消える。昼食はトウモロコシ [挽かせたもの]、魚のタレ、匙1杯の油と野菜と各自焼いた魚。夕食は野菜粥。それでもありがたいことに健康なまま1日が過ぎる。…中略… 井戸からの水を煮ないで飲むのは危険である。この中には死んだネズミや生きたネズミが捕らえられているのだ。炊事場ではこの水で我々の食糧を煮炊きする。…中略… クワリ [鍋] を洗う青少年たち、すなわちゲルダーマンス兄弟はそれを塩、コショウ、油で炒める、掃いて棄てるほどある。スカートゥももらった。

ゴッキング

1945年1月17日

私は朝、スカートゥのために粥をパンケーキとして焼いている。これはすなわち鼻水が止まらなく、目に涙がたまり、手は汚れ、機嫌が悪く、そして焼けたクラ [お焦げ] を意味する。昔は我々の犬、小村落の犬でさえ振り向きもしなかつたろうこの食事を人々は「美味しい」という。明日ガプレック [乾燥キャッサバ] が届かなければ、明晩もう1度だけ真珠湾粥で、その後夕食はタレなしのご飯のみになる。すなわち1日50 g 減少するということだ。あと数日は朝粥はもつが、また1日2度の食事になる。…中略… 2度目の資金集めで3480ギルダ集った。我々12名の夕食に米は僅かしかない。炊事場に苦情を述べた。その時に6人分のクラ [お焦げ] をもらい、今回は6人に余分の米がもらえる。ウビのタレ [キャッサバのタレ] はとても美味かった。食事はますます遅くなる、ほとんど暗くなってからだ。

ゴッキング

1945年1月18日

我々の組の半分にしか焼いた魚はでなかった。…中略… 収容所監督がランタウパラパトの納入業者に自ら電話注文できる許可が下りた。その結果現在2000kgのガプレック [乾燥キャ

ッサバ]と4500個のココヤシが入荷し、タバコ注文をしなかった者は一人1個もらえる。ガブレックが届いたので通常の食事になる。だから一人1日50g減少は見送られる。

ゴッキンガ

1945年1月19日

ブスーク [悪い] なココヤシは午後4時半と5時の間に交換。…中略… 真珠湾粥は多くの者にとってみたくもないし我慢ができないものである。スカートゥは今ココヤシ2個でスルンデン [おろしたココヤシを焼いたもの] を作った。…中略… 収容所の門までウビ [キャッサバ] を植えるためすべて雑草が取り除かれた。日本人は米を望んでいる。谷間にパディ [米] を植えることを望み、我々がまだしばらくここに抑留されるであろうことを勘定に入れている。ブルッ。

ゴッキンガ

1945年1月21日

1ヶ月前ヤップために体重を測ったものたちが、再度測って皆体重が減ったことが分った。ある者は7kg減った。スカートゥの年代の若者も7kg減少している。ここでは今骸骨のようになった者が多くみられる。…中略… 来る10日分の配給が大量に届いた。米3500kgすなわち一人一日196g、トウモロコシ一人一日100g (1780kg)、ココヤシ油268リットルすなわち一人一日15g、砂糖一人一日14gすなわち250kg、塩一人一日9gすなわち160kgである。我々のガブレック [乾燥キャッサバ] の蓄えは2月5日まで十分ある。ココヤシは2月8日まで、その先はどうなることか。…中略… ヤップ配給の野菜はカンコン [野菜]、ウビ・カユの葉 [キャッサバの葉] とシダ、加えて収容所菜園からのウビの葉に、収容所からのチャベ・ラウイット [小さい非常に辛い唐辛子] もある。…中略… 夕食はムール貝とココヤシ、デュリアンの実と種に塩、コショウと油のタレが美味い。我々のコックのオーステルマンは料理に関しては真の芸術家である。

ゴッキンガ

1945年1月23日

1月24日から試しに朝食がガブレック [乾燥キャッサバ] 粥がおよそ90g、昼食トウモロコ



シ100 g、夕食米180 gになる。夜の粥はこれでなくなる。…中略… 朝の粥のなかにはおよそ30 gのココヤシが入る。

ゴッキングガ

1945年1月24日

もうすでに14日間ほど喫煙していない。もう1本もない。とても寂しく思う。

ゴッキングガ

1945年1月25日

朝はガブレック [乾燥キャッサバ] だけの新しい粥だ。以前のものよりひどくはない。しかも長所としては米を台なしにしないで夕食専用に行けることだ。油を少しまぜると食べられる物になるがあまり腹の足しにはならない。…中略… スカートゥは昨晚の粥の一部からおいしいパンケーキを4枚作り、砂糖とシナモンをふって食べた。おいしい。なんと変わりばえがすることか。…中略… 炊事場は薪不足により青少年ホン [青少年バラック] のために湯を沸かすことができない。200人の子供たちは自分たちで煮炊きする必要がある、彼らには炊事道具さえない。…中略… 収容所最初のウビ・ランバット [サツマイモ] を特別食と普通食の炊事場用に収獲した。…中略… 家禽がまだ歩き回っているとの通達。今は小屋の中に入れる必要があり、足を紐でつないでおくだけではいけない。放し飼いや紐でつながれている家禽はすべて、収容所監督によって食肉用に屠殺され、病人のために調理される。

ドライバーズ

1945年1月25日

小水が陽性になったため特別食が変更。朝食は米40 g、昼食米20 g、夕食米50 gだ。一日あたり米が10 g減る。他は以前と同様<sup>16</sup>。

---

<sup>16</sup> 1944年10月31日のドライバーズ日記の断片参照。

ゴッキング

1945年1月26日

夜中におおがかりなタバコの取引、キロ当りおよそ700から800ギルダーだ。まだ0.02ギルダーの葉巻を持っている者たちがいる。彼らはこれを1皿の粥に、アブジュラタバコを1皿半の米に交換する。…中略… 毎日いくらかウビ・ランバット [サツマイモ] が収穫される。あまりよいとは云えないが収穫量はまずまずだ。…中略… ここでの体重計によると1944年10月20日以来体重が55kgから49.5kgに減っている。私は体重計がおかしいと怪しんでいる。補充に一人米75gとサンテン [ココナッツミルク] と砂糖を少々を食べた。…中略… 太って頑丈な男のポラックが突然弱って気を失った。今栄養不足が非常にめだつようになり、私も気づいている。現在の食事でなにも変化がない限り健康をぎりぎり維持できる。

ボス

1945年1月28日

空腹が深刻になった顕著な見本。スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] が立ってデュリアン [香りの強いフルーツ] を食べ、種を吐き出す。ブランダ [オランダ人] たちがこの種を炒めるために拾い集めてよいかと尋ねる。また皮も求める。それでスカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] たちが「何のため？」と云うと「サユール [野菜] を作るためだ！」と答える…。食糧事情はまさに劣悪だ。人々は現在、野ネズミ・ネズミ・カエルも食べている…。猫は秘密裏に消えて行き、一匹しかいなかったサルも食べられてしまった。

ゴッキング

1945年1月28日

収容所監督の次の計画。3月の補充食のためにまた5000ギルダーまで資金が求められた。この資金から個人注文分はできない。もし8000ギルダー振り込みがあれば、その20%の1600ギルダーを個人注文用に、金額に比例して使えるようにする。もしヤップが容認すれば、タバコ、ガプレック [乾燥キャッサバ] ココヤシ、干し魚が注文できる、あるいは少なくとも望めるだろう。この資金を申し出ないものたちには、他人のお金では余分に注文できないのも長所である。この強要によりたぶん人々はもっと予約注文するだろうし、人々はこんな時でさえ「何かを得るにはなさざるをえない」と言う。人々はいかにも自己本位である。…中略… ヘッタースカイは自主的に収容所所長のための紙巻タバコを巻くのを申し出た。彼は午前中4時間巻いてそれでいく本かの紙巻タバコ、時にはお茶かデュリアン [香りの強いフ

ルーツ] がもらえると少なくとも彼は云う。私は疑問に思っている。腹を空かし喫煙したいという人はすでになんでもやってしまう。私にはできない。

クラウト

1945年1月28日

今朝は7時にはもうバラックでお茶を沸かした。その後自前のうずら豆を前もって煮ておく。アードリアンはだから起床とともに温かいお茶を飲んだ。今日はお金を支払ってくれる客が50名あった。コックには3回分無料、ファン・ゲントには2回分だから、実際は55名の客になる。…中略…現在人々からお金を徴集するための提案が出されている。振り込まれた資金の20%を個人注文にまわす。3度の食事を3月いっぱい続行させるためだ。

ゴッキング

1945年1月29日

日本軍司令官が2月にはトウモロコシがもう支給されずサゴになるというウレシイ知らせをもたらした。トウモロコシと同じ量ならカロリーは少し高いが、しかしタンパク質と脂肪は含まれていない。これはすでに我々には不足しているタンパクが8gと4%の脂肪が不足することである。「ここから生きてでられるのか?」とそろそろ自問する。常に不安に思っていたように、徐々に我々を衰弱させるのである。そのように思える。

クラウト

1945年1月29日

先週、パネット医師がヤップの将校と我々の食糧状況について長時間話し合った。医師は我々には一日500gの米が必要であることを将校に説得した。我々にそれが支給されるのかはまた別問題だが。薬品にはものすごい値段がつけられている。キニーネ0.2gが2.50ギルダ一だ。今日の午後70回分のトウモロコシを挽いた。どんな競争相手も私の大きな粉挽き器は、ものともしない。我々は毎日午後かなりの量のトウモロコシを食べている。アードリアンも大好物だ。

クラウト

1945年1月30日

収容所監督はヤップに1月は31日あると納得させた。だから10日ごとの配給の計算では1日足りなくなるのだ。彼はこれに同意した。我々は明日の午後米を80 g 余分に、そして2月1日にも余分にもらえる。その上1月31日の夜には一回分余計にトウモロコシだ。

ゴッキンガ

1945年1月31日

スカートゥは今日ゲルダーマンス兄弟をはじめとするボーイスカウトたちと一緒に配給米とトウモロコシでベアトリックス王女の誕生日と一日余分の配給を祝ってナシ・ゴーレンを作った。今日の昼食は米が余分に80 g、夕食はトウモロコシが80 g。我々の特別食もそれぞれ160 gと260 gの米の粥。悲惨なものだ。ベアトリックスはもっと美味しいものを食べているだろう。山のふもとで2匹の大きなシカが見られた。はるかかなたのタンパク質。1782名の男たちにとってなんと突然の気分転換なのだろう。スカートゥは弱り、痩せ、やる気が起こらないようだ。マームス、私はどんなにか心配している。

クラウト

1945年1月31日

今日の午後は60名の客で、今晚もまたたくさん。我々はまた再びかなりの乾燥トウモロコシをすでに煮たものを蓄えにもらった。もちろん嫉妬がある。が哀れまれるより、うらやましがられた方がましだ。

クラウト

1945年2月1日

3度の食事のために3月は7500ギルダーが必要である。誰もが申出ることができる。収容所監督はすでにかなり妥協している。個人注文に20%を使うことができる、前回分の振り込みからもだ。タバコの値段は100 g 当り2.50ギルダー、イカン・アシン [塩干し魚] 100 g 当り0.75ギルダー、ココヤシ1個0.25ギルダー、ガブレック [乾燥キャッサバ] が100 g 当り0.20ギルダーである。

ボス

1945年2月2日

喫煙はあきらめた。タバコはきつすぎるし高すぎる。12gの紙巻が8ギルダーもする！ヤミの物品だ。

ゴッキング

1945年2月2日

誰かが今晚鶏を盗み、暗くなってから焼いた。人々が腹を空かすともっときちがいじみたことが起こるだろう。20ギルダーを振り込んだ。そのうち20%、加えて前回の10ギルダーの振り込み分の20%、合わせて6ギルダー分が個人分である。2.25ギルダーで300gのイカン・アシン [塩干し魚]、そしてココヤシ15個を注文。現在我々の持っている油やココヤシなどと合わせておよそ2032calになると思われる。しかしこのカロリーやタンパク質のおかげで気が狂いそうになる。食事は皆にとって煩雑なものである。…中略… 医師と話し合い、私のお金で700gの干し魚と3個のココヤシを注文した。

クラウド

1945年2月2日

私は50ギルダー振り込んだ。だから50ギルダーの20%と前回の振込分10ギルダーの20%あわせて12ギルダーを個人注文に使える。これを1600gの塩漬け魚にあてる。

ボス

1945年2月3日

献立はトウモロコシの代わりにサゴになる。食べられたものではない。不潔な物である。病気になる。少なくとも私や多くの人たちにとって。このようなものはこれまで食べさせられたことがなかった。

ゴッキング

1945年2月4日

多くの人々が腐ったエビでひどい目にあっている。生命にかかわるものだ。…中略… 本日はぶん最後のトウモロコシで、その後古いブスーク [悪い] なサゴになる。…中略… 幸いまだ炊事場の近くにいるので良いこともあるが、とても厳しいものもある。空腹だと一日中よだれを垂らすような匂いなのだ。

ゴッキング

1945年2月5日

ヤップは本日1月の食糧分の金額8010ギルダーを支払った。非常に僅かな量の米だとの苦情へは「米は未熟なうちに収穫されたため質が悪く、(虫か鳥などによって)被害を受けたなど、など」との返答。…中略… 医師たちはヤップに「祈りをこめて」食糧事情に関する報告書を送り、食糧の積み荷が不足していること、タンパク質の大欠乏で一般的に体重が減少しすぎているということ、多くが病気であること、死亡していること、衰弱していることなどの苦情を述べた。我々は自前で米60g余分に料理した。ああ君、何という状況だ。難しい、非常に困難になっている。夜にお湯を沸かす、飲み水を得るため永久に湯を沸かしているのである。

クラウト

1945年2月5日

ヤップからまた8000ギルダー受け取った。資金は3月分の食事のために7367ギルダー集った。ここからはまだ20%と前回徴集分の20%が引かれる。今夜は初めてのサゴ粥だ。90gというものすごい量だ。人はすべてに適応する必要がある。特に収容所の食事に関しては。いくらか塩と砂糖を加えればなんとかなる。

ゴッキング

1945年2月6日

多くが昨夜のサゴ粥を口の中に入れることさえできなかった。幾人かは吐き出した。スカートゥと私は不快感と胸焼けの一手前だった。我々は温かいお茶に少し砂糖を入れ助かった。

昨晚と今朝のサゴ粥でスカートゥは午前と午後パンケーキを焼いた。焼けば実際かなりおいしいしカリッとしている。砂糖少しと数枚は塩・コショウで食べた。そうすればうまい。湯沸し小屋は人でいっぱいだ。みんなサゴから何かを作ろうと努めている。幾人かは中華ナベに油をいれてナシ・ゴーレンとして、なんというごちゃまぜ。

昨日はエイがたくさん届いた。80kgだ。だから一人10か20gの代わりにおよそ45gだ。公式には良質のもの50gが我々にもらえる。昨晚スカートゥは鍋をひっかく雑役だった。サゴの削り滓を大量ファン・デル・ザイルのエイシチュウ半皿と交換した。…中略… シャツを洗った。洗濯、あるいは言い換えれば毎日石鹸なしですすぐだけ。塩とお茶が届いた。各自5日分150gの塩をもらった。全部で7袋、350kgだ。…中略… 2月1日から今日まで炊事場からは塩なしの食事だった。収容所で塩は100g当り10ギルダーで売られている。…中略…

収容所ではヘビ、イグアナ、ネズミ、ノネズミ、カエル、イナゴ、ミズヘビが食されている。そしてスンガイ・センコルでは、ここでは捕まえることが難しいサルなど全部ヤシ油で炒めるのだ。…中略… 夜スカートゥはクリットからかなりの米と野菜をもらった。私はまだ半皿の粥を保存しており、それを焼く。3度目の食事はスカートゥがナシ・ゴーレン、私は米のクッキー。スカートゥが私のクッキーをひっくり返す時に、コンロの中にクッキーが消えてしまった。クッキーが消えた時のスカートゥの顔をみせたかったよ。ともあれ我々はクッキーを火の中から取り出しゆっくり焼き続けた。クッキーは成功だった。全部焼きあがった後は満たされた気分になった。

ゴッキングガ

1945年2月7日

今日何も入荷しないと明日は2度の食事しかでない。昨日はかなり多くのエイが入荷した。約70kgだから一人40gだ。エイの肉は青紫色でにおうが何とか食べられる。何でも食べる。胃や内臓が時には抗うのは何の不思議もない。我々は現在数ヶ月間カンクン[野菜]を食べ、最近は菜園のウビ葉[キャッサバの葉]を少し食べている。自前のお金で買ったフルーツはまだ2度しかお目にかかっていない。…中略… スカートゥのスパイクシューズの釘を取り除いた、サッカーシューズと長靴以外はもう靴としては使い物にならないからだ。

メンデス

1945年2月7日

まだガブレック [乾燥キャッサバ] は届かない。明日からはヤップの配給分しか届かないと云われている。すなわちその内訳は90 g のサゴとトウモロコシ、182.5 g の米である。

ゴッキング

1945年2月8日

サゴは少なすぎるしガブレックはなくなった。本日の献立は朝食が米45 g、昼食は米135 g (通常より45 g 減少)、夕食は90 g のサゴ粥だから、我々は現在275 g すなわち1620cal、25 g のタンパク質、67 g の油をもらっていることになる。これはこれまでの中で最低量である。私はスカートゥのために特別な手配をした。彼は病後健康をもう少し取り戻す必要がある。昨日多量の、すなわち85kg以上の良質のエイが届いた。それでスカートゥのサゴ粥をファン・デル・ザイルのエイシチュー半分と交換する。これで5 g の動物性タンパクと25 g の油を余分に摂取できることになる。およそ340calの不足は自前の100 g の米 (幸いまだ持っていた) でまかなう。スカートゥにタンパク多量、動物性タンパクはそのうち11.25 g のみだが特別食を続行させる。今日の彼の特別食は全部合わせて2013cal、43.5 g のタンパク質 (そのうち11 g が動物性) と98 g の油である。すべて知恵をしばって考え出したり実行したりするのは厄介なことである。

もし今日注文分が至急入荷しなければ、我々は生け贄になり、自前の蓄えに手をつけなければならないだろう。…中略… 青少年たちは皆イナゴ取りだ。今日はネズミ、野ネズミ、イナゴ、カエル、ヘビなどなど。子供たちが皮をはいだり、焼いたり食べたりするのをみてごらん、しかしひどいことではないか。骨の髄まで身にこたえる。…中略… ばんざい、ガブレックが中に運び込まれる、緊急時の助けた。午後ホン[バラック]ごとに碎かれる。…中略…ガブレックが入荷した。2100kgだ。あと6000kg待ち望まれている。しかし現在お金が充分ないため、注文分のガブレックは2倍の時間がかかり、粥は100 g の代わりに50 g しかももらえない。今日から開始される。もっと栄養価が同じで脂肪とタンパク質がすこしでも多いココヤシを注文する予定だ。炊事場ではこれ以上のココヤシを調理することができず、一人5日に1個の割合で支給される。いまのところ一日ガブレック90 g、トウモロコシ90 g、米180 gだ。米とトウモロコシはこのまま維持したい、そして必要ならばたぶん2月15日からはなろうがガブレックをサゴに混ぜる。…中略… 数人の医師は屋根からの雨水は飲んでも良いと云う。他の医師たちは駄目だという。我々は良いという助言に従う。煮炊きが節約できるし、この水はより良い味なのである。医師たちも二十人ぐらいが集ると、儲けにはならないのだからトリックを使わなくても良いので、なかなか同じ意見にはならないようだ。



メンデス

1945年2月9日

ついにまたガブレック [乾燥キャッサバ] が入荷。そして今日は通常の食事だ。このように我々は生き延びていく。

クラウト

1945年2月10日

2月11日から20日までの期間のために届けられた配給は一番悲惨なものだ。監督は抗議するつもりだ。我々のお金からの分で85gの魚が入荷した。くじ引きによって我々のホン [バラック] が最初にもらえることになった。

ゴッキンガ

1945年2月10日

サゴとガブレック [乾燥キャッサバ] 半々の食事が試みられた。それぞれ別々でもすでに美味くないのだが全く相違はない。…中略… 野菜あるいはウビ屑 [キャッサバの屑] を拾い集めることは厳しく禁止されている。特定の人がこの仕事をし、炊事場に持っていくのだ。輸送班は熱心に働いた。トウモロコシ・砂糖・塩などが入荷。今晚はおそらく配給最後の日で少し余っているため米がたくさんある。我々は配給の塩やお茶などをすこしづつ余らせ在庫ができるように非常に節約している。ヤップの配給が止まった場合、これらが利用される。明らかに予防措置である。…中略… 次の10日分の配給が入荷した、ひどいものだ。以下のもので、一人一日米173g、トウモロコシ4日分77g、サゴ6日分74g、砂糖10日分（配給全期間）で190g、塩10日分（全期間）で70gだ。今では時間との競走だ。どちらが勝つのか、我々の健康それとも時間？救援が間近であることだけを望む。今はもう20日間ヤップからの油がない。だから収容所保存のヤシ油のみに頼っている。一人一日45gだから75リットルだ。3ヶ月計算では持たないだろう。小魚がたくさん入荷した。皆各自1匹もらえるようだ。これは本当に昔は絶対に売り物にならない屑の、食卓にのせるものではなく飾り物の魚である。この魚を夜中の12時か2時までに何人か？ではらわたを取る、到着するのは午後7時頃だが、その時に魚はすでにブスーク [悪い] で、取った内臓は腐っている。惨めなものである。

クラウト

1945年2月11日

今朝アードリアンは20人の少年たちと鍋底をさらった。これで美味しいクッキーを焼いている。一人の少年が私のクッキー用サジを使うのを見た。すぐに差し押さえた。ヤップは現在毎日魚、小さいのや大きいエイを送り込む。エイからはおいしいシチューができる。…中略… 今夜はタレと野菜とでサゴを食べた。サゴで気持ち悪くなる人がたくさんいる。

ゴッキング

1945年2月11日

今日の献立、朝食はガプレック粥〔乾燥キャッサバの粥〕。昼食は米、野菜、タレ、魚。夕食はサゴ、野菜とタレ。「ヤップにはおよそ1, 2, 3, 4月までの蓄えがあるぞ」とのことだ。そうならば、今のところはともかく大丈夫。…中略… サバンの郵便局長のフィッサーが私の髪の毛を切ってくれた。もし髭剃り用ブラシと石鹸を渡せば髭も剃ってくれるという。問題なく出来ると思う。扶助の塩、一人10日分の90 gが100 g 20ギルダーで取引きされる。100 g当りの砂糖は5ギルダーか7.50ギルダー、100 gのタバコは1本3ギルダーと7.50ギルダーの間で品質とグラム数によって取引きされる。

クラウト

1945年2月12日

今日は1333 gの塩魚を受け取った。我々は大小といわゆる屑の3種類に選り分けた。屑は匙10杯の油で炒めて米の上に添えて食べる。アードリアンの好物だ。我々は一人を除けば、魚を一番多くもらった。いろいろな人たちがどれくらいの量なのかを尋ねてくる。もちろんいろいろな特にお金をもっていないものたちから嫉妬が起こる。フラウトマンは「自分は気にならないだろう」とか、他の通りがかりの者たちは「金持ちと召し使いの区別がある」と云った。これは嫌なことだが我々は自分たちの魚があり喜んでいる。56名（そのうち3名は無料）トウモロコシを挽きに来た客がいた。配給が90 gの代わりに77 gなので少なくなっている。ヤップの食事情もスサー〔困難〕だ。食糧増加の要請が大佐に伝えられた。今の期間は1日がサゴで1日がトウモロコシ、最後の2日はサゴである。またココヤシが届いた。喫煙しない者たちはタバコの価格が高いので一人もう2個余分にココヤシがもらえる。

ドライバース

1945年2月12日

カウエナール医師との話し合いで特別病人食は、朝食は米40gの粥、昼食ウビ[キャッサバ]60gと野菜200gとおろしたココヤシ50g、夕食はウビ115g、野菜200g、焼き魚200gと油145ccである。

ゴッキンガ

1945年2月13日

2月注文分からさらに一人2個余分にココヤシがもらえる。予定していたより一人に半個分多い。これはタバコの値段が思ったより高く、ココヤシが安かった為である。…中略… 5221個のココヤシが入荷、さらに6000個注文、価格は1個0.25ギルダーから0.16ギルダーに値下がった、もし新規注文の値段も0.16ギルダーならばタバコを注文しない者は、各自さらに1個余分にココヤシがもらえる、タバコは100gが3ギルダーであるとの通達。…中略… 私はまだ起こり得るはずの困難な状況に備え、自前分をできるだけ蓄えておく。…中略… 我々のココヤシ3個からスルンデン[おろしたココヤシを焼いたもの]を作った。ココヤシ1個は砂糖約200gになる。自分の食事の米や野菜やタレを7.50ギルダーで売って2.50ギルダーのサゴを買い、残りの5ギルダーでタバコを買う人がいる、タバコ依存症なのだ。ペドロは1本0.50ギルダーで紙巻タバコを売っている、他の人は1本0.75ギルダーである。

クラウト

1945年2月14日

アードリアンはサゴ粥を他の者たちと同様ほとんど食べない。現在それは全くの粗悪品で、紙巻タバコの屑やいろいろなゴミが中に混じっているのだ。劣悪な品質のサゴだ。いつになったらこのような不潔なものから解放されるのだろうか?…中略… 今晚また一度イカン・テリ[塩干しの小魚]と乾燥トウモロコシでおいしいナシ・ゴーレンを作った。アードリアンは舌鼓を打って食べた。今彼の体重は31.5kgで1月21日以降0.5kg増えている。私は現在55.5kgで1944年11月16日には60.5kgあった、だからこの収容所でまた5kg減っている。

ゴッキングガ

1945年2月14日

体重を測ったら軽すぎる事が分った。スカートウの体重は1944年10月26日には54.5キロあったのが49.3キロに減った。私は1945年1月26日49kgから49.5kgに増えていた。医師は私もこのくらいの体重だと憶測していた。平均体重はおよそ50kgで、51kg及びそれ以上は今では重い方だと言う。…中略… 収容所監督に紙、他に何もなければ片面だけでも書ける紙、及びホン [バラック] ごとに一人ずつ食後に薪割りをする志願者計8名を募るとの通達。我々は米をスプーンに半分保存し、これに茶さじ半分の砂糖とシナモンを少しかけてここで苦心の末、正真正銘49キロの体重になるよう儉約生活し、そして生き延びるのである。

ゴッキングガ

1945年2月15日

1月の現金の残高は8604.30ギルダーで、12月の支出は8125.82ギルダー、12月の収入は8348.25ギルダーである。1945年1月の収入は11542ギルダーで総収入は19890.25ギルダー。…中略… 米1袋とサゴが1袋、塩2袋と40カレング [缶] 約600リットルのヤシ油が入荷。これはヤップが2月1日から20日の期間分として注文し、納品されたものの欠損分である。本日から2月20日まで一人に米10gとサゴ17gが余分に支給される。そして塩は2月20日に分配される予定。ヤップは9000kgのウビ・カユ [キャッサバ] は10日分だと伝えた、つまり一人正味およそ700gである。どこにそれを詰め込めばいいのだろうか？ 1日約1000gの汚物が腹にたまる、腹の形が変わらないとすれば私には理解できないことである。大量の不純物ばかり。一体タンパク質はどこにある？…中略… 夕飯にでたサゴ粥はほとんどの人が食べなかったし、気分が悪くなる人も多く、皆が呼び売りしている。

ボス

1945年2月16日

クリール (シアンタルの病棟助手) は朝食に粥を大きな中華鍋に入れて油で炒めクッキーにする。彼は粥を手動こしきにかけて熱した油にいれる。突如警告「気をつけろ、ファン・ブルメンダールがやってくるぞ！」クリールはふるいを下げ、クッキーは消滅、粉々になった！さらばクッキーよ！さらば粥！なんてことだ！クリールはこの日朝食なしだった。

ゴッキングガ

1945年2月17日

本日から一人当たり全部合わせて1500gのウビ〔キャッサバ〕が支給される。食べ尽くさねばならない。さもなければ全部ブスーク〔悪い〕になってしまう。

ゴッキングガ

1945年2月18日

現在朝食の粥はガプレック90gの代わりに60gのガプレック〔乾燥キャッサバ〕と30gのサゴである。チェッ、なんてみんな不潔なのだ。昼食はまたウビ〔キャッサバ〕で、夕食は米。さらに15トン、すなわち15000kgの（ウビ）カユ〔キャッサバ〕が入荷するだろうと通知。今はすべてが酸っぱいウビで臭っている。我々のホン〔バラック〕の地面は腐ったウビの廃棄物で満たされ、グダン〔物資倉庫〕は臭く、ホンも臭い、湯沸し小屋の中はウビだらけ、どこにいてもこの不潔な豚の飼料とその残骸である。

収容所全体は吐瀉物だらけ、気分が悪い人が多い。便所は午前5時から満員で、これ以上凄まじいことはない。大人、子供、年寄り、若い者。便所でお互いに罵り合う、それは長蛇を組んで待ち、すべてが真っ暗闇の中少しも前進しないのだ。小さな子供たちは泣き、若者や大人たちは罵言する、苛立つ音と悪臭である。酷いことだ。神様、なんという状況。一人おおよそ1500gのウビを食べたのだから当然である、豚だって抗えないことだ。私は5時から8時便所でその悲劇を体験した。スカートゥと私は一緒に便所にいたのだが、お互いに知らなかった。…中略… スカートゥはお茶を作り、何と、ウビを焼きに行く。私は今日ウビには絶対に手をつけないぞ。…中略… 幸い本日我々のホンは焼いた魚がもらえる。一日中あちこちでウビが安売りされている。…中略…

再度検便の必要があり、意気消沈、ほとんどなにも食べ物がもらえないのである。今日は90gのガプレックとサゴの粥、180gの乾燥した米一皿とコップ1杯の水。こうして人々は衰弱していく。スカートゥは私が食べてはいけないものがもらえて幸運である。すなわち私の焼いた魚のことである。湯沸し小屋は、大人も子供もウビ・カユから何か作ろうと黒山の人ばかりである。…中略… ほとんどの人が今朝の朝食を取りにいなかったのは昨日のウビが余り過ぎ、粥は好物ではないからだ。

メンデス

1945年2月18日

おそらくウビ・カユ [キャッサバ] が一日2度支給されたのが原因で、今日の夜中に下痢、嘔吐した。2度ノリット錠を服用し、それでまたその日のうちに調子を取り戻した。

ゴッキンガ

1945年2月20日

輸送班が10日分の配給を収集するため外出した。最近はすべて時間厳守なのは驚異的である。ヤップにはまだ約3ヶ月間の食糧が貯蔵されている。安堵感。…中略… 来る8日間の食事は現在次の通りである。2月22日と25日の2日はトウモロコシ日で、この日には185gの米と107gのトウモロコシもある。サゴ日が6日間、すなわち夜に94gのサゴ粥でこの6日間には195gの米である。ホン [バラック] ごとに110gの塩、60gのお茶、一人あたり125gの砂糖が分配される。炊事場は一人につき油約40gと塩10gを食事に混入して支給し、青少年ホンと雑役作業者にはお茶がでる。…中略… 伐採した木材の個人使用は認められず、これは盗みとみなされ処罰に科される。…中略… 3月分を再度注文できる、すなわちガブレック [乾燥キャッサバ]、干し魚、タバコとココヤシである。我々は0.75ギルダーの干し魚とココヤシを一人分ずつ注文した。明日は最後の粥はガブレックとサゴで、その後再度ガブレックだけになる。…中略… このサゴ粥はとても辛く、喉が痛くなるほどで、他の者たちは気分が悪くなるか、あるいは胃痙攣や、消化不良、下痢を起こしている。何が混ざっているのか、神のみぞ知るである。

ゴッキンガ

1945年2月21日

おじからサゴを少しもらった。少し食べて残りは土に埋めた。誰一人欲しがらなかったからだ。…中略… 私自身マットレスに横たわっていても腰が痛くなるほど痩せている、骨張っているからだ。…中略… スカートゥは顔が少し丸くなったように見える、有難い、がやはり頬骨が目立っている。…中略… 病気などで空腹感のない人たちが収容所の食事全部を7.50ギルダーで売っている。ある医師たちによるとサゴには20%の栄養もないとのことだが、他の医師たちはこれとは対立意見である。…中略… 収容所監督がヤップの軍医に、サゴは人間の食べられるものではなく危険なものだ等の苦情を吐いた。ヤップはウビ・カユ [キャッサバ] を送るつもりだと約束した！この3ヶ月間でサゴの蓄えを食べ尽くす必要があるが、

その後はトウモロコシがもらえるだろうと言った。果たして我々に間に合うのだろうか？…  
中略…

本日よりサゴなし、ガプレック粥〔乾燥キャッサバの粥〕のみになる。皆で喝采を送る。最初人々はガプレック粥が不潔で食べられなかったのだが、その後さらに食事がひどくなったため、ガプレックが突然おいしいと思えるのだ。このようにすべてが状況次第なのである。

クラウト

1945年2月21日

サゴを試しに一度洗ってみる。中にたくさんの不純物が混ざっているのは凄まじい。…中略… サゴに関する報告書がヤップのお偉方に手渡された。米かトウモロコシに代えるよう要請した。ヤップもこれを食べていると言われたが、収容所監督はそれを信じなかった。サゴを7回洗浄すれば、なんとか食べられるものになった。だいたい25%くらいが残存する。現在ここから試験用サンプルが携行される。明日は亡くなった人々の所有物の競売がある。夜はすさまじい驟雨。青少年ホン〔青少年バラック〕から大きなバケツ3杯のサゴ粥が便所に棄てられるのを私は見た。ヤップが我々にこのような食べ物を支給するのはやはり恥ずべきことである。

ゴッキンガ

1945年2月22日

不潔なサゴで昨日気分が悪くなった。…中略… 収容所での販売、支払いは担保つきで戦後。人々はかなり狂っているようだ。一足の靴が250ギルダー、コンビーフの缶詰1缶70ギルダー、オートミール粥の缶150ギルダー、シャツ1枚69ギルダー、破れたズボンが82ギルダー、ハサミは12ギルダー、帽子15ギルダーである。全くばかばかしい。…中略… サゴを洗った、セメントのようだ。なんという不潔さ。我々はもうこれ以上食べない。

クラウト

1945年2月22日

死者の所有物の競売では見事な高値がついた。マグカップは17ギルダー、古く汚れたズボンは50ギルダー、スプーン10ギルダー、靴は1足250ギルダー（支払いは戦後）、そしてコーヒーポットは18ギルダーである。非常識だ。

ゴッキングガ

1945年2月23日

我々にヤップは3月15日に再度リットル当り1ギルダのヤシ油が1万リットル収容所に納められるはずだと云った。収容所にはまだ貯えがあるので明日一人540gのヤシ油がもらえる。明日は食糧基金参加申し込み最終日である。収容所中に「まだサゴ粥が欲しい人はいるのか？」と苦悩の叫び声が響く。答える人もなく静寂あるのみ。

ゴッキングガ

1945年2月24日

午前と午後お茶を沸かし、各自余分に50gの米を炊いたので、我々は今日まだサゴを食べていない。このまま明日の53歳の誕生日まで待機する、健康なままで誕生日を迎えたいのだ。本日52歳の誕生日に特別食から解放され、53歳の誕生日は大炊事場で始まる。マームス、歳月はまたたくまに過ぎていく。ヤシ油と塩水をかき混ぜて一種のマヨネーズを作る、さほど悪くない。

ゴッキングガ

1945年2月25日

我々はビタミンB1-8を作る、これはオバットウ・クアット [強力な薬品] だ、すなわち茶さじ2杯のココヤシ水、茶さじ1杯の砂糖と朝食のガプレック粥 [乾燥キャッサバの粥] をスプーンに2杯を24時間置いておく。これは発酵し、翌朝これを少し取り出し新しい粥に入れ、夜食べる。取り出しておいたビビット [酵母] に再度粥と砂糖を補充する。このように我々は本物のヨーグルトをいたって簡単に作る。…中略… ゼイハンデラー氏はネズミやハツカネズミを1匹1匙のヤシ油で買っている。彼はネズミのハラワタを取りだし、焼くのである。最高の食事だ、なぜいけないのだ。若者たちは皆ネズミやハツカネズミを追う、それもまた役立つことである。我々は明日特別洗浄したサゴがもらえる。

ゴッキングガ

1945年2月26日

このサゴは我々のホン [バラック] のため特別洗浄、調理されたものである。これは大成功



で、不純物を全部取り除いた本来のサゴだった。重労働と多量の水を必要とする。したがってホンごとになされる必要があり、それで次は9日を経過した後にまた支給される。…中略… 我々のヨーグルトは大成功であった。ビビット [酵母] は舌がとろけるほど美味い。

メンデス

1945年2月27日

このところずっとサゴ粥ばかりで、人々は頻繁に「路面電車」 [簡易便所] の列に並ぶ。

ゴッキンガ

1945年2月27日

亡くなった人のバラン [荷物] の競売が行われた。ハンカチ4枚が29ギルダー、アンダーシャツが30ギルダーという高値である。支払いは戦後。…中略… ファン・デル・フェルデが私に靴を現金払いの60ギルダーで売ろうと申し出た。また2匹のネズミがスプーン1杯のヤシ油と交換で売り出される、ゼイハンデラーが買い手だ。若者たちは菜園に穴を掘って獲物を探し、菜園を破壊する。収容所は不毛すぎるので全く小鳥は見られないのだが、収容所では小鳥も料理する。…中略… コショウとチャベ [唐辛子] のタレでよく煮たエビは貝のシチューを思い出す。以前とても怖がって決して食べなかったものだ。今では残念に思っている。我々は現在殻がついたままでも食べる、なんという相違だ。残念なことに瓶が熱湯で割れてしまった。なしですますことは難しい。運が悪い。…中略… ヤップの傍で働くものたちは、かつて犬がしたようにごみ箱をかぎまわって野菜の屑を探し出し料理する。これら棄てられた野菜さえ我々がヤップから支給されるものより良質で、豆や他の野菜もあり、おいしい食事になるのである。ヤップからの残飯生活、想像してみてください。我々の作る酵母 (イースト) は大成功で、粥はまさにヨーグルトのようになりとてもひんやりとして酸っぱいものである。

ゴッキンガ

1945年2月28日

マットレスは破れ続け、スカートウの蚊帳も然り。私はまた全部ラテックスで修理するつもりだ。靴ももう一度修繕し、すべてが長持ちすることを願う。…中略… 3月1日から10日までの食糧が入荷。…中略… 前期間の300gの代わりに、一人一日平均全部で251gになった。砂糖5袋すなわち一人95gである。魚を塩漬けするため塩1袋は取っておかれ、だから配給な

し。炊事場はまた塩なしの料理を供給する（幸い我々にはまだ蓄えがある）。…中略… 間違っ  
てウビを取ってしまうため、菜園でネズミやハツカネズミを捕ることは禁じられている。  
…中略… 籠に2盛りのエビが入荷。青く変色したブスーク [悪い] なものだ。多くの人たち  
が早くもエビで軽い中毒を起こしている。

ゴッキング

1945年3月1日

煮たエビの支給は禁じられる、病人が多すぎる。エビは現在ゴーレン [炒め] される。医師  
をはじめ多くの人たちはエビを食べない。病気に罹れば2, 3のエビで腹が満たされるかわり  
に、さらに悪化してしまうからだ。ココヤシはあと1日分ある、すなわち3月2日までで、そ  
れでハビス [終了]。ガブレック [乾燥キャッサバ] はあと10日分、だから3月10日まで。  
「輸送困難である」とヤップは言い、我々がウビ [キャッサバ] 菜園の大収穫の手伝いをす  
るならば、食糧運搬の援助をしようと言う。我々はまたこの策略にひっかかる、すなわちオ  
ルマット [敬意] を払い大収穫をもたらす、がますます少ない食事ということである。我々  
は皆お互いに軟弱な存在で何事にも耐え忍ぶ、が結局何事も起こらないのである。…中略…  
汽車は午後10時になってから(ランタウパラパトに)到着するため、野菜と魚の入荷はなく、  
明日の朝到着。目下このままの状態。魚はそれで全部ブスーク [悪い] になることだろう。

クラウト

1945年3月2日

昨夜は野菜も魚も届かなかった。ヤップは輸送困難(の為)だと言った。他には汽車の運転  
時刻が変更になったらしい。我々はただ成り行きを見守るのみだ。…中略… 12時にたくさ  
んのエイ [魚] と野菜が入荷。監督はヤップから3袋の米を苦心の末もらい下げた。

ゴッキング

1945年3月3日

午後12時に野菜と魚90kgが届いた。魚は非常に傷んだもので直ぐに川に投げ棄てられた。野  
菜も傷んでおり、実際何も残らない。…中略… 本日ココヤシはもうない。

メンデス

1945年3月3日

もらった紙巻1本を例外とすれば、すでに1ヶ月以上喫煙していない。私はヘビースモーカーであり、また周りでたくさん喫煙している人をみているにもかかわらず、人はすべてに順応し、私はもうそれほど気にもならない。

ゴッキンガ

1945年3月4日

私はぜいたくをし、スカートゥと話し合って1巻き10g 3ギルダのタバコを3巻き、すなわち9ギルダで購入した。良質のタバコである。タバコ1本はトイレットペーパーで巻いて約0.08ギルダになり、かなりいける。この1服で気が晴れ、爽快。

メンデス

1945年3月5日

噂と関係があるかどうかは分からないが、収容所でなされた注文がやっこないで、ココヤシはもう食事に混入されないし、ガブレック [乾燥キャッサバ] もあと数日でなくなってしまうとのことだ。タバコももう届いていないし、届く魚やエビは食用に適さないと判断され、川に棄てねばならない。

クラウト

1945年3月6日

ランタウパラパトに10トンの油が着いた。運搬者が1往復400ギルダを請求するので車での輸送は困難である。新しい牛車は3000ギルダの費用がかかる。最近の油の値段はキロ当り0.14706ギルダである。キロ当り2ギルダのガブレック [乾燥キャッサバ] を4000kg注文した。おそらく明日到着するだろう。噂によれば新しく注文した塩漬け魚はキロ当り14ギルダかかり、ココヤシは1個につき0.40ギルダ要求される。

ゴッキングガ

1945年3月7日

多くの人が夜中に捕まえたネズミを焼いている。(調理されたネズミは)炒めた鶏肉のように見える。1匹もらうことができれば、我々も試みるつもりである。…中略…こすり落としたものや粥をパンケーキにしてたっぷりの油で焼いた。配給の昼食には食欲がわかかなかった。聞こえはいいが全部が炭水化物と油で、病気の原因になる恐ろしく偏ったものでむかつくことが多い。偏食の結果は便所でみられるし、臓器に感じられる。…中略…乾燥サゴ(収容所中に満ちた不潔な黒い断片)を炒めている若者にサゴ数個が破裂した時、中華鍋から飛び出した熱した油がすべてはねかかった。…中略…180gの収容所配給米1皿は20gのタバコに、あるいは200gの米の現物が20gのタバコに交換される。500gの米は65ギルダーと同様の金銭価値がある。故デ・フリースさんの balan [荷物] の競売。

クラウト

1945年3月8日

搬送困難にもかかわらず、ヤップは数台の軍用トラックでともかくも油を運び入れた。本日一人2kg支給される。だからまたしても予想以上だった。本来は前回の貨車の油が3ヶ月間、すなわち4月4日までの割り当て分だった、それで現在我々はすでに油で満杯なのだ。今日の午後ファン・デル・スプレングが1700gのバター空き缶を10ギルダー、あるいは3巻きのタバコに売りがっていた(「貸す」と後で聞いた)。油の保存場所をその3分の1で貸している人がいる。

ゴッキングガ

1945年3月8日

本日入荷した10000リットルから2000ccのヤシ油が各自に給付された、これは収容所の個別注文である。400リットル、すなわちドラム2缶が横転した。すくって分配、まあいいだろう。4000kgのガブレック [乾燥キャッサバ] も入荷、朝粥が再度1ヶ月保障される。我々の自前油の蓄えは現在約12000ccである、一人一日30ccで約6ヶ月持つ。米国人と一緒に食事できるだろうか?全部が油、すべてが油で臭く、ぎらぎら、べっとり、びしょびしょである。吐き気を催す、酷い。缶や鍋などなどすべてが油で満たされて、この小屋を一度みて欲しかった。ともかくも油があることは喜ばしいし安心である。

ゴッキング

1945年3月9日

最後の油2kgを受け取ったところである。現在全部合せて16000cc、すなわち16リットル、1カレング [缶] ある。一人一日30cc使うとして6ヶ月から8ヶ月間の油の蓄えがあることになる。米国人が来るのと、油がなくなるのとではどちらが先になるだろう？

ゴッキング

1945年3月10日

フルーツは見ない、フルーツにお目にかかったのは1年以上も前のことだ。ここで数個のブスーク [悪い] を2度もらったが、勘定に入らない。炭水化物とヤシ油、これだけで我々の身体を維持する必要がある、それも非常に粗悪な品質のものである。…中略… 本日魚なし。ヤップは明日2倍になって来ると言う。すなわち魚なしの期間が到来するということだろう。油が今たくさんあるので石油ランプを作る。マースマンからすばらしい鉛筆をもらった。ラントウパラパトで輸送班は0.60ギルダのコーヒーとグラ・バタック [ヤシ砂糖]、7ギルダで幾ばくかの玉ねぎ、キロ当り6ギルダのカチャン・タナー [ピーナッツ] を購入した。フィッサー (デリ鉄道会社) は罾で1.5kgの魚を捕った。彼がそれを焼いていた時、腹を空かした人々、とくに少年たちが大きな輪をつくって彼の周りを囲んでいた。哀れな表情だ。特に今収容所に魚がないのだから。

メンデス

1945年3月12日

ヤップによれば輸送手段がないということだが、とにかくまた3ヶ月分の油が入荷した。にもかかわらず注文分のココヤシ、タバコ、魚は入荷せず、また1週間以上ココヤシなしの食事であった。またエビやムール貝のない日もあり、我々の健康状態は良好とはいえない。また何ヶ月も炊事場からは飲料水が支給されず、人々是一日中飢えと渴きに喘いでいる。

ゴッキング

1945年3月12日

井戸は涸れ、炊事用の水はすべて川から運んでくる必要がある。…中略… 私はスカートウのマットレスと作業ズボンをラテックスで繕った。全部バラバラになってしまうので毎日繕う必要がある。泣きたくなる。…中略… 注文の100 g 当り1.20ギルダの干しイカン [魚] と1本0.10ギルダの葉巻が届いた。…中略… 干し魚は注文時より3分の1少なかった。100 g 当り0.90ギルダで注文したが受け取った時は100 g 当り1.20ギルダだったのだ。

ゴッキング

1945年3月13日

ここではまさしく食事だけのために生存している。本日油で炒めたイナゴを食べた、味は良かった。菜園からのウビ・カユ [キャッサバ] の初収穫はタレ用だ。一人45 g の茶を受け取る。スカートウは何人かの茶を欲しがらない人からさらに3回分余分にもらった。…中略… 1100匹の魚が入荷、だからほぼみんなが1匹ずつの焼いた魚をもらう。我々は幼子のように喜んでいる。なんという状況、全く何と言う歳月、このようなことがあっていいのか。…中略… 明日9000kgのウビ・カユが入荷する。すばらしい、ついに数日間サゴなしになる。

メンデス

1945年3月15日

昨日突然また9000kgのウビ・カユ [キャッサバ] の荷が届いた。それを3日以内に食べ尽くす必要があり、そのため一日2度ウビ食、だから「路面電車」 [簡易便所] に駆け込む率が高くなる。

クラウト

1945年3月15日

今日の午後は1回につきスプーン2杯と引き換えにウビ [キャッサバ] を挽いた。我々はまたかなり儲けた。

ボス

1945年3月15日

私の体重が良好なのは驚きだ。11月は65.5kg、1月は66.3kg、2月は67kg、そして現在は…70.2kgである。

ゴッキング

1945年3月16日

倉庫は様々な形のウビ [キャッサバ] の箱でぎゅう詰まりである。ウビに関してはここでは常に極端なのである。…中略… ウビで我々はオパック [燻ったキャッサバのスライス] を作る。乾かし、板の上にローラーで延ばし、切断しそのあと保存、そして炒めてクリピック [キャッサバスライス] として米に添える。…中略… ウビのおかげで630kgの米と378kgのサゴの蓄えができる。ガプレックの蓄え [乾燥キャッサバの蓄え] 全部はあと15日分ある。その後には朝食がなくなってしまう。…中略… 現在余剰米から6日間くらいは朝60gの粥が支給される。

クラウト

1945年3月17日

ヤップが先月送り、もうしばらくすると届くウビ [キャッサバ] はキロ当り0.12ギルダーで、その中には9トンあたりの輸送費の500ギルダー (車1台につき70ギルダー) が含まれている。だからこれは我々の配給補充食としてはまだ一度も支給されたことはない。

ゴッキング

1945年3月18日

ストルティングは定期的により一日およそ10本のチャベ [唐辛子] を0.50ギルダーで納品する。…中略… ロビン・ブルールと友人と一緒に外部で1080本のチャベ・ラウイット [小さな非常に辛い唐辛子] を摘んでいる。収容所での値段は1本およそ0.125ギルダーか、あるいは10本のチャベが50gの塩、または100gの砂糖なのである。サバンのメルヘルトもここで鉄条網ごしに取引きをしている。

クラウト

1945年3月19日

アードリアンが今朝外部のチャベ・ラウイット [小さな、非常に辛い唐辛子] (雑役中に摘んだもの)を50本持ち帰った。私が小さな秘密の袋を作り彼のズボンの中に縫い付けたのだ。

ゴッキング

1945年3月19日

現金がまだ日本円で21ギルダー分とオランダギルダーで102.50ギルダーある。平均して 60kg から80kgの新鮮な魚が入荷している。すなわち一人一日正味20 gである。これは僅か4 gの動物性タンパクということである。恥ずべきことであり、その上半分はすでにブスーク [悪い]なのが常である。非常に劣悪な品質のものだし、ヤップの看守がたくさん盗む、昨日はバケツ2杯のエビを盗んだ。

ゴッキング

1945年3月20日

急性の下痢は医師たちによるとサゴが原因で、この場合通常サゴによって便通が悪くなるのではなく、反対に木質繊維や川の水からの砂が多い為、洗浄しても非常に不潔なので下痢になる人が多いのである。まずこれを陽に当てて乾かし、クルブックとして油で揚げる。これは美味でもあるし、栄養価を失わない。ナーハウス医師が現在我々の医者で、彼もサゴに対する苦情を述べている。日本人所長は自分の知ったことではない、不足に関しては収容所監督が自ら納入業者に直接手紙を書き送るべきだと言った。…中略… スカートウの忠告で2.50ギルダーの巻きタバコを買った。私は恥ずかしい、がやはり彼に何も買ってやることができない。

クラウト

1945年3月20日

今の所まだ自前の蓄えが、米3825 g、カチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] 2215 g、豆180 g、およそ34回分の煮たトウモロコシを干したものの1袋、煮たウビ [キャッサバ] を干したものが400個以上ある。今朝私は20ギルダーでキニーネ12錠を投資のため購入した。



クラウト

1945年3月21日

ヤップから苦心の末9000kgのウビ・カユ[キャッサバ]が14日に1度支給されることになる。1週間に1度は多すぎるとヤップは考えている。今日3錠0.2gのキニーネと交換で1.5リットルの油を受け取った。私は現在19.3リットルの油を持っている。素晴らしい。もっとも炒めたり揚げたりするとたくさんの油を使ってしまうが。

ゴッキング

1945年3月22日

収容所菜園は少量のウビ[キャッサバ]をタレ用に供給している、ウビ葉は野菜として供給。ウビ葉は外部菜園からのもある。…中略…収容所配給タバコが入荷、25gが0.60ギルダーである。これは次のように分配される。まず3月の注文分、20%の個人注文分、それから病棟に納める薬品の支払分である（収容所病棟ではタバコを薬品と交換している）。

クラウト

1945年3月23日

4月に3度の食事が確保できるよう再度お金の振り込みが可能。私はもう申し込まない。…中略…ヤップはココヤシが届くだろうと約束した。12000個や16000個という数値だとのことだ。コック氏はお金があるならばもう3錠のダジェナンを購入することを勧めている。また30ギルダーだ。お金がすぐなくなるからもう一度よく考えてみよう。

ゴッキング

1945年3月23日

最後の米粥だった、そのあと数日間はガブレック[乾燥キャッサバ]粥で、その後は朝食なしである。エンピツ1本の値段は6ギルダー、ノートは15ギルダー、履き古した軍隊靴1足15ギルダーである。老若を問わず皆の話すことは食事、おいしい食事のことのみで、これは常に強迫観念になる。全思考は食事のことばかり、当然ではないか？一日24時間もものすごくお腹を空かしているのだ、時には我慢できないほどなのだ。特に夜中に目を覚ました時には吐き気がするほどだ。…中略…3回目の収容所基金の申し込みが開始される、条件は個人分が

原価の20%のタバコ、葉巻、ココヤシ、干し魚である。サゴを洗うためのバケツが募られる。誰が貸すのか？ トロッコから落ちた収容所食糧を持ち帰ると盗みである、すなわち刑罰が科される。…中略… サゴ粥はもう食べていない。サゴを薄切りにして乾かし、クルプックとして揚げてお茶や米などに添える。3月注文分の50gの干した塩漬け魚を0.60ギルダー、すなわち100g 1.20ギルダーで受け取った。注文時の価格は100g当り0.60ギルダーだった、こんなふうになっていくのである。すべてが不足しているまさに今の時期に、注文したものはみな半減する。

ボス

1945年3月24日

スローテグラーフ（HAPMの農園主）にヤップから再度魚釣りの許可がでた。彼は小さなカメを捕った。

ゴッキンガ

1945年3月25日

ムール貝が少し入荷、そしてスローテグラーフさんが病棟のために50キロの見事なカメを捕まえた。メルヘルトがチャベ [唐辛子] 12本を100gの砂糖と交換して売っている。蚊帳をタバコに交換、その結果はマラリア。食糧をタバコに交換、その結果は栄養失調。病院食をタバコと交換、すなわち病気がますます悪化する。これら犯罪人（病院食をタバコに交換する病人たち）は入院するにはなんとか健康であるために極端に節約している栄養不足の多くの人々や子供たちがうごめいている共同体の犠牲の上にたって、余分の食事、薬品、世話などを得ているのである。このような特配の食糧を、最近カメが混ざってあったので彼らはさらに高い値段で売るのである。これは犯罪、無責任というものではないか？…中略… 病棟の患者全員が正味26kgのカメからのブイヨンマグカップに1杯もらえるのは、彼らの特典である。…中略… 煮つめた食肉などが細かく刻まれ我々のタレの中に混ざっている、意外な授かり物だ。

ボス

1945年3月25日

およそ40kgの大きなカメを捕まえた。そのレバーを食べた。美味しい。…中略… よく考えてみるとヤップが豊富にあるこの国の物品を我々に与えない（あるいは与えたくない）というのは恥ずべきことである。例を挙げよう、

- a. キニーネ：ジャワでは少なくとも3年分の蓄えがあった。ヤップここでは事実上ほとんど支給しない。収容所では錠剤がグラム当り10ギルダーで取引きされている。
- b. パパイヤ、バナナ：欲するだけある．．．が我々にはない。現在バナナは1本0.75ギルダーである（外部）。チャベ〔唐辛子〕は外部には積み重なっているが我々にはなし。
- c. コーヒー：良質アラビカの以前の卸し売り価格はキロ当り0.45ギルダー、現在ここでは支給されない。アーク・パミンケではキロ当り18ギルダーである。
- d. ココヤシ：ここのケボン〔農園〕では週に40000個の生産量。現在は納品なし。最近の価格は0.30ギルダー。巨大な蓄えがあり、定植されている。グラ・バタック〔ヤシ砂糖〕も同様。我々には10日ごとにおよそ100gである。購入不可。
- e. タバコ：100g 2.40ギルダーでヤップから非常に最低限の量が支給される。昔は100g 0.04あるいは0.05ギルダーで手に余るほどあった。収容所のヤミ取引きではおよそ10gが3ギルダーである。

我々は、現在我々は自前のお金で買ったキロ当り2ギルダーのガブレック〔乾燥キヤッサバ〕を朝食にすることを強いられている。昔は豚の飼料用でキロ当り数十セントだったものだ。見給え、ヤップがこの収容所に供する食糧に関する『豊穰さ』を。

ゴッキンガ

1945年3月26日

一般品注文のため収容所資金に20ギルダーを振り込んだ、そのうち20%が個人分である。

ゴッキンガ

1945年3月27日

振込金の20%で干し魚200g、タバコ25g、ココヤシ5個を注文、価格はそれぞれ2.40ギルダー、0.60ギルダー、1ギルダーですなわち4ギルダー分である。…中略… 今日夜中に雨の中便所に行った時、100本（後で72本だと分る）のチャベ〔唐辛子〕を5ギルダーで買った。1本0.07ギルダーである、最初15ギルダーだと言われた。40本を売って我々の分30本が無料にな

った。素晴らしく大きな赤いチャベで乾いた米に添えるとおいしい。デイトマースさんに中華鍋などを使わせてもらうので2本あげた。

クラウト

1945年3月28日

4月の注文分では売却用に1回分のタバコ（25 g）と0.60ギルダールの価値のココヤシー皿分を購入。…中略… 4月納品分の申し込みでは5000ギルダールが集った。

ゴッキングガ

1945年3月28日

ネズミを食べることがますます盛んである、値段は1匹0.25ギルダールから1.50ギルダールまで様々で200 gのものもある。毎日ネズミのブイオンを1杯与えることで赤痢患者が一人助かった。カエルも嗜好される。「医師たちが魚の購入するためにキニーネを売っている」との噂だ。いかに飢餓状態に瀕しているかという証拠である。100本のチャベ〔唐辛子〕を35ギルダールで売った。

ゴッキングガ

1945年3月29日

3回目の食糧貸付け金申し込みで総額5000ギルダールが集った、20%がマイナスされて4000ギルダールが実益である。個々の割り当てはこれまでは25gのタバコが基準だったが、現在は0.60ギルダール単位で分配される。これはタバコ入荷がない場合である。夕食のかわりにサゴは昼食になった。本日ヤップからエビ、ナス、そして3分の2のカチャン・パンジャン〔三尺ササゲ〕と3分の1のカンクン〔野菜〕を受け取った。またカチャン・パンジャンが食べるのはうれしい。魚雑役者ははらわたを欲しがると。他には餌が何もないからだ。…中略… 米はキロ50ギルダール、コンビーフ40ギルダール、エンビツ5ギルダール、ノート6ギルダール、トランプ12ギルダール、茶色の靴が40ギルダール、4711石鹼1個が12ギルダール、髭剃りの刃1枚0.25ギルダールである。現在飢えがひどくなるにしたがって皆がネズミ捕りを作っている。エビ3皿分を6本のチャベ〔唐辛子〕を交換した。

ボス

1945年3月29日

3700個のココヤシの荷が下ろされた!! 現在多くの人々がネズミを食べている。味は鶏のよう(?)。現在1匹1.50ギルダー。皮は1枚0.15ギルダーでクルプルック用だ。ネズミのブイヨンは医師の処方箋があればもらえる。…中略… 缶詰の値段は現在コンビーフが70ギルダー、イワシが50ギルダーだ。

ゴッキング

1945年3月30日

私の最後のテニスシューズも使い古し、あと1足だけになってしまった。つまり我々がここから出る時のために取っておいた約10年前のバックスキンの靴だけである。それならば裸足だ、伝染にもってこいだ。神よ、なんという状況だ。一人50gの米を炊き、魚少しとチャベ[唐辛子]を添えてナシ・ゴーレンだ。鍋を全部借りねばならないのが苦痛である。…中略… 収容所の誰かがお金を貸す、つまり受領書に署名すれば、30ギルダー手に入れることができる。最初の噂、故メルカート氏が10000ギルダー隠していたとのこと。二番目の噂は、競売によって支払は戦後だが5000ギルダー集ったとのことだ。塩と砂糖は100g当り4ギルダーである。…中略… エビでかなり不快になったがやはり何も見逃すことができないで、危険のあるなしにかかわらず全部平らげるのである。

全部で3600個のココヤシが入荷した。値段は0.18ギルダー、加えて運搬費0.12ギルダーだから1個0.30ギルダーと倍の値段である。したがって半分だけもらえる、再度6400個入る予定である。…中略… 食糧バケツを置いている炊事場のテーブルが崩れ落ちた。それでバケツ2杯のサゴとバケツ8杯の油脂性のタレを失った。…中略… 3分でほぐれるオートメール粥の缶詰を45ギルダーで病人に売り、これで各10gずつの紙巻タバコ16本を得た。タバコにしたのはこれが時にはお金よりも優れた支払方法であり、価格も上昇する見込みだからである。その缶詰は3年前のもので紙の蓋だった。誰かが前に缶を開けたのだ、見た目は良いが中はウジ虫で一杯、センコルでもブスーク[悪い]だが、私はこの機会を利用することにした。空き缶は戻ってこない。収容所では4ギルダーするのだ。だが蓋なしの缶が一缶戻る、3ギルダーの値打ちがある。まだオートメール粥の缶詰が3缶残っており、コンビーフが3缶、イワシ1缶、ミルク2缶、クリムミルクが1缶、米15kg、油がおよそ9リットル、塩漬け魚、塩2kg、靴下にいっぱい詰まったコショウ、そして80ギルダーのお金、16本の紙巻タバコ(45ギルダー)と明日分配される予備のココヤシ。我々はだから生き延びることができる。

クラウト

1945年3月30日

1個0.18ギルダールのココヤシが5400個入荷。ココヤシ1個につき0.12ギルダールの輸送費（恥ずべき）だ。アドリアンがまた外部から野菜を持ち込んだ。彼のために長椅子を作った。これは木材などを湯沸し小屋へ持って行くのにも役立つ。チャベ [唐辛子] 6本が1ギルダールで売れた。収容所配給タバコは100 g 20ギルダール（通常は2.40ギルダール）。ダジェナン [赤痢治療薬] は1錠12.50ギルダール。3錠必要である。私は最初それを買うことも考えたが、そうするとお金がなくなってしまう。キニーネは1 g が7ギルダールである。油はリットル当り6ギルダール。サゴはこれからは午後にもらえる、全面的な改善である。…中略… ファン・ダイクはフィールマンが1日2%の利子でお金を貸すと言った。フランケン は戦後に400ギルダール返すという条件で100ギルダール貸す。

ゴッキング

1945年3月31日

本日合計9個の代わりに4個半のココヤシを受け取った。（次の10日間の）食糧が本日出荷。…中略… イカン・センビラン [魚の名前] がかご3杯、野菜、カンクン [野菜]、ナスとカチャン・パンジャン [三尺ササゲ] である。籠3杯の魚のうち2杯分を野菜の下に隠し、1籠だけ上にした。スカリラ [日本軍インドネシア補助兵] が魚を取り上げようとした時に、輸送班が1籠だけだ、ごく僅かだ、取り上げるなどと言った。さもなければ彼らはいつも大きなバケツ分を取り上げるのだ。それで今回は収容所にたくさん魚があった。総量35kgのカメを捕まえた。仰向けに縛っておいて明日屠殺する。

ゴッキング

1945年4月1日

トウモロコシを挽いてもらう。費用は0.05ギルダール。

クラウド

1945年4月1日

我々の肉挽き器のおかげでトウモロコシの日には満腹するほど食べることができる。これは大きな特典だ。

ゴッキング

1945年4月2日

バラックで袋半分のガブレック [乾燥キャッサバ] が破れたのでガブレックはなくなる。…中略… 本日最後のガブレック粥、その後は支給された米から残していた45 gの米になる。

ゴッキング

1945年4月3日

ヤップがもっと良質の野菜と魚をたくさん約束したって?! 外部菜園でウビ [キャッサバ] を掘り起こすための志願者が募られた。4000kgのガブレック [乾燥キャッサバ] が入荷。したがって朝食が再開され今晚は通常の米配給がある。このようにいつも最後の瞬間になってからなにかが起こるのだ。…中略… スローテグラーフが魚を釣り、ゼイハンデラーはネズミを捕る、それでバイエムの葉 [ハウレンソウの一種] やその他上等なものを重症患者のために納めるのである。ネズミを買うのに彼はお金を得、他の誰よりも1ギルダー高い値をつける。彼らは過分に搾取する炊事係を信用していないので、彼らは自分ですべて煮炊きし、それを医師の助言と同席のもと重病患者たちに与えるのである。

ゴッキング

1945年4月4日

アーク・パミーンケからやってきた「丈夫な男たち」は快適な時を過ごし、皆太った。皆2キロから20キロぐらい太り、ある人たちは肥満ぎみである。ヤップから一日約500 gのトウモロコシと米、その他をもらう。彼らはすべて安く買い足すことができ、衣類の交換などができる。これら太った人たちや彼らの持っている、すなわち玉ねぎ、コーヒー、チャベ [唐辛子]、トウモロコシ、塩魚、タバコ、紙巻などなど、素晴らしいものを見るのは苦痛である。サバンのメルヘルトからハンにも1本0.125ギルダーのチャベを買った。チャベは乾いた

米に添えればまだ少し美味だ。我々みんながこんなに痩せてしまったのが目立つ。スカートゥも然り、神よ、私にはどうすることもできない。…中略… スカートゥとダウエス・デッカーがネズミ捕りを作る。100 g 1.20ギルダーの干し魚200 gを振り込み分の20%から受け取った。…中略… 4月の給付分（一人0.15ギルダー）からも50 gの干し魚、だから全部で250 gだ。

ボス

1945年4月4日

アーク・パミーンケから到着したばかりの人々は元気そうだ！肥えているし健康だ。ほとんどの人の体重が増えている！ここの骸骨のような者たちとは正反対だ！例えばクロースターは6ヶ月間で15kg増えている。その理由は通常の配給以外に特配があったからだ。中国人が収容所にやってきて、衣類と交換で諸々の生活必需品を供給したのだ。…中略… そのうちの10%が収容所資金になった。その他もちろん外部の住民や建築現場のクーリーたちと密かに取引されていた（ここではスカリラ [日本軍インドネシア補助兵] とのタバコのヤミ取引が少しあるのみ！）。

メンデス

1945年4月5日

アーク・パミーンケからのすでに栄養十分な男たちは、その上まだ大量の食糧（一人60kg以上のカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース]、トウモロコシと、あるいは米等）を所持しており、反対にすでにこの収容所にいた男たちは痩せ細り、もう何も蓄えがない！

ゴッキンガ

1945年4月7日

本日新入者および他の者にも、収容所資金申し込みがあった。例の20%の条件。炊事場のココヤシはなくなった、最後の日である。昨日各自の食事のなかに1個半のムール貝が入っていた。ほんの少量のエイトロバック [ダイコンの一種]、テロン [ナス] と収容所菜園ウビの葉 [キャッサバの葉] が届いた。…中略… 鉄線に食いついた3匹のカメを取り逃がした。…中略…湯沸し小屋では玉ねぎ、イカン・テリ [塩干しの小魚]、コーヒーなどなどなんて良い匂いだ。腹が空いてくる。



クラウト

1945年4月8日

またムール貝だ。他の魚にすると全面協力を約束したヤップに苦情を述べる。ダジェナンはすでに1錠が17.50ギルダー、キニーネはグラム当たり9ギルダーである。

ゴッキング

1945年4月8日

まだネズミが一匹も捕まらない。…中略… アーク・パミーンケからの男たちは我々の収容所食糧から一人4ギルダー分お金を支払う、つまり収容所資金に440ギルダー振り込まれたことになる。彼らはその他20%が個人分になる基金にも振り込むことができる。我々もこれにはもっと協力する必要がある。…中略… ナウハウス医師はネズミを煮たもの、炒めたものは安心して食べられるし、美味くて健康に良いと言う。およそ80kg、すなわち1867名に対しておよそ正味10kgのムール貝が入荷、ヤップに送り戻す。大言壮語だが何にも変化なし。

ゴッキング

1945年4月9日

罌の餌は食べられていたが何も捕らなかった。…中略… スカートゥはネズミを殺し、皮を剥ぎ、レースのために焼いたのでレースのために罌をつくる新しい材料をもらい、また捕獲の半分がもらえる。スカートゥはすばやく作った。…中略… ヤップは我々の納入業者にムール貝をもうこれ以上納品しないよう、塩魚か干し魚のみ納品するよう通達した。彼自身はきっとムール貝が好きではないのだ。9000kgのウビ・カユ [キャッサバ] がランタウパラパトに届く。人々はこれを4日間に延ばして消費するよう努める、つまり1日1回の献立である。…中略… 昨日のムール貝はブスーク [悪い]。まず煮て、それから粗悪なものを探し出し捨て、まともなものを取り出し、もう一度それを炒めて食べた。臭いはすさまじいかったが、まだ我々は生きることが最も重要である。ロバック [ダイコンの一種]、クテムン [キュウリ]、ラブー [カボチャ]などはすべてメダンから鉄道経由で運ばれる。もうヤップは葉野菜を支給しない。彼自身はまだ肉、魚、卵、豆、良質の野菜などを食べ、そしてスカリラ [日本軍インドネシア補助兵]は彼らが必要としているものなどを我々から盗むのである。

クラウト

1945年4月10日

いたるところに人々がネズミ捕りを置いているのが見られる、寝台の下、ウビ畑 [キャッサバ畑] などなど。アドリアンは罌のための材料が欲しいとねだっている。彼はとてもネズミを食べたがっている。罌を作るための材料が不足しているのだ。デ・ワインの埋葬は板がないため延期された。ネズミ捕りはすでに半分仕上がっている。ヤップは週に1度外部でウビを掘り起こすことを許可した。これで我々は月曜日ごとウビ食にありつける。(ランタウパラパトから) ウビを搬入する車が壊れたので、最後の瞬間になってやはり一人100gの米を炊く必要があった。これは午後9時50分に供給された。

ゴッキング

1945年4月10日

我々は初めてネズミを捕まえ、屠殺して炒め昼の食事にした。ネズミは堅く炒め過ぎて、それで味を失う。良質で汁は美味かった。私はそれほど悪くはないと思った、別に嫌な気持ちを克服するようなこともなかった。一人約50gで、およそ5gのタンパクである、万歳！今晚我々はまた望みを託してネズミ捕りを外にしかける。毎日1匹でも大違いである、できるなら2匹。…中略…月曜ごとに外部菜園からのウビ・ランバット [サツマイモ] の食事がある。(収容所監督からの要請：) だからみんなこの雑役作業に協力すること。…中略… 1班が外に出て収容所で使うチャベ [唐辛子] を探すことが許可される。

ゴッキング

1945年4月11日

ウビ食 [キャッサバ食] のため、そしてすでに4年前ぐらいのイワシで悪くなる可能性が大きいこと、そして今の所お祝い事はないだろうということ、そして極端に腹を空かしていることから、我々は最後のイワシの缶詰を平らげた。…中略… 最高に美味かった。各自4匹の大イワシ、多すぎるかと思ったがやはり美味くて平らげてしまった。我々がいかに空腹だったかをその時自覚する。…中略… ウビは非常に期待外れで、根がついている粗悪な質のもので、それも同時に計量しているので正味は4500kgである。…中略… 我々は9000kg分支払い、4500kg得るということである。

クラウト

1945年4月12日

今日また久しぶりに小魚だ。ということは中国人（納入業者）への抗議が効を為したということだ。アーク・パミーンケからの男たちが米とトウモロコシを売りたいがっており、キロ当たりそれぞれ50ギルダー及び30ギルダーで売ることができる。それでそのお金を収容所監督に振り込む、いわゆる貸付けである。値段は収容所監督が定める。

ゴッキング

1945年4月13日

飢餓浮腫に罹り赤い斑点ができた14歳くらいのクリット・ホルストマンは、収容所から余分に魚の煮付けをもらう。それで他の収容所仲間にはますますタンパクが少なくなっていく。ネズミは捕れなかった、運が悪い。…中略… 困難になりはじめる。雰囲気は悪く、多くが無気力である。

ゴッキング

1945年4月14日

ネズミ捕りに見事なネズミが掛った。それをスカートウが逃がしてしまった。なんと私は彼に怒り狂ったことか、100gの肉塊と12gのタンパクが消えた。彼にはいままでこんなに怒ったことはなかった。たぶんひどすぎ理由無きことだ、だが我々の神経が高ぶっているのだ。彼はとても驚いていた。食肉がなくて残念だし、それにこれまでの苦労が一切水の泡だ。ともあれ今晚また試みよう。…中略… イワシの缶で取っ手などがついているすばらしい片手鍋を作った。片手鍋が仕上がった時に、ネズミが逃げ去ったのである。次回の幸運を願う。

クラウト

1945年4月16日

本日100kgのエイ、小魚、エビ。スカリラ [日本軍インドネシア人補助兵] たちはこれ以上我々の配給を盗むことが許されない。あれこれヤップに進言し、それで今たくさん残っている。…中略… ウビ葉 [キャッサバ葉] の茎は食用になるがここでは棄てられてしまう。若者たちが揚げるために取ることは禁止で、土に埋められてしまう。今朝はコック、ラバレッ

トの息子たちとアドリアンがこの茎を集めるのに忙しくしていた。彼らは追い払われた。ホーヘンボーム（収容所監督）が揚げた茎を試食した。これでまたあれこれ話し合われるだろう。

ゴッキンガ

1945年4月18日

砂糖の配給がヤップによって輸送困難のため一人1日20gが10gに減った。

クラウト

1945年4月18日

私はまたアドリアンのためにおもしろいネズミ捕りを仕上げた。素材はすべて借りたものであるが、私のコネによってなんとか成功。現在大きな蚊帳が残っている。昨日90皿分を挽いた。キニーネ1gを9ギルダーで買った。ますます高くなる。チャベ〔唐辛子〕は10本が1ギルダーだ。…中略… ホン〔バラック〕8号棟の少年たちは今日の午後外部へチャベを探しに行った。彼らはチャベ3kgとたくさんのバナナを持ち帰った。23日にはウビ〔キャッサバ〕が再度届くようだ。

クラウト

1945年4月19日

本日ヤップから90kgの塩漬けの魚。トウモロコシに添えて今日の午後30kg、今晚30kg、明日も30kg。今晚はサンバルも米に添えてあった。…中略… 魚の残りはやはり今晚食べてしまった。人々が望んだのだ。すばらしい食事だった。6つの料理、1. 米、2. タレ、3. 野菜、4. ロバック〔ダイコンの一種〕、5. サンバル、6. 塩漬けの魚。人々はみんなセナン〔満足〕。ほんの少しの魚でなんという相違だろう。

ゴッキンガ

1945年4月21日

ココヤシはもう納品されなくなる。その代わりに現在塩漬けの魚がもらえる。塩漬けの魚はキ

ロ12ギルダー、タバコはキロ28ギルダーである。…中略… ヤシ油、水、塩、チャベ [唐辛子]、ジェルックの皮 [柑橘類の皮] とカレー少しを合せてマヨネーズを作った。これを元気よく混ぜ合わせる、それほど悪くない。いかに自分自身を愚かにするかだ。スカートゥと私は有難いことに健康だから全く文句は言えないのだ。我々は有り難味を持たない存在である。

ゴッキング

1945年4月22日

人々が突然「万歳」と叫ぶのを聞いたら、食事の銅鑼がなる前兆だ。我々ここでは食事と、食事の時間とで生きて、ほとんどいつも空腹なのである。…中略… 現在ココヤシが納入されないので、私はまだ1.80ギルダー分注文できる。魚は100 g 1.20ギルダー、タバコは25 g が0.60ギルダーである。私は今全部タバコを注文し、それで75 g 得る。これを少なくともグラムあたり0.30ギルダーで売り、それで22.50ギルダー得ることになる。このお金は収容所資金（食糧を購入するため）になり、その20%のおよそ4ギルダーが私自身のものになる。それでもし私が直ぐに魚を注文すれば100 g になる代わりに350 g になるということである。私はこれを続けていく。タバコを買う人が私の魚を支払い、それで私はより以上の魚を得る。そして収容所はこの80%を利用するのである。おかしい。このやり方は私流ではないけれど、我々は食べていかねばならないのだ！残念なことにネズミは罠に掛らなかった。残念。タンパクが逃げた。

ゴッキング

1945年4月24日

収容所監督は1本0.02ギルダーの大きなバナナを積んだ荷船4隻分買うことができたが、病棟分のみ買った。現在収容所被抑留者は一触即発、当然である。なぜ彼らが買わなかったのか聞かせてもらおう。

クラウト

1945年4月24日

今朝アードリアンの罠に大きなネズミが掛った。彼があとで野菜を運んできたら、私はスー

プを料理するつもりだ。ネズミのスープは最高だ。今日また93kgの塩漬けの魚。ヤップは一体どうなったんだ？我々はいいい方向に向かっているのだろうか？

ゴッキング

1945年4月25日

1937年にデンハーグで購入したマンスフィールド製の靴の上部分を利用して、スカートゥはテクラック [木の履き物] を作った。残念ながらネズミは捕れなかった。ヤップは8匹の小ザメとおよそ1500匹の魚、それに加えてテロン [ナス]、ロボック [ダイコンの一種] などを送った。今晚サメのタレと収容所で炒めた魚の一部がもらえる。病棟のプルカカス [器具] を作るよう壊れて穴の空いたバケツが募られる。

クラウト

1945年4月25日

今朝アドリアンがラウメスさんのところに中華鍋をまた借りに行った。彼は「君のお父さんはこの中華鍋を買うべきだよ」という伝言を持って帰って来た。過去に私は彼にこのことに関して探りを入れていたのだが、その時は売りがらなかった。彼は私がどれだけ値をつけるか尋ねた。

私は余りたくさんはお金を持っていないが、カチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] ならなんとかできると云った。彼は嫌がった。お金を欲し、あまり安い値段では中華鍋を売り出さなかった。しかも彼自身がベラワンで12.50ギルダーを支払ったのだ。私から値段は提示しなかった。彼はうんざりしはじめ、「二人の悪党が豚を売るのにどちらも値段をつけない」と云った。その後で彼は「35ギルダー」と云った。「それなら買った」と私は答えた。アドリアンは我々自身頻繁に炒め物をするのでたいそう喜ぶ。長く使えるものだ。

ゴッキング

1945年4月26日

我々のガプレックの予備 [乾燥キャッサバ予備] は5月12日まで十分ある。収容所監督は1週間に一度一人当たり0.03ギルダーのバナナを1本支給しようと考えているが、これは収容所資金から1週間ごとに57ギルダーの出費になる。資金からは高額な出費はできないのだ。…中略… 私は収容所から振り込み分の20%の一部である20gのタバコを受け取った。これ

を即座に8ギルダーで下側の隣人に売った。振込で費やしたお金は0.60ギルダーである。…中略… 昨晩は残念ながらネズミは捕れなかった。今日魚が無いと大変なことになるだろう。朝にそこら中から様々な形の全部でおよそ400ある罌を取ってきている若者たちを見てみ給え。捕獲量はごく僅かである。

ゴッキンガ

1945年4月27日

良く眠れなかった、内臓がおかしい。空腹のためサゴ・クリピック [サゴチップス] を食べ過ぎたのである。午前3時に便所で以前庭師だったファン・デン・ブリンクと出会った。月明りの下、47種類のオランダの野菜やそれから料理したものについて5時まで彼と座り込んで話した。舌がとろけそうになる！

ゴッキンガ

1945年4月29日

日本の天皇誕生日。本日以降ヤップから一日に一人当たり米50gとトウモロコシ50g余分に支給される。トウモロコシは他の物によって代わることもあると言われた、そこにまた罌がある。ウビ・カユ [キャッサバ] 9000kgがランタウパラパトにあるのだ。ユリアナ（王女）の誕生日（4月30日）にはトウモロコシ50gと米100gが余分に、またそれに加えおそらくウビ・カユがもらえるだろう。…中略… 3月と4月分のヤップからの給金を受け取る。3000kgのガプレック [乾燥キャッサバ] の注文がなされた。

メンデス

1945年4月29日

本日から一日に米が250g、トウモロコシが150gまで配給が増える。

ゴッキンガ

1945年5月1日

9000kgのウビ・カユ [キャッサバ] が入荷。これを本日で明日の4度の食事で消費する必要

がある。…中略… 本日また魚はない。籠6杯のテロン [ナス] と1籠のパパイア、菜園からのウビ葉のみ。一昨日ヤップが我々の干し魚25kgとカメ5kgを盗んだ。配給の米、トウモロコシ、サゴは以前よりいくらか多くなった。書類の上では大抵実際よりも多いものだ。…中略… 本日と明日のウビ食は一人一日1761gだから1回におよそ880gである。途方もない、私は食べ尽くせない、多すぎる。一部は煮て食べ、残りはイワシの空き缶に油をたっぷり入れてジャガイモにみたてて炒める。

クラウト

1945年5月1日

昨日は魚なし、噂によれば今日もないとのことだ。アードリアンは今日ファン・ゲントのためにココヤシ2個をそれぞれ4ギルダー、6ギルダーで売った。本日はウビ [キャッサバ] 食が2回。車が故障しているため、今日は何も搬入されなかった。

クラウト

1945年5月3日

魚が送られてこなかった原因はマラッカ海峡での事件。

ゴッキング

1945年5月3日

幸い本日ヤップがまた魚、イカン・センビラン [魚の名前] を送ってきた。…中略… 魚はとてもブスーク [悪い] な臭いで料理人が失神するほどである。まだましなものは、油で炒めてタレに混ぜてしまう。みごとなブスーク [悪い] の山盛り。…中略… 医師たちは魚ではなく、ガプレック [乾燥キャッサバ] を注文すべきだと収容所に薦めた。

ゴッキング

1945年5月4日

ネズミの捕獲なし。罠の改善を試み、成功するよう大きなバケツの上にシーソー台を作った、なぜなら我々には食肉が必要なのだ。…中略… 我々のたった1つのバケツが漏れている。フ



アン・ラーイさんが紙巻タバコ1本の報酬で明日修理する。このバケツが米国人たちのやって来る前に駄目になることが心配だ。そうになったらどうする？

ボス

1945年5月6日

チャベ [唐辛子] をヤップの菜園から盗んだ。

ゴッキングガ

1945年5月6日

私は再び君と共に最初の良質のタバコを吸うことを願って、3年前にマリマン夫人からもらったグレイスタバコの缶をまだ保存している。子供っぽい？多分。もうムール貝は支給しないといったヤップの約束にもかかわらず、また籠に数杯ムール貝が入荷。…中略… 残念ながらネズミなし。我々の窓の下でもカモが屠殺された、よだれを垂らすのみ。

ボス

1945年5月7日

我々の自費で、週に1度バナナがもらえるはずだが。

ゴッキングガ

1945年5月7日

空腹で今では隣人の口に入る米粒まで数えているほどである。なんという気質、空腹になればなるほど本性が顕われる。お茶をたくさん飲む。お茶に含まれるテインが胃酸を分解し、空腹感が少し減る。空腹はたいてい食事の後に感じる、それで大きな肉塊や、ベーコン、ソーセージなどがものすごく欲しくなる。残念ながらまたネズミは捕れなかった。運が悪い。ネズミのほうが悪くなる。大きなカメを捕った。一部は病棟用で、残りが我々のシチュー。通過するプラウ船から収容所が買った大きくて未熟なバナナは一人に1本である。

クラウト

1945年5月7日

今朝アドリアンはファン・デル・シケールの寝台の後ろにいた大きなネズミを捕まえた。…中略… このネズミは蚊帳を食い破り、大きな穴からほとんど逃げ出そうといた。私はリンデテヴェスの親分のシェファーに「これは貴方の蚊帳の宣伝にならないぞ」と言った。朝のうちに彼はアドリアンに「穴を繕うのにすこし取りに来い」と云った。私はアドリアンに「シェファーさんに古い蚊帳は全部新しくする必要があるよと言えばいい」といった。私はアドリアンにサイズを渡し、彼は即座に大判の蚊帳を持って戻ってきた。アドリアンのこの年取った父はずる賢いユダヤ人のようだ。シェファーは後ろ足、レバー1片と炒めトウモロコシを得、彼はこれで大いに満足した。彼とヘックはこの肉の品質を大声で叫んだ。ありえることだ。我々は残りをおいしくむしゃむしゃと食べた。…中略… 108シシルス [房] のバナナを買った、およそ1600本だ。再びランタウパラパトにココヤシが着いた。数量と価格は不明。

メンデス

1945年5月8日

ヤップの許しをもらって何人かの欧州人が毎日ビラ川にカメ捕りに行き、すでに大小のカメが捕れたことで彼らの試みは何度か報われた。それは大部分がまず病棟用、残りが収容所に当てられる。それで我々は今朝、十分な肉入りの温かくておいしいカメのスープ一皿をもらった、実に美味しい。

ゴッキンガ

1945年5月10日

タバコは供給が多く、また値が下がる。それで売り尽くすのが非常に困難になる。我々は売り買いに関してはいつも不運である。

クラウト

1945年5月12日

ヤップはこれ以上チャベ [唐辛子] が引き抜かれることを欲していない。その他、スカリラ

【日本軍インドネシア補助兵】たちと話すことももう許されない。タバコも彼らから買ってはいけない。…中略… 野菜のゴミ屑は現在ホンの住民【バラック住民】ごとを探し出しても良いことになった。以前これは厳しく禁止され、ゴミ屑は土に埋められていた。ようやく賢明になる。

ボス

1945年5月14日

ハリーは昨日一日中外部だった。収獲は7匹の魚、サユール・バキ【野菜の屑】、コーヒーそしてジェルックス【柑橘類】だ。実に喜ばしい！

ゴッキンガ

1945年5月16日

スカリラ【日本軍インドネシア補助兵】の家が搜索され、ヤップはたくさんの衣類を見つけた。ヤップはもし我々が衣類をタバコ、チャベ【唐辛子】、バナナなどとヤミ取引し続けるならば、収容所配給のウビや油の量を減らすと脅した。ヤミ取引きのバナナは1本1.50ギルダーである。

クラウト

1945年5月16日

現在食糧を売っているものたちは、病棟に入院した場合に特配が得られない。20%は個人用（タバコまたは魚）の新規貸付けを申し込む機会がある。7トンのウビ・カユ【キャッサバ】がランタウパラパトに届いた。

クラウト

1945年5月17日

今日の夜、私は足元の蚊帳の上にかかっている箱の上にネズミ捕りを仕掛けた。2時ごろ畷の中で騒がしい音が聞こえた。大きな獲物が掛ったに違いない。アードリアンを起こして、周到に箱の畷を取り出し、これを余分の蚊帳で補充してある外のテーブルに置いた。今朝起

きて見たら、この獲物は罟の蚊帳網（金属の）をかじって大きな穴を空けて逃げ去った。私はしゃくに障ってしかたなかった。我々の肉がなくなった。私は罟に新しい金網を張った。…中略… アードリアンはこの夜中のネズミ悲劇のあと眠ることができず、私を起こした。彼は「パパ、暑くて眠れそうにないよ」と云った。「よしよし、ネズミのことはくよくよしなくて寝なさい」と私は言い、本当にこれも成功した。

メンデス

1945年5月20日

ランタウパラパトの駅にウビを載せた貨車1台とヤシ油の貨車が1台到着。

ゴッキンガ

1945年5月20日

ヤップからまたかご2杯のムール貝の殻だ。ヤップの約束はどうなった、それに受け入れないでヤップに押し戻すといった収容所監督が大口を叩いたのはどうなったんだ？

クラウト

1945年5月24日

本日また干し魚だ。今日ですでに3日目。ヤップに一体なにが起こったのだろうか？時々ヤップの渡し船の漁夫を使うことも許されている。彼らはこの日大きな魚を1匹釣った。ヤップは自分のものにした。スパイカーマン（寝台下側の隣人）がアードリアンのためにコウモリ捕りの罟を作った。本日収容所基金に10ギルダーを振り込んだ。20%、すなわち2ギルダー分でタバコ50gを手に入れ、油あるいは他のもののために安売りする。

ゴッキンガ

1945年5月25日

常設貸し付け資金は、各振込につき自己勘定分になる20%でグラム当たり0.04ギルダーのタバコ、または100g 1.20ギルダーの干し魚購入が可能で、80%は戦後に返済される。日曜日以外は毎日12時半から1時半までホン [バラック] 1D棟の収容所経理担当のブロム氏に振り

込みが可能である。最小額は一人1日2ギルダー、あるいはギルダーの倍数で一人1日最高額が20ギルダーである。品物につき最低注文量10gの原価が値段になる。物資は収容所の予備倉庫に午後5時から6時の間に取りに行く。だからトコ的一种である。収容所はだから80%が利用できる、しかも原価に対してである。これはよい規定である。…中略… 私の名前で常設貸し付けに20ギルダー振り込んだ。80%は戦後返却されるから16ギルダー戻ってくる。今は4ギルダーで約333gの干し魚を注文したのでまた暫く生き延びる。資金振込の行列を見ると、収容所にはまだ多くのお金があると云えるだろう。我々にも少しあるのは喜ばしいし、オートメール粥の缶で得たタバコ1巻き2.75ギルダーを4ギルダーで売って儲けた。

クラウト

1945年5月26日

第1日目の貸付けは1100ギルダー、2日目は1000ギルダー、3日目は300ギルダー集った。食糧を売買する人はいずれも処罰に値する。…中略… 本日故アイセルスタイン氏の荷物の割り当てで再度申し込みがあった。支払いは戦後。アローシャツが60ギルダー、パジャマ90ギルダー、カーキ色のシャツと短ズボンが100ギルダーである。その他現金で髭剃り用石鹼10ギルダー、化粧石鹼10ギルダー、アフリドル（石鹼）が17.50ギルダー、70ギルダーと40ギルダーの靴。私にとってはかなりの値段だ。

ゴッキング

1945年5月29日

本日一皿半のサゴ、有難いことにこれでこの不潔なものがなくなる。代わりに米になることを願う。

クラウト

1945年5月30日

ヤップから受け取ったのは食費として8707.50ギルダー、アークパミーンケの週賃金として220.80ギルダー、アークパミーンケからの486.15ギルダー、1945年4月の重労働477.54ギルダー、1125.60ギルダー、5月の重労働904.05ギルダーで、合計11920.64ギルダーである。

ゴッキンガ

1945年5月31日

貨車にウビ・カユ [キャッサバ]、すなわち苦難のウビがランタウパラパトに届いた。本日最初の輸送分が入荷。明日もっと届く。ウビ洗浄では混乱した状態である。

クラウト

1945年6月2日

今日の午後172 g のトウモロコシ1皿が支給された。またトウモロコシ挽きに忙しくなる。今日の午後137皿分挽いた。無料は最初の人、バスティアーネン、コックさんの3皿分、スナイダーの1皿分、キストマーカーに3皿（9）だ。だから有料分は128皿。我々は午後2時20分から始め、ちょうど3時半に自分たちの分になった。「顔に汗を流す」のも当然だ。我々は決して食糧不足にならなかったのが幸運だ。…中略… 明日は休みを取って、ファン・ゲントとその息子に一度挽かせてみる。貸付金として1191ギルダー、1036ギルダー、595ギルダー、522ギルダー、205ギルダー、251ギルダー、279ギルダー、106ギルダー、そして458ギルダーが集った。毎日振り込めばすぐにタバコや魚を引き取れるので以前とは相違がある。午後140 g のトウモロコシのうち壊れたトウモロコシ32 g と90 g のガブレック [乾燥キャッサバ] を粥にしてみた。

クラウト

1945年6月5日

最近収容所監督は月曜ごとにバタック族からピサンとチャベ [唐辛子] を買う、彼らは農産物をランタウパラパトのパサール [市場] で売るために荷船で川を下る。…中略… 今日には収容所資金から20ギルダーを貸付け、我々の分20%すなわち4ギルダーで333 g のタバコを交換するために仕入れた。

メンデス

1945年6月5日

およそこの1ヶ月以来支給されている食糧の量は満足と云えるだろう。病棟からもらえる余分の米100 g 以外に、一日70 g のガブレック [乾燥キャッサバ]（ヤップからのものではな

い)、トウモロコシ170 g、米208 gが支給される。さらにいくらかの魚、あるいはエビ、クラム [甲殻類] (しばしば半分あるいは全部ブスーク [悪い] であるが) が支給される。野菜もたくさんある。また10日に1度は塩100 g、砂糖80 gとお茶60 g。そして1ヶ月ごとにタバコ15 gと魚、そして3ヶ月に1度はおよそ3.5リットルのヤシ油だ。

クラウト

1945年6月9日

トウモロコシ挽きの時、番号を渡すことを始めた。人々はこれで小さな子供たちが大人たちを押しだすのを避けることができるのでとても喜んでくれる。51人を手伝った。そのうち数回分が幾人かあった。

ゴッキング

1945年6月12日

6月の注文分の魚をホン [バラック] で分配した。スカートゥと私は二人で100 g、一人1本のバナナ、全部劣悪なものである。チャベ [唐辛子] も現在振込分から購入できる。およそ5本の見事に赤いチャベが0.01ギルダーである。

クラウト

1945年6月20日

今日は60人分トウモロコシを挽いた。1皿の米と2皿のトウモロコシを交換した。我々にはトウモロコシが豊富にある。また3皿のトウモロコシと1皿の米を交換することさえする。人々はすでにトウモロコシ食に飽き飽きしている。コーとアーリが我々の蓄えを利用できたならなんと良かったことだろう。

ゴッキング

1945年6月21日

ヤップから150ccの粗悪な液状石鹼、あの軟石鹼を思い出す。その他2000人に60kgのムール貝、正味は6kg、そして28kgのエイ。恥ずべきことだ。我々はゆっくりと死に向かっていく。

クラウト

1945年6月22日

日本軍の司令官がクラン [甲殻類] をこれ以上送らないように手紙を書いた。ホーヘンボームがこの手紙に連名することが許された。現在ホンの班長 (バラック長) は月曜 (6月25日) 以降クラン [甲殻類] を受け入れないと決めた。収容所監督はこの期間が短すぎると思っている。外部でまたウビ・ランバット [サツマイモ] を掘り出しても良い。午後8時半以降はバラックでの料理は禁止。

ゴッキング

1945年6月24日

トウモロコシは事実上もう交換なし、みんな飽き飽きしているのだ。ファン・ローイが我々の米を油で半皿と交換でゴーレン [炒める] した。スカートゥは忙しく、私はやる気がない。収容所全体がトウモロコシ保存倉庫のようだ。すべてが酸っぱく乾燥したトウモロコシとガプレック [乾燥キャッサバ] の悪臭で気分が悪くなる。

ボス

1945年6月25日

私は夜中ぼろきれの山の下で眠っている。わたしの毛布は完全に擦り切れてしまった。何という貧しさ！

ゴッキング

1945年6月28日

我々はムール貝を拒否。これはヤップに殴るきっかけを与え、そしてやはり入荷、だから強制的である。日本軍司令官はカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] をキロ当り0.36ギルダーで納品すると約束した。安い魚も試してみようと言った。…中略… ムール貝は収容所から川に投棄されたが、若者たちがまだ食べられそうなものだけすくい上げた。投げ捨ててしまうのはやはり恥ずべきことである。



クラウト

1945年6月30日

幾人かの人々に魚10gかガブレック [乾燥キャッサバ]90 gのどちらを欲するかと問われた。人々は大量食糧のほうに投票した。目下我々は炭水化物の取り過ぎだ。多くの人にはもうトウモロコシや粥を食べ尽さない。私のコーやアーリに何が補充できるのだろうか？私はまだ油15リットル、だからすばらしい蓄えだ、それに米3225 g、カチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] 1565 g、豆680 g、さらにクリピック [キャッサバのスライス] と多量の乾燥トウモロコシがある。…中略… 来月は4.50ギルダーから一人0.75ギルダー分の注文が可能だ。炊事場で残ったチャベ [唐辛子] は今後皆に分配される。

ボス

1945年7月2日

我々のホン [バラック] のすぐ近く、ヤン・ファン・エスの寝台の下で2メートル以上のニシキヘビを捕まえた。捕獲後、叩き殺し、皮を剥ぎそして食された。豚肉のような味である。

クラウト

1945年7月9日

すでにここ数日7月11日より優先挽き券10枚を配布する旨の広告を挽き場所に掲げた。この券があればトウモロコシで現物報酬を支払わなくても3皿分挽くことができる。10日間の価格は1.50ギルダーである。まだ誰からも反応なし。後で批判があったと聞く。私は魚や必要な薬を購入するため本当にお金が必要で、これが唯一の方法のように思った。誰も煮たトウモロコシを買うために私のところにはやってこなかった。鍋をけずる人もほとんどいない。現在炊事係は削り屋のためにドラム缶に僅かしか残さないのだ。人々は炭水化物の取り過ぎである。本日61kgのチャベ [唐辛子] を買った。一人10 gずつ分配。

ボス

1945年7月10日

収容所では紙不足、だから紙巻タバコの紙も不足している。多くの探偵小説が煙に消え、今ではワイスターをはじめ二三の人たちが聖書を吸い尽くし始めた。これが適切か否かについて

では当然もめごとが起こる。ワイスターはワップ神父の訪問を受け、「しかし神父さん、...ここでは紙不足のために吸うのは聖書ですよ」とタバコの束を差し出した。ワップは「まーそれならかまわない。わたしは頻繁に神のお言葉を伝道してきた、だから一度ぐらいは神のお言葉を唇の間にいただくのは許されるだろう」と返答した。

ゴッキンガ

1945年7月12日

おそらく7月20日にヤシ油が新たに送られてくるようだ。ヤップは以前のようにもう配給しない。われわれ自身で支払う必要がある。恥ずべきことである。油配給が未定のため大炊事場では（食事の中に入れる量を）半分減らし、今では40ccの代わりに約20ccになった。

クラウト

1945年7月12日

数日前、ヘンゲロー工場のヤップが一人来て、そこで働いていた3人の男たちのために紙巻タバコ500本—収入印紙代0.30ギルダ—を持ってきた。

クラウト

1945年7月16日

また貨車に油とウビ・カユ [キャッサバ]。だからまた助かる。…中略… 本日140 g の5皿のトウモロコシを205 g の米2皿と交換。今日は7皿（トウモロコシ）ほど儲けた。

ゴッキンガ

1945年7月26日

ヤップから病棟建設7月分給与808ギルダ—、木材伐採費1250ギルダ—、そして一人0.15ギルダ—の食料費、すなわち8673.75ギルダ—、合計10731.75ギルダ—を受け取った。

クラウド

1945年7月26日

医師は一日0.60ギルダー、看護人は0.40ギルダーの報酬だ。ヤップから病棟建設費用808ギルダー、1200.50ギルダー（木材伐採など）、8673.75ギルダー（抑留者一人一ヶ月分0.15ギルダー）で合計10682.25ギルダーを受け取る。

ボス

1945年7月30日

収容所で顕著な事柄の一つは、戦争が終わった後のおいしい食事のために料理の本などから可能な限りのレシピを書き写していることだ。これを今人々は「仮想料理」と名付ける！

クラウド

1945年7月31日

7月13日から今月末までに肉挽き器の優先挽き券（すなわち優先番号の売却）で25.15ギルダー儲けた。トウモロコシ一皿を0.95ギルダーまたは油1瓶で売った。その上かなり余分にあるトウモロコシで、毎朝自分でもトウモロコシを食べた。…中略… 薪取り班ステイブラーの幾人かの若者たちはウビ [キャッサバ]、そしてウビ葉を家に持って帰る。ほとんどがウビ菜園の傍を通る時、ウビ葉を引き抜いてしまわずにはいられないのだ。

ボス

1945年8月1日

ハリーとベンが外部に行ってきた。収獲はチャベ [唐辛子]、コーヒー、ジェルック [柑橘類] とブリンビン [果実樹] だ。森林を歩くことによって持ち帰った、取引きによるものではない。

ゴッキング

1945年8月1日

常設貸付けは7月に13400ギルダー集った。ガプレック [乾燥キャッサバ] が3550kg入荷。君が送ってくれた白いシャツとズボンから名前と文字を取り除き、それらは各45ギルダーになった、それに加えてヤップにポロシャツ20ギルダーで110ギルダーだ。ファウテルが買った。我々はこれで魚を入手するつもりだ。

ゴッキング

1945年8月3日

収容所購入はトラシ [魚の保存食] 30kgが9ギルダー、玉ねぎ5kg分14ギルダー、タバコ30kg分30ギルダー、カチャン・バタック [小粒うずら豆] 40kg分7ギルダーで、値段はすべてキロ当りである。カチャンは病棟用である。

クラウト

1945年8月3日

車で本日タバコ、玉ねぎ、トラシ [魚の保存食] が届いた。アイベルヘン (警察署長) 班の若者たちがトラシを盗んだらしい。この青少年リーダーは同時にすべてを見ることができなかった。7人の若者が盗んだトラシを返却した。

クラウト

1945年8月5日

今日夜中に幾人かの男たちがまた外にいった。魚は100gが6ギルダーで、トラシ [魚の保存食] は10gが1ギルダー、チャベ [唐辛子] 50本は1ギルダーで売られる。今日はまた4皿分のトウモロコシが売れた。8月1日から5日までで優先挽き券とトウモロコシ売りで25.10ギルダーを受け取った。我々のプタック [小屋] はとても慌ただしかった。魚、タバコ、トラシが売られた。ステーン (売人) の隣には5人の宣教師と2人のクリスチャンの先生がいる。この二人はチャベを50本ずつ束にするのに一生懸命だった。これらは日曜の休息と呼ばれている。

ゴッキング

1945年8月6日

スカートゥは7月23日には体重が54.2kgだったのが56kgに増えた<sup>17</sup>。体重を測った、最低記録48kg、どうなることか、私は70kgぐらいなければいけないのに。

クラウト

1945年8月6日

ウェニクが競売でブルーの完璧な上下を27.50ギルダーで買った。支払いは戦後。彼はズボンを短ズボンに仕立てさせる。現在上着は50ギルダーの闇値で売れる。

ゴッキング

1945年8月9日

ヤップは名誉にかけてもうこれ以上ムール貝は支給しないはずだったが、本日ムール貝といくらかの小魚。焼けつくように暑い日である。バケツがないので水浴もできない（ゴッキングは長期間病気をしており川での水浴ができず、バケツを使う必要があった。）し、皿も洗えない。なんという惨めな状況。ユーモアもわからない。不潔さのみ、マラリア感染の危険、空腹で食糧不足とほとんどの必要な栄養素が欠如している結果のみが明らかになる。今週救助がやってきても、多くの者が回復不可能なほど身体を壊し、もう治療困難なほどの病気になっている。しばしばまだ何とかみられる人もいるが、やはりみんな哀れな廃人ばかりなのである。

ゴッキング

1945年8月13日

我々が耕作したウビ・ランバット畑 [サツマイモ畑] は完全にアラン・アラン [茅] の下に埋まり、なおざりにされたままで、これを手入れすることは許可されなかった。現在ここにウビ・カユの挿し木[キャッサバの挿し木]を植え付ける必要があり、ウビ・ランバットを自

---

<sup>17</sup> スカートゥは近頃炊事場で働くようになり、体重が幾分増えたようだ。

前用に掘り起こすことは許可されなかった。スカリラ [日本軍インドネシア補助兵] は現在これを食べている。食糧を棄ててしまうのはもったいないではないか？

ゴッキングガ

1945年8月14日

本日常設貸付けに20ギルダー振り込んだ。20%すなわち4ギルダーは自己購入できる。私は収容所価格100g1.75ギルダーの干し魚を228g購入した。事実上値段は100gに8.75ギルダー費やすことになる。恥ずべきことだ（ゴッキングガは結果的に彼の魚には20ギルダー費やしていることを意味している）。…中略… 水を入れる人間の背ぐらいある木製の樽が4つ入荷。我々はその中に醤油が入っていると思い込み喜んでいた。…中略… 到着した4つの樽はヤップが川の水を浄化するために支給したもので、砂と砂利も供した。そして夜には仕上げなければならず慌てふためく。見事に失敗。砂や砂利の代わりに食糧を与えて欲しかった。

クラウト

1945年8月16日

ヤミ取引きは事実上停止している。これは川の水位が高いからである。

ゴッキングガ

1945年8月18日

私は靴下ホルダー、白と色物の靴下、白とカーキ色の長靴下、アンダーシャツ、白のポロシャツ、ゲートル、白の上着、白のズボン、スカートゥはズボン、白のショーツ、パジャマを売りにだす。上から蚊に刺されるくらい古い衣類である。

クラウト

1945年8月21日

最近の配給は悪くない。米やトウモロコシを支給するヤップは（収容所監督の）ホーヘンボームに「オラン・バゴス [良い人だ] 」と言わせたがった。ホーヘンボームは10袋もらった後に言った。

クラウト

1945年8月22日

昨日再度56ギルダーを（収容所資金に）振り込んだ。これで500gの魚と投資のためのタバコを100g受け取る。トウモロコシを挽く仕事がうまくいっているのは幸いだ。キニーネはグラム当り25ギルダーで売られる。本当に悲しいことだ。しかもたくさんのお金が収容所にある。収容所には非常に押しつけがましい雰囲気満ちている。ヤップは配給を倍にした。全く理解に苦しむ。ヤップが「ガプレック [乾燥キャッサバ] はもう川に棄てる」と言ったとのことだ。配給は現在、朝食米125gとトウモロコシ25g、昼食トウモロコシ150g、夕食米280gだ。米50gとトウモロコシ40gが予備にまだ残っている。ガプレックはタレ用に調理される。

メンデス

1945年8月22日

外部では何が起きているのだろうか?!スカリラ [日本軍インドネシア補助兵] がペランアピス(終戦だ)と主張している。そしてヤップは2400錠のキニーネや法外な食糧を持って来た。それで自己資金で収容所が購入したガプレック [乾燥キャッサバ] はここ10日間支給する必要なし。前期間の配給は朝食トウモロコシ35g、昼食トウモロコシ135g、夕食米215gで合計385gだった。今回の配給は朝食米125g、トウモロコシ25g、昼食トウモロコシ150g、夕食米280gの合計580gで、その上まだ余分にトウモロコシ40gと米50gの予備まであるのだ。全部で670gだ。

メンデス

1945年8月23日

レッドクロスジャムが20ギルダーで売れた、できればこれでキニーネを購入する。

クラウト

1945年8月23日

みんなこの法外な配給を有難がっている。私はきっとたくさん棄てられるだろうと確信している。私のトウモロコシ売りももう終わった。皆今は食糧が十分ある。現在私は日曜日から

トウモロコシを挽く報酬として現金だけを受け取ることにする。いまだに有効な予約分を終わらせねばならない。…中略… ヤップがカウエナール医師にこの配給の増量によってタンパクの問題が解決するだろうかどうか尋ねた。「否」とカウエナール医師は答えた。…中略… 各自の0.15ギルダーからの5820.75ギルダー、病棟建設の給与379.85ギルダー、ポトン・カユ [木材伐採] の1169.70ギルダー、チャンコル [鋳] での449.75ギルダー、合計10520.05ギルダーをヤップから受け取った。



## 就労状況

ボス

1944年10月9日

初めて炊事場に。ベラワン・エステートとは全く異なった就労時間だ。8時から1時半までと翌日は12時半から7時まで、その次の日は非番。だから3班交替制である。各班に別のリーダーがいる。

ゴッキング

1944年10月10日

スカートゥはバラン[物資]をトラックで何度かランタウパラパトまで取りに行き、トロッコに載せるため渡し船まで行った。彼は今薬草園にいて、9時半から12時まで週5日の雑役をしている。私は9時から11時まで菜園雑役、これは道を敷いたり溝を掘るなどの仕事である。すべてあるがままうまく進行しているのは不思議である。…中略… 現在就労しているのは、菜園班、ウビ[キャッサバ]班、薬草班、給水班、野菜調理などの雑役だ。

ゴッキング

1944年10月11日

チョト[丘]で自分たちが使用する木材を伐採、6つの斧で一日5立方メートル。…中略… 川で洗濯をした。毎日水筒4本と瓶8本分、鍋一杯と大きな水差し1杯分の水を沸かす。毎日する必要はある。野菜雑役は地面でウビ[キャッサバ]を下準備、洗浄する水はない。皿はバケツに入ったわずかばかりの水で洗うのである。

ゴッキング

1944年10月21日

現在2時から3時半まで炎天下、はだかで雑役。人はなんと忍耐強いんだ。そのあと川に飛び込む、いい気持ち。

クラウド

1944年10月22日

昨日定期給水雑役が始まった、一日およそ1時間。4日後に非番になる。それでなになすべきかが確実に分る。

ゴッキング

1944年10月23日

午後は雑役放棄、暑すぎる。だから今午前10時から12時までパチョレン [鋤く] だ。…中略… 収容所前方の山の斜面は、すでに我々が炊事場用の薪を伐採し、不毛である。伐採する音が聞こえ、幹が山の斜面を下に転がっていくのが見える。遠方でカーンカーン、まるでスイスのようだ。

ボス

1944年10月28日

炊事場で初めての夜間勤務、9時から3時までと6時から9時までトウモロコシを煮る。

ドライバー

1944年10月30日

みんな毎日繰り返される雑役に割当てられる。それは駅へ配給を取りに行くこと。薪を取ったり伐採すること。特別な雑役として、炊事用の水を取りに行かねばならない給水班。その上簡易便所を建てたり炊事設備を整えねばならない。すべてがまた「ヤップのやり方」でなされる。例えばここにおまえたちはいる、自分たちでうまくやれというように。…中略… 野菜の植え付けをまだ試みようとしているが、私はスンガイ・センコルの場合のようにはいかないと心配している。

ゴッキング

1944年11月1日

スカートゥは今木材伐採の雑役だ、スパイクをはいて朝グヌン[山]に登り、それからいくらか自前分の木材も持ち帰る。これは重労働だ、今日は実に苛酷すぎる、だがこれもなさねばならぬことである。

ボス

1944年11月14日

夜間勤務は夜中の2時から始まる！250個のココヤシ全部を我々自らの手で毎日おろす必要がある。自由時間には新しい大きな井戸を掘るのに余念がない。

ゴッキング

1944年11月15日

薪の蓄えを十分に得るため伐採班が強化される、これは難題である。…中略…ホン[バラック]ごとに16名の伐採者が求められる。

ゴッキング

1944年11月21日

ファン・デン・ベルフ医師によって、現在私は座ってできる雑役に割り当てられた。

ゴッキング

1944年11月24日

(日本人) 所長は本日不機嫌である。彼は伐採雑役のために80名余分に整列させた。

クラウト

1944年11月25日

現在給水雑役は朝食、昼食、夕食後に半時間ある。3日働いた後に1日非番。夜は特に雨が降っていると、ものすごくつらい作業だ。総勢24名が4班。

ゴッキング

1944年11月26日

現在スカートゥは伐採班Aに所属している。ヤッペン雑役(日本人看守のための様々な雑用)のため現在伐採班は3つの班がある。…中略…ヤッペン雑役は現在臨時雑役としてみなされ、雑役者たちは一般雑役に加えて指名されるのである。

ゴッキング

1944年12月2日

1班がランタウパラパトへ我々のヤップの配給を取りに行く。志願者たちが食料を収容所の監視所のトロッコに載せて中に運ぶ。

ゴッキング

1944年12月5日

野菜雑役は、ウビ・カユ[キャッサバ]、カンクン[野菜]、ナス、ザボンのようなものやガブレック[乾燥キャッサバ]の下準備あるいは調理である。…中略…ヤップは10歳から14歳の少年たちばかりを雑役のために要求している。一日中収容所外部の仕事のために雑役者が求められる。朝も昼も。ここでの食事と考え合せると余りにも苛酷すぎる。

クラウト

1944年12月7日

今日の午後は臨時雑役がある。ヤップはホスピタルに10名を必要としている。床を新しくする必要はある。これは板の代わりに丸太で作られる。

ボス

1944年12月11日

毎日のヤッペン雑役（最低100名）は非常に苛酷で、まるで日雇い労働者のように駆り立てられる。例えば太陽の下何時間も立って、ヤップとスカリラの傍でチョンコレン[伐採]する。看守たちは棍棒を装着しており、すぐに殴る。

ゴッキング

1944年12月11日

スカートゥは伐採雑役で、終了後は川岸のココヤシをトロッコに積む必要があった。だから9時半から12時半まで雑役だった。ヤップから各自ココヤシ半分と水を貰った。…中略… スカートゥはヤップにヤッペン雑役に指名された。彼は拒んだ。午前中すでに雑役は済ませたのだった。

ゴッキング

1944年12月12日

現在ヤップは家の傍に菜園を作るため、雑役に毎日200名を要求する。ある者は菜園からの収穫物はヤップのものだと云い、他の者は収容所のものだと云う。誰もがこのために1週間に6回の雑役をしなければならなくなるだろう。

ボス

1944年12月13日

フェルマーク（収容所炊事班の代理）がハリーとトウモロコシを持ち上げていて事故にあった。トウモロコシと煮えたぎった湯がふりかかったのだ。ものすごい火傷をした。

ゴッキング

1944年12月13日

ヤップが今日二度目の伐採雑役を呼び求めている。収容所監督はこの食事では不可能だ

と云い、人々を外に出すのを拒んだ。今は誰も外出が許されない。成り行きを今見守る必要がある。どんな結果を引き起こすことだろう。

ボス

1944年12月14日

猛烈な炎天下でのヤッペン雑役（チャンコレン[伐採]）の際、メス氏（55歳、コタ・ラジャ出身者）が心臓麻痺で本日午後死亡した。

ゴッキング

1944年12月14日

ヤップといっしょに、雑役についてはヤップがまったく関知しないようすべて新しく取り決めた。収容所側が全部統制。これですべてが改善されるよう願っている。昨日の拒否はだから成果があった。雑役は週に6日、午前あるいは午後だ。…中略…ヤッペン雑役は現在ウビ班 [キャッサバ班] と呼ばれ、ヤップは収容所の外部に菜園を作るのは我々抑留者のためであり、自分たちのためではないと云う。

クラウト

1944年12月14日

ヤップのための雑役が廃止された。これは現在定期雑役、すなわちウビ雑役 [キャッサバ雑役] である。ヤップのそばで午前中に50名、午後に50名が働いている。

ゴッキング

1944年12月15日

スカートゥは今朝外部へ行った。広い道路までゴムの木を伐採。ヤップからタバコ少しと紙を貰い、忠実に持ち帰った。…中略…スカートゥは炊事場の交替制クワリ [フライパン] 洗浄にも名乗り出た。そこには常に少年たちが欲しがるとある某かの残飯があるからだ。彼らはまるで腹を空かした犬のように、食べられるものすべてを待ち伏せ欲しがるとあるのだ。

ボス

1945年1月9日

炊事場の組織は、大炊事場は3班あり、各班は10人とリーダー（ハーン、フェルケルク、デ・ブール）がいた。コック長2人はオーステルマンとレーンアールズ、2人の責任者（管理者）はフェルトホルストとオッターズベルフだ。グダン長〔倉庫管理者〕はマース。大工はデ・ウィード。魚係はデ・ワールで現在はフェルマークが代理だ。全部で40人。特別食用炊事場（全く別個である）は各5人の2班でコック長（アイゲルベルヘル）が1人いる。

クラウド

1945年1月11日

ヤップはウビ雑役〔キャッサバ雑役〕にもっと協力するようを要請した。彼の方からも協力を惜しまないつもりだという。11時半男たちは（ヤコブス医師と共に）突如整列する必要がある。ヤップは病人が多いことや他の雑役に就労していることなどが理解できなかった。つまり彼にはウビのために少人数しかおらず、指名することによって雑役者を求めようとした。だが失敗に終わった。この所長とは話しができる。彼はついに笑いながら立ち去った。

ボス

1945年1月17日

一人の少年が夜中にいたるところに落とされた便を毎日スコップで裏返すことを命じられた。

ゴッキンガ

1945年1月23日

スカートゥは今（病後）伐採雑役を辞めたがっている。私もそれがいいと思う、一番苛酷な雑役でそれにみあう食事ではない。ほとんど出来る事ではない。彼らは辞めさせたがらない、さらに医者までが呼ばれたのだ。

ゴッキング

1945年1月25日

今日は野菜雑役。暑さでうなりそう。炎天下の中、9時半から1時半まで続いた。思ったより苛酷で、多くが終了前に早引けする。…中略… 外部のウビ雑役 [キャッサバ雑役] では飢えと暑さのため、幾人かが卒倒した。

ゴッキング

1945年1月26日

野菜雑役者の多くが終了前に早引け、他の人がその分を負担する事になるため、現在各自割当て分のみのガブレック [乾燥キャッサバ] が分配され、これは割って引き渡される。だからテンポは現在まったく自分次第でお互い同志が依存しあわない。これは最善の解決法である。

ゴッキング

1945年1月28日

スカートゥのために収容所監督に炊事班に空きがあるかどうか尋ねた、監督は「無い」と言った。たくさんの父親たちが同じことを尋ねたようだ。彼らは、難儀を避けるため少年たちは誰も炊事場で働かせないと決めたのだ。だがいつか彼らの意見が変わる事があれば、いつも人助けの準備があり、いつもにこやかな、洗練された、礼儀正しい、強く、公正な、正直者としてスカートゥが最初に考慮されることだろう。

ゴッキング

1945年2月8日

病気から回復した人は迅速に雑役に戻ることに、また軽い雑役をすることが求められた。さもないとすべてが行き詰まり、その上ヤップとの難儀が予想されるからだ。皆の全面的協力が求められた。



ゴッキング

1945年2月15日

来週の月曜（1945年2月19日）から医師にスカートゥは少し位なら一度伐採に行ってもよいと許されたが、彼は収容所内から始め、自分の判断に従っている。私がしっかり見張る。…中略…（ウビ [キャッサバ] が大量に入荷したため）午後ホンごとに1袋のガプレックの下準備をしなければならない苛酷な野菜雑役がある。

クラウト

1945年2月16日

今日の午後ウビ [キャッサバ] を取りに行くため我々のホンから3人の志願者が要求された。誰も申し出なかった。ひどい天気！雨、そしてまた雨。

クラウト

1945年2月17日

ヤップは昨日ウビ [キャッサバ] を取りに行くのに成人男子8名だけと残りは少年たちだけがやって来たのをひどく怒った。ヤップはもっと迅速にしないならすぐに袋を川に捨てると脅した。ひどい天気でもあった。

ゴッキング

1945年2月17日

スカートゥと私は一緒に野菜雑役をした、2200キロのウビ [キャッサバ] の下準備だ。スカートゥは途中お茶を沸かした。終わったあとスカートゥと私は一緒に後片付け、結構楽しかった。…中略… 本日午後は、他の班がまたウビの下準備。

クラウト

1945年2月18日

病人が多い。我々のところの給水班はわずか7人だ。3名が非番で7名が病気、欠員1名。全ての雑役がこのような状況だ。輸送班は通常24名人員がいるが、12名来れば多い方だ。

クラウト

1945年2月20日

ホン [バラック] 8号棟の少年たちがドラム缶のサゴの下準備を拒んだ。それで大人たちがやった。現在、サゴ削りの雑役者が毎日呼び出されている、同時にこれは朝粥のドラム缶をひっかき落とす仕事でもある。

クラウト

1945年2月22日

今アードリアンのためにガブレック [乾燥キャッサバ] を切断する器具を作った。今だから彼は最初に終わり、すぐ勤勉に働いている。午後私たち二人の蚊帳の南京虫を探しだしたり、袋の埃をはらったり、皿や鍋を洗う、一口に言って彼は私の強い支えである。木材伐採は湯沸しと同じく彼の専門である。コーは彼がいなくてとても寂しがっているだろう、4人が早急に再会できるよう願っている。

ゴッキンガ

1945年3月4日

要請：病棟の夜間警備員2人、一晚交替で4時間。…中略… 陸軍将校の訪問があるため明日収容所を清掃する必要がある。ホン [バラック] の内外はすべて清潔にすること。本日午後すでに始めた、ものすごい興奮と喧騒。数名がガブレック [乾燥キャッサバ] の洗浄を拒み、騒動が起こる。スンガイ [川] が突如閉鎖され誰も水浴が許されない。まず収容所を清掃する必要がある。うだるように暑い日で、息苦しい。

クラウト

1945年3月4日

明日将校の訪問。そのためウビ雑役者たちは収容所へ続く道を整備するため3時に整列しなければならない。何人かで4つの塹壕を掘る必要があった。2.2 x 1.2 x 1.3メートルの深さのものだ。好かれる作業ではなかった。川の入り口は彼らが夜7時半に戻ってくるまで閉鎖される。ホン [バラック] の周りの雑草を引き抜く必要があった。…中略…3人の欧州人の床屋がヤップのところに行ってヤップとスカリラたちを散髪した。

メンデス

1945年3月5日

ヤップの将校が今日視察に来るはずだったので昨日収容所の大掃除、が当然やってこなかった。

ゴッキンガ

1945年3月6日

今収容所はヤップのごまかし（すなわちヤップの将校視察の通知）で清掃されたので、これを維持するため、毎土曜日の午後にホン [バラック] の周りの地面を清掃し一緒に片付けるため各ホンからホンの住人を割り当てる。伝統的オランダの理想である。

クラウト

1945年3月6日

将校の訪問無し。結果として収容所が一度根本的に掃除されることになった。…中略…二階への階段を我々はリゾールで掃除した。一般的にすばらしい仕事だと人々は言ったが、しかし何のために私が先導しなければならなかったのか？

ゴッキング

1945年3月7日

スカートゥは外の伐採雑役から鉄条網内の同雑役に替わった。これはすべてを考えるとかなり良いことだ。

ボス

1945年3月15日

夜間勤務。ガブレック粥〔乾燥キャッサバの粥〕を準備。ほぼ時計一巡り。夜の8時から朝の7時まで。忌まわしい務めだ。

クラウト

1945年3月15日

今晚最後の給水雑役を10時15分前までやった（すべて川から）。湿疹がでた。まず黒い亜鉛華軟膏で手当て、そのあとピクリン酸。今度は収容所内部の伐採班になる、1日1時間半。2日働いて1日非番、それぞれ8時半から9時半。11時半から13時。16時から17時半。

ゴッキング

1945年3月18日

私は炎天下での野菜雑役、耐え難いものだった。スカートゥは午後3時半から5時まで伐採だ。途中彼は足がふるえだしたので止めた。どうしようもない。それから彼は少し横になった。小匙1杯の砂糖を与えて、私自身は力をつけるため塩、コショウ、油入りのお茶を飲んだ。そのあと一緒に川で水浴び、今はまた大丈夫だ。注意が肝心だ。限界を超えてはならない、超えると手後れだ。どこが限界なのか？あらゆる雑役は病人と衰弱した者などで50%占められている。…中略… スカートゥは伐採雑役の他、今1週間一日3度スティベラーとフェッターとでバケツの水を病院に運ぶ必要がある。少年たちは大いに利用されている。

ゴッキング

1945年3月20日

スカートゥは今日午後また伐採だ。これですでに14日間休み無しで、その上今週は1日3度水を病棟に運んでいる。余りにも多すぎる。私は文句を言ったが彼が嫌と全く言わず、いつも人助けしたがるので私がますます歯止めをする必要がある。彼は常に人助けすることで有名だ。それで悪用されるのだ。

ゴッキング

1945年3月22日

外部伐採班はチョト [丘] を越える必要がある、伐採は苛酷な雑役だ。この雑役をする人が次第に減っていく。特にマラリアや赤痢によって人々は衰弱し、オバットゥ [薬] は無い。彼らが日ごとに瘦せ細っていくのが分る。

クラウト

1945年3月26日

薪の状況が悪かったため今朝は粥無し。木材搬入者たちは、トランクグダン [トランク置場] 用にティアングス [梁] を取りに行く必要がある、このホスピタルは臨時病棟になる。本日午後臨時病棟のための木材を外部へ取りに行かねばならなかった。天気はすごく悪かった。私は滝のような雨の中で伐採する必要があった。今日や昨日のようなひどい天気は今まで無かった。靴をはいてもいまいましい道である。裸足でも滑りやすく歩きにくい。

ボス

1945年3月29日

夜中に（炊事雑役中）かき混ぜていると「モダンタイムズ」（チャーリー・チャップリン）を思い出し、日中にもずっと「行動コンプレックス」を感じる。

ゴッキング

1945年3月31日

私たちの上段にいる少年2人が雑役を中断した。疲れ過ぎだ、一人は雑役中卒倒。これは大人にもおこることだ。我々は今急激に弱っている。

ゴッキング

1945年4月3日

40名の男たちが外部へウビ [キャッサバ] を掘り起こしに行く必要があった。ヤップは自分の仕事に20名引き抜いた。

ゴッキング

1945年4月6日

新しい人たち（アーク・パミーンケからの「丈夫な男たち」）の割り当ては次の通り、給水雑役20名、一般雑役20名、ホスピタル6名、伐採16名、木材搬入60名、輸送班7名。彼らは健康で丈夫な男たちだ。良い事だ、我々に必要だった。

ゴッキング

1945年4月16日

雑役者はみんな病気でスカートウの学校も混乱している。雑役が多く不規則なのだ。一日中野菜雑役とホン [バラック] でガプレック [乾燥キャッサバ] 割り。…中略… 食用ドラム缶の食べ物を削り落とすのは代理にさせてはならない。この仕事の年齢制限は15歳以上。削り取ったものは持ち帰ってよい。時には皿いっぱいになることもある。

クラウト

1945年4月19日

外部へウビ雑役に行く少年たちは、まるで砂浜にいくみたいに振る舞う。草取りのかわりにウビの畝に穴を掘ったり塔を作ったりしている。

ゴッキングガ

1945年5月5日

(長期)病欠の炊事係は3分の1の特配を1ヶ月間受け取り、その後ホン割り当て分 [バラック割当て分] になる。回復したら医師は病気が再発する可能性があるかどうか判断する。もし再発ということであれば炊事場を解雇される。むやみに暑い日だった。スカートゥは暑いなか2時半(我々の時間では12時半)に2時間伐採した。時折心配するが幸いにも今のところは大丈夫。このように乏しい食事では実に許し難いことだ、だが何ができるというのだ、木材が必要なのだ。

ゴッキングガ

1945年5月9日

スカートゥは今新しい炊事班<sup>18</sup>におり、今晚すぐに出向き午後7時から午前4時まで夜間勤務である。この報酬は我々の分より4分の1多く食糧をもらう。…中略…私は心からこの子が特配をもらえることを喜んでいる、だが私は分け合うことを辛抱するのに難儀するだろう。

ボス

1945年5月11日

本日は炊事場就労の最終日である(3年と1ヶ月)。

ゴッキングガ

1945年5月11日

スカートゥは一日中炊事場で働いている。彼は楽しんでいるが、学業が疎かになる。外部で働く収容所住人たちは棍棒を携えているヤップとスカリラの傍、まるでクーリーのようだ。吐き気がする。常にタバコとか紙巻タバコのためにヤップと親しくなる奴がいる。いやらしい!

---

<sup>18</sup> 元炊事班は諍いの後総辞任した。人間関係の日記の断片 1945年4月29日から5月8日参照。

ゴッキング

1945年5月14日

スカートオは現在米などは余分に180g、魚は15g、野菜80gもらえる。これで少しは体重が増えるだろう、しかし重労働だし身を粉にして働いている。私は彼の大量の皿をうらやむ、それほどまで飢えでもう意気消沈しているのだ。…中略… 今スカートウは炊事場で働いているため炊事場からお湯とお茶がもらえ、有難いことにもう自分で沸かす必要がない。

ボス

1945年5月15日

本日新しい雑役を始めた。浴場監視人だ。一日2時間半続く。人々が遠くまで行ってしまわぬよう、そして指定の階段を使っているかどうかを監視する。

クラウト

1945年6月9日

ヤップはバラックを建てるのに忙しくしている。収容所はこのため10名の男たちを供出する必要がある。

ゴッキング

1945年6月17日

炊事場ではますます多くの少年たちが働いている。年配者は一人ずつ落伍して行く、なぜなら労働が苛酷すぎるのだ。

クラウト

1945年6月24日

ここでは各雑役に役得がある。1.伐採者たちは木材を自由に持ち帰れる。2.医師、看護人は便所とホスピタルを自由に使える。3.野菜収穫者オッターベルフとレンスフェルトは野菜が



自由になる。4.元輸送班は自由になる野菜と魚。5.外部伐採者・搬入者はチャベ〔唐辛子〕、野菜、木材。などなどと続く。

クラウト

1945年7月25日

本日より私は毎朝9時半から12時まで（時には12時半）木材搬入だ。…中略…今朝木材を手押し車に搬入していた時、また男たち二人が木材を持ってきた。それが私の背中にあたった。幸いかすり傷だけだった。もっとひどい事になっていたかも知れなかった。道に沿って伐採班の印人の少年が数人、本当の兄弟のように一緒に飯を食べていた。

クラウト

1945年7月27日

木材搬入班の役得は一日いくらかのチャベ〔唐辛子〕と薪。禁止されているがウビの葉〔キヤッサバの葉〕を持ち帰る。木材搬入は思ったより難儀だ。私は歩くのにまた慣れる必要がある。

クラウト

1945年7月29日

ホスピタルの夜間警備員と皿洗いの人々は、役得として今1ヶ月1リットルの油がもらえる。

クラウト

1945年8月3日

木材は1.5キロ余りの遠距離から取ってくる必要がある。普通は2台の手押し車があるが、1台は手荒に使用されこっぱみじん。その上雨期には道がとても悲惨なことになる。

ゴッキング

1945年8月15日

スカートウの班のリーダー、パウル・フェッターが炊事場で火傷、40度の熱を出して寝ている。スカートウも同時に火傷をしたがそれほどひどくない。痛みはない。

ゴッキング

1945年8月17日

ヤップが外部のウビ菜園 [キャッサバ菜園] を4日間耕作するための志願者を要求した。4日間他の雑役以外に1日2時間余分に雑役をするのである。これをすれば10キロ米がもらえる。これはもちろん我々の配給不足分が報酬になるわけである。恥ずべきことだ。

## 健康状態と医療事情

ボス

1944年10月14日

ローマン、55歳がマラリアで死亡（元パンカラン・ブランダンのBPM<sup>19</sup>建設課勤務）。この収容所で最初の死者である。…中略…すでに長い間栄養失調性浮腫を患っており、足がむくみ傷がたくさんあった。ここへ移動した後、くたばったのだ。13歳ぐらいの息子エドワードをこの収容所に残し、アブラハムセがその面倒を見ることになった。ひつぎは我々のホン[バラック]でバレ・バレ[寝台]を壊して作らねばならなかった。…墓地は収容所から200メートルほど離れた丘の麓に指定された。シボランギ（後ペマタン・シアンタル）のスマット牧師が葬儀を行った。

ゴッキンガ

1944年10月16日

9時半にペマタン・シアンタルからの歯科医スナイダースのところへ。彼は何もないので治療できない。抜歯と少し消毒ができるだけ。

ゴッキンガ

1944年10月18日

仲間グループのヘンドリックスにタンパク質不足で皮下出血の徴候があらわれている。安静にし、そしてタンパク質を摂る必要がある。いずれも現実には無理なことだ。ここはとても悲惨で、我々は未来は暗いとみている。

ゴッキンガ

1944年10月19日

なんと栄養失調になっている人たちが歩きまわっていることだ、ことにシ・ガラ・ガラ

---

<sup>19</sup> バタビア石油会社、シェル石油グループの企業。

からのキニーネを持たないマラリア患者たち。人によっては簡単に見分けられない。悲惨なことだ。

ゴッキング

1944年10月22日

赤痢が増えている。日中は便所以外の場所での放尿は禁止。夜中はやむを得ぬ場合のみ草の上で、だがホン〔バラック〕の向けてではなく遠く離れて。道沿いの草の上に大便をしないようホンの傍に特別に夜間用の便所を建てた。もし持ちこたえられなければ外でも良いが、砂をかけておくこと。

ゴッキング

1944年10月22日

ウェーダは盲腸炎でウィングフートの病院に運ばれ、そこでスモーク医師が手術の執刀医を務める。

メンデス

1944年10月23日

左膝に水がたまっている。おそらく移動の際、長い距離を歩いたためであろう。ギ酸注射がなされ、悪化しないよう安静にし温かくしていなければならない。長くかかりそうだ。

メンデス

1944年10月24日

ウィングフート病院に運ばれたドウシーが、そこで10月18日腹膜炎のため死亡した。

ゴッキング

1944年10月25日

足のむくみと湿疹がひどくなっている。手足や身体をながめるのが強迫観念になっている。私の体重はここに到着以来55.5キロ（1944年9月15日）から55.2キロに減ったが、それほど大したことはなく、ほぼ同じ、驚異的だ。自分の歯に絶望して鉄やすりと研磨用の砥石で義歯床を作った。意外にも成功！現在義歯床はぴったりで、痛みもなく、それで上手に強く噛むことが出来る。先の尖った歯もなくなった。こんなこと普段ならやらないが。残念ながらデ・ローク医師によって最初のマラリア蚊（アノフェレス）が発見された。これでマラリアが流行することだろう。…中略… 君がここにいれば、混乱と不潔さそしてひどい健康状態が見られたはずだ！君に印象づけるように書く事は残念ながら私には無理だ。…中略… また暑くてうだるような状況も上手く表現できない。病気になったら神よ助け給え、いつまで続くのか。最大限の耐久力と健康が求められる。

ゴッキング

1945年10月27日

夜中に突然下痢、真っ暗で雨。泥とぬかるみを通りぬけ便所までたどり着こうとして150メートル歩いて、アラン・アラン [茅] の中に迷い込んでしまった。ようやくホン [バラック] に戻り最初からまたやり直し。さまよい歩いた末やっと暗い便所にたどりつくのと、また汚物の中に滑って全身すっかり汚物と泥の中。そのあと万一来に備え、雨の中雨合羽を着てバケツを持って半時間外にしゃがんでいた。夜明けにまた腹痛が始まり、その時は赤痢を気にしながら検査のため病棟の便器に用を足した。幸い検査の結果は陰性だったが、軽い疝痛でおそらく大量のトウモロコシ、生煮えのウビ [キャッサバ] と飲料水の中に混じっている砂のせいであろう。現在特別食になり数日間の安静。現在我々のホン [バラック] の向かいにあるホスピタルの便所を使うことが許された。これは好都合。赤痢でなくてほっとする、現在また2人赤痢患者が加わったのだ。病棟は満員で、二人の看護人たちも病気だ。ハイスベルツは悪い、脚に添え木しなければならない。ダウンスティは病棟に運ばれ、息子がとても哀れな様子でうしろからついて歩いた。…中略…

通達：赤痢が増加、嚴重に注意し、極度に清潔を保つこと（無意味だ！）。鶏が人間の排泄物を引っかいたあと食用バケツのなかに入る。だから放し飼いは禁止。放し飼いの鶏は捕まえ、収容所幹部に引き渡す必要がある。地面にあるバケツを重ねてはいけない。私はまた新規に特別食だ。

ゴッキング

1944年10月28日

私の食事療法は現在朝食玄米と僅かなタレ（900g）。夕食は挽いたトウモロコシ、イカン・テリ〔塩干しの小魚〕と僅かなタレ。不味い。スカートゥは口直しに米をすこし残してくれている、いい子だ。私は一日中寢床に臥せており、いくらかまた快方に向かっている。

ゴッキング

1944年10月29日

ホスピタルはしょっちゅう人が落ち込むがついた竹の床で、人が歩くとあらゆるものが振動する。今はほぼ満員！。…中略… 私の病気が何かを医師たちが論争している。一人は赤痢だといひ、他の医師はそうでないという。医師の診察時間：12時から1時がファン・デン・ベルフ医師、1時から2時はヤーコブス医師とノーステン医師で彼らは耳鼻科。ファバレー医師は眼科と診療所。フッフナーヘルスは細菌学者として働き、カウエナールは助言を与え、スナイダーは歯医者である。とても素晴らしいみたいだが薬とプルカカス〔器具〕がないのである。

ドライバース

1944年10月30日

私は快調だ。疲労と興奮で今晚は熟睡した。（以前抑留されていた）聖ヨーゼフスクールでの滞在で元気になったし、健康にみえるとみんなが思っている。私は絶えず1日2回低血糖<sup>20</sup>になっている。いくらかインシュリンを減らしてみよう。そのほか、ここにいると「外部で」何が起きているのか全くわからないので息詰まる感じがする。

ゴッキング

1944年10月30日

ホン〔バラック〕2号棟で今朝10人の赤痢患者がでた。10人とも並んで臥せている。…中略… ホスピタル裏の状況は悲惨だ、下痢患者多数に便所が3つ。便所は一つの穴から別の穴に

---

<sup>20</sup> 低血糖とは血液中の糖分が病的に低下すること。

かわるだけ。多くの患者は単に草の上で便器に座って、立ち上がれないほど重病だ。便器はまったく不十分。みんな高熱などがあるのに外で泥と雨の中しゃがんでいる。便所には大きなアオバエの集団。夕方や夜中には猛烈に刺す蚊の襲撃にあう。雲のような集団になって襲いかかり、いたるところを刺される。獣じみている。私は赤痢やマラリアの大流行を予想している。だれが生きて出られるかを自問する。とても悲惨な状況である。…中略… 私は一日中寝床。赤痢か否か、ホスピタルか否か、いまだに疑問のままである。

ドライバース

1944年10月31日

インシュリンの残りは3800単位。…中略… 昨日の午後ヤーコブス医師が食事療法について話しに来た。インシュリンが20単位まで減らされ、1日10単位ずつ2回に分けられた。

ドライバース

1944年11月1日

飲食なしの昨日の朝と今朝の朝食後の尿はどちらも糖分は陰性。だから非常に快調。この食事療法で来週はどうか見守ろう。収容所は赤痢の周期を迎えている。かなり良性のものようだが、やはり不愉快なものだ。

ゴッキンガ

1944年11月1日

まだ安静にしているが元気だと感じる。すでに数日間水浴していない。不潔で臭い。人々は今ホン [バラック] のバケツの上に座って用を足している。みんな胃腸病患者で、その数は急激に増加している。不安だ。…中略… 医師たちは生もの、ココヤシさえも生で食べないよう助言している。フェッターがホスピタルに入院。たくさんの患者たちで超満員だ。また一度石鹼を使ってカリで水浴、少なくとも匂わなくなった。

ボス

1944年11月3日

ホン [バラック] 8号棟は臨時病棟だ。合計65名が入院。マラリアと赤痢が蔓延している。

ゴッキング

1944年11月4日

ホスピタルの便所はいたるところ血の池、まったく気持ちのいい風景ではない。決して愉快的な雰囲気ではない。

ドライバース

1944年11月4日

今日体重を測った。57.8キロだ。昨夜の低血糖で夜のインシュリンを8単位まで減らした。幸いとても気分が良い。

メンデス

1944年11月4日

今の所はまだ良性だが、細菌性赤痢もこの収容所で再び急速に広まり、明らかに患者数が150名以上に達している。昨日、私を含め16名が同時にホスピタルに入院しなければならなかった。数日来腹痛をおこして、日に2度から3度不意に下痢状態となる。私はココヤシの使い過ぎ（特に生もの）によるものだと考えた。検便結果は血筋のある粘液。同日の午後ホン [バラック] 8号棟（臨時病棟）に軽症患者として入院、食事療法（米の粥とサンテン [ココナッツミルク]）に入った。熱はない。

ゴッキング

1944年11月5日

スカートウの耳膿瘍が破れ、たくさんの膿、朝早くノーステン医師のところへ。私自身はとも調子がよくなった、つまり回復したのだ、有難い。赤痢とマラリアが継続的に増加、恐



怖心をかきたてる。…中略… 幾人かがまた倒れホスピタルに担ぎ込まれた、我々はそのすぐ向かい側にいる。一日が有難いことに終わろうとしている！。

ボス

1944年11月8日

アーチェ・ラウハーバー、享年56歳、赤痢で死亡（役人）。

ゴッキング

1944年11月8日

ラウハーバーが午後3時チョト[丘]の麓に埋葬された。なにも通告がなかったのは奇妙だ。全く慰めようもなかった。彼は2番目の死者。…中略… デ・フリース牧師が糊付けした襟のグレーの上下を着て葬儀を行った。サイズが全部大きすぎて哀れである。襟は頭の周りに巻く事が出来るほどだった。

ゴッキング

1944年11月9日

スカートウの耳はほぼ回復、私の足と内臓も然り。…中略… 外科医のボレン医師が僅かの麻酔薬で人々を手術すると、向かい側のホスピタルから患者たちのものすごい叫びが聞こえる。彼はまるで血のど真ん中にたっている屠殺人のようだ。

メンデス

1944年11月9日

まだホスピタルにいる。日に1回の便で発熱なしの良性的軽い病気なのだが、まだ健全な一つまり固形の一便ではない。およそ200名の登録された患者がいる、そのうち約80名が赤痢である、この数は申し出していない患者を除いてである。

ボス

1944年11月9日

手術はヤップによれば現在収容所内で行わねばならない。すなわち誰も収容所から出てウィングフートに行く事が許されないということだ。

メンデス

1944年11月10日

検査の結果まだ私の便は良好ではないとのこと。夜遅くものすごい胃痙攣の発作（5度から7度のひどい痙攣でオランダ少年時代に1度だけあった）、ファン・デン・ベルフ医師とボレン医師が呼ばれ、アヘン注射でようやく治まった（ちょうど横隔膜の下の間膜に当たり呼吸困難になった）。熱はなかった。症状はゆっくり始まり激しくなる痙攣で、その後また次第に緩慢になり5分から10分間で完全に治まる。

ドライバース

1944年11月10日

インシュリンの量3600単位。変化なし。気分は良い。

クラウト

1944年11月11日

昨日マラリアの発作、38度3分、すぐに薬を飲む。今朝は36度5分。…中略… ファバレー医師は今朝マラリアについて「2度か3度発作の成り行きを見守ろう」と言った。全部で6錠の薬を服用した後、午後の体温は37度だった。

ゴッキング

1944年11月13日

レオは手術で足の指をなんの麻酔もなく切断された。長椅子の上でうめき叫び縛り付けられた。長椅子に身をかがめ、痔を切断された患者が寝ている、彼もうなりうめいている。同じ

部屋では外来患者が治療され、すべてがごちゃ混ぜである。歩くとすべてが振れ動き、軽い傷、重症の傷、うなり、うめき、ののしり、血、汚物、その間を赤痢患者などがうろついている。ああ、何と言う状況だ、そしておかしなことには、その間を自分は無感動で、静かにただ神様これがはやく終わりますように、…中略… 力をお授け下さい、と口に祈りを唱えて歩きまわっていることだ。

ドライバース

1944年11月13日

また何度か低血糖になったあと、インシュリンの量を夜8単位から6単位に減らした。だから大事な節約になる。今日は尿が陰性だった。

ゴッキング

1944年11月16日

今晚で食事療法は終了。回復したとして解放されるのだ、万歳！今度の月曜日（11月20日）までは安静を保つ。本日のチフス、コレラ、赤痢の予防注射は1班と2班だ。…中略… 私の隣人が夜中くしゃみをした。シャワーを浴びたようだ、このように瞬く間に感染していく。医師たちはマラリアと赤痢の流行の規模が小さかったことに満足している。

ゴッキング

1944年11月17日

またひどく指を切った。現在両方の手に包帯をした指が1本づつと包帯した頸骨（鉄条網での傷）と包帯をした足の甲（くぎが刺さった）だ。幸いここはスンガイ・センコルほど感染がひどくない。…中略… 本日チフス、腸チフス、コレラ、細菌性赤痢、髄膜炎とあと何かの予防注射をした。これらは日本製がいい、軍でも使用され、カウエナル医師によれば優秀品との事。

メンデス

1944年11月19日

ホスピタルでは、人々の思考がおいしい食べ物に傾き、戦争が終わったら作ろうとどんなレセピでも書きとめている（実は私自身も）のは注目に値する。私はもうここで16日間横たわっており粘液と血が消えた。私は目下毎日3回粥の食事があった後、1度おかずのないご飯をもらう。好ましい変化ではある。トウモロコシに移行することはまだ許されず、魚もファン・デン・ベルフ医師から厳しくさし止められている。

メンデス

1944年11月20日

私の赤痢はまだ快方に向かわない、今日また便にかなりの粘液があり、痙攣気味だ。まだ定期的に私の膝にたまった水に、いくらか助けになるらしいギ酸注射を打ってもらっている。

ゴッキンガ

1944年11月22日

私の栄養失調性浮腫は多くの徴候がある、突然足、顔、まぶたなどが腫れる。皮下出血、傷などなど。痛みはまったくないし、長続きしなければたいしたことはない。魚がもらえるようになって以来、塩を使わなくなり、ありがたいことに足のむくみの厄介にはなっていない。今日はカリの岸辺でくじいて右肩の筋を少し違えた。このように毎日何か起こる。…中略…昔衰弱した人や病人に特有だったように、現在みんなの皮膚の血管がすけてみえる。

メンデス

1944年11月23日

ほぼ3週間入院しているがまだあまり快方に向かわない、いまだに粘液と痙攣そして右の胃が痛む。今日からトリパフラビン洗浄だ。

ドライバース

1944年11月24日

まだインシュリンが3200単位ある。本日800単位の蓄えから亜鉛プロタミンインシュリンを始めた。現在日に16単位投与する。

ボス

1944年11月29日

ものすごい痒み、たいてい夜中におこる（おそらく）カルシウム不足のせいであろう。

メンデス

1944年11月30日

突然午後38度2分の熱、そして刺すようなひどい頭痛で夜中眠ることができない。

メンデス

1944年12月2日

11月30日以来毎朝ほとんど発熱しないのだが、午後には40度4分まで熱が上がる。

クラウト

1944年12月3日

ますます足に赤い斑点のある人が増えている。医師たちにははっきりした原因が分らない。

メンデス

1944年12月3日

眠れない夜。朝は熱なし、午後におよそ40度の熱。血液標本が作られた。（発現用のシーダー油がないため節約しなければならず）結果は三日熱マラリアが重複して感染していた（そ

のため毎日熱がぶり返す)。現在日に1gのキニーネをもらう。現在旺盛だった私の食欲は全くなくなってしまった。

ゴッキング

1944年12月3日

人々は「どうですか？」ではなく、現在「足のぐあいはどうですか？」と尋ねる、なぜなら内出血した足などで歩きまわる人がますます増えているからだ。ある人はとてもひどい。それで皆時々こっそり手足をながめている。

メンデス

1944年12月4日

数日前ヤン・テンペルマンが脳卒中の発作で倒れ、その後意識不明のまま横たわっている。本日夜中に喘息患者ファン・ハルムがオバットウ [薬] がもらえなかったため死亡した。今日私は熱がない。

ボス

1944年12月4日

ファン・ハルム(元ガス会社勤務)45歳ぐらいが結核で死亡。ここへの移動の犠牲者である。

ゴッキング

1944年12月4日

パウ理事官(パーキンソン症患者)が野外で誰かに洗ってもらっている。見られたものではない。…中略…ファン・ハルムが午後5時半に埋葬された。彼は十字架(木製)と名前だけの我々の墓場3人目である。ひつぎ用の木材はバレ・バレ [寝台] から使用されねばならなかった。

メンデス

1944年12月5日

眠れぬ夜がずっと続いている、今晚も然り。そのため夜は私にとっておぞましいものになる。まだ便に粘液と血が混ざっている。高齢者や介護を必要とする者がおおぜいいる収容所病棟の中を、今のようにながめられる状況にいと、看護人ばかりでなく、昔は慣れてはいなかったであろうに一日中忙しくしそこで機嫌を失わない、いわゆる看護人を補佐する人々にも尊敬の念を持たざる得ない。

ゴッキンガ

1944年12月6日

我々のホン [バラック] のベルヘンタウン氏が死亡。スマトラで行き詰まった宣教師で、哀れな老紳士だ。5時半に収容所墓地に埋葬された。4人目である。戦前の欧州人の平均死亡率は1年間2%だから、すなわちこの収容所では1年30人で、1ヶ月に2.5人ということである。ハイスベルツの病状が突然悪化。医師はもう希望がないとし、死の覚悟を言い渡した（脊髄性結核?）。とても哀れである。

メンデス

1944年12月6日

幸いようやく静かに眠れた。今朝シャリ塩で通じをつけた。キニーネ1g服用。熱はない。

ボス

1944年12月7日

死亡：ステーンスマ（財政検査官）。享年46歳、肺疾患による死亡。ハイスベルツ（DHB代理店勤務）享年48歳、細菌性赤痢および脊髄症（結核）による死亡。ハイスベルツに今日一皿のサゴを約束していたが、もうその必要もない。

メンデス

1944年12月7日

それほどよく眠れなかったにもかかわらず気分はいい。今日最後のキニーネ1gをもらった。ホスピタルからはもうこれ以上は支給されない。食欲も戻りはじめた。細菌性赤痢による死者がまだ続出している（時には日に2人か3人）。

ドライバース

1944年12月8日

最近ほとんど何も書いていない。その上わずかに記述できることはあまり元気づけられることではない。ファン・ザーデルホフはすでに1週間赤痢で入院している。元気ではあるが顔色が悪い。最近4名の死者、その中に昨夜ハイスベルツと一緒に埋葬されたステーンスマがいた。気が滅入っていく。数日前からインシュリンを日に14単位投与している。気分は良いが安静にしている。足はまだ良くなる。一日の大半を寢床ですごし、本をたくさん読む。主に娯楽書。

メンデス

1944年12月8日

本日5日目でキニーネ治療の最終日、ファン・デン・ベルフ医師（国際連盟）によれば満足すべきであるとのこと。検便にまだ粘液があったので、本日よりまた新規に一連のトリパパラビン洗浄を始めた。

ボス

1944年12月9日

怖ろしい夢をみた、ものすごい寝汗。



ゴッキング

1944年12月10日

ヘンドリックスはここで4度目のマラリア発作。幽霊のようにみえる、衰れた。ファン・デル・フェルツはむくんだ足と赤い斑点。

ボス

1944年12月11日

テンペルマン（RCMAの農園主）、60歳ぐらいが脳卒中で死亡。

クラウト

1944年12月11日

本日の夜中にテンペルマンが死去。肺炎を併発していた。彼は意識を取り戻さなかった。ことに終戦の兆しがみえはじめたこの時期に死んでいくのは、彼の家族にとっても痛ましいことである。

ゴッキング

1944年12月13日

病棟から（人工）気胸術<sup>21</sup>の治療を受けているファン・ベメルのために缶ミルクの要請があった。

クラウト

1944年12月13日

今日の夜中に下痢でもう一度外に出なければならなかった。便所の周囲は極めて不潔だったので、私は草の上にしゃがむ。今朝医師に検査のための便を届けた。…中略… 検便結果はある程度の化膿。13時は食事抜き、今晚は半皿。ファバレー医師におかずなしでご飯を100

---

<sup>21</sup> 人工気胸術は、胸部に針を刺し、空気を胸腔に故意に吸入し肺の虚脱を引き起こす。肺結核治療のために用いられる。

g 食べられないかと尋ねた。75 g で十分だといわれる。今晚アヘン15滴取りに行き、明朝再度便を届けること。カタル<sup>22</sup>、流行性胃腸炎、赤痢かマラリアの徴候かもしれない。昼食と夕食がカチャン・イジョ [小粒のグリーンピース] 150 g にかわった。医師は夕食を半分にしろと言った。今米を100 g だけ炊いた。今晚もう2滴のアヘン。健康は富にまさるといふことわざがある。少しでもどこかに支障があるのは不愉快である。

ゴッキング

1944年12月15日

メス氏が午後5時に埋葬される。葬儀は雨と泥のためホスピタルで行われ、ひつぎを担ぐ人たちだけが10cm水浸しになっている小道を埋葬地まで一緒に行く。メス氏は63歳だった。…中略… 牧師は緑の葉などを彼の寝台の上に置いた、私は料理し食べるものだと思い「牧師さん、また食事ですか？」と言った。彼は「いや、これは葬儀用の花だよ」と応えた。確かにその花束が今ひつぎの上に置かれている。またこれで柵の向こうに葬られた人は8人目になる、2ヶ月半ですでに8名である。今朝病棟で切れ味の悪い普通のハサミに麻酔なしでボレン医師が手術。他の患者たちのいるど真ん中で誰かが背中のできものを切断する必要がある、その男はうめき叫び、他の人たちは見るに耐えられず気を失う。我々のホン [バラック] のある者が小さな手術の後、ホンへの帰り道に気を失った。たくさん出血しひどい事にように見えるが、たいしたことではないと思えた。そしてこれらあらゆるものにも増して私は君に会いたいと願っている！

ゴッキング

1944年12月16日

少し痛い、リウマチあるいは右肩の筋を違えたのか。ファン・ベレヘム氏にマッサージしてもらった。

クラウト

1944年12月16日

胃はまだ正常ではない。今朝また便を届けた。…中略… 17時ファバレー医師のところ結

---

<sup>22</sup> カタルは胃の粘膜の炎症

果を取りに行った。彼は「何もみつからなかった」と言い、私は「しかし一度決着をつけるべきでしょう」と言った。彼は「今晚もう10滴取りに来なさい」と言った。胃に障害がある人がたくさんいる。ガブレック [乾燥キャッサバ] もまた劣悪なものである。ラバレットはマラリアだ。以前には罹ったことがなかったのだ。

ゴッキンガ

1944年12月17日

病棟助手のファン・デル・ステーン氏は盲腸手術のため本日ウィングフートにいつている。…中略… 私はまた左の犬歯の充填材を失った。まるで落葉した枯れ木のようなのだ。

メンデス

1944年12月18日

ファン・デン・ベルフ医師によると私は非常に執拗な細菌性赤痢で、今日ブラスタギーから受け取ったリバンド粉末（一日3回）をもらう。

ドライバース

1944年12月19日

昨日の尿検査では糖分陽性。日曜に余りにもたくさん重いものを運んだし、加えて感情も高まった。今朝またインシュリン16単位を投与、安静にしていた。インシュリンの残量2800単位。

メンデス

1944年12月20日

ここでも人々は食糧不足と苛酷な雑役のため急速に衰弱し、人は痩せた骸骨たちが歩きまわっているのを見て驚く。近頃到着したばかりの10歳くらいの少年たちもとても未成育のようだ。

メンデス

1944年12月22日

昨日の「検便」は並外れて良好（固形で粘液なし）だったが、また今日の夜中に具合が悪くなる。一晩中胃が鳴ってげっぷ、そして今朝は水のような便。もうリバノールはなしにするとの約束だったが、また数日このまま続けることになる。

クラウト

1944年12月23日

収容所にはかなりの数のマラリア患者がいる。コックの長男は、1週間の高熱のあとやっとマラリアと診断された。わずかなキニーネしかもらえない。一昨日テンペルマンの葬儀があった。「ヤンは天国にたどり着くまでにとっても長く待たねばならなかった。」と誰かが指摘した。

メンデス

1944年12月23日

昨日と今晚、5度の下痢とげっぷ、そして胸にかけての痛みがあった。リバノールは目下中止だ。

ボス

1944年12月24日

ダイクストラ公証人（あだ名は酔いどれ）51歳が脳卒中で死去。…中略… もう一人の死者はカハイ（引退農園主）、75歳、赤痢による死亡。

メンデス

1944年12月24日

まだげっぷが続く（少しは減ったが）。今朝シャリ塩を摂取、食後ごとに一匙のトリパフラビンを服用し始めた。

メンデス

1944年12月26日

今朝ようやく下痢が回復した、ほっとした。食道から胸部にかけての痛みも消えた。

ボス

1944年12月29日

エギンク氏（ラグ・ボッティの家具工場）が赤痢のため死亡。享年58歳。この収容所に18歳の息子がいる。

クラウト

1944年12月29日

エギンクが今朝亡くなった。息子のケースが哀れだ。この二人はベラワン・エステートではすべて共有して飲み食いしていたのに。

クラウト

1944年12月30日

今日ヤップによって20歳から30歳と60歳から80歳までの男子の体重測定があった。あれこれ身長と比較して激しい体重減少や血圧、死亡状況などを示す医療報告が提出されたせいだろう。

ゴッキンガ

1944年12月31日

昨夜は一睡もしなかった。とても寒くて毛布や部屋着にくるまっても全然温かくならなかった。嫌な気分だ。軽い5日熱みたいなものだと思う。大部屋中みんな罹っている。…中略…軽症の口峡炎だ、隙間風に注意。当分水浴はいけない。

ゴッキングガ

1945年1月1日

ほとんど熱はなくなった。だから熱はもう過去のはなしになったと願う。ここでは病気になっ  
てはいけない。…中略… 熱はほぼなくなった、が雑巾のように感じる。あまり忍耐力が  
ない、抵抗力は全くない。

ゴッキングガ

1945年1月2日

今夜は雨、滑りやすい。私は外に出なければならず、滑って背筋を違えた。それで今、から  
だの具合があまりよくない、まだ口峡炎と高熱がある。腹筋が痛くなる咳、喉のむずがゆさ、  
凝った背、肩。そうなると収容所ではとても不幸せな気分になる。スンガイ（川）での水浴  
はだめだ。私は不潔でスカートゥに川岸でバケツの水でしっかり洗ってもらう。廃人のよう  
な気分。収容所の大部分の人々は喉痛で、咳と熱がある。…中略… カンプ氏（デリ港湾会  
社）は重病だ。病棟で黄疸と赤痢で臥している、重症である。

ゴッキングガ

1945年1月4日

昨晚メダン、グヌン・シカンビンの酪農業主のボッチェ氏が死亡。彼は今年最初の死者で合  
計13人目である。享年63歳（黄疸と赤痢）。…中略… ボッチェ氏の埋葬は午後4時。私はほ  
ぼ快方に向かっているが、まだ太陽の照る下でバケツの中で水浴。

ボス

1945年1月5日

カンプ氏（デリ港湾会社で2人目）48歳が黄疸と心臓衰弱で死亡。3ヶ月の間に13度目の死鐘  
がまた鳴り響く。

メンデス

1945年1月5日

私の赤痢はまだ回復しそうもない。腹は過敏なまま、便は固形だがまだ粘液が混じっている。私はホスピタルへの長期入院と医師からの監視を、神の手に委ねられたと見ている、さもなければ私は衰弱した体で雑役をなさねばならなかつただろうし、収容所の難問題である煮炊きの水を用意しなければならなかつただろう。現在、我々ホスピタルにいる者には飲み物が与えられ、安静にしていられるのだ。

ゴッキング

1945年1月5日

よく眠れなかつた。むずがゆい咳などで悩まされた、また最近では神経もまいっている。心配のしすぎと不必要な怖れ、結局また回復するような気まぐれなものである。…中略… ボツチェとキャンプがワイル病にもかかっていたとささやかれている。これが事実だとすると、ああ助け給え、ひんぱんに発病するだろうから。

ゴッキング

1945年1月6日

私自身は回復し、またカリで水浴してもよい。…中略… とても痩せ細り、一種の床擦れのような腰痛なしでは横たわれないほどだ。…中略… 収容所の医師は、キニーネは自己判断では服用せず、医師に相談してからという助言を与えている。おそらく収容所にまだどれくらいあるか知るためだ。

ゴッキング

1945年1月7日

スカートゥがインフルエンザのように思える。彼の目がすっかり変になっている。厄介な事だ。煮炊きなどにも厄介だ。収容所で病気は禁物だ。だめだ。昨夜暗闇でホン [バラック] 3号付属病棟の外の小道で、年老いた人が一種の便器の上でうめき叫んでうずくまっていた。君よ、なんという状況だろう。人々、特に高齢者が苦しんでいる様子は、想像以上だ。

ボス

1945年1月8日

5日間病気した（かなりの風邪）後、背中（腰痛）痛が残った。風邪を自前のエムス塩、メントールパラフィン、そしてアスピリンで直した。私は現在医師の助言でマッサージ師のファン・ベレヘム（ベルギー人）の奇跡の手で毎日治療を受けている。その他には腰のまわりに綿ときつい包帯をまいている。

クラウト

1945年1月9日

病棟にいる人々には「現実」がわからない。それは他の患者の間で死んでいくことだ。死人は運び去られる。他の病人はひつぎをかなづちで閉じる音を聞き、また空のひつぎが食事を分配する調理台の下に置かれていることもあるのだ。今日は君、明日は私、という事だ。悲惨な状況だ!!

ゴッキンガ

1945年1月9日

スカートゥは喉の炎症のため臥せてなければいけない。彼自身気分が悪いと感じている。我々の階では多くの病人が一行に並んでいるのが数えられる。薬はない、横たわって、待ち、水浴はなし。不潔である。…中略… スカートゥにとって、熱をだして、数枚の毛布で板の上に臥せているのはたやすいことではない。…中略… スカートゥも現在充填材を失いほとんど嘔むことができない、特にトウモロコシはとても胃に負担がかかる。今日スカートゥが寝ているのを見て、私は彼がとても痩せている事に驚いた。いたるところ骨が出っ張り始め、特に肩は顕著だ。

メンデス

1945年1月9日

昨日から便に粘液がなし、今日からはじめてサンバルはなしだが大炊事場の食事をした。



ゴッキングガ

1945年1月10日

私はぐっすり眠った、スカートゥも然り。今日彼は少し回復、少なくとも悪化はしていない。スカートゥを驚かせるため、朝早くお茶を入れた。それからクリット（ホルストマン）が彼にココヤシの殻に入れて粥とスルンデン [おろしたココナツを焼いたもの] を持ってきた。このように我々は病人をあまやかす！薬品は全くない。何か支障があると、横たわりアラー様が直してくれるのを待つのみ。

多くの、特に若者たちによって油が自由に使われ、そのため下痢になる。それは朝便所に続く道筋にはっきりみられる。なんと不潔なことだ。便所は下痢の若者たちで満員だ。彼らが話すのを聞いてみるべきだよ。よくある質問は「君も下痢？」答えは「まあそうだ。」みんなが下痢、マラリアあるいは赤痢に、時には全部同時に罹っているようだ。…中略… またここでの強迫観念は、夜中に暗闇と泥の間をぬって、便所に行かねばならないという恐れである。だから人々は「今晚は起きる必要がなければいいが、腸がなんともなければいいが、もしこうなら、とかああなら」と怖れながら眠りにつくのだ。そして結果としては夜中に起き出さねばならないことになる。あるいは実際に、あるいは兆しだけで、いずれにしても人々は起きねばならない。人々は常にお腹の調子に不安を抱いている。ここでの豚の餌をみると、それも不思議ではない。…中略…

スカートゥは一日中寝床の中。…中略… とても具合が悪く、目が周知のごとく充血しているが、ヤーコブス医師はお情けで訪問をとばした。我々の階では麻疹に罹った青年が多く臥し、他の者は寝そべって吐いている。薬はない。もうアスピリンさえもない、何もないのだ。つまり人を見舞う必要も本当はないのだ。スカートゥは午後6時に38度の熱があった。くたびれ、ほてり、食欲もない。クリット・ホルストマンは相変わらず見舞いに来ている。これはいくらか気晴らしになる。神さま、早く彼を回復させてください、ここでは彼に体力をつけるものが何もない。以前はこんなではなかった。とても心配だ。…中略… スカートゥは我々のホン [バラック] の青年や少年と同様に麻疹に罹っており熱がある。吐き気がして疲れやすく、気分が悪いし食欲がない。早く回復することを願う。

ゴッキングガ

1945年1月11日

スカートゥは眠りが浅く今朝は37度8分あった。彼は麻疹で赤くほてり、今日薬をさし真っ赤な目をしている。収容所では現在麻疹、風邪、声がでない、60%がマラリア、赤痢などが多い。…中略… スカートゥは一日中何も食べなかった。彼の目は充血し、痛みを伴うほ

とんど何も吐かないような吐気。いかに心配している事か。ヤップからのグラ・バタック〔ヤシ砂糖〕を溶かしスプーンで数滴与えた。

メンデス

1945年1月11日

いままではホスピタルにいくらかキニーネがあったのだが、現在マラリアが長引けば長引くほど、この貴重な薬品が不足しはじめ、ここでもオバットウ〔薬〕がほとんどなく、600人の全抑留者がマラリアに罹ったラウェ・シ・ガラ・ガラと同様になっていく。

ゴッキンガ

1945年1月12日

スカートゥは眠らず、咳込み吐いた。彼はバケツを寝台において眠る。高熱、午前11時に39度5分あり、目は閉じ、充血し、顔全体と身体中が赤くかなり腫れ上がっている。何も食べずに臥したままだ。こうなったからには早急の回復を望むのみだ。用を足すのに、階段をおりて便所へ150メートル泥と雨の中を歩くには弱り過ぎている。このような場合は私が100メートル先の病棟まで歩いて便器を取りに行き、また戻しに行く。そして便器を洗う。これも解決法である。彼は今私のマットレスに横たわり、私は彼の毛布の上で寝ている、毛布は彼には硬すぎるのだ。彼はまたいくらか吐こうとしている。急にはできず息が詰まりそうだ。君がここで我々二人の様子を見たらどう思うだろう。私はストルティングに我々のために少し湯を沸かしてもらおう事を頼んだ、なぜなら我々には無理なのだ。

我々のホン〔バラック〕で麻疹の患者がまた数人加わった。本日キストマーカーの息子が今麻疹と下痢でホスピタルへ。現在周知のごとく足に赤い斑点があらわれ、突然開放性の傷になる人々もいる。これはなかなか危険？マームスよ、ここを脱出しなければ。間違った方向にむかっている。どうにかしなければ。ああ、病気になると考えるだけで不安になる。…中略… スカートゥは奥歯を痛がり、トウモロコシを噛む事ができず、今は挽いてもらわねばならなくなった。奥歯は両方とも噛めない。…中略… 現在新しい病気の組み合わせは、マラリアと気管支炎である。収容所中が体温計をもっている、体温は非常に高い。現在、また湿気があり雨で冷え冷えとし、空がどんよりしてみんなほとんど病気だ。麻疹が増加しマラリアは60%、下痢はすごい数だ。これはおそらく不潔で劣悪なガプレック〔乾燥キヤッサバ〕のせいだろう、なんという不潔さ。

ゴッキングガ

1945年1月13日

私は今日スカートゥの寢床の傍に寝ている。お腹のせいで気分はよくない。スカートゥは今朝38度4分だった。彼は腫れて膝まですっかり赤くなっている。何も食べないし目は閉じている。彼は砂糖ビスケットとお茶、そして看護してくれる君をとてなつかしがっている、子供なのだ。だが彼は大人のように振る舞う。文句を言わないし求めもしない、すべてに感謝している、ほろりとさせられる。彼はまるで君のようだ。彼のために十分してやっているのかどうか、あるいは何か欲しいものがあるのか分らないのが心苦しい。…中略… スカートゥと私は獣のように不潔だ。数日間身体を洗っていないし、水浴もしていない。これは今寒いために洗うことができないのだ。…中略…

今日はみんなかなり大きな魚をもらった、おいしい。2日以来スカートゥがはじめて食べたものだ。彼はまだほてったまま、目はますます赤くなっている、熱はゆっくりだが引いてきた。彼を洗って、パウダーをふり、寝かせて髪を梳かした。現在かなり気分が良くなっている。医師は満足しているが、風が吹き込んでくる開放された場所で風邪をひかないよう注意することが大切だ。彼はとてもぐったりしている。病気でとても弱ったのだ。…中略… 私はスカートゥに小匙で溶かしたグラ・バタック [ヤシ砂糖] を定期的に与えている。高熱の時さえほとんど吐かなかったのは不思議だ。とても心配していたのを君は分ってくれるだろう。また私は理由無き心配をしていた。私がガルデン、キニーネや消毒材などなどの薬品を持っていないのは、なんと愚かなことだろう。薬品はもうどこにもない。

ボス

1945年1月14日

テル・ホルストの息子が心臓衰弱で死亡した。享年18歳。父親もこの収容所にいる。ヤップはデュリアン [香りの強いフルーツ] を父親に与えるために持ってきた。

ゴッキングガ

1945年1月14日

私はスカートゥのためにご飯とスルンデン [おろしたココナツを焼いたもの] とサンバルの食事をすこし残しておいた、それで彼は今朝朝食として全部平らげた。熱が下がったのだ。体温36度7分。あと数日注意して当分は雑役なしだ。…中略… 現在我々の階の人はみんな熱をだしている、廃人たちばかり。…中略… 本日若いテル・ホルストが急死。17歳で心臓病。

15番目である。埋葬は午後5時。…中略…パウル・フェッターが外で倒れた、マラリアで41度の熱があった。…中略…今ちょうどD.ステリングが運び込まれた。彼も突然便所からの帰りに倒れ我々の階に運び込まれた。まるで死人のようだった。不安になる。我々のホン[バラック]のマラリアは猛烈である。私はおののく。階下のフック氏も本日入院。病人の数は恐ろしいほどだ。…中略…若いテル・ホルストのひつぎは彼の友人によって墓地まで運ばれた。父親は帰りに棺台の上に猫背で座っていた。

メンデス

1945年1月14日

昨日付属病棟の二階へ引っ越し、今朝から余分の米50gがもらえない。昨日からまた「下痢」で、今日からまた特別食になった。「下痢」が4錠のノリット錠で直ぐに止まったにもかかわらず、特別食のままである。まだ私の腹は平常でない、おそらくガプレック[乾燥キャッサバ]が原因であろう。病棟外では現在ますます赤痢の新しい患者以外は「収容所熱」と呼ばれるマラリア患者200名が続出し、キニーネが不足しているため十分なキニーネ療法をする事ができない。…中略…ホン[バラック]の「通気」のせいで、夜中にはせきの大合唱、人々は死ぬと怖れている。収容所はつまり完全でない人たちばかりの一大病院なのである。なぜなら最も健康な人でさえ腹の具合が悪い。その最大の原因はガプレック[乾燥キャッサバ]とクラッパーランプス[ココヤシの屑]の使い過ぎだと私は思っている。

ゴッキンガ

1945年1月15日

スカートゥの体温は35度6分で熱が下がった。彼は雑巾のように感じ、またそのように見える。私は彼に補充食を与えられない、何もないのだ。…中略…彼を寝床の上で洗ってやった。…中略…クリット・ホルストマンがスカートゥに自家製のスルンデン[おろしたココナツを焼いたもの]を一匙持ってきてくれた。スカートゥは今晚おいしく味わって食べた。

クラウト

1945年1月16日

コックがデリ鉄道会社職員の重症マラリア患者のためにキニーネを購入しようと全力をつ

くしている。売り値はグラム当り7ギルダー。また錠剤は0.2gが100ccの油と現物交換される。コックはまた肺炎のためにも薬を得ようと骨を折っている。

ゴッキンガ

1945年1月16日

私は今衰弱しているとしみじみ感じている。足が急に疲れるし、特に川岸の階段の上り下りが緩慢になった。膝が疲れている、あるいは思っているだけなのか？…中略…医療部は「マラリアが深刻になっている。十分衣服をまとい、なるべく早い時間に蚊帳の下にもぐり、外に出ないこと。キニーネの錠剤はもうないので予防が肝心」と云う。…中略…診療所は包帯がもうないため布切れなどを求めている。…中略…寒さ予防、そして夜中蚊に刺されないうよう白の長ズボンに長靴下とポロシャツを着て寝る。なぜなら私がマラリアに罹ると、君のを体験したり、ここで見た後ではマラリアを非常に怖れている。マームス、この事態にどれほど私が怖じ気づいているかを知れば驚くことだろう。

ゴッキンガ

1945年1月19日

高齢のウエステルマン氏が死亡。私は彼と一緒にメダンの診療所に入院していた。このように老人が一人ずつ死んでいく。彼はだから3年間を無用に過ごした。…中略…スカートウがスルンデン [おろしたココナツを焼いたもの] を作った。病気のためまだ許されていなかったのだが。彼は今疲れている。ブラウクマン (看護師) が肺炎に気を付けるよう彼に助言した。医師は彼が咳をするかとひんぱんに尋ねる。私はたいしたことにならないよう願っている。

メンデス

1945年1月19日

夜少し熱 (38度2分) があり、関節痛のためほとんど眠れなかった。

ボス

1945年1月20日

ファン・ベメル（塩の専売公社勤務）46歳が肺結核で亡くなった。6人の子供たちを後に残した。

ゴッキング

1945年1月20日

スカートゥは夜中お腹の具合が悪く、今朝も然り。朝のうちに突然気分が悪くなり吐き、熱は38度3分あった。おそらくマラリアだろう。麻疹で1週間雑巾のようにくたびれ果てたすぐ後である。彼は突然震え出した。スカートゥは私の右側、若いディトマースが同じ病気で私の左側。その他この階はみんな何かの病気で臥している。マラリアがものすごい勢いで増えている。赤痢も然り。ルーベルスなどが細菌性赤痢で診療所に横たわっている。スカートゥが1週間の病後、現在まだ食べないのはつらいことだ。体力をつけるチャンスがない。マームス、今君の助けと冷静さを求めている、今それが私に必要なのだ。我々は目に見えて弱り、意気消沈していく。パネット医師が一日中収容所を歩きまわっているのがみえる。衰弱したものが肺結核になるのが心配だ。本日一人死亡、ファン・ベメル氏43歳、塩の専売公社の人だ。本日午後5時に埋葬。1944年10月3日以来17人目である。現在我々は合計1783名。あとどれほどこの数字が減っていくのを見るのだろうか？

クラウト

1945年1月20日

昨日から私も足に赤い斑点がでてきた。いろんな栄養不足のせいだ。ほとんどの人は、またこの斑点が消えている。

ゴッキング

1945年1月21日

私の隣のディトマースはまた41度の高熱。脾臓のものすごい痛みでうなり叫びながら臥せている（午後3時）、7度目の高熱。…中略… スカートゥは残念ながら晩飯を半分食べただけ、

彼は体力をつけるためなるべくたくさん食べる必要があるのに。彼は目がくぼみ、とても疲れている。今日は幸い熱がない。

メンデス

1945年1月22日

夜中半ば眠れなくて、2時に頭痛の粉薬を飲んだ。医師からのキニーネ1gを服用、友人のゴールドSTEINからキニーネを4gもらっていた。前回の発作のときにも彼から4gもらっており、彼にとっても感謝している。

ボス

1945年1月22日

ファン・マウルワイク牧師（カバン・ダジェの宣教師）63歳が赤痢で亡くなった。

ゴッキンガ

1945年1月22日

スカートゥは今夜よく眠った、熱が35度9分と引いたのだ。お腹の支障もほとんどなくなった。私自身は便所にたどり着けず、ホン [バラック] の前でしゃがんで用を足す。なんと惨めな気分だ、すべてが真っ暗闇。その後炊事場の灰を取ってきて、便の上にふりかけた。それからもう一度2回目、しかし私はなんとか間に合い、バケツの上にしゃがんだ。なんと獣のような、神は人を見放したような気分になる。なぜいつも夜中に起きるのだろうか？私はいくらか衰弱しているがまだ大丈夫だ。我々が食べているぞっとする匂いの腐った魚、エビ、腐ったトウモロコシにガブレック [乾燥キャッサバ]、羊歯、すえたココヤシ、腐った生のドュリアン [香りの強いフルーツ] などなどあらゆる腐ったものをみると、人がまだ健康なままでいられるのは驚異的である、そして「よくやったと自分をほめてやろう」という気分になる、…中略… 内臓は完全に停止していないのだから。…中略…

スカートゥは最近あまり、時には全く食べない。だから私は時折倍食べたりする、それが多分私には負担すぎたのだろう、実際油は2倍になったのだ。人生において気付くのが遅すぎた多くの事柄と同様、当然これも気付くのに遅すぎた。一日中熱はないが、スカートゥは20メートル歩くと疲れ果てる。彼は不味そうに食べ、痩せて目が窪んでいる。キニーネは現在粉末状で支給されている。

ゴッキング

1945年1月23日

今日夜中に慌てふためき便所へ。念のためバケツを持っていった。便所にすんでのところ  
間に合った。もう一步遠ければどうなっていたことか。これは意気消沈する行為である。チ  
ェッ、なんと汚い。スカートゥはまたカリで水浴、14日前の水浴したきりだ。皆この若者が  
どんなに痩せてしまったと気付いた。どうしてタンパク質を補充すればよいものか。

メンデス

1945年1月24日

昨日はホスピタルのキニーネ1g、しかし熱がひいてホスピタルからの支給がないので、今  
日は全く服用できない。キニーネを飲むと食欲がなくなるので自前の分も服用しなかった。  
ファン・デン・ベルフ医師によれば、キニーネは主に熱を押さええるものであり、病気を治  
す効果は少ないとのことだ。身体に抵抗力をつけて最終的には免疫になる必要があるのだ。

ドライバー

1945年1月25日

インシュリンの量2500単位。尿が陽性だったため食事療法が変わる。

ゴッキング

1945年1月25日

今夜は2度外に行った。すこしは良くなったが、嫌な事にかわりない。収容所の真ん中でし  
ゃがんで用を足している小さい影をみた。10歳くらいの男の子だ。こんなことは骨身にしみ  
る、小さなおざりにされた子供たち。見ると辛い。…中略… 200名の少年たちがいる少年  
ホ[少年棟]8号棟では、麻疹が流行している。およそ45名の少年が水疱瘡。ますます増え  
て、多くの青年たちも罹っている。彼らの健康状態は決して良好といえない。多くの病人、  
主にマラリアと赤痢。赤い斑点と足の外傷がある栄養失調性浮腫。…中略…

通達：鶏がまだ放し飼いだ。これはただちに小屋にいれる事、足を縄でつなぐのも  
これ以上許されない。放し飼いは縄でつないだ鶏はすべて収容所監督によって屠殺さ  
れ、病人のために料理する。放し飼いは不衛生でもある。汚ないし感染の危険がある。



クラウト

1945年1月25日

ガイテンベイク氏が10時半に脳血栓のため3日病床についた後に亡くなった。去年は彼の奥さんがブラウ・ブラヤンで亡くなった。ハンス・キヴォーイは危篤状態だ。肺病。ウォルター・コックは麻疹、だから我々の近くにいる。これも蔓延している。

ボス

1945年1月26日

ガイテンベイク（警部）50歳が脳血栓にマラリアが併発、赤痢で死亡した。彼の奥さんもすでに抑留中死亡している。彼らは4人の小さな子供たちを後に残した。

メンデス

1945年1月26日

あと半時間（5時）で、昨晚遅く脳血栓で亡くなったガイテンベイク氏享年50歳の葬儀がなされる。これでまたこの忌まわしい収容所での19番目の犠牲者である。ある日まだ目に見えてごく健康な人が、次の日には病気になり目の前で衰弱していく。このような人がまだホスピタルにいて、クールマンやソルマニーなども、それほど良好な状態ではない。付属病棟がホスピタルの前に建っているため、人々は重病患者が夜中に叫んでいるのや瀕死の人々のうめきが聞こえるのだ。付属病棟も私を含め、いろいろな喘息患者たち、気管支炎患者たち、フレーデという名の盲目の警官（この戦争での日本軍爆撃の犠牲者）、前大戦の戦争神経症犠牲者英国人シーモンスそしてマラリア・赤痢・黄疸患者たち、介護を必要とする高齢者たちやてんかん（その上窃盗狂）患者たちがいて、陽気な集まりではない。

ゴッキング

1945年1月28日

本日夜中また便所まで持ちこたえることができず、素晴らしい月夜なのにひどく不幸せな気分である。なんという状況。…中略… また診療所に便を検査してもらいに行く、まだ腸の調子が悪いのは嫌な事だ。神様、私はもう飽き飽きして、時々意気消沈しているが、ただ収容所の人々みんなが内臓の具合が悪いことが慰めといえる。どうだいと尋ねると「元気だよ、

ズボンに何度かしてかしたよ」と答える。…中略… 重症の肺炎の若いキヴォーイが、心臓を持ちこたえるため注射を数本された。私はまた結腸炎（大腸炎）で、だからまた1日3度の米粥の食事療法。悲鳴を上げ、狂いそうになる。

ゴッキンガ

1945年1月29日

スカートゥは歯痛でよく眠れなかった。今朝ペマタン・シアンタルからの歯医者スキュルデーのところに行ったが、神経が死んでいるため何も出来なかった。あご深く炎症を起こしていた。唯一の解決法は抜歯。惜しいし残念だ。スカートゥは2本注射された。どちらの注射も効果なし。歯根を引き抜くのに長時間かかった。全部合せると、とてつもなく痛いものだ。歯医者は彼の勇気ある態度を誉めた。…中略… 寒くて冷え冷えした収容所、みんなせきをしまフラーをして歩いている。特に少年ホン[少年棟]は乾いた吠え声で犬小屋みたいだ。実に病気になりやすい時期、予想できない天気、温かかったり寒かったり、乾燥したり湿気があったり、風が吹いたり吹かなかったりなどなど。

ボス

1945年1月29日

キニーネはほとんどなくなった。個人で所有している人がいるのみ。新しいマラリア件数は数え切れない。オットーと私だけが「二階」ではいまだにかかっている。予防として私は現在夜暗くなると同時に蚊帳の下にもぐる。炊事場の夜勤（5日ごと）だけでも十分危険なのだから。

ゴッキンガ

1945年1月30日

スカートゥは良くなった。歯痛がなくなったのだ。私もほとんど快調だが、まだ特別食だ。まだジャグン[トウモロコシ]が影響しているらしい。…中略… 医師のために用を足す必要がある。これは現在便器がないためココヤシの殻の中にする。

メンデス

1945年1月30日

1週間キニーネを服用しなかった後、今日ホスピタルからのキニーネ（週ごとの配給）1gを予防のため服用。ホスピタルはようやくヤップから200錠もらっていた。私はまだひどい病状になった時のために残している、ゴールドスタインからのキニーネを7g持っている。

クラウト

1945年1月31日

足の赤い斑点が消えた。悪化しなくてよかった。今また数日間水のような便の厄介になっている。たぶん粥のなかに入っているガプレック[乾燥キャッサバ]あるいは腐ったココヤシのせいだろう。

ドライバーズ

1945年1月31日

インシュリンの量2400単位。尿検査ではまだ陽性。その結果明日午前インシュリン10単位、午後インシュリン8単位を投与する。心理的な要因が作用しているかどうか自問する。私は実際少し良くなるために事実を曲げる必要がある。しかしこれは黙っていた方がいいだろう、いずれにしてもなんの助けにもならないのだから。

ゴッキンガ

1945年1月31日

特別食用炊事場に食事を取りに来る人々は、だれもがなんとひどい顔付きに見えることか。…中略… ヤップは我々にキニーネを約束した。毎日少し、収容所の人々がぬかるみを歩き続けることができるのにちょうど間に合うだけである。喜ばしい。…中略… スカートゥと私はできるだけ寝床にいて雑役あるいは点呼にはまだ行かない。ひどい天気だ。収容所中がせき込み声をからしている。

ゴッキング

1945年2月1日

病人の多くは薬がもらえない。もし今病気になったら、神よ助け給え。とてもひどいものだ、みんなが衰弱している。私自身はバケツの水をもって階段を上る時に気がつく。次の段を上るのに膝の力が尽き果てた。誰かが言ったように、だれが収容所からでられるのか、そして誰が周知の方法で柵の向こう、外の墓地まで運ばれるのか。今、時間との闘いである。

ボス

1945年2月2日

ハンス・キヴォーイ（12歳）が肺炎と髄膜炎で死亡した。20日間40度の熱があった、彼は私の向かい側に住んでいた。悲劇。

クラウト

1945年2月2日

ハンス・キヴォーイが今日午後5時に死亡。両親にとっては辛いことだ。彼は11歳だった。彼は赤痢と肺炎（両肺とも）にかかっている、すでに一方の肺は回復したのだが、後に髄膜炎になったのだ。人生はきびしい。神様、ご両親にこの喪失の辛さが耐えられるよう手を差し伸べてください。この収容所において1944年10月2日以降、すなわち4ヶ月間で20人目の死者である。…中略… ホスピタルは体温計を求めている。明日は伝染病とその予防に関するカウエナール医師の講演会がある。

クラウト

1945年2月3日

午後5時ハンス・キヴォーイが埋葬された。おおぜいの少年たち。アードリアンと私も参加した。ポル宣教師の説教は長すぎたと思う。彼はいろいろはじめは救いの祈りをしたが、神がついに彼の人生を終わらせたことを喜ばねばならないとした。これは私には理解できない。彼はヨハネ4章と黙示録の一部、そのあと「我らの主」を朗読した。みんなで讃美歌89第7番を歌う。とても暖かみがあった。…中略… ハンスの葬儀の際、チャンコル[鋏]とかなづちを厳粛に打つ音色が、私には宣教師の言葉よりずっと印象深かった。

メンデス

1945年2月5日

本日ワルラーベ氏からのキニーネを0.8g服用。ホスピタルから食後に服用のヒ素飲料をもらった。体力をつけるためだ。

ドライバース

1945年2月5日

私の尿はまだ陽性である。目下一日20単位のインシュリンを2回に分けて投与。

ゴッキンガ

1945年2月5日

ラデルスマが死去、21番目、残り1779名の抑留者。本日埋葬。…中略… スカートゥはヤーコブス医師に身体検査され、肉体的には健康と診断された。また雑役をはじめても良いとされたが、軽い雑役で収容所内のみ。彼は気分がいいし、顔色も良くなり、いくらか太った。…中略…デ・フリース牧師が我々のホン[バラック]9号棟から、病人や介護を必要とする人々や高齢者たちのいるホン3号棟「ブロンベーク」に移った。

ボス

1945年2月5日

「イチゴ鼻」というあだ名のラデルスマ(カボン・ラジャの金利生活者)63歳が亡くなった。「栄養失調性浮腫」ではじめて死亡した人である。

ゴッキンガ

1945年2月10日

ホスピタルはバラン[物資]と引き換えに薬品を購入する。これに使われるバランは、収容所幹部が購入し、これをホスピタルに与える。タバコ、ガプレック[乾燥キャッサバ]、干し魚などと交換にプロントジル、キニーネなどが求められる。0.2mmのキニーネ1錠は0.50ギル

ダーの価値の balan である。コーパーベルフ医師が統制している。かなりうまく行っている。…中略… 本日各自においしく焼いた魚、だが焼いた魚一匹に対し、私は充填材あるいは歯1本を失うことになる。今回も同様である。すでに歯はわずかしかなかった。米国の歯医者はまだ来ないのだろうか。

ゴッキング

1945年2月11日

怖れていた事が起こった。スカートウが今ひどい風邪にかかっている、麻疹のあとなので好ましいことではない。私は彼が未然に予防していなかったことに腹を立てた。繰り返して言っておいたのに。悲しむべきことである。…中略… マラリア患者のフェッター氏が本日午後突然倒れた、このように収容所の真ん中で不意に倒れ、運び去られる人が多い。

ドライバー

1945年2月12日

目下インシュリン10単位を2回。はやくこの量が減らせるよう願っている。

ゴッキング

1945年2月14日

病棟に行く人々の多くがそこで赤痢に感染する。このように肺炎やマラリアで入院し、大きな感染源、汚物、不潔さの多くの病状を聞くことになる。これは見れば信じられる。

ゴッキング

1945年2月15日

カバン・ジャへの引退した元副理事官のモル氏がひどい様子である。ひどく痩せて下半身がひどく膨らむ水腫症だ。苦痛が彼の顔に現れている、哀れだ。

ゴッキング

1945年2月16日

ペル氏が死亡、少し前手術が成功してウィングフートから戻ったばかりだった。22番目である、まだひどい環境に1778人残っている。…中略…雨の中ペル氏の葬儀は午後5時。道はおよそ25cm水浸しだ。

ゴッキング

1945年2月18日

ここでは夜8時にマラリア予防で蚊帳の下の寝床に入る（我々に時間で5時半、想像してみてください）それから夜中に何時間も便所で過ごし、そこら中を蚊にさされるのだ。何のために早く寝床に入るのか。…中略…ペンフォールド氏が肺炎と赤痢で本日死亡。明日午後5時に葬儀、年老いた人だ。23番目。まだ1777人残っている。

ゴッキング

1945年2月21日

麻疹と他の病気、原因が不明の絶え間ない熱が多い。規則的に、ゆっくり、毒気を持ち、知らず知らずに衰弱してゆく、若者たちでさえ弱っている。

ボス

1945年2月21日

ホスピタルの横は、雨で便所があふれている。糞尿がすべて周囲の地面にあふれ、ものすごい悪臭の感染源だ。

ゴッキング

1945年2月22日

付属病棟で昨夜5名が卒倒した。高齢者たちは急速に衰弱していく。

クラウト

1945年2月23日

薬品交換のためにコーパーベルフ医師のところにやってくる人が多かったので、明日また引き渡しが可能になった。

クラウト

1945年2月23日

コーパーベルフ医師に4リットルの油と交換するため各0.2gの薬を8錠申し出た。

ゴッキンガ

1945年2月24日

父親と子供たち、両者ともにマラリアでふるえ、互いにささえあってゆすぎ瓶をもって便所の方へ向かう、その間を奇麗な色のチョウチョが陽光を浴びて舞い踊っているのがみえる。ああ、なんという対比であろう。見るのが辛い。衰弱した老人たちはもう亡くなってしまった。目下健康な高齢者が目に見えて衰弱し、50歳くらいの年代層がホスピタルに行く。通常彼らが辛い間違った人生の一番の犠牲になっている。いかにとっても丈夫な男たちが短期間で身体が衰弱し破壊されるかは、息もつけないほどである。これ以上長びいてはいけない。

ボス

1945年2月27日

カーゼン氏が死去（元軍人）75歳。老人性疾患で死亡。

メンデス

1945年2月27日

一昨日小さな兆しがあった後、今日の午後12時に身震いと熱の発作。



クラウト

1945年2月28日

ヤップは0.3gのキニーネ錠を供給。先週幾人かがこれを物資と交換したことは、現在注目に値する。いやはや見事なものだ！

ボス

1945年3月1日

薬局で、一人の医師がヤップの衛生兵に何度も何度も「これもない、あれもない」などと云った。答えは「ナンティ アメリカ バワ！」（もうすぐ米国人が持ってくるよ！）だった。

ゴッキング

1945年3月3日

ホスピタルでまた3人の名前が消される。数日の問題だ。多くがマラリアで衰弱し、キニーネなし、それに赤痢が加わり、高齢者たちはゆっくりとヤップのおかげで死んでゆく。…中略… ストランド氏が死亡。25番目。まだ1775名残っている。…中略… 月曜日はホスピタルにおいて10時から12時まで、コーパーベルフ医師の統制下で薬品の購入がある。

メンデス

1945年3月3日

体力がつくようにヒ素飲料をもらった。

クラウト

1945年3月4日

薬品の申し出が非常に多かったので、わずか一部重要なものだけが認められた。大きな報酬がある時のみ、人々が彼らの薬を手放すのは典型的である。助け合い精神は育っていない。人々は自らの薬を手放すよりは、重症患者をそのまま放置する方を好む。我々はみんなまだ骨の髄までエゴイストである。これを変えることは困難だろう。

ゴッキング

1945年3月4日

午後5時スタント氏の葬儀。マームス、こんな生き方ってない、マラリアや赤痢の発作を待っているなんて。

ボス

1945年3月5日

デ・フリース氏（ペンションスペノーガの主人）65歳が糖尿病と赤痢で亡くなった。

ゴッキング

1945年3月5日

E.H.デ・フリース氏が死亡。26番目、あと1775名。午後5時埋葬。親切で陽気な老人だった。…中略… デ・フリース氏の葬儀でのカーレルセ牧師の説教は、馬鹿に長く退屈だった。あつした人々は自分の説教に自己陶醉する。デ・フリース牧師のオルガン演奏は突然半分くらい鳴らなくなり讃美歌というよりフォックストロットのようだった。少年たちはサゴの残り物を集め、それを炒める。多くが赤痢や下痢症状になるのも不思議ではない。

クラウト

1945年3月5日

申し出された薬からキニーネのみが認められた。これで一人0.2gの錠剤3個で1.5リットルの油がもらえる。引き換え券を私はすでに所有している。

ドライバー

1945年3月5日

インシュリンの量1700単位<sup>23</sup>。

---

<sup>23</sup> ドライバーズの日記最後の断片。彼が死亡したのは1ヶ月余り経過した後（1945年4月23日）であったが、この時、日記を書き続ける体力を維持することができなかった。当時まだ85日分の

ゴッキング

1945年3月7日

ボレン医師によると近日中に6人の死者が予想されているとのことだ。…中略…薬の蓄えが僅かなため、誰が薬を必要としているのか否かを決定する医師委員会が形成された。責任は一人の医師にとっては重すぎる、人の生命を決定する問題なのだ。生き延びるチャンスのある人が薬をもらえる。その他は実際すぐに霊安室に送られ名前が消されるのだ。一般的に高齢者が若者たちの犠牲になる。なんという決意と責任であろう。

ゴッキング

1945年3月8日

デ・フリース牧師が死に瀕している。彼は疲れ果て、これ以上生きる意志もないし不可能である。哀れだ。

ゴッキング

1945年3月9日

ファン・カペレ氏が死亡。27番目、残りあと1773名で、近い内にもっと減っていくことだろう。…中略…ちょうど今2人目が死亡、つまりデ・フリース牧師、この収容所では28番目。もう残りは1772名になった。

メンデス

1945年3月9日

夜中に収容所仲間が死亡した後、今日の午後ペマタン・シアンタルのデ・フリース牧師が享年60歳で亡くなった。4日くらい前までまだ健在で私は彼と話したのだが、エビの毒にあたり、そのあとすぐに細菌性赤痢でこの運命となった。そう、我々はこの収容所で多くの危険にさらされている。衛生状態に関しては望むべきもない。これで炊事場を見てみると、そこはハエだらけでここ何週間も魚がもらえず、エビとムール貝だけだった。その度にエビあるいはムール貝中毒が発生したのだ。現在人々は「それではもうエビもムール貝も食べない」

---

インシュリンが残っていた。

というが、そうすると全くタンパク質が身体に摂取されないことになる。そしてそれは特に今非常に大切なことであり、とても必要としているのだ。

ゴッキングガ

1945年3月10日

マラリアがこの収容所でとても勢力をふるっている。スカートゥと同年代のパウル・フェッターが今33度目の高熱になった。キニーネはほとんどなく、大勢このようになっている。この収容所で苦しみ、みんな恐ろしいくらい痩せていく。人間がこんなに痩せてもまだ歩けるとは思わなかった。もし衣類を除けばなにが僅かに残るのか。生きるか死ぬか、時間との闘いが今始っている。マラリアはまだ生け贄を供していない、しかしマラリアとそれから赤痢そしてごく普通の病気が加われば、人々はとり返しのつかないほど衰弱する。私の咳はなかなか止まらない、回復しはじめるとまた風邪を引く。…中略… 炊事場の食事は、バケツに配分される時点でハエが群がっている。特に新しい付属病棟がここに来ると、なんと感染源になることだろう。

ボス

1945年3月11日

クーンが亡くなった（ソシエテの元機関士）42歳。栄養失調性浮腫と赤痢で死亡。

ゴッキングガ

1945年3月11日

炊事場の食事にたかっているハエを追っ払うための志願者が募られた。ハエは感染の大きな危険なのだ。…中略… 夜クーンが死亡。51歳。人々は一部彼自身の責任だと言っている。彼はホスピタルで食事さえ交換した。かなりひどい栄養失調に罹っていた。

ゴッキングガ

1945年3月12日

赤痢感染の警告。本日9人新しく加わった。注意を要す、病棟訪問はいかなる場合も裸足で

してはならない。ホン[バラック]の内外では清潔なものを着るよう心がける。「気をつけろ」ああ、いかにしてここでは気をつける事ができるのか？感染源は隅々からうかがっているのだ。

ボス

1945年3月13日

ムルダー氏（農園主）が亡くなった。63歳。赤痢による死亡。

ゴッキング

1945年3月13日

病棟のお皿及び食事用バケツを洗う人が首になった。彼は人々がゆすぎ瓶を満たすバケツからの水で洗っていたのだ。ああ、なんと不潔だ。たくさんのハエがかかったため、ようやく炊事場で清掃やかたづけが始った。…中略… 現在30人目の人が亡くなった。ムルダー氏である。わずか1770名が残っている。我々がここに到着した1944年10月3日以来、30名が死亡している。平均1週間に1.5人の死者、高率である。まだまだひどくなる、まだ幾人か候補に上っている。…中略… 人は埋葬をもうみなくなった。すでに普通のことになる。どんな感情もおきない。最近の埋葬では「ご老体を運び去るのを少し手伝ってくれないか？」と尋ねられた。

ゴッキング

1945年3月14日

ホスピタルで薬を売った人々に葉巻と魚が配分された。多くの赤痢患者が歩き回っている、医者に行く勇気のない人たちだ。彼らはホスピタルへの入院を怖れている。そこには大きな感染の危険があるからだ。

ボス

1945年3月14日

歯科医のスナイダースのところに行ってきた。奥歯を治療してもらった。歯に穴を空ける代

わりに引っかく...抑留が6ヶ月内に終わるならば、奥歯を保つことができる。だから9月中旬になる前と言うこと?!!

ボス

1945年3月15日

ファン・デ・フェヘテ（無職）が52歳で亡くなった。栄養失調性浮腫と赤痢による死亡。

ゴッキング

1945年3月16日

多くの人が糞尿コンプレックスにかかっている。全注意が内臓にむかう、実際我々みんなの内臓は炭水化物や油そして偏った食事で、正常に機能していないのである。誰もこれから逃れられない。一日に3回から4回というのは普通で、愉快でないし、たくさんの屁、強い圧迫感、これは普通ではない。

ボス

1945年3月16日

モルが（元コントロールール）51歳で死亡。「くる病」による死亡。

クラウト

1945年3月16日

キニーネを買った、2gが10ギルダー。高いものだが少し前よりは安くなった。

ゴッキング

1945年3月17日

33番目、メルカート氏が63歳で亡くなる。まだ1767名残っている。急激だ。また何人かは候補に上っている。ちょうどまた死者がでた、アントニーだ。彼が34人目。1766人が残っている。

る。午後4時半と5時に埋葬、すなわちモルとメルカートだ。明日はアントニーである。急激過ぎる。…中略…

我々の食事は長期間バケツの中にはいって外におかれている。そしてハエ退治の人々が仕事をしていても、食事にはたくさんハエがたかっている。赤痢の流行がとても心配である。3番目の埋葬も本日午後6時半にある。愉快的ではなかった。…中略… ホスピタルで重症中耳炎の人たちのために20錠のプロントジル錠が求められた。

メンデス

1945年3月17日

今日4度目のマラリア発作があった。

ボス

1945年3月19日

ツイーディの父親（元浚渫船の船長）64歳が亡くなる。ガンである。彼の25歳ぐらいの息子も収容所にいる。

ゴッキンガ

1945年3月20日

今私のお腹がまたおかしくなった。うんざり、いらいらさせられる。ともかく、私だけではないことが慰め、収容所の大部分が影響を被っているのだ。ヤシ油の中に炭水化物のみ、他には何もないのだからしかたなことだ。慣れる必要もある。

クラウト

1945年3月20日

キニーネ錠剤の蓄え：0.5 g が4錠で10ギルダー分、0.3 g が2錠で20ギルダー分。0.2 g が37錠で7.4 g（自前の蓄え）そして欠片が少し、合計13 g で0.2 g として65錠ある。

ゴッキング

1945年3月22日

歌手のデイビスが死亡。享年63歳。ブラスタギーからの引退した英国人森林監督官だった。小さな息子一人を残した。彼はホスピタルに行きたくなかったの、最後まで歩き続けた。昨日医師が彼を捕まえ、ホスピタルに横たえるまで死と隣り合わせで歩き続けた。本日死亡。私は昨日便所で彼の隣に座っていたのだ。…中略… 時々不安になって「生き残れるだろうか?」と自問する。マラリアや赤痢を待つ、時間との闘いである。ひどいことだ。我々二人の腸は良好、有難いことに健康だが衰弱している。

ボス

1945年3月23日

フェルステーハが死亡（ヘリボンからの元港湾管理者）。享年67歳、赤痢で死亡、すでにもうろくしていた。

ゴッキング

1945年3月23日

我々は次第に衰弱しはじめている、あらゆることで分る。人々は妙な時間に眠りにつくことや、バケツ1杯の水をもって水辺のはしごを登ることがほとんど不可能なのが目につく。階段を登れなくなっている。

メンデス

1945年3月23日

ここ数日様々な人が続けて死亡した。こうしてずっと続いていく。定期的なのは実に不安をつのるものだ。病気、特に細菌性赤痢とマラリアが、満足に薬が入手しないまま持続している。



ゴッキング

1945年3月24日

今日アノフェレス<sup>24</sup>（デ・ローク医師によると）に刺された。マラリアになるのか気がきでない、成り行きを見守るしかない。…中略… まだいくらかキニーネを持っているのは安心感がある、なぜならホスピタルにはもうないのだから。…中略… キニーネの錠剤の値段は1gが6ギルダー、あるいは2錠が100gの魚だ。

ゴッキング

1945年3月28日

ラーツマが午前4時便所に行く途中心臓麻痺をおこした。死亡。38番目である。残り1762名。小さな子供が皮膚病をおこしている。彼の頭皮が裂けている。人々は足をみる、そしてこれには薬がない、何もない。ああ、なんとここは悲惨な状況なのか、ことにまだ母親の傍に在るべきはずの幼い子供たちにとって。

ボス

1945年3月29日

マイステルが赤痢で死亡（メダンの写真家）。享年57歳。…中略… トランク置場が付属病棟として設備された。

ゴッキング

1945年3月30日

スカートゥは弱ったと感じたので雑役を止めた。このように我々誰もが、ゆっくり、そして確実に衰弱していく、我々がここを出る際にはみんな廃人だ。ああ君、私はとても不安になる。

---

<sup>24</sup> アノフェレスはマラリア原虫を媒介する蚊。

ゴッキング

1945年4月2日

12歳の少年ファント・ローが死亡。脚気で死亡。また一人の老人が死にかけている。ホスピタルは超満員。改築に余念がない。…中略… ファント・ローの息子は午後5時に雨の中埋葬された。棺台の後ろを、ぼろ服をまとった少年たち—ある者は病気で痩せて青白い—が続いた。ああ、なんとというありさまだ。…中略… 要請：必要にせまっているホスピタルの便器を作るためのブリキなど。

クラウト

1945年4月2日

今晚は10歳の少年が亡くなった。彼はブラスタギーから来た。母親はこの息子が衰弱していたためそこにとどめておこうと全力を尽した。だが敵は駄目だといった。そこを出ねばならなかった。彼の父親が移動させられたのだ。戦争の悲劇！3ヶ月経ってようやくヤップによってアタップダーケン[ヤシ葉で葺いた屋根]を修理するための人たちが送られて来た。赤痢は不安になるほどの勢いで増えている。我々の組54名中5名がホスピタルにいる（リーンスト、ポット・ホフステーデ、デ・ゲルス、ハーリンクスマ、フランク・ファン・ゲント）。

クラウト

1945年4月3日

本日夜中フルマン、46歳が亡くなった。5人の子供たちがいた。戦争によって、この収容所でも多くの犠牲者が出ている。

ゴッキング

1945年4月3日

我々の組44名中31名が病人名簿に載っている。彼らは半分雑役あるいは雑役なしである。スカートゥは元マラリア患者として名簿に載っている。彼は麻疹の後かなりの高熱があったのだ。やっと元気になりだしている。ああ、神様この子に補充食を与えることができたなら。マームス、なぜできないのだろうか？

クラウト

1945年4月4日

HAPMのレーバースタインがラースキャンプ（メダンの薬局）のデッカーに3錠のダジェナンを求めた。彼はそれを直ぐに飲み込んでしまい、戦争が終わったら支払うよとデッカーに言った。

ゴッキンガ

1945年4月4日

アーク・パミーンケでは赤痢もマラリアもない。ここへはラウエ・シ・ガラ・ガラとベラワン・エステートからの抑留者たちによって持ち込まれた。これらの病気は定期的に勢いを増し、薬はない。…中略… 42番目に死亡したのはファン・ベルケル氏である。ほとんどがマラリアにかかった後赤痢になって死んでいく。残り1758名、それにアーク・パミーンケからの110名の男たちが加わる。合計で1868名だ。…中略… 体重測定、私は現在48.5キロだ。1945年2月14日には49.5キロだった。1943年7月9日はメダンの病院では64キロあった。32ヶ月で16.5キロ減少。月平均半キロである。…中略… 本日二人目の死者はグルプストラ氏である。43番目であと1867名残っている。…中略…

フルマンの息子が、昨日赤痢で死亡したばかりの父親のいたホスピタルの場所を引き継いだ。

クラウト

1945年4月5日

ホスピタルでは様々な人が水腫（腫れた足、いんのう、ペニス）になっている。全くひどいものである。この状況はいつになったら終わるのか？

メンデス

1945年4月5日

予防のためキニーネを1g服用。ピート・ケアは細菌性赤痢のような症状で—加えて心臓病のため—ホスピタルに入院しているが、本日ケルケース神父が臨終の秘跡を授けた。

ゴッキングガ

1945年4月5日

医師は体重に関しては不安になる必要はないと言った。食べ物による当然の結果で、神経に支障をきたす。私は喜ぶべきなのである、ほとんど多くの人々が過度の炭水化物によって一種の水腫にかかり、2キロまで増えているのだから。これは良くない。アーク・パミーンケからの人々はこれがひどい状態である。彼らは脂肪太りしているが、健康そうにはみえない。

ボス

1945年4月8日

ホワイト氏が寝床で心臓麻痺のため死亡、71歳だった（マラッカの元民事局員）。

ボス

1945年4月8日

とても悲劇的な死。D2からの我々の古い友人デ・ヨングが三日熱マラリアで死亡した。享年37歳、妻と子供たちがジャワにいる。彼はメダンのジャワ貿易会社の部長だった。彼はホン[バラック]6号棟でわずか1週間患った後死亡した。

ゴッキングガ

1945年4月9日

コタ・ラジャの老紳士スタッフが死亡。45番目、残りは1865名。…中略… ホン[バラック]の周りの溝に放尿するのは禁じられている。刑罰ものである。豪雨のときのみ許されている。便所で一人の少年が指で尻をぬぐい、その指を人々が握らねばならない横木に擦り付けた。なんという感染の危険！赤痢患者の面会は禁止。緊急の場合と医師の許可がある場合のみ許される。これらの流行が広がっていくかどうかは問う必要はない。

ボス

1945年4月10日

心臓麻痺でデ・ワイン氏が死亡。寝床で死んでいた。享年52歳（デリ・バタバア企業農園主）。二人目の死亡はザーデルホフ（パレンバンの理事官）51歳。赤痢で死亡した。

ボス

1945年4月11日

トーレンが死亡（テビン・ティンギの役人）。享年52歳、赤痢で死亡。

ゴッキンガ

1945年4月11日

人々は急に死んで行く。マラリアの発作、3日間ほどの赤痢、そして運び去られる。本日は2度葬儀があった。最後の別れをするため、正装して道に整列するよう要請があった。急激すぎる。まさしく緊急事態である。

ボス

1945年4月12日

フェルトン氏（BPMの技術者）が死亡、50歳ぐらい、赤痢で亡くなった。僅か14日間患っただけである。もう1件の死亡はクランプ氏（労働検査官）52歳である。胃病と赤痢で亡くなった。彼の奥さんも抑留中に死亡した。

クラウト

1945年4月13日

ファン・グルーティンク（警視）がホメオパシーの宣伝活動をしている。彼は1000人分の赤痢患者の薬を持っている。このオバットゥ[薬]が正式な医師によって使用されないのは残念な事である。周囲をみるといかに廃人たちが多いことか。

メンデス

1945年4月14日

本日午前10時半我々の友人ピート・ケアが最後の秘跡を授かった後、享年45歳で死亡。マラリアと細菌性赤痢と膀胱炎、また古い病氣（心臓病と腎臓）の影響もあった。とても無念である、特に小さな子供たちと奥さんにとって。

クラウト

1945年4月14日

ここ14日間ですでに12名の死者がでていいる。とても悲愴である。今週、人々はファン・ザーデルホフ氏が運び去られている間に、デ・ワイン氏の横たわるひつぎに釘付けする単調な物音を聞いていた。この原始的なホスピタルの患者の状況は、日本当局に強訴すべきものである。

ゴッキング

1945年4月14日

本日午前11時前にまた二人が亡くなった。すなわちP S Vの老紳士アイセルスタイン、63歳である。彼は二人の息子を残した、いかに悲劇的か。51番目である、1859名が残っている。そして年老いたケア氏が52番目、残り1858名。現在週平均2人の死者である。ザーベル氏が今日の夜中狂い出した。追われていると叫びながら収容所を走り、便所の溝に身を隠そうとした。そのあと炊事場の火の上に座ろうとした。ああ君、ここはまさに緊急事態なのだ。みんな三日熱マラリアになったあと数日以内に赤痢で死亡する。無気力症、栄養失調性浮腫、足や顔面のむくみなどが多い。

メンデス

1945年4月15日

本日ホン[バラック]3号病棟の私の古い知人、テン・キャンプ氏60歳がマラリアと細菌性赤痢で死亡、通常はサバン企業の計理士であった。彼はひどい様相にみえたにもかかわらず、いつも楽天的であり続け、やかんのお茶をホンの私のところに運んでくれていた。

ゴッキング

1945年4月16日

ここでは5日熱とインフルエンザも現在流行している。スカートゥと私は有難いことに今の所まだ健康である。どうかこのままでありますように、君たちも！我々のホン[バラック]の担当医フッフナーヘルスが病気である。我々は現在P S V医師のファン・デル・プラスだ。このように我々はずっと医者が替わる。面白いものだ。彼らはみな違った意見を言い、また違った治療を行う。尋ねないことと彼らの手にかからないことが最善なのである。

ゴッキング

1945年4月18日

もう2日間死者がでていない。

クラウト

1945年4月19日

ヤップからごく僅かなオバットゥ[薬]が届いた。一部は軍公式声明書の中に含まれていたとのことだ。0.3gのキニーネ1500錠、2ヶ月分である。

メンデス

1945年4月19日

ここ数日腹痛があり、便にはまた粘液が少し。特別食から粥に移行、通じをつけ一日に2回ポリパン注射、2日間何も食べていない胃にカプセルを服用、それで粘液が消滅したので再度大炊事場の食事に移行した。

メンデス

1945年4月20日

本日夜中にペマタン・シアンタルのラジオ業者ファン・フェルゼンが細菌性赤痢で死亡。彼

はローマ・カトリック教徒として生まれたが、全く信仰せず、ケルケース神父が試みたにもかかわらず、臨終の床でさえ本教会に連れ戻す事が出来なかった。

クラウト

1945年4月21日

本日天然痘の予防注射の機会があった。僅かの者になされたただけだ。我々もしなかった。

ボス

1945年4月21日

トレフリッヒ氏が死亡（メダンの刑務所長）。享年57歳、結核で死亡。はじめてひつぎの担ぎ人を務める。なんという雑役！

クラウト

1945年4月22日

また2人の死者が埋葬を待っている。トレフリッヒ氏とノーステン医師である。…中略… ノーステン医師は南東アジアにおける耳鼻咽喉科の名医であった。現在すでに56名の死者がこの収容所からでていく。まだ続いて行く。今月だけですでに17名の死者、まだ月の22日目というのに。ほとんどのマラリア患者はキニーネがもらえない。エスマイエルは昨日41度7分の熱があった。以前にはとても不安になった体温である。現在体温40度は収容所では当たり前になっている。定期的にマラリアが再発する人たちは、極度に衰弱しているように見える。体力をつける薬はない。愛するコーとアリーにはいつ再会できるのだろうか？早く会いたいものだ。神様、我々が健康なまま再会できるように。最も深く感謝するだろう。他のことは二の次だ。

現在3人目が埋葬を待っている。ミューイセンが加わったのだ。



ゴッキング

1945年4月22日

ノーステン医師が死亡。彼は完全に無気力症だった。56番目。残り1854名。また数人名簿に載っている。スカートゥと私は有難いことに健康である。手足とお腹を温かく保って以来、私の腸はとっても良好である。これにはなんていえばいいのか分らない。

一日が終わる前によろこんではならない。今日は二番目の死者がでた、年老いたミューイセンだ。57番目、残り1853名、22日間で18番目。今日は3度葬儀がある。すなわち5時、7時、8時である。ひどい事だろう？こんな事が続くと人生の見方が変わり始める。いかに不確かで、価値が何もない。すべてが相対的で、はかないものだ。なぜ心配するのか？なぜこんなに心配するのか？なぜまだ決めたり、幸福も、悲しみも、永続するものは何もないことをすぐ忘れてしまうのか？今日は君、明日は私と続く。ここでほとんど毎日誰かが埋葬されていくのをみると、とても感傷的になる。ミューイセンは58歳、ウイングフートからだ。

午後7時にちょうど本日3人目が亡くなった。ブラスタギーからのブロック氏である。60歳。58番目。残り1852名。これで昨日の夜から24時間内で4人目である。

ゴッキング

1945年4月24日

糖尿病の副理事官ドライバース、昨日は健康だった、そして今は死にかけている。彼は我々のホン[バラック]前のホスピタルでうなりあえいで横たわっている。1缶のフリースフラックハ製ミルクを彼のためにみつけ出した。これは彼が唯一受け入れられるものであろう。…中略… この日またいつものごとくフルーンフェルトが亡くなった、59番目。残された抑留者仲間は1851名。

ボス

1945年4月24日

フルーンフェルトが死亡（元農園経理士）。享年56歳、赤痢で死亡。また同様にドライバース博士（メダン内政部のコントロールール）が死亡。37歳で糖尿病のため死亡した。

バイレフェルト

1945年4月24日

[収容所仲間で友人のヤン・バイレフェルトによるドライバース臨終の際の報告書。ドライバースの日記に同封]

午前7時頃カンフル注射投与。ジュルック[果実]の汁少々と砂糖水を飲んだ。午前9時頃インシュリン20単位を投与。砂糖水と牛乳を飲んだ。患者は夜中に数時間睡眠、その他落ち着かず不明瞭な言葉を話す。アセトン血症[血液中にアセトン含有]。朝昏睡状態に陥る。うわごとを言うが脈は正常。人物を認識する。午前11時半頃インシュリンを50単位新規に投与。13時頃、尿が極度に陽性になる。強いアセトンの匂い。

12時30分、ハイポ塩水1リットル投与。

13時頃、 静脈にインシュリン10単位。

14時頃、 同上。

15時頃、 同上。

16時頃、 同上。

13時から15時に200ccの水に20gの砂糖。

17時頃 インシュリン20単位を静脈に。

19時頃、 同上。

19時15分 心臓注射。

19時16分 ハイポ塩水およそ4分の3リットル投与。

患者は午後ずっと意識不明。人物も認識せずうなり喘いでいた。

19時35分 カフェイン注射。脈は非常に弱い。

19時55分 静脈に40単位のインシュリン。

担当医カウエナル医師は糖尿の結果心筋の毒性が激しくなり回復の見込みがなくなったと診断した。患者は現在非常に静かである。脈は弱いまま。21時、カウエナル医師が診断を再確認。非常に静かに、闘うことなく、困難ではなく、また意識が戻る事もなく、コース・ドライバースは夜11時15分、友に囲まれ永眠した。友であり多くを期待された青年が我々のもとから去った。安らかな眠りについた。

ボス

1945年4月25日

デュトリー・ファン・ヒーフテン（農園主）が亡くなった。47歳。赤痢による死亡。

ゴッキング

1945年4月26日

およそ24時間が経過したが、まだ死者はいない。我々も大丈夫だろうか？不気味な賭けである。時には不安で意気消沈する。時々打ちのめされる。誰が勝つのかと自問する。我々か、それとも時か？

メンデス

1945年4月29日

4月27日から始った5度目のマラリア発作によって、また赤痢が再発したようだ。少なくとも今朝の検便に血と粘液が混じっていたようだ。私はまた時々ひどい腹痛があり、気分が悪く疲れ果てたように感じる。食欲もない。午後大病院に入院するべしとの通知をもらった。

メンデス

1945年4月30日

腹痛がまだあり、そのため日に3度アヘンチンキ5滴を服用。砂糖入り粥（タレなし）の食事療法になった。あと3分の2グラムのキニーネを服用。

ボス

1945年5月1日

ディトマース氏が死亡（メダンのホテルセントラム）。享年59歳で赤痢による死亡。

ボス

1945年5月2日

クルース（セルダン農園企業のタバコ農園主）が亡くなった。享年52歳、赤痢と全身衰弱による死亡。二番目はウィルチェスが死亡（元警察官）。彼も赤痢によって亡くなった。

メンデス

1945年5月5日

ゆっくりだがおかずなしのご飯、野菜とタレの献立になった。私の便は粘液が僅かで固形、一日わずか1回か、あるいはあっても2回である。

ボス

1945年5月6日

オシंगाがスンガイ[川]の向こう岸に運ばれた。ウィングフートで盲腸炎を治療するためである。

ゴッキンガ

1945年5月8日

ジャワ鉄鋼のデ・ヨングが死亡、65番目である。享年37歳。1845名が残る。熱帯性マラリアによる死亡。これがここにも発生、多くの犠牲者をだすことだろう。スカートゥと私は現在午後9時から日が昇るまで蚊帳の中にもぐるようにする、なぜなら医者によればこれでマラリアにかかる機会が少なくなるからだ。書いている途中、我々の隣に横たわっているヘンドリックスが大きく振れ動く、また数度目かの熱の発作だ。不安である。マラリアと赤痢が我々の大敵である。

メンデス

1945年5月9日

本日また食後3度一匙のトリパフラビンを始めた、しかしそのほかは固形の便の中にまだ少し粘液が混じっている。

ボス

1945年5月12日

アールデワインが死亡。15歳（学生）。赤痢とマラリアによる死亡だ。自分の責任であろう。彼は食事を全部タバコのために売っていた。

クラウト

1945年5月15日

赤痢が幸い減ってきた。かなり良性のものであったが、栄養不足のため多くの犠牲者をだした。平常なら、人々はひどい下痢だったよと言っていたことだろう。やはり悲惨なことである。ファルク氏（メダン市庁舎）の長男が数日前急性盲腸炎でウィングフートの病院に送られた。そこにいる現地人医師は手術ができない。それでこの少年はまた我々の収容所に送り帰された。今収容所のヤップは、ここの医師はブスーク[悪い]なので病気でないものをすぐにウィングフートに送ると言った。いやなヤップだ。

ゴッキンガ

1945年5月17日

私も現在血管の循環が弱ったため水分を排出する機能が衰え、足がむくんでいる。これは栄養失調性浮腫ではない。クラーマー医師はダオン・センバンあるいはスンバンを使用する事を薦めた。そうすれば数日で消えるのだ。無料でパウルス氏のところでもらえる。…中略…これはフランネルのような肌触りのきれいな葉っぱである。このあたりの密林で生育する。ここに欧印人あるいは印人の若者たちによって薬草が持ち込まれ、病院で使用される事は注目すべきことである。この葉っぱはマラリアの高熱にも効く。41度の高熱を37度に下げる。またホメオパシーの薬も歓迎されている。

メンデス

1945年5月24日

一昨日の午後から私はトランク置場（付属病棟）だ。なぜなら便の中の粘液が最小限になったから。

クラウト

1945年5月26日

夜中に右の耳が痛くなった。今週洗浄したばかりだ。その他、とてもすばらしい天気なのに寒気がしている。これはマラリアの兆し。すぐに数錠の薬を服用。…中略…今日はほぼ一日中寝床で過ごした。午後6時に37度7分あった。アードリアンがとてもよく介護してくれた。

クラウト

1945年5月28日

昨日の午後熱が36度5分になった、だからマラリアが克服できたことを願う。これは40度の高熱なしでマラリアを抑圧する唯一で一番安い方法である。私はまた1.2gのキニーネを使い果たした。戦争が終わったら完全治療を行うつもりだ。口の中に気泡ができている人たちもいる。

クラウト

1945年5月29日

最近数週間幸い死者がでていない。…中略…1ヶ月以上前完全に意気消沈し、下痢とマラリアと痔のために生きる希望を完全に失っていたエスマイエルが回復した。私は彼をファン・グルーティングに紹介し、彼はある期間色々なホメオパシーの薬を投与した。エスマイエルは最初あまり耳を貸さなかったが、体力を取り戻し、今は以前よりずっと良好な結果となった。エスマイエルはだれにもある欠点を別にすれば、黄金のような心といつも人助けの用意が出来ており、誰もを助けようとするのを私はとても喜ばしいと思っている。

ゴッキング

1945年6月2日

夜、私はひどく腹が痛んだ。ファン・デル・プラス医師からアヘンチンキをもらい一晩中眠った。現在古い水浴用のバケツを便器にしている。

ボス

1945年6月5日

ホベレン（元水道局従業員）が亡くなった。60歳、赤痢で死亡。

メンデス

1945年6月5日

すでに数日間大炊事場の食事で、もし私がブスーク[悪い]なエビやウビ・カユ[キャッサバ]によって下痢になってなければ、昨日付属病棟から退院するはずだった。私は現在特別食用炊事場にまた戻された。本日、予防のためキニーネ1gをまた服用。

ボス

1945年6月6日

ヤンセン（メダン警察の警部）が亡くなった。享年53歳、赤痢で死亡。

クラウト

1945年6月7日

今日の夜中、また6回外に出なければならなかった。1度は上下同時にはきだした。爽快だ。昨夜はひどい雨。路面電車への歩行は非常に困難だった。我々のホン[バラック]近くのパリット[溝]にまたがって座った。ここで何か支障があると惨めだ。暗闇で泥ぬま、一言でいえば悲惨な状況である。

私は検便をホスピタルに納めた。そこには汚物の入ったたくさんのココヤシの殻がある。私の胃の具合がまた悪くなったようだ。たぶん6月4日月曜日はじめての下痢の後、負担となるペディス[辛すぎる]なものを食べたからだろう。体温は36度4分。ファン・グルーティングからまた飲み薬と少しの水をもらった。うれしい。今はすこし安静にする。気分が落ち着く。しばしば愛妻の愛情に満ちた看護を思い出す。

ファン・デン・ベルフ医師は昨日フランク（ファン・ゲント）に、病気の父親が3ダジェナン錠を3錠服用したほうが良いと言った。フランクはRCMAの代理人（ナイホフ）のところに行き、ナイホフは企業が戦後に1錠につき100ギルダー支払うだろうと言った。ラースキャンプ（メダンの薬局）のデッカーは3錠を50ギルダーで入手するのは難しいと言った。

私はフランクにボレン医師のほうへ行くよう薦めた。仲介者をかいてフランクはたまたま3錠の薬を手放すことのできるRCMAの誰かと接触できた。スバヤイことだ。

クラウト

1945年6月8日

10滴のアヘンチンキのおかげで夜中熟睡することが出来た。昨夜食事の一部を吐いた。食べ過ぎだ。炊事場でチャベ[唐辛子]を使った2皿の煮込みを食べたのだ。幸い現在快調である。ファン・グルーティンクにココヤシの殻に挽いたトウモロコシを入れて与えた。この人はできるだけ多くの人をそのホメオパシーの療法で手助けしている。痔、赤痢、線虫病、腹痛などなど。素人にしては物知りである。…中略… 収容所監督は手術すべき人はどうするのかとヤップに尋ねた。彼らはアーク・パミーンケに送られることになるだろう。

ゴッキンガ

1945年6月10日

69人目が死亡。ゴム林保護局のクラーク氏である。わずか1938名の人が残っている。

ボス

1945年6月12日

ファン・リンデン男爵（農業顧問）が亡くなった。享年50歳、赤痢で死亡。

ゴッキンガ

1945年6月12日

コールホーベンが遺書を作成。昨日はまだ外にいたのだが、ゆっくり衰退している。クラウセ医師は便所に行くと直腸がとびだす。彼はそれをまた内側に押し戻す。脚気、痔、直腸炎、むくんだ膝と足と身体、ディスペプシア<sup>25</sup>、炭水化物中毒、栄養失調性浮腫、赤い斑点、視力減退、ノイローゼ、神経衰弱症<sup>26</sup>、マラリア、赤痢、身体衰弱、無気力症、睡眠不振など

---

<sup>25</sup> ディスペプシアは消化不良のこと。

<sup>26</sup> 神経衰弱症は精神的、身体的な激しい疲労と注意集中不能が病状である。



など。ここではみんなが何かに罹っている。時には全部同時に。誰も逃れられない。薬はなし、良い治療法もない。このように我々は毎日何か得るのを待つ。他の言葉に直すと、衰弱した身体にもう一打撃くらうか、あるいは米国人が来るのか？私には彼らがここにこの悲惨さをすべて切り抜けた人々のため、クリスマスツリーのキャンドルを燈すためにやってくるだろうと思う。わずかの動物性食糧があれば容易に助かる事ができるのに。私がすべてを現実化すると、スカートゥを怖がらせるのが想像できるかな？スカートゥは私に現実をみるべきではないという。

ボス

1945年6月14日

ウィム・カウエナールが亡くなった。18歳で胸膜炎、マラリア、赤痢によって死亡。

メンデス

1945年6月14日

いまだに私は付属病棟に臥せており、良性ではあるが長患いをしている、いまだに便の中に粘液、およそ3ヶ月ほど前からそけい部に頑固な湿疹がでている。

ゴッキンガ

1945年6月15日

コールホーベンが臨終の床にある。胃と肝臓に腫瘍ができたのだ。なんの材料もなく、彼は寢床で垂れ流したまま、それは掃除されねばならない。しかしタオルも消毒剤もない。また赤痢患者もいたところで垂れ流しのままだ。おぞましい状況。それでヤップが収容所をあるいて、不潔な現状に文句をつける。

ボス

1945年6月15日

コールホーベン（元権威者）が亡くなった。56歳ぐらい、胃がんで死亡。

ボス

1945年6月16日

プライシール（蘭印農業シンジケートの技術者）が亡くなった。享年53歳、赤痢で死亡。

ゴッキング

1945年6月16日

スカートゥを午後10時医師のもとに送った。私はひどく気分が悪く下痢をしている。その時にはいくらかアヘンチンキをもらった。それで熱は下がった。真夜中にもう一度下痢、缶の上にはしゃがんだ。なんという惨めな夜だ。私はムール貝に中毒したのかと思う。エビや貝はもう食べない。この夜は私の記憶に長く刻まれる事だろう。マームス、お腹の具合に私はいたたまれない。このひどい食事でもいつも同じことを繰り返している。

クラウト

1945年6月17日

スパイカーマンが本日赤痢でホスピタルに行った。下の階の隣人だった。彼には多くは耐えられないだろう。いつこのような悲惨な状態から抜け出すことができるのだろう。

ボス

1945年6月18日

ファン・スターベレン（アチェの農園主）が死亡。享年59歳、赤痢による死亡である。

ゴッキング

1945年6月20日

特別食炊事場の昼食のご飯が、午前8時半にはもうふたなしのクワイ[鍋]に用意され、ハエに覆われたままである。昼食の時間になると酸っぱくなっている。収容所の見事な衛生状態。これに苦情を言うともっともらしくごまかされ、影響力も及ばない。

病棟の食事運搬人が大便をした後、尿を手に取りそれで尻を洗う。多くの者は素手で尻をぬぐい、それを壁に擦り、そのあとホン[バラック]にやってきて階段の手すりを握って上に登る。この手すりはみんなが握っているのだ！

クラウト

1945年6月20日

ホスピタルは、とても重症である場合以外は、赤痢の患者を入院させる事も出来ないくらい満杯である。

ボス

1945年6月22日

アドリアーンセ（HAPMの農園主）が55歳で亡くなった。赤痢と全身衰弱による死亡である。

メンデス

1945年6月23日

また4月29日と全く同様。夜中に痙攣と下痢、そして発熱。グラウバー塩<sup>27</sup>で今朝通じをつけた。全く食欲がなく、ひどい頭痛。

ボス

1945年6月24日

グロナート（ハリソンの経理士）が死亡。享年47歳、赤痢、マラリアそして血栓症で亡くなった。僅か1週間の患いだっただ。悲壮だ。妻と4人の娘がオランダにいる。

---

<sup>27</sup> 下剤として使用される結晶体のナトリウム硝酸塩。

クラウト

1945年6月24日

本日11時デック・グロナートが亡くなった。臨終の際、私はザイルストラ、ランスドルフ、そしてデ・スワルトと共に寝床の横に立っていた。ディックは背中痛みを訴えた。ザイルストラは「君は悲しみのない天国に行くんだよ」と言った。グロナートは再び「ああ、主よ」と言った。臨終の瞬間まで彼の意識は確かであった。現在戦争が終わりに近づいており、彼が待ち望んでいた妻と子供たちとの再会ができなかったのはとても悲劇的であった。主よ、助け給え。彼は76番目である。いつになったら終わるのか？グロナートは先週にはまだ教会に通っており、火曜日（6月19日）に入院したのである。スパイカーマンはまたホスピタルへ。ここはなんとという状況だろう。朝早くまた道に便が落ちている。多くのものたちが6月8日になにも起こらなかった<sup>28</sup>ので失望している。多くは生き残ろうという望みさえない。望みは持ち続けねばならない。…中略… 17時グロナートが埋葬された。ザイルストラが導いた。彼はマテウス27章45節と次の詩を読んだ。讚美歌68第10番が歌われた。彼は今朝グロナートが「ああ、主よ」と言ったのを思い出させた。収容所の外へ私が一緒に運んだ。ウィールダがハリソンズ（グロナートの雇主）に代わって謝辞を述べた。ザイルストラは祈り、デ・スワルトが家族を代表して感謝の辞を述べた。

メンデス

1945年6月24日

細菌性赤痢のため大病院に入院。すごい腹痛、定期的な発熱、そしておびただしい便。

ボス

1945年6月25日

ファン・デル・メイデ（シグリ 駅助役）が亡くなった。肺炎とウイルス病<sup>29</sup>による死亡、51歳である。…中略… カシェが赤痢で大病院へ。患者の数がすごく増えている。特別食炊事場は250名。全ての病棟は満杯だ。

---

<sup>28</sup> 多くの人々は、1945年6月8日に平和通告を予期していた。「戦況報告と流言」参照。

<sup>29</sup> 高熱を伴う急性伝染病。

ゴッキング

1945年6月26日

今晚もまた見事な失敗、自分の寝床で缶の上にしゃがんでしまったのだ。まあ、まあ何という状況だ。今日はとても暗い気分である。なぜなら特別食に戻り、米粥に半分のタレ、野菜はなし、何もないからだ。味もないし栄養もない。私の体重は平均以下で補充食もなく、何ももらえない、また便所に通うかあるいは缶の上にしゃがむかだ。ああ、悲観的になり不安になっていく。もし私がマラリアか赤痢を併発したら、持ちこたえられない。ファン・デル・プラス医師は「不安がる理由はない。大丈夫だ。しかし厳しい食事療法を続け、またもとに戻していくのだ」と言った。スカートゥはこの上なくほろりとさせられる。要求するのをためらう。彼はすでにととてもよく介護してくれるが、何か要求しないと怒るのだ。我々は現在厳しい食事療法をはじめた。一日2回のガプレック粥[乾燥キャッサバの粥]、米粥と半分のタレ、少し油の入った米、そしてもしあるなら少しの魚の煮込みで、これはおよそ1匙くらいである。マームス、いつまで続くのか？医師からは薬ももうもらえない、ないのだから。時にはとてつもなく気が滅入る、この不潔さ、埃、臭い、うだるような暑さと退屈さ。人は忍耐強いが、どこかに限界がある。いつ個人的に限界に達するのかと自問する。毎日のように死者が出るのを体験すればするほど、埋葬が戸口の前を通り過ぎ、教会の鐘がなればなるほど不安になるのは不思議なことだろうか？気持ちをさらけ出すのは気分が良い。ちょうど君と話しをするように。マームス、なんという生活だろう。

ボス

1945年6月27日

デッカー（アレンスブルグの農場管理人）45歳が亡くなる。赤痢と胃穿孔で死亡。二人目の死亡は、ヤン・ファン・リムスダイク（「アールネム」の警部）。享年59歳、赤痢で死亡。

メンデス

1945年6月27日

現在薬がまったくない状態、キニーネはなく、さらに下痢や腹痛を止めるアヘンチンキの液さえもない。現在下痢を幾分かおさえるためノリット錠をもらった。なんという状況！

ボス

1945年6月28日

「ピラの大公」とあだ名のあるテル・ホルスト（シペフの農園主）が亡くなった。享年56歳、赤痢と全身衰弱で死亡。二番目の死者はアールセ（メダンのブラーデレン&ミシルセン勤務）でルイ・ハーンのおじさん。彼は62歳で赤痢と全身衰弱のため死亡した。

メンデス

1945年6月28日

ずっと長い間患っているニコ・ハーゼナックも、今日終油の秘跡を受けた。

クラウト

1945年6月29日

今晚は睡眠が乱れ気味だった。ほてった（熱っぽい）。体温は37度6分。…中略… コック氏からアスピリンの粉末をもらった。そして夜はファン・ゲントからアスピリンの錠剤をもらった。

ボス

1945年7月1日

ファン・ブルッセル（メダン民間金融銀行勤務）が死亡。享年56歳、髄膜炎で亡くなった。

ゴッキンガ

1945年7月1日

向かい側のスレッテナー医師、階下のアッカーマン、我々の隣のワイスマンが赤痢で、我々のど真ん中に横たわっている。我々は絶えず空いた3つの寝床をながめている、これは一種の「死の象徴」である。ホスピタルが場所不足のため、まだ50名赤痢患者がホン[バラック]に振り分けられている、そういうこと。…中略… 医師からの緊急要請は「アノフェレス属」の蚊に対してくれぐれも安全対策をとるようにとのこと。

クラウト

1945年7月2日

体温38度4分。睡眠が不安定となり、かなりの寝汗をかいた。3時半には体温37度6分だった。夜は39度3分。ファン・グルーティンクからアコニタムD3という薬をもらう、1時間ごとに茶さじ1杯を服用（2杯以上は駄目）。コーペルベルフ医師が興味を持って私の様子を見に来た。彼もインフルエンザだと思った。コッター医師（スレッテナー医師の代理）は確信していない。カウエナール医師は路面電車（簡易便所）の横木などをつかむ事に警告をだしている。それにしてもスレッテナー医師もカウエナール医師もコーペルベルフ医師も不潔な靴で階段を歩いているのは注目に値する。

メンデス

1945年7月2日

私はいくらか良好になった。少な目の便、腹痛が少なくなって、熱もない。ハーゼネックは今朝遺言を委ねた。何も本当の情報を聞かされることなく、日ごとに解放を待つだけなのは絶望感がつのっていく。収容所の状況が悲惨になり、赤痢感染が現在急激に広がり、看護人さえ3分の1が病気なのは、最も困難なことである。

ゴッキンガ

1945年7月3日

内臓がかなりやられている、スカートゥが特別食用炊事場に食事を取りに行く必要さえあるほどだ。まさに絶望的。とてもいらいらさせられ、うんざりする。自己嫌悪におちいる、少なくとも私は。ともかく私はよく自己嫌悪に陥る。…中略… 83人目の死者、ティヘラー。…中略… ホスピタルには現在60名が臥せており、そのうち12名が死にかけている。ほとんど毎日のように死者がでる。全体的に気分が暗く、ことに自分自身の調子が良くないときには。私は元気になったと思っていた、が午後になってまた不意に悪くなった。君には私の気持ち想像できるかい？私にもゆっくりだが順番がまわってきたのだろうかと思問する。…中略… マームス、私は不安で怖い、君を愛している。スカートゥはこの上なくほろりとさせられる。気分が悪くなると、彼はとてもやさしく肩に手をおいて、私を信じ、素直に、開けっぴろげに、そして憐れみを持って見つめるのだ。私は愚痴言いの年寄り、そして感受性が強すぎるのだ。

クラウト

1945年7月3日

ぐっすり熟睡できた。かなり寝汗をかいた。とても元気になったと感じる。体温は36度3分。私の病氣中アドリアンはなんと身を粉にして働いたことか。この子は疲れすぎだ。夜も朝も私の腕の中に横たわって甘えたがる。ふざけ、陽気で、遊び好きなどなど、本当の子供なのだ。ファン・ゲントから11時に100gの米の特配を2度もらった。朝、彼は我々二人分の粥を得る。

ボス

1945年7月4日

ティメル（元農園主）72歳が亡くなった。赤痢で死亡。

ゴッキンガ

1945年7月4日

私の便が検査された。赤痢ではない。医師は満足。いいとしよう。…中略… 早く寢床に就く、がなんという夜だ。私はこの強敵をうらむ。持ちこたえきれず、その上便器を寢床で投げ飛ばしてしまった。スカートゥと私が拭き取る。ああ、このような時にはなんと絶望的になることか。

ボス

1945年7月5日

パウ（コタ・ラジャ、アチャの理事官）が死亡、57歳。赤痢だ。ハーゼナック（HVAの農園主）が死亡。享年43歳、赤痢とマラリアだった。



メンデス

1945年7月5日

本日午後4時半、最後の日々とても苦しんだ末、だがやはり不意に私の良友ニコ・ハーゼナックが亡くなった。主よ、彼の魂に救いを。

クラウト

1945年7月5日

私の頭がうずいてする。マラリアがひどくなる。体温、39度/39度9分/39度3分。今日の午後0.6gのキニーネを服用。だから7日間患った後、ついにマラリアがあらわれた。夜また39度8分。0.2gのキニーネを2錠服用。

クラウト

1945年7月6日

私の寝床はプールと同じ。アードリアンが私の介護をよくしてくれる。…中略… 噂によると死にかけている人が11名候補にあがっているとのこと。収容所生活の悲劇。

ボス

1945年7月7日

スコーク (マースマンコンツェルンの土木技師) が亡くなった。享年56歳、赤痢により死亡。メダンの家宅賃貸し事務所に勤務していたコルホフが死亡。享年65歳、全身衰弱による死亡。

クラウト

1945年7月7日

ヤップが1週間前に1500錠のキニーネを送ってきた、2ヶ月分である。キニーネをもらう資格は7回高熱を起こしていなければならない。医師委員会はどの患者が7.5gのキニーネを得る資格があるかを判断する。ここは世界最大のキニーネ産地なのに悲しむべきことである。…中略… 今週は750名の病人 (これは体温を計った人すべての中で) がいた。今週は路面電車

で、ポケットからハンカチを取り出して尻をぬぐい、そのあとまたポケットに戻している人を見た。衛生の極致！

ボス

1945年7月8日

プラス（ニアスの権威者）が死亡、享年45歳。チフス熱で死亡。二人目の死者はフライ（ラ  
ンサ・ホテル）。享年61歳、赤痢で死亡。三人目はクラウシンガ（元ゴム農園主）。享年41  
歳、赤痢で死亡。

クラウト

1945年7月9日

今日の夜はあまり寝汗をかかなかった。体温は36度3分。昨夜のひどい寝汗もこの病気のせ  
いである。コーパーベルフ医師が今朝私に強壯剤をくれる予定だ。ファン・グルーディング  
から昨日コップ1杯の胃腸強壯剤をもらった。

ボス

1945年7月10日

フェルフット（ゴム農園主）が死亡。享年61歳、赤痢。…中略… 二人目はステーン（元D  
SM作業場勤務）、62歳。彼はヘリット・ヴィフェーンの義父だった。ステーンはマラリア、  
赤痢と丹毒、だがこれらは直接の死因ではない。彼は安らかに永眠した。我々が遺体を新し  
い霊安所に運ぶのを手伝った。

クラウト

1945年7月11日

17時ステーンを埋葬するため一緒に墓場に行った。カイネが導いた。人々はいまでは死者を  
担ぐ際、最初とは違った顔付きである。ごく当たり前のことになってきたのだと人は言うだ

ろう。死んでいく人が余りに多すぎる。ローマ・カトリックの聖歌<sup>30</sup>も感情がこもらない。これは雑役と同じなのだ。儀式がごく日常的に起こる今では、このようになってしまうのである。厳肅さがなくなり機械的になるのである。

クラウト

1945年7月12日

コーパーブルフ医師がまだこの収容所に500人ダジェナン所有者がいるはずだと主張したが、それを所有している者は提供しようとしなかった。所有者がタバコを欲した場合に、時々錠剤をいくつかさしだす。時々医師は患者にとってダジェナンは緊急に必要なのだという。このような患者の友人が、3錠の薬を手に入れようとして、時には長い間探した末に成功した。グロナートのために夜22時すぎにようやく3錠の薬をコンビーフ2缶と交換で手に入れた。この薬はすぐに投与されたが、残念ながら遅すぎた。これは収容所生活の悲劇である。

メンデス

1945年7月14日

最近はここに長くいるほど短期間に死者が続出するようだ。今回私は24時間におよそ40回下痢をし、看護人たちがその時私は生き延びないと思うほど、後から思うときわどいところだった。場所不足のため本日私はトランク置場に移された。気分は良く、便には僅かな粘液しかない。

クラウト

1945年7月14日

本日、夜中に誰かが緊急手術のためアーク・パミーンケに運ばれた。

---

<sup>30</sup> 葬儀の聖歌「楽園にて」。

ボス

1945年7月14日

この抑留時代における体験の一つは—以前にはおそらく決して感じる事がなかったであろう—死が私にとって明確になったことである。以前は全く受動的でしかなかった死が、今は現実になった。多くの人にとって、死への恐怖が第一位を占めるものだ。マラリアや赤痢、そして衰弱した人々の集りをみると理解できる。個人的には健康に恵まれたことをとても感謝している。

ボス

1945年7月15日

フィオラーニ（セネンバの元技術者）が亡くなった。享年57歳、赤痢で死亡。フィオラーニは評判の悪い人だった。ひつぎを担ぐ人がだれも見付からなかった。ビルと私にデ・ウィールト（葬儀世話係）から担ぐよう何度も要請があった。聖職者も伴わなかった。まるで犬を葬むようだった。

ボス

1945年7月17日

デ・ボント（シペフのゴム農園主）が45歳で赤痢のため亡くなった。

クラウト

1945年7月20日

本日、ペマナン・シアンタルの市政局長のレッカーズが5日間の高熱の後死亡した。一人息子がいて、一緒に何度もトウモロコシ挽きにやってきましたり散歩をしていた。とても悲劇的である。

ボス

1945年7月20日

ファン・デューテコム（内政部の権威者）67歳が赤痢で死亡。レッカーズ（ペマタン・シア  
ンタルの市政局長）、52歳が熱帯性チフスのため死亡。僅か2日間の病床であった。

メンデス

1945年7月20日

あのマラリアが一丸1週間遅れていた—現れなかったのを喜んでいたのに。不意に今日の午  
後また発作が始った。

ボス

1945年7月21日

フェルーフ（コタ・ラジャのデリ映画館主）、59歳が赤痢で死亡。

ボス

1945年7月22日

ヨングブルッド（フィリーズ&ホーゲウエハの会計士）が38歳で赤痢と全身衰弱のため死亡。

メンデス

1945年7月24日

昨日1gのキニーネを服用した後、今日ようやく熱が治まった。このごろはほとんどなにも  
食べておらず、また食欲もない。最近発表された公式声明からの通知は、ほとんど良報とは  
いえるが、すべてが長びき、この状況が長引けば長引くほどより危険になっている。もしこ  
のまま1年続けば、収容所の大部分の人々が墓地に葬られることになるだろう。

ボス

1945年7月25日

ダングレモント医師（メダン、カンボン・バル、アブロス試験場の所長）62歳が赤痢で死亡。

ボス

1945年7月26日

フェルウェイ（デリ・アチャ社）が死亡。享年37歳、赤痢で亡くなった。わずか13日間の病床だった。丈夫で強い男だった、実に悲劇的である。シ・レンゴ・レンゴ100人目の死者だ。

ゴッキンガ

1945年7月26日

また不調になった、再度柔らかい米。すでに1ヶ月以上柔らかい米に僅かな水のようなタレだけ、他には何もない。回復したかと思うと、パン、医師はタマゴと牛乳という。

ゴッキンガ

1945年7月27日

突然102人目、サバン鉄道のファン・デ・カンブが赤痢で亡くなった。40歳くらい。数日前まで健康だったのに急死。1907名が残っている。この次はだれ！

クラウド

1945年7月28日

昨日3錠のダジェナンが現金だと100ギルダー、または戦後払い900ギルダーで取引きされた。痛ましすぎる。以前は1錠0.12ギルダーだったのだ。

ゴッキング

1945年7月29日

103番目、カルペンチェイが死亡、残り1906名。昨日彼はまだ外で洗われていたのだ。いつも勇気があって、丈夫で、陽気な人だった。

ボス

1945年7月30日

デ・ハールト（メダン、ザイレンのトコ勤務）が死亡。享年51歳、極度の疲労と赤痢で亡くなった。…中略… 赤痢患者は彼らの「血、粘液、涙」について語る。また最良の状態には見えなかった場合は「私の検便失敗談」（ネヴィール・ヘンデルセンの「宣教失敗談」より）を語る。

ゴッキング

1945年7月31日

ホスピタルへ便を届に行くため朝早く起きる。嫌なことだ。ほとんど誰もが何かを届にやってくる。この状況と不潔さは筆舌に尽くし難い。何年も掃除したことのない豚小屋さえ、このホスピタルより衛生的で感染率が少ない。ああ、どうしてこんなことが起こっているのか？ 医師は満足、私はそれほどでもない。私は恩知らずにはなりたくない、恩知らずなのも許されない。現在君の誕生日6月23日以降、なにもおかずにない、塩さえない米粥を6月24日から始め、一日2回のガプレック朝粥[乾燥キャッサバの粥]である。いらいらさせられるものだ。…中略…

午後5時、デ・ハールト（赤痢で死亡）の埋葬があった、彼の場所はすぐに2度赤痢に罹った我々のホン[バラック]長に取り替わった。埋葬の行列が過ぎ去るやいなや、彼がこの場所を占領した。マームス、ああ、何も考えないことだ、何かをすると考える時間がない、考えない、さもなければ…。わたしはごく些細なことに夢中になっている。ああ、夜中に目が覚めても考えないことだ。

ボス

1945年8月4日

ワウターズ（ソシエテの経理士）68歳が赤痢で死亡。

クラウト

1945年8月4日

昨晩は体温38度。今朝は38度2分。寒気が続く、だからまさにマラリアの徴候だ。0.6gのキニーネを服用。午後は体温39度4分。夜にまた0.4gのキニーネ。夜明けに寝汗をかく、便もすごく薄い。これは時々マラリアになるとやってくる。他の病気でないことを願う。

ボス

1945年8月6日

リードホルスト（グッドイヤーの農園管理者）が死亡。享年58歳、脳溢血で死亡。

ゴッキンガ

1945年8月6日

ゴファーツが重症の赤痢だ。ホスピタルは満杯。現在彼は、風が通り抜けている病棟の差しかけ屋根の下に横たわっている。

クラウト

1945年8月6日

マラリアはかなり緩慢である。一番高い熱は39度4分だった。1gのキニーネでもう一度押さえようと願っている。今朝も検便を届けた。私はマラリアになるとたいてい薄い便になるのだが、絶えず赤痢を怖れている。



ボス

1945年8月7日

ソフ（メダンのゲンゼル&シュマッハー輸入代理店勤務）が死亡。享年55歳、赤痢による。…中略… 我々の企業合同体では、カシェの赤痢から始り、そのあとすでに数週間ホスピタルに臥せているヘイ、そして現在はハリーが3番目だ。トーンはすでに6週間腹の調子が悪い。安静と食事療法を続ける必要がある。…中略… 現在収容所を歩くと、医者のような気分になる。無理に「いかがですか？」と尋ねる必要を感じ、最近の「高熱」、むくんだ足の様子、あるいはいつも便所に落とす排泄物の様子についての人々の長話しに火をつけることとなる。ヤップに供された報告書の中には、この収容所は「死の谷」として述べられている…病人の数は604名！この収容所の3分の1である！

ゴッキンガ

1945年8月8日

また調子が悪い、回復しない。スカートゥはそんなに気を落とすべきでないと私を叱る。彼は正しい。…中略… 医師からちょうどウビ特別食にするよう言われたところだ。これは朝食ウビだけと僅かなタレ、夕食は煮物がすこしとウビだけを意味する。何もないことこの上ない。

クラウト

1945年8月8日

ホスピタルの状況は一言では書き尽くせない。患者は、僅かの風がふくと消え去るような小さな石油ランプの下で治療される。介護する人々は、人々が隣り合わせにぎっしり並んで臥せているため、ベッドの間を歩くことが出来ない。

ゴッキンガ

1945年8月13日

個人的には良い日だった。ファン・グルーティングからまたホメオパシーの薬をもらった、よく効く。

クラウト

1945年8月13日

アードリアンが今朝39度9分あった。どこが悪いにか私にははっきり分らない。彼の友人のコーペルベルフ医師があとで見に来てくれる。コーペルベルフ医師はマラリアだと云った。私は彼に0.6gのキニーネを投与するつもりだ。…中略… 5日熱のように私には思える。

メンデス

1945年8月14日

数日前より便から粘液が消えた。

クラウト

1945年8月14日

アードリアンの体温は39度3分。汗はかきそうにない。今朝私は4ギルダーで鶏卵を彼のために買った。…中略… コッター医師が診察し5日熱だと診断した。…中略… コーペルベルフ医師が今晚彼に何か汗が出るようになる薬を持ってきた。この人はアードリアンに対して親切だ。彼も一度診察した。彼はだから二人の医師の監督下にある。

ゴッキンガ

1945年8月15日

ヘッタースカイが死亡。108人目、残りは1901名。ガンだったとのことで、彼は1缶50ギルダーのオートミールを500ギルダー分食べたのだから、10缶だけだ。また2人死にかけている。…中略… ヘイリングは腹の具合が悪く、ファン・デ・フェルデはまだ赤痢である。我々のホン[バラック]のモンスマは突然赤痢に罹り、こうして我々は日々を過ごす。逃れられない、皿を洗うのにどんな規制が取られるのか？階段の手すりをつかむこと、眠る場所である土間で生活すること、紙巻タバコを巻いたもの、ホスピタルからの食事を取りに行くことなどすべてが、あらゆるものが感染源になっている。考えるだけで恐ろしくなる、とても恐ろしい、考えないことが最善策である。皆は「他のことを考えろ」という。言うのは実行するよりたやすいことである。時々、ことにひどい病気の成り行きをみた場合や、偶然ホスピタルに行かねばならないか、あるいは豚小屋の排泄物さえものともしないホスピタルの便所にいる必

要がある場合は、この恐れがひどくなる。現在環形動物の代わりに足のむくみがヤシ油とほかの何かで治療された。衣服の結果は当然、油だらけの男のように見え、とても脂ぎって不潔で汚い、油にまみれている。もし効果があるならまあ良しとしよう。

ゴッキンガ

1945年8月16日

今朝また周知の「死者の報告」という声が響く。今回はスパイカーマン、57歳。109番目。残りは1900名である。私は夜中に寝床で死闘を聞いた、悲惨だった。太陽はまたいつものように昇り、この大自然界に人間が生存し、働き、死んで行く。人間は自分が偉大なものだと考え、自分のために要求さえする。

クラウト

1945年8月17日

アードリアンは37度の熱。また外にでた。…中略…最後に熱のあった日に私の小さな息子はうわごとを言っていた。彼はマンゴ泥棒の話をした「見て、見て、彼らが一番上に登っていくよ、僕には彼らが歩いているのが見える」と言った。その他彼は「トラシ[保存用の魚]の軟骨も美味しい」という話をした。3番目の話しは忘れてしまった。かれはひどく弱って、数日間39度以上あったのが顕著である。現在食欲は良好。

メンデス

1945年8月18日

トランク置場の治療医カウエナールとファン・デン・ベルフ医師の話し合いのあと、私の便の粘液は細菌性赤痢が原因ではなく、昔の内臓障害が原因だとの結論に現在なったようだ。この障害は戦後治療すれば治るとのことだ。

ボス

1945年8月19日

ブランケンスタイン（アムステルダムータパヌリ企業の農場管理人）が死亡。享年52歳、赤痢と全身衰弱による。

ゴッキング

1945年8月19日

2日前にはまだ健在で、私の髭さえ剃ってくれたモンスマが今死にかけている。赤痢だ。ダジェナン錠が手に入らなければ、望みがない。

ゴッキング

1945年8月22日

医師は満足している。彼は私の顔色が良くなり始めたと言った。本日から一匙の野菜を始める、油はまだなしだ。医師はウビ・カユ[キャッサバ]が入荷次第、ウビの食事療法を始めるつもりだと言った。

ゴッキング

1945年8月23日

ヤップから3300錠のキニーネを受け取る。4度高熱になれば現在キニーネがもらえる、前には6度以上の発熱の後か、全くなしだった。インシュリンと他の薬品も少し、だがダジェナンはない。

ボス

1945年8月24日

モンスマ（デリ社の農園企業主）が亡くなった。享年46歳、赤痢で死亡。9日間病床にあった。とても悲劇的だ。偉大で強い「君主」だった。

赤痢とチフス予防の注射をされる。痛い！



スマトラ



シ・レンゴ・レンゴ収容所病院の内部、写真J.P.J.コーサク Fotocollectie NIOD

## 教育・娯楽・宗教関係

ゴッキング

1944年10月6日

スカートゥが18歳になった。なんという誕生日！ご飯を炊いてソーセージの缶詰を開けた。なんというお祝いだ。絶え間なく包みを開けたり手配したり。

ゴッキング

1944年10月13日

ブリッジを習った、そして「How to make friends（友人を作る方法）」を読んだ。他の本を読む暇がない。スケッチの時間もない。ここはとても美しいのでスケッチができないのは残念である。

メンデス

1944年10月15日

今日は雨の日曜日だった。これは大きな泥の海を意味する。朝9時に水泳小屋で聖ミサがあり、人々は聖体拝領に行った。

ゴッキング

1944年10月15日

一日中寝床で読書をして過ごした。何もすることがないし、座る場所もない。…中略…どしゃ降りの雨、すべてが粘土層の泥。ニッポン時間の9時頃に寝床に就く。

ゴッキング

1944年10月16日

暗いホン [バラック] で少年たちが、毎晩少しギターをチリンチリンとかき鳴らす。我々にはまだ照明がないのだ。居心地悪さは絶望的。

ゴッキング

1944年10月20日

図書館が再開された。学校に関しては、残念ながら目下見通しがたっていない。

メンデス

1944年10月22日

ホン [バラック] 8号棟でまた毎日のミサが始り、人々に平穏な安らぎと従順さを見出させるロザリオも設けられた。

ゴッキング

1944年10月23日

収容所は一日中歌、レコード、バンジョー、ハーモニカなどがある。…中略… ここでは外で生活するか寝床で寝ているかである。中間はない。特に太陽を避けて通るのは難しい。

ボス

1944年10月25日

読書した。ピエール・ファン・パーセンの「The time is now! (時は今だ)」(1941年5月)と「Hitler can be stopped, if America takes steps now (今、米国が行動を起こせば、ヒットラーの侵攻を止めることができる)」 英国のみでヒットラーは倒せない。どうすればよいのか? ヒットラーの「海域」侵攻を未然に防ぐためダカール諸島、カナリア諸島、アゾレス諸島を占領する。彼は地中海全域の敗北は敗戦を意味すると言っている。(後にチャーチルは、アレキ



サンドリアの敗北は例えばシンガポールの損失よりも重大であろうと述べている) 興味深い本だ。

ゴッキング

1944年10月25日

スカートゥは通常午後はずっとカリにいる。冷たくて気持ちよし、健全で喉の渴きをいやし、熟眠させてくれる。…中略… スカートゥはメダンのボルネオ・スマトラ農園企業に務めていたナーヘル氏から簿記のレッスンを受けている。…中略… 学校は多分はじまらないだろう。

クラウト

1944年10月25日

午後6時以降のみ音楽を奏でてよい。…中略… 私はスミット牧師の講演会に行った：天地創造の物語と現在の学術調査の関連。この人は抑留中に自由主義的クリスチャンになった。彼は創世記の第1章から第12章までは史実にあわないと決めつけた。聖書はアブラハムからようやく始まったのだ。

クラウト

1944年10月28日

昨晩はスミット牧師の講演に関する質問会に行ってきた。このような討論でよくあるように、めいめいばらばらにしゃべっていた。オランダ改革派教徒たちは彼らの見解を説明しようとしたが、不成功に終わった。

ボス

1944年10月28日

私はもう一度ヘルマン・サロモンソン (1936年) の「De reis zonder einde (終わりなき旅)」

<sup>31</sup>をととても楽しく読んだ。初回より高く評価、彼は蘭領東インドのデータをととても的確に理解し再現している。特に東インド識者は高く評価するはずだ。「親密さのものさしは月日を数えることではなく、人が共に経験したことによって判断される」。女性について彼は言う「女性にとって魅力的であるかどうかは、最も不確かなものだと言える。彼女の人生は（魅力的であるか否かと問う）絶え間のない迷いで、確信を勝ち取る手段を探求することである。絶えず現れる（魅力的ではないという）怖れは、新しいことを試みることのみで鎮圧することができる」（そうなのかりーシェ?）。「最も本質的な（男女間の）愛情表現の瞬間には、彼女はか弱く脆い女性をもう演じ続けることが出来ない。彼女はあきらめ、最終的には彼女自身が服従することを知る愛の力で彼の中に抱擁される」。私にとってはそうならないことを、ああ、私の東インド滞在が終わりなき旅にならないように願う…

ゴッキング

1944年10月28日

聖アルデゴンデ・マーニックス号の管弦楽団元奏者ライフが、昨日ホン [バラック] 8号棟でアコーディオンを演奏した。彼はここで募金を集め、1ヶ月分のタバコを集めた。演奏や歌を聞いている、その途中で病人がホスピタルに運び込まれ、彼らがよろめき歩いているのが見える。なんという状況。

ボス

1944年10月29日

ホン [バラック] 8号棟で礼拝の後はレコードプレーヤーのコンサート。クラシックのプログラムはリーゼンベルク医師によって説明される。シューベルト、バッハ、モーツァルトだ。久々に別世界からのものである。

ゴッキング

1944年10月30日

昨晩は8時半頃（我々の時間で6時）に蚊帳の下の寝床に入り、スカートゥに旅行談をした。

---

<sup>31</sup> この本の主人公は蘭領東インドに商用旅行に出たが、諸事情によりオランダへは帰国しなかった。

彼はこれがとても気に入っている。彼に我々の新婚旅行の体験談を話した。…中略… 今晚、ライフが我々のホン [バラック] でアコーディオンを奏でる。彼はタバコ愛好者である。

ボス

1944年10月30日

スンガイ・センコル収容所の話しをふたつ：そのヤップはどこへ行くのにも道連れにする猿を飼っている。人々はこの猿にかなりの餌をやったあと大量の下剤を飲ませた。結果：親分の体中を糞だらけにしたそうな！ワップ神父は猿の肉を初めて食べた人。それで現在野生の猿は（特にここランタウパラパトの朝には）ますます「マナ・ワップ？マナ・ワップ？（ワップはどこだ？）」と叫び声をあげている。

ドライバー

1944年10月30日

赤痢患者でホスピタルが満杯のため、私は目下ウェスとファン・ラーテュムと共に、誰もいないホン [バラック] 8号棟で横たわっている。「図書館」が設置され、講演会に使われるようになる。…中略… 学校は開かれない。…中略… 昨夜はすばらしいレコードプレーヤーのコンサートがあった、いわゆるモーツァルトの戴冠式協奏曲。

ドライバー

1944年11月4日

来週から私は警視たちにマレー語の講義をはじめ。それから憲法を少し。

ゴッキング

1944年11月4日

ホン [バラック] 8号棟の礼拝は、現在病棟になったため中止。

ドライバーズ

1944年11月5日

今朝クンツ、ブラウワー、アルフ・コーハンとでブリッジをした。とても楽しかった。少しずつホン [バラック] に慣れ始めている、しかし今までよりはいくらか疲れやすい。来週ここに収容されている官僚全員が知り合いになるための集会が行われる。人数は53名のはずだ。

ドライバーズ

1944年11月7日

昨晚、初めてムンセ、アウティア、フェルケルク、デ・ブラール、ケルクホフそしてダングレモントにマレー語の講義を行った。幸いこの夜は涼しいのでよく眠れる。私は気分がいい。毎日数時間勉強し、その時にはホン [バラック] 8号棟のムンセのテーブルにいる。

ドライバーズ

1944年11月8日

昨晚、初対面の親交会があった。今後毎週火曜日に課題のある集会を持つことになった。次の火曜日は、私が国際協力に関する講義で矢面に立つだろう。

ボス

1944年11月9日

トイチャー牧師指揮の下で、プロテスタント聖歌隊の歌の練習がある。私は第1バスを歌う。

クラウド

1944年11月22日

スミット牧師による講演会：「旧約聖書はまだ価値があるのか?」。彼によれば史実に合っていないとのこと。キリスト紀元後70年に旧約聖書の古文書が全部焼けてしまった。それで当時全面的に補正されたものが新規作成されたのだ。

ボス

1944年11月22日

読書：アントン・E・チシュカの「Japan, wereldveroveraar(日本、世界征服者)」(1936年)  
これまで読んだチシュカの書物の中で最も興味深かった。1854年から1934年までの日本軍の南方と北方への領土拡張の全記録である。とりわけ現代日本に関するもの。問題の解決は政治的同意や中立警戒ではなく、世界的組織であるとする。すなわちすべてを把握する経済プログラム、世界の産業国間すべての真の協力だとする。欧州には欧州共同体の設置。

ゴッキング

1944年11月23日

ああ、今日はなんとミーシェのために喜んでることか、私の娘の誕生日だ。我々にとっては辛い日である。一日中、私とスカートゥは誕生日を迎えたかわいいミースのことを考えていた。我が子よ、収容所での3度目の誕生日だ。ああ、これで最後にしてくれ。主よ、ミースが強い女性になるように導き守り給え、私の心からの望みである。今朝早くおじさんがお祝いに来た。彼がここを訪れるのは初めてである。スカートゥは一日中とてもなぞめいたそぶりで、おじさんを11時に我々のところに招待していたのだ。スカートゥはその時、我々におろしたココヤシ、ウビ粉[キャッサバ粉]、ヤシ油で作ったおいしいクッキーでもてなし、これに少しバター(ブルーバンド製マーガリン)をのせればとてもこうばしいケーキである。我々は一体何なのかかぎつけられなかった。芸術作品だ。昼食にスカートゥは少しご飯を炊き、こういう機会のために3年ほどトランクに保存していたイワシの缶詰を開けた。ああ、なんて美味しい。残念ながら缶詰は大きすぎ、本来なら長期間食べられるものだ。しかし保存はできない。今晚夕食に残りを平らげた。

昨夜、前菜に砂糖入りの熱いお茶1杯(廃水)と、熟していないピサン2本を皮ごと煮たものに塩をつけて食べた。砂地で作るジャガイモの味がした。普段なら食べないものでも美味しいと思うのだ。ともかく娘よ、マームスと私にとってのすばらしい日がまた過ぎ去る。…中略… この日の記念に私とスカートゥは新しい剃刀で髭を剃った。また砂糖入りのココヤシ水を飲んだ。娘よ、スカートゥと私はいかに君に会いたいと思っていることか。それを分ってもらえれば。我々は時折本当に飽き飽きしている。有難いことに我々はみなまだ健康である。スカートゥは去年のスンガイ・センコルと同様マースマンの指導下でキリスト降誕劇に参加し、稽古をしている。また1年が経過したのだ。また1年過ぎ去ってしまったとは！

ゴッキング

1944年11月25日

結婚記念日を祝って、昨晚スカートゥが熟していないピサンをいくらか油で炒め、我々は煮たったお茶を1杯、すなわち黄色いカリの水に数枚の緑茶の葉を入れたものを飲んだ。なんとまずい飲み物だ。ともかくすでにここでは獣じみているのだから、これも追加することが出来る。

クラウト

1944年11月26日

夜また雨、泥！週に2度レコードプレーヤーの音楽。今日はクラシックのプログラムだ。ベートーベンの未完成交響曲<sup>32</sup>（すばらしい）。

ゴッキング

1944年11月26日

スカートゥと私は昨晚寢床で政治について長いこと話しあった。ここでは何もかも暗闇の中、寢床の中で行うのだ、ああなんてことだ。人々がいかに獣じみた状況で生活でき、ある程度の陽気さを保っていられるのは、驚異的なことである。これらすべては想像には及ばないほどのひどさだ。ああ、なんという状況、なんとひどい混乱状態。

ゴッキング

1944年11月27日

私は現在スケッチをたくさんしている。時間をつぶすのにいい、さもないと時々よくよく考え過ぎるから。思いにふけりながら一人で居続けるのはよくない。

---

<sup>32</sup> 未完成交響曲は、ベートーベンではなくシューベルトの作品である。

クラウト

1944年12月2日

ワップ神父の大西洋憲章に関する講演会は金曜の夜ヤップが立ち寄ったため、継続することが許されなかった。

クラウト

1944年12月5日

今日は聖ニコラスのお祭りだ。妻や子供たちのそばにいたかったことか。愛妻はなんとおいしいソーセージパンと文字形アーモンドペストリーを作れることか。あの頃彼女は楽しみ、自慢して作った。我々はまた「来年」というだろうか？。今日は自分のために一度150gのおかずなしのご飯をごちそうしよう。

ゴッキンガ

1944年12月5日

「ひょうきん者の聖ニコラス、長靴に何か投げ入れて」 収容所3度目の聖ニコラス。日本軍は聖ニコラスさえ許さない。この日を自分たちでより楽しく祝ったものだ。今日はお茶に少しのご飯（スカートゥが炊いた）と、文字形アーモンドペストリーのかわりに確保していた蓄えから少しのブルーバンド製バターに砂糖、考えないことだ。私はニッポン時間7時に起き、スカートゥに12月5日を記念して寝床で温かいお茶を入れた。すばらしい夜明け。…中略… 愛する妻や娘から遠くはなれた強制収容所での生活がいかに味気のないものか。こうして12月5日もなんとか終わり、また一日がゆっくり過ぎ去る、一日ずつまたこの困難で非人間的な道の終点にたどりつかねばならないのだ！

ドライバーズ

1944年12月8日

ホン[バラック]8号棟明け渡しのため、警視たちに教えていたマレー語の講義が停止になった。私は今1週間に午後2回ティール、スカーパー、ハイネルと共にフィスマン報告書<sup>33</sup>に関

---

<sup>33</sup> フィスマン報告書は、1941年蘭印政庁の要請による作成された。この報告書には植民政策の国内法改革が提議された。

する講座があるだけだ。…中略… 講演会もここでは非常に少なくなっている。ヤップはもう何度も集会を分散させた。我々政府官僚の集会も中止。大部分が上司（ベック理事官など、彼は怖がっている）のサボタージュだが、ここ収容所での一般的な知的興味の薄れも影響している。

ボス

1944年12月9日

マースマン（ブラスタギーの寄宿学校）による講演会：「学校教育」について。

クラウト

1944年12月10日

今晩は2つの礼拝、1つはスミット牧師によるもの、もう1つは宣教師ライクフックによる礼拝だった。冗談好きはライクフックの礼拝に「改革派」とつけた。これはこの礼拝の意図ではなかった。スミット牧師が説教する時だけは、ザイルストラによれば神とキリストを否定するので、誰かもう一人彼のとなりで説教するそう。

ゴッキンガ

1944年12月10日

たくさんの礼拝、オランダ改革派、プロテスタント、ローマ・カトリックなどなど。競争が激しいことだ。

ゴッキンガ

1944年12月11日

学校はある程度の規模で一部のクラスのみまた始った、芝生の上だ。しかしスンガイ・センコル収容所とベラワン収容所は違いがあるためまだ別々にしている。



ドライバース

1944年12月12日

昨晚マレー語の講義を再開。

クラウト

1944年12月21日

ファン・гентがアードリアンに関して私に、「君を喜ばせるつもりではないが、正直に言うと、君はしっかりした、開放的で、礼儀正しい、人の目を真っ直ぐ見る息子を持っている。奥さんのおかげだよ」と言った。確かにそうだ。この息子は私が見なかった間にすっかり良い性格になった。

ゴッキンガ

1944年12月23日

スカートゥは午後雑役。私は午前中野菜雑役。明日二人とも非番になり、君のおいしいうずら豆を味わうのに費やしたい。我々はすでに1回の食事分を水に浸けている。クリスマスの日あまり都合よくない。我々は非番ではないし、その上スカートゥは夜に上演がある。このキリスト降誕劇に若者たちは今、野外劇場を建てている。…中略…すばらしい夜だった。3度外に出て7時（我々の時間で4時半）に起き、パイプ煙草を吸った。ああなんてすばらしい夜、夕陽が見事で夜も同様、そして息もつけないほどの日の出。これは新しい時間割の利点である。…中略…降誕劇はクリスマス第一夜がホン[バラック]5号、6号、7号、8号棟の住人のため、第二夜がホン1号、2号、3号、4号、9号棟の住人のためである。

クラウト

1944年12月24日

昨晚9時に行われるはずの降誕劇は、まだクリスマスではなかったのでヤップの許可がでなかった。

ゴッキング

1944年12月24日

今晚12時ローマ・カトリックのクリスマス祭。午後9時はマースマンによるクリスマス放送劇（雨が降らなければ？）。カリの水位が非常に上昇している。…中略… 放送劇は、夜驟雨になったため中止。泥の海だ。クリスマスイブの夜は午後9時頃君からもらったうずら豆で美味しい一皿の夕食、すばらしかった、キャンドルを燈した。真夜中の12時再度ローマ・カトリック祭に行ってきた。とても素晴らしかった。ブラスタギーのデ・ウォルフ神父が午前1時まで雨の中、水泳小屋でミサを行った。スカリラたちが見物にやってきた。この夜11番目の収容所仲間が死亡、老紳士のカハイ氏である。

メンデス

1944年12月24日

野外で上演されるはずだった降誕劇は天気が悪かったため中止になり、また水泳小屋での深夜ミサも悪天候と場所が悪条件で様々な人が倒れたため、わずかしかなかった。

クラウト

1944年12月25日

これを家族と共に祝える事を願っていた。今は来年に目をむけるのみ。昨晩は雨、今朝も同じく雨。12時に深夜ミサ。今朝は聖歌隊がまだ暗いうちから歌った。…中略… クリスマス放送劇は夜8時半から開始した。とても良かった、衣装も素晴らしかった。

ボス

1944年12月25日

クリスマスの夜に合唱：今朝7時15分暗闇の中、収容所3ヶ所で「きよしこの夜」と「O Kindeke klein（イエス、か弱き子）」。これは愛する人たちみんなとの別離中での最大の悲しみとして感じる。このひどい泥の海で抑留している1944年クリスマス。私はこのクリスマスには解放されるはずだと—どんな理由があったのか？理由もなく？—確信していたのだ。…中略… 9時：クリスマス降誕劇「聖夜はなにより美しい」の上演。トイチャー牧師が唱える詩による素人劇（昔の世俗的な演劇方法）。マースマン指導の下に25名の役者およびトイチャー

指導の下の4重唱（私は第1バス）。ヘンドリックスがサロン、カーテン、敷布、布地などの衣装担当。お見事！聖歌隊が歌ったのは、1.Immanuel(イマニュエル) 2.Het daghet in het Oosten(東方より日が昇る) 3.Stille nacht(きよしこの夜) 4.Ere zij God(たたえよ神を) 5.Hoe zal ik U ontvangen?(いかに主を迎えよう) 6.O,Kindeke klein(イエス、か弱き子) 7.Daar is uit's werelds duist're wolken(暗闇の世界から光りが)。夜がすばらしい効果をかもしだした。

ゴッキング

1944年12月25日

戦時中4度目、収容所で3度目のクリスマスだ。雨模様の薄暗い日で、すべてがぬかるみ湿っている。午後3時、カハイ氏の葬儀。昨日は、午後5時にダイクストラ公証人を埋葬した。合計現在11名が死亡している。おじさんはまだ我々にクリスマスの祝辞をしていない。変だ。今晚、我々はサンテン[ココナッツミルク]入りのご飯少し余分に食べた、このために砂糖をいくらか残しておいた。ああ、なんというクリスマスのお祝い。デ・ウォルフ神父によれば、ベツレヘムの馬小屋よりも貧しく不潔だとのこと。ラベレットはマラリアだった。今、彼は息子と彼の持ってきた鶏を食べている。今朝午前7時、ホン[バラック]の前でまた「きよしこの夜」を合唱、1年前のスンガイ・センコルと同じ合唱隊だ。ぬかるみと雨にもかかわらずすばらしい響き。…中略… クリスマス降誕劇は大成功、スカートゥは羊飼いを演じた。すべてはマースマン指導の下、音楽と聖歌隊はトイチャー牧師。舞台は土を盛り上げ、2つの石油ランプで照らされ、プロンプターは地面の穴に入った。去年のセンコルより上手くなったと思った。終了後すぐにまた雨。

メンデス

1944年12月25日

クリスマスだ！素晴らしい思い出がたくさんある日。今回は雨のためきわめて絶望的。朝早く聖歌隊がホン[バラック]に沿って、それ自体がある程度宗教的な雰囲気をかもしだすクリスマスソングを歌った。我々病人のためには点呼のあとホスピタルの治療室で聖ミサがあり、深夜ミサに参加できなかった我々にとって慰めになった。…中略… 病人がキリスト降誕劇に参加できなかったため、病棟ホン[病棟バラック]でレコードプレーヤーの音楽とスミット牧師によるクリスマスの説教があった。

ボス

1944年12月26日

私の指揮下、ルーベルスさんがエンターテイナーとして寸劇ショーの夜。ヤップからのピアノとチューバ。劇は7時半から10時半まで野外で行われた。大勢の観客で成功をおさめた（約1000人の見物人）。日本人とその知り合いもずっと劇を見物していた。彼らは我々の椅子に座り、我々のマグカップから飲んだ。

ゴッキンガ

1944年12月26日

夜寸劇ショーがあった、大成功。ヤップもみんな参加、加えてピアノが我々にこの夜のために貸し出された。…中略… また一度ピアノを聞くのはすばらしかった。我々の休暇の際に行ったオランダ蒸気汽船会社の聖アルデゴンデマーニックス号管弦楽団のライフ氏が、船に乗った時のようにハンガリア狂詩曲を演奏した。思い出がよみがえる、素晴らしい。我々はヤップから誰も吹き鳴らすことの出来ない管楽器ももらった。

クラウト

1944年12月26日

ヤップはクリスマスにラメ・ラメ[お祭り騒ぎ]を欲した。だから寸劇ショーの夕べ。エンターテイナーのルーベルスがかなり奇妙な言葉を使った。サーベルの歌は10代の若者たちには適当でないと私は思った。やはり考慮すべきだと思う。

クラウト

1944年12月27日

我々のホン[バラック]3号棟のためにワーヘナーがクリスマスのお祝いを企画した。彼の傍の4つの寝台がシートでおおわれ、その上に赤い花輪などをおく。とても良い。詩を交えながらレコードプレーヤーでの音楽。フェッターによる詩の朗読（フェリックス・ティメルマンの劇より）は長すぎた。

ゴッキング

1944年12月28日

バラック8号棟でマースマンが220名の少年たちのためにキャンドルと歌、そして1杯のお茶でクリスマスのお祝いをした。本当に印象深く素晴らしかった、ことに極めて簡素であったことによって。

クラウト

1944年12月29日

私の息子は結構楽しんでいる。毎朝彼は1時間から1時間半ガブレック[乾燥キャッサバ]を割る必要がある。食欲があり、プラウ・ブラヤンにいた時よりも美味しく、たくさん食べている。私は彼に基礎からチェスを教えるのに忙しいし、また我々と一緒に毎日スマースヤッセンというトランプゲームをしている。

ゴッキング

1944年12月31日

通達：カトリックミサは午前8時10分、カーレルセ牧師によるプロテスタント礼拝午後7時、明日午後7時はオランダ改革派の礼拝。…中略… 大晦日を祝って、今朝はこの日のために苦勞して保存しておいた角砂糖数個が入ったお茶。これはかなりのお祝いでとてもおいしかった。なんとわずかなもので我々は満足することか。…中略… 午後は数年来最悪の昼食：トウモロコシと野菜、他にはなし、魚は少なすぎる。全てのホン[バラック]で夕食は米（いくらか多め）、サンバル、エビ、野菜のタレと自前のイカン・テリ[塩干しの小魚]。夜は寝床の上で自前の米とイワシの缶詰の晩飯。敷物としてのタオルを掛けた腰掛けの上に燈したキャンドル、こうして1945年を迎える。…中略…

我々二人の食事のイワシは、少なくとも4年経ったものだが（そのため味気があまりなく乾燥気味である）とてもおいしかった。一人120gずつ、4匹をキャンドルの灯りの下で楽しんだ。起きたままで1945年を、君たちを心に思い浮かべながらお互いに祝った。少年たちは朝早い時間まで音楽を奏でていた。…中略… この祝いのために、私は白い靴下、白い長ズボン、絹のワイシャツを身につけた。私が白い衣装を身に付けたのは、もう4年以上も前のはなしだ。しかし気持ちのいいものだ。

クラウト

1944年12月31日

我々のホン[バラック]のプログラムはとてもよかった。22時から24時までハーモニカ音楽、レコードプレーヤー、詩、ウィニクによる構成のトーマスファーとピーターネルの演劇、ファン・デル・ボームとワーヘナーの朗読だった。時計が24時をうったときにレコードプレーヤーから国歌ウィルヘルムスが鳴り響く。大勢と握手し、今年こそ解放にあずかることだろうと新年の希望を話し合った。アードリアンも寝ずに起きて楽しんでいて、私の心がコーやアーリ、そして本国の家族にあるのは言うまでもない。こうしてまた一年が終わる。

ゴッキンガ

1945年1月1日

スカートゥは午後寸劇ショーの稽古。ショーは大成功で、スカートゥはゲルダーマンの息子と「安上がり旅行」という劇を演じた。ワップ神父はエンターテイナーとして登場。ポロンポロンと楽しい鐘での冗談などなど。若者も哀れな人たちも喜びの叫び声をあげる。子供たちの声などすべて楽しい。

メンデス

1945年1月1日

大晦日はスミット牧師の説教があった。すこし宗教的雰囲気をかもしだすために赤いキャンドルが燈されていた。その他、歌と音楽が少し。いつもの時間に眠りにつく。私はかつての幸福な時代のお祝いを瞑想した。

クラウト

1945年1月2日

今日はアードリアンと掛け算と綴り方の練習―書き取り―をした。国語は、すでに彼はもっと先にすすんでいたが、まず最初の練習問題から始めた。終わってから彼は、僅かしかおぼえていないと言って泣いた。彼は基礎的な説明に関しては、私を本当の教師のように思っている。ラヴァレットは私に教師としての教育を受けたのかと尋ねた。私はアードリアンに励

ますように話しかけた。彼はとても熱心、粗野だが非常に意欲がある。誇りにおもっている。猿のように皿を持って階段を登ったり下りたりする。

ゴッキング

1945年1月6日

ドゥン氏の素晴らしい講演「合衆国1万5000マイル自動車旅行」を聞いた。非常に興味深い。夜は寝床の中で、スカートゥと長時間職業のことなどを話し合った。

ゴッキング

1945年1月8日

スカートゥが初めて英語の本、ジョン・ブチャンの「39 Steps(39階)」を読んでいる。彼はとてもスリルがあると思っている。また実に面白い。

クラウト

1945年1月9日

講演会、講座、礼拝は、ここでは訪問者がわずかしかない。

ゴッキング

1945年1月13日

私はスカートゥに今素晴らしい本「Het boek voor de jeugd(青少年のための書物)」から、君がサバンでも読んで聞かせたように読んでいる。当時サバンの部屋で、犬がベットの上にて、そして君が真ん中において読んで聞かせているのが我々に見えるようだ。子供たちはどんなに楽しんだことか。

ボス

1945年1月15日

8号棟の全少年たちのため、ピアノで2度目の歌の夕べがあった。これは約600人の少年たちにとって再度のお祭りだ！

クラウト

1945年1月15日

今日は私の愛する妻の誕生日だ。我々が別れて祝うこれはすでに3度目の誕生日だ。君、頭の中で激しい接吻を送る。我々が収容所で祝うことになる最後の誕生日だと心底願っている。病気にならないでお互い健康なままで再会し、以前よりもより良きものをあたらしく築き上げることができるよう願う。アードリアンが私に最初にママの誕生日を祝ってくれた。お祝いの献立：250gのカチャン・イジョ[小粒のグリーンピース]、グラ・バタック[ヤシ砂糖]、サンテン[ココナッツミルク]と4分の3のココヤシだ。朝調理した際に、我々はこれを続けて食べてしまった。常になく美味かった。妻よ、私はなんと君に会いたいし、終戦を待ち望んでいることか。

クラウト

1945年1月16日

今朝はアードリアンとパーセント、仕入れと売り上げ、利益と損失の問題を扱った。彼は、このような数字も習ったはずだったが、ほとんど理解していない。暗算に関しては修道女たちのところで練習しなかったようだ。出来が悪かったので彼は泣いた。

ゴッキンガ

1945年1月21日

日曜のため雑役なし。収容所でも日曜日は普段と異なる雰囲気だ。いたるところバラックで誰もがそれぞれの礼拝をしている。競争相手には不足していない。



クラウト

1945年1月21日

本日は4つのプロテスタントの礼拝。ノイマン宣教師の朝の礼拝、マースマンによる青少年のための礼拝、スミット牧師の夜の礼拝、ザイルストラ牧師のオランダ改革派の礼拝。

ゴッキング

1945年1月27日

ファーレキャンプの講演会の題名：二番目の奇跡の子。昨日はスミット牧師、我々の礼拝は今の共存状況に適しているだろうか？について。ローデ・ピンパーネルの最後の冒険を読む。

ゴッキング

1945年1月28日

子供たちはなんと授業に遅れをとることだろう。私には全く思いもよらないことだ。いかに遅れを取り戻せばいいのか？…中略… ホン[バラック]8号棟のある少年は一晩中「ママのところに行きたい、パパとママの傍で寝たい」とうわごとを言って泣き叫んでいる。骨身にしみみる。彼は監視の目を盗んで、泣きながら炊事場に行き、そこで寝そべり父母を思い泣いていた。

ゴッキング

1945年1月29日

マースマンによる15歳以上の少年たちへの歴史に関する講演会。

クラウト

1945年1月31日

今日はベアトリクス王女の誕生日。…中略… アードリアンは食事中にスプーンをくまなくなめまわす習慣があった。私は彼にこの不潔な食事の作法を禁じた。彼は何度も繰り返す。昨夜私はとてもこのことに腹を立て、彼は泣き出した。我々はまたおいしいナシ・ゴーレン

を作った。我々のホン[バラック]のために、ワーヘナーがベアトリクス王女の夕べを口実にした。あらゆる地域から特産物がスライドの上に映し出された。その絵から話しになり、そして話しの後は誰かの歌。この夕べは大成功だった。

ゴッキング

1945年2月1日

P.G.ウッドハウスの「ジーズ」を読む。収容所においてさえ笑ってしまう。長い間忘れていたことだ。なんと我々は気難しくなっていることだろう。

ゴッキング

1945年2月4日

我々のホン[バラック]9号棟でなされたベアトリクス王女の夕べは、我々の寝床のすぐ前での劇だった、かなりの成功だった。…中略… 収容所のあちこちで礼拝が行われている。そして我々の配給に関する最近のニュースを聞いた後では、誰が勝つのだろう、そして神様はどの相手に恵みを与えるのだろうか？神様がすべての宗派の味方であることを願う。

クラウト

1945年2月6日

月曜日、私はアードリアンに10番目の計算帳に関する試験をした。計算問題80問のうち11問半の間違い。8点を獲得。

ゴッキング

1945年2月6日

エンピツと紙をもって一日でかけた。好ましい気晴らしになる。

クラウド

1945年2月7日

難解な33語のうち、アードリアンは3つ間違っただけなので、とても優秀だ。彼は私の欲している勉強方法を理解しはじめている。彼は非常に意欲があり、熱心で、私はとても助かっている。

ゴッキング

1945年2月10日

図書館の本は次第に触るのも不潔になっている。大きな感染源だと私は思う。…中略… コックソンの父親が野外で英会話の講習をしている。

ゴッキング

1945年2月10日

スカートゥと従順さ、感謝の気持ち、礼儀正しさ、母性などについて長いこと話し合った。この中からどれくらい心に残るか興味深い。

クラウド

1945年2月14日

外でアードリアンといくつかの形容詞と副詞の文章の問題を扱った。彼は語学の本の文章の中ではよく分っているのに、とんでもない間違いで答えた。彼はもちろんひどいことだと思い、泣きはじめ「パパ、ぼくの頭は上手く働かないんだ」という。私は彼を慰め「プラウ・ブラヤンで習わなかったのかい」と尋ねた。「習ったよ、でも泣かないようにする。」といった。私は「いい子だ、君がママに話していたら、彼女も君を助けることが出来たのに」といった。彼は「話していない」といった。この子はとても意欲があり、活発だが、たびたび粗野になる。このことに関しては、私は彼をたびたび叱ってやる必要がある。

ゴッキング

1945年2月14日

雑役をしているか便所にいるか水浴している以外は、我々是一日中寢床に寝そべっている。食事も寢床の上。居心地良いことだ。我々はメッカ<sup>34</sup>に向かうハジ[イスラムの巡礼者]のようだ。

ゴッキング

1945年2月21日

スミット牧師の人生の意義についての講演会。

クラウト

1945年2月22日

アードリアンは肉体的にも精神的にも最高潮である。ことわざに「可愛い子には頭をはれ」とあるように時々は叱ったりする。私がこの子をととても愛していることを、彼はひんぱんにたくさんの食べ物を得ることも分っているはずだ。

クラウト

1945年2月23日

アードリアンのためにコックから借りた本：「オランダ横断」。カミル・シュッターザーによる初等教育の地理の読本、ハーレム市スパーネスタッド出版。「蘭印（への旅）」地理の読本でホフマン・ハウワー14版。0.75ギルダー、ハードカバーではない本。フローニンゲン市ウォルターズ出版。

---

<sup>34</sup> メッカ巡礼の旅費を出来るだけ低額に抑えるため、印人の巡礼者たちはアラビアへ向かう船にぎゅう詰めになって乗る。

ゴッキングガ

1945年2月23日

我々のホン[バラック]9号棟のバスナードによる講演会。シャドンからブリッジを借りて、スカートゥとゲームをする。

ゴッキングガ

1945年2月24日

スカートゥは夜ゲルダーマンのところによく行く、そしてホン[バラック]8号棟でのベラミーの朗読を聞く。通達：点呼の後、少年と年配者の礼拝、H.ザイルストラのプロテスタントの礼拝。朝食後はスミット牧師の青少年礼拝、午後7時はノイマン牧師のプロテスタントの礼拝。

クラウト

1945年2月24日

アードリアンは今日から毎日3時から4時半までザイルストラ（W.L.Oの警視）から語学と算数の講義を受ける。

ゴッキングガ

1945年2月26日

夜明けと共にスカートゥが砂糖入りのお茶で私を驚かせ、おじさんがお祝いに朝食にきて（私の53回目の誕生日を祝って）、おいしいタバコ1束を持ってきてくれた。私は完全に禁煙しており、良質の紙巻タバコが手に入るまで、言いかえれば解放されるまで、喫煙はしたくなかった。…中略…誕生日を祝って、まだあるブラスタギーからのイワシの缶詰を開け、夜おかずなしのご飯に添えて食べた。訪問客であるおじさんと各自およそ2匹のイワシ、スカートゥは3匹、合計15オンス、すなわち450gである。なんとおいしく食べたことか。

ボス

1945年2月26日

本日、カーレルス牧師による教理問答と信仰宣言が始まり、私は教えを聞きに行く。

ゴッキング

1945年2月28日

ウィーゲルス牧師の講演会は、午後7時トーマス・ア・ケンピスの「キリストにならいて」である。水曜の夜が講演会に予定されている。

ゴッキング

1945年3月3日

主のお導きについての講演会。人々はうんざりしている、人々は食べ物と解放を望んでいるのだ。

クラウト

1945年3月7日

時折私はアードリアンの知識に関して首をかしげる。今朝は単数名詞の「罰金支払命令」を「罰金支払命名」とか、その他いろいろ間違って書いた。フランス語は私が「話す」で熱心に動詞の変化を教えたにもかかわらずいろいろ間違っただ動詞を使う。…中略… 今晩はおいしいナシ・ゴーレンを食べた。アードリアンは「パパ、こんなことはしないで、僕はごほうびにあずかれないよ」といった。彼は自分の愚かな間違いを恥じ、また泣いている。私はゆっくりといろいろ彼に教えつづけていく。私自身にも最初は容易でないことは分っている。とても熱心でいい子だし、すばやいのだが、時々急ぎ過ぎて間違いをおこす。間違って読み、足をける、寝台の上に置いた石筆の上に倒れる、などなど。私は彼に些細なことにも頭を使えと言いつづけている。今日の午後彼はまた単語を間違っつて綴っていた。

ボス

1945年3月7日

スミット牧師の講演会：婚姻について。「識別：性的、精神的、社会的。肉体と精神が相互に満たされる。性的：肉体はその構造においてこの機能を与えられた。そのため普通必要とされるものである。精神的な接触はより困難なものである。社会的：子孫を繁栄させることである。一定期の避妊方法は（オギノークナウス式）はカトリックの考えに反するものである。がやはり同様である。愛情からの結婚は幸福の持続を保障するものではない。愛情はほんの一時的なもので消滅してゆく。「神への愛」のみが永遠に持続するものである。夫婦両者の神への愛（?）。この抑留時期の後で、夫婦の絆を回復させるよう適応するのは非常に困難である」。

ゴッキンガ

1945年3月10日

デ・フリース牧師が図書館に安置されている。私はスカートゥと一緒にいった。スカートゥが死対面する良い機会だと私は思った。彼はすべてを冷静に健全に解釈した。彼は死者がいかなる様相をしているのかを今回好ましい方法で学んだ。埋葬は午後5時である。二人の牧師の説教。哀れなデ・フリース牧師、彼はこれらの説教でいかに虐待されたことか。

ゴッキンガ

1945年3月13日

マースマンはまた学童を得ることに忙しい。スカートゥが自分で申し込んだ。

ボス

1945年3月17日

デ・フロート工学博士（マースマンコンサーンの鉱業エンジニア）による「西アフリカ、特にリベリアにおける旅行談」についての講演会があった。

ゴッキング

1945年3月22日

スカートゥが初めてマースマンの学校に行った。オランダ語、英語、仏語、数学、物理学を学ぶ。

クラウト

1945年3月25日

また日曜日。愛妻と次男と離れ離れの日曜日があとどれほど続くことだろうか？今朝8時15分から9時45分まで薪割りをした。人々は一方ではプロテスタントの「キリストが罪人を受け入れ」を聞き、25メートル先では神父が皆と「父なる主」を祈っている。…中略… アードリアンは肉挽き器のリングが食器を洗ったあとの汚水といっしょに流れる出るのを止める機会があったのに、私が「全部完璧かい？」と叫んだときにも「はい、パパ」と答えた。私は彼がまた頭を使わなかったので腹を立てた。それで私は頭を使えということについて話した。何度も繰り返すのだが、またやってしまう。気落ちする。また一皿のトウモロコシを報酬に、マイエリングにもう一つリングを作らせることになるだろう。

クラウト

1945年3月27日

本日アードリアンの12回目の誕生日。なんと大きくなったことか。コーにかわって彼に誕生日のキスをした。…中略… 今夜は誕生祝に100gのカチャン・イジョ[小粒のグリーンピース]とイカン・テリ[塩干しの小魚]で栄養のあるナシ・ゴーレンを作る。

ゴッキング

1945年3月30日

本日、水泳小屋で炒めたウビ[キャッサバ]と水で聖餐式があった。



ボス

1945年3月31日

即興の寸劇がホン[バラック]9号棟でズワルト、ハーン、ファン・デュルーテン、クールツなどの下、ピアノを交えてあった。愉快的な夜だった。

メンデス

1945年4月1日

復活祭の主日。抑留生活中二度目の復活祭である。幸い割に良い天気だった。今朝は3人の聖職者がトランク置場で壮厳ミサの儀式を行い、その後初めて臨時病棟が使用されることになった。新しく慰めを与える聖体拝領もあった。特にこれは最近では必要とするものである、なぜなら病人や死者の数をながめ、人々が生きる意欲を失いはじめ、また事実の報道はいつも失望させられるものだから。

ゴッキンガ

1945年4月5日

今夜、フェッター氏による「不動の星があるところ」の朗読、その横でカルムとヘンドリックスが「きよしこの夜」を歌った。

ゴッキンガ

1945年4月10日

アムステルダム家政学校のクナップ女史の、色付き写真入りで200種のレシピが書いてある本を読んだ。口の中から水のようによだれが流れる。

ボス

1945年4月18日

ワップ神父（タンジュンバライの中国人神父）の話は「蘭領東インドの中国問題」に関するもの。ご傾聴あり！

ボス

1945年4月22日

我々のところで、デ・フロート工学博士（マースマンコンサーン）による「ニューギニアの黄金探検」についての話がある。

クラウド

1945年4月25日

昨日の朝、アードリアンが雑役からナイフを失くしたと泣きながら帰って来た。出発前に私がベルトの間にはさむなと彼に警告していたのに。やっぱりこの年代の若者に似つかわしくやってしまったのだ。すでに何度も私は彼のやり方で下の方を破ってしまったため、蚊帳を引っ張るなど言っておいた。だが今朝やってしまった。私は時々これらの失敗を指摘するのにうんざりしている。彼は「パパには何でも見えるんだ」（私の嫌な性格だ）と言う。それもそうだ。私は彼を、社会において成功するよう、しっかりした聞き分けの良い子にしたいと思っている。だからこの年代に私が彼の面倒を見るのは喜ばしいことだと思っている。

クラウド

1945年4月26日

昨夜、我々は前方が大きな泥の海だった湯沸し小屋から出て来た。私はアードリアンに泥の中に行くなと警告したかったのだが、私は何も言わず彼を行かせた。この子は、タクレックス[木の履き物]をはいて跳躍し、すぐにすべってアングロと空の鍋を手を持ったまま転んだ。幸い身体には支障がなかった。この父親が「行っちゃだめだよ」と今回は言わなかったからだ。即座にこの結果である。それに私はすでに何度も、傷（石やガラスなどで）がつくから汚い足を道でこすり落とさないよう警告していた。しかしこれも彼は時々忘れてしまうのだ。私の蚊帳は、彼が朝解く際に色んな場所を引き裂いている。これも彼に警告したが、また今週彼自身の蚊帳を引っ張っている。これではまるで若い遊び好きなふざけた小犬のようだ。指ではもう食べ物はつかまなくなった。彼はその結果を向かいの隣人、両者とも赤痢になったステーンとケーテルに見出したのだ。彼らは自らの手で魚をつぶし、食べていた。現在アードリアンは「みてよ、パパ。あれが結末だよ」という。これは彼に少なくとも何らかの印象を与えたようだ。その他、彼は意欲のある子で、ほとんど一日中疲れもしないで働き詰めである。私は彼のためならなんでもするつもりだ。

ボス

1945年5月3日

この収容所で私もおぼろげながら神を信じるようになったが、私自身をクリスチャンと呼ぶとすれば、必ずしも敬虔なクリスチャンとはいえない。私は、クリスチャンとは何を信じているのかではなく、何を為しているのかだと思う。そして後者の問題に関しては嘆かわしい状態なのである。

ゴッキング

1945年5月4日

学校は、雑役、雨、不規則な食事時間などによってなくなった。不可能である。

クラウド

1945年5月7日

ヤップが児童書44冊を支給した。

クラウド

1945年5月7日

ノイマン（宣教師）は朝粥前の叙階はあまりに教育的だと思っている。彼は昨日かなり泥沼だったため行かなかった。いくらか前までトイチャー宣教師が朝の叙階を行っていた。彼が説教している途中で粥をつげる銅鑼が鳴った。ノイマン宣教師もソリンガーも精神的栄養よりも物質的栄養に魅力があるとして消え去って行く。これは信仰とはいえないと私は思う。

ボス

1945年5月16日

クロースターによる「オランダ文芸」についての講演会があった。

ゴッキングガ

1945年5月16日

スカートゥは炊事雑役のため学校にもう通わない。

クラウト

1945年5月16日

夕食時に私はアドリアンに217引く180はいくらかと尋ねた。彼は168と奇妙な数を答えた。私はこの愚かさを理解できず「将来どうなることか」と自問した。冷や汗ものだ。彼はものすごく泣いて、彼自身も分っているべきだったのにと思っていた。

ゴッキングガ

1945年5月20日

ああ、なんて夜は退屈でうんざりするものだろう。我々はもう8ヶ月も照明がなく、椅子もテーブルもなくマットレスの上だけで過ごしている。

クラウト

1945年5月20日

デルマールがアドリアンのためにとても軽い長椅子を作った。私はこれで彼を驚かせ、「誕生日だからだよ」と言った。彼は私の手を握りキスをした。やはりかわいい。

クラウト

1945年5月25日

本日私の41回目の誕生日。アドリアンは今朝握手とキスで祝ってくれた。このお祝いも家族に囲まれてはいない。来年の誕生日には愛妻と子供たちに囲まれて健康に祝えるよう希望を述べさせてほしい。愛するコー、君の夫から熱い接吻を送る。もう君と最後に会って以来3年が過ぎた。時はどこへいったのだろう。我々是一緒に余分に食べよう。今日の午後150

g のカチャン・イジョ[小粒のグリーンピース]と150g の米に炒めた魚。今晚はたくさんのナシ・ゴーレンだ。素晴らしい(ほぼ)満月を見ながら、我々は外に座っていた。

ボス

1945年5月29日

レコードプレーヤーのクラシックコンサート。リストとラフマニノフのピアノ協奏曲だ。

クラウド

1945年5月31日

叱責の後、昨日アドリアンは階段の上でしかめ面で立っていた。私は彼を呼び戻し厳しく叱った。昨日は粥を分ける時、少し静かにするよう命じた。その時も彼はこっそりしかめ面をした。私は素直でないごうまんな態度をきびしくしかりつけた、そして隠れてではなく私の目の前ですよう言いつけた。彼は理解し、もう二度としないと約束した。このようにずっとこの息子のことに携わっている。コーが将来優しい親切な子供を持てるようにしたいと思っているのだ。彼女にとって聞き分けの良いい子になる必要がある。その為にここで教育しているのだ。

ボス

1945年6月9日

一週間ピアノを練習した後、本日「Durf te leven!(勇気を持って生きる!)」の寸劇レビュー第6幕を上演。クロースターの歌と脚本だ。私のピアノとギターと伴奏だ。背景：1.アムステルダム、2.ロング・アイランド、3.モンマルトル、4.メキシコ、5.英国領インド、6.アフリカ。大成功だ。

クラウド

1945年6月9日

アーク・パミーンケ劇団の寸劇興行が8時45分にあった。アドリアンは私の椅子をもって前の方に行ったが、私は人が多くて見つけることが出来なかった。私は22時頃まで後方に立

っており、そのあとベットに行った。アードリアンとフランク（ファン・ゲント）は（夜）11時半に帰っていた。彼らはとても楽しんだ。これら収容所の上演は英国の歌が多すぎるのが難点だと私は思う。

ボス

1945年6月12日

スミット牧師指導下の自由主義的プロテスタント仲間。第1課題：「聖書は我々クリスチャンの信仰の基礎ではもうありえない」。天地創世の物語などを見よ。

ボス

1945年6月23日

寸劇ショーが我々のホン[バラック]の仲間同士でピアノの伴奏で行われた。

ゴッキンガ

1945年6月23日

スカートゥと私は非番、だからマームスの誕生日と一緒に祝った。ああ、我々が再び一緒に祝えるまでにどれほど時が経るのだろう。我々2人にとっての辛い日。マームス、君をとっても愛している。

メンデス

1945年6月24日

本日ファン・デル・モストがケルケース神父によって洗礼を受ける。彼は今なおローマ・カトリック教会に迎えられた。ファン・デル・モストから代父になるよう頼まれたが、出席できなかったのはとても残念だ。私は様々な期待をしていたのだ。今ピート・フッツが私の代わりに代父になった。

ボス

1945年6月25日

スミット牧師の仲間との2晩目：「ユダヤ教がキリスト教に及ぼした影響（例えば安息日の列聖式）」について。自由主義的プロテスタントは天国や地獄の存在を信じない。より良い人生の報いも信じない。

クラウド

1945年6月25日

アードリアンを完璧に性教育した。病気、オナニー、つまり完璧。

クラウド

1945年6月29日

ベルナード公の誕生日だったので、少年たちがプレーヤーで国歌ウィルヘルメスのレコードをかけていた。

ボス

1945年7月2日

自由主義的プロテスタント仲間の3晩目は「新約聖書の始まり」。福音書はキリスト紀元70年から75年くらいになってようやく書かれたものだ。構成：1.キリストが降臨したと思われる旧約聖書での場所のまとめ、2.イエス・キリストの言葉のリスト、3.憶えている出来事。既存の一番古い原文書、（紀元）235年の日付。だから複写に複写を重ねる。旧約聖書はヘブライ語で書かれ、新約聖書はギリシャ語だ。「神は新約聖書においてよりクリスチャンになった」。結論：旧約聖書、新約聖書両方とも我々の信仰のよりどころにはもはやなれない。それに代わり新しいものが現れた、すなわち精神である。我々の中に神がおり、我々は神の中にいる。一番重要なのはだから我々自身の中にあることなのだ。

ゴッキング

1945年7月3日

人々は新しい寸劇ショーに忙しかったが、これは状況が悪化したため収容所監督によって中止。毎日ヤップとの悲惨な状況に関しての問題があり、寸劇は現在適さないと人々は思っている。…中略… 収容所幹部からの通達。寸劇は中止、理由はマラリアの危険と病人の不安定な状況、そしてヤップに対する我々の立場。すなわち一方では緊急事態に苦情をいい、他方ではお祭りの夕べを持つということ。

クラウド

1945年7月3日

ここの状況が悪い限り、収容所での演劇ー及び寸劇ショーの興行はもうない。

ボス

1945年7月6日

ペニング（1941年6月よりシボルガのエスコンプト勤務）による仲間集会への話し：「ニュージーランドでの1940年の休暇」。素晴らしい国での面白い話しだった。

ボス

1945年7月9日

スミット牧師による夜の仲間集会4晩目：「キリストの姿」について。キリストの人となり  
に焦点が置かれる。引用はリチャード・ルエリン「How green was my valley」である。：「もしキリストが神のみであり、人でなければ、神が我々みんなに要求する務めは正当なものではなく、不可能な務めである」という。これはとても正当に表現している。

ボス

1945年7月10日

プロテスタントと改革派の祈祷会。牧師：カーレルセ牧師とザイルストラ氏。（戦争、平和、



病気、収容所の状況、今世界の危機) 感動的な出来事だ。特にザイルストラの「簡素と正直さ」はまた際立った。

ゴッキング

1945年7月11日

毎朝スカートゥといっしょにトマス・ア・ケンプスの「キリストにならいて」を読んでいる。ここで見つけられる唯一の精神的な書物である。熟考する素材を提供し、日々の生活態度の指針である。

ボス

1945年7月16日

自由主義的プロテスタントの5晩目：「続キリストの姿」。…中略…自由主義的プロテスタントは信仰12条に同意することはもはや出来ない。イエスはただの人間である。罪と我々が呼ぶのは、人が自分自身で悪を選ぶ場合のみ。不完全は罪でも悪でもない。人としてのイエス自身はうち勝った。

ボス

1945年7月19日

トランク置場兼病棟でレコードプレーヤーのコンサート。ドリーブのコペリアバレーとモーツァルトのロンド。別世界からの音色だ。以前よりより熱烈に音楽を楽しめる。取り返しが付かないほどリーシェ、君のことを考える。味覚に関しても、毎日の「収容所の味」と少し違っているだけで、以前にはなかったことを楽しむことが出来る。例えばいくらかのコンビーフや玉ねぎだけで！なんと美味いんだ。また読書でも以前に読んだ本の中の1節が今はかなり身にしみてくるのだ。だから真に楽しめる。これら他国のものを以前とは異なって感じられた。これらのものを昔も聞いていたし、試したし、読んだけれども今はより感動を持つ。だがこれは抑留生活で学んだことである。おそらくこれらの経験は何ヶ月か普通の生活に戻ればまた忘れてしまうのだろうか...否や？

ボス

1945年7月21日

我々の仲間内の講演会：ファン・デル・ザイル博士（インド学、リュクスマーウエの内政部コントロール）による「アジアにおける民族主義の発端」。

クラウト

1945年7月21日

今晚はクラシックのレコードコンサート。コックによってレコードが選ばれた。

ボス

1945年7月23日

スミット牧師による第6夜：「イエス人物像からキリスト教精神への進展。歴史的なイエスの人となりのことではなく、神の我々に対する影響、キリスト教精神に関すること。史的な資料はすべて精神生活の妨げになる。キリストと人間はお互いに精神によってのみ遭遇することができる。神の力、神の意志はキリスト教の精神である」。

ボス

1945年7月25日

キューベ病棟[付属病棟]でのコンサート：モーツアルトのフルートコンサート。グリーグのペール・ギュント組曲とビゼーのアルレシエンネ組曲。とても素晴らしい。

ゴッキンガ

1945年7月26日

ファン・デン・ベルフ医師は古いピアノで素晴らしいクラシック音楽を奏でた。

ゴッキング

1945年7月27日

スカートゥが裸足で貝を踏んで、今炎症を起こしている。すでに赤くなっている。どうなることか？これはものすごく頑固だったせいだ、何度も私は「靴をはけよ」といったのだ。彼らは常に人より物知りだ、ここでは嚴重な注意が必要だったのだ。…中略… スカートゥと宗教と性的な問題についてじっくり話した。私の意見が何か役に立てばいいと願っている。私の父あるいはだれかが一度もっと話してくれていたらと思う。

ボス

1945年7月30日

自由主義的プロテスタント7晩目の集会：「クリスチャンの精神」。神は人類なしでは存在しない。聖書ではクリスチャンの精神を「再生」と呼ぶ。倫理では人間の内面だという。神は全ての人間が同じだとは求めている。道徳はより幅広い社会の約束事で、一定の規則である。倫理は約束事ではない。倫理は信仰なしでは存在しない。

クラウト

1945年8月3日

現在アードリアンは週3回カイネから仏語のレッスンを受けている。

ボス

1945年8月3日

キューベ病棟[付属病棟]ですばらしいレコードコンサート。プログラムはワンダ・ランドフスカのピアノ演奏によるモーツァルトの交響曲第40番と戴冠式協奏曲。

ボス

1945年8月4日

我々のホン[バラック]9号棟でコザック氏（パタビア新聞と国際ニュースサービスの報道記

者)の「戦時中東インド北部での私の体験」という講演会があった。…中略…我々の戦略の失敗の一つ：我々東インドのオランダ人は、例えば原住民に対する全体主義的な戦争は行なわなかった。ヤップのはまさにそうである！

ボス

1945年8月5日

我々炊事係が要請したルーベルス氏(キサランHAPMの会計課長)の「ニューデール」に関する講演会は大成功だった。…中略…的確で明快な講演だった。

ゴッキング

1945年8月5日

イレーネ王女の誕生日のお祝いに大炊事場は特別なものをださないが、特別食用炊事場は実に柔らかい米とウビのピューレ(キャッサバピューレ)、魚のスープ(エイ)、野菜、タレ、パパイヤの砂糖煮と6種の献立である。…中略…イレーネ王女の誕生日を祝して我々は寝台の上に一種のテーブルを作った。タオルをかけてセンジュギクをかざった。スカートゥの不意打ちである、楽しい。スカートゥは最近すこし粗野になり非常に忘れっぽくなっている。イレーネ王女のお祝いから彼は改善するよう努力すると約束した。わたしはだからもう意見や文句はいわないことにしよう。

クラウト

1945年8月5日

本日はイレーネ王女の誕生日。少年たちは、自国オランダが今実際に解放されたと実感しながら、レコードをダブルカプレットで奏でる。私は国歌に深く感激した。

ゴッキング

1945年8月7日

夜10時にデ・フリーズの星についての講演会。素晴らしかった。星空は明るく澄んでいた。

ボス

1945年8月10日

スミット牧師自らの要請で行われた小人数での仲間集会は「死後とこれに関する自由主義的プロテスタントの考え」について。地獄は存在しない。地獄という言葉はギリシャ語から次第に間違って翻訳されたもので、これは「黄泉の国」とするべきだ。地上にある我々の魂の状況という意味で地獄は存在する。

ボス

1945年8月18日

キューベ病棟[付属病棟]でフェッター氏（パダン・シデンパンの判事）による朗読。フォン・ビレブルッフの「Het Hexenlied(魔女の詩)」でフランソワ・パウエルスによる訳。レコード音楽を背景音楽として。一言で言えば、完璧。

ボス

1945年8月19日

本日は、ウイント氏（森林監督官）による「遺伝」について我々の仲間の講演会がある。

## 性意識

ボス

1944年10月25日

リーシェ、ぼくは昨夜君の夢を見た。ホテルと一緒に泊まっていた。ぼくたちはトウモロコシ汁で入れたコーヒーを飲んだ。とても激しく、情熱的になり、抱擁したところで終わった。

クラウト

1945年5月25日

コーパーベルフ医師は毎晩、我々のところでお茶を飲みに来る。我々はしばしば話をして彼を引きとめるのである。昨晚、私は彼とオギノ・クナウス式周期避妊法について話した。彼はこれを信用していない。これは失敗することがよくある。彼は、女性が完全に無害で純粋な薬剤「インエンテン（ワクチン）」体内に注入することを薦めている。プロギオン錠剤は心理的にのみ作用する。それでも本当に失敗してしまったら、これもそれ以上効果ないが、卵を離散させる無害なオバットウ〔薬品〕での注入が効果ある。彼は多数いる他の医師とは反対に、この分野では博識だ。しかし、3ヶ月目になったらもう干渉してはならない。

クラウト

1945年5月26日

私は女性において同性愛者がどういう状態にあるかコーパーベルフに尋ねた。男性におけるよりもすさまじかった。

クラウト

1945年6月13日

スレッテナー医師が行った戦後の結婚生活に関する講演がきっかけとなり、昨晚はコーパーベルフ医師（皮膚科と性病科の専門医）と妊娠、インポテンス、オナニー、避妊薬などいろいろと大変興味深い話をした。スレッテナー医師は要するに、男性と女性はかなり長い間イ

ンポテンスになりえると信じているのである。コーパーブルフ医師はこれに異議を唱えており、私も信じていない。人間はインポテンスに対してすぐに恐怖感を抱くと彼は言った。家に帰ると妻がそっとしておいてくれないと、ある航海士が以前彼を訪れた。この男は8回も立て続けにあれをし、その8回目のあとに営むことができなくなってしまった時、インポテンスになるのではないかと思い、恐怖心を抱いたのあった。

ボス

1945年7月28日

「仲間グループ13」用の「船内調理室」での講演会：ファン・ランケーレン医師（リマ・ブルー病院の婦人科・外科医）、「ホルモン」について。戦後にすぐ妊娠する可能性についての質問には、「長期にわたって生理が全くない場合には、生理が再び始まらない限り、一出産を希望しない時には ーペッサリーを使用する必要はない」

ゴッキンガ

1945年8月19日

リーゼンベルク医師は、女性と男性に備わる全ての性機能が失われた場合、または支障がある場合には、適切な栄養摂取で速やかに正常になると言った。実際は、これがない方が都合がいいのだ。なぜなら、収容所では厄介なことになるからだ。このことはまた、殴り合いや同性愛がとても少ないという理由なのだ。加えて、おとなしくなり、平静を保させる適当な無感情さが存在するのだ。さらに、栄養不良は収容所にいることにおいては利点となり、そのため、交友関係も小規模である。現在とは異なる普通の生活では伝染病が無数に発生することになるから。ここではマラリアと赤痢だけだが、それだけでも大変なことだ。しかしながら、これは一層大変な状況になるであろう。…中略… リーゼンベルク医師は、このままでは思春期も訪れないし、さらに、成長や全てのことが遅れるけれど、優良な栄養摂取により自動的に回復すると言った。

## 「終戦後」の生活への想い / 収容所内の雰囲気

ゴッキング

1944年10月10日

皆それぞれに、今度の収容所に早やばやとなじんでいくことは注目すべきだ。根性、まだ在りし。

ゴッキング

1944年10月19日

ものすごい混乱と汚れ。収容所内の雰囲気はかなり沈んでいる。

メンデス

1944年10月22日

外部とは完全に遮断され、新しい情報や家族から連絡がないことはいつも一番つらいことだ。特に、雨が降り、夜、外で蚊に刺されたり、暗やみのホン〔バラック〕でどうにか過ごしていくより仕方がない事にあっては絶望的。

クラウト

1944年10月22日

コーと子供たちは元気になっているかな。物心両面で良くあることを願う。いつこの悲惨さに終わりが来るのだろうか。ナイメーヘンやアーネムにいる家族の皆はどうだろうか。愚痴をこぼすのはやめよう。我々よりもっと悪い状況に置かされてている者もいるのだから。

ゴッキング

1944年10月23日

昨夜、君のことを夢に見た。けんかをして泣けてきたのだ。こんなこと初めてだった。



ゴッキング

1944年10月26日

心配だ。私を知る君はこの気持ちを理解できよう。なぜにこんな悲惨な想いを。全人にいたる受難だ。むごい、吐き気がする。あとどれだけこんな状態が、そしてその次は一体何が？ 事態は明るくない。

ゴッキング

1944年10月26日

現状では、この日記を書き続けることが困難であるが、今後のことを配慮して続行するつもりだ。君たちが向こう<sup>35</sup>で無事なことを願う。君たちがなつかしい。心底いとおしく思う。君がいない生活は何とむなしいことか。

ボス

1944年10月31日

その新聞記事により雰囲気は良好だ。…中略… 収容所での私個人の感情：不満足、いらだち、不安、そして決して相容れない感情、果てしなき切望感。ホームシックか？ まさに、そうなのだと思う。

ゴッキング

1944年11月1日

この状態をあとどれだけ持ち堪えられるだろうか。神様、お助け下さい。最後まであきらめるな。でもいつが最後なのか。それに何人の人、そして誰が救いを待ち得るのだろうか。無性に愛する君とミースのそばにいたい気持ちがする。愛する私の二人の女性たちよ。ああ、あとどれだけ続くのか？

---

<sup>35</sup> 彼の妻と子供たちはここの上手にあるブラスタギー収容所に抑留されていた。

クラウド

1944年11月9日

コーと子供たちは元気だろうか？いつになったら再会できるのだろうか？早いことを願う。この枕を使うのを止めた。枕を先週に強い日差しに置いてあったのだけど、またまた縫い目に南京虫がいた。この中には愛する妻の手紙が入っているのだ。再び、これを読み直した。この手紙があってよかった。

クラウド

1944年11月12日

家族がとてものつかしい。これを想うとき度々、胸がいっぱいになるほど非常にむずかしい気分におちいる。また一緒に暮らせることになった暁には、家族のために全力を尽くしたい。私の結婚生活でこれまでいろいろなことに間違いをしてきたことを実感し、確信している。子供たちには真なる父親でありたい。そして愛する妻とも新たな気持でやっていきたい。神様、どうか家族との再会が早急にできますように。

ゴッキング

1944年11月22日

11月23日と24日を何としても切り抜かねばならぬ困難な日<sup>36</sup>。…中略… めちゃくちゃだ。助けはまだか？ ああ、何と君たちがいとおいしいことか。再びみんな一緒になって暮らせることを想像できない時がある。ありそうもないことをいくら欲しても、それは、夢、空想で非現実なことに思える。もう一ヶ月半も何も目にしなかったし、耳にもしなかった。一台の自動車もだ。見聞きすることといえば、ヤッペンとスカリラが時たま収容所で発するどなり声やそのたぐいのものだけだ。我々は不潔で、汚らしく、シラミやほかの害虫の中に汚染されて暮らしている。人間が耐えられることにも限度がある。

---

<sup>36</sup> ゴッキングの娘ミースの誕生日であり、自らは、結婚記念日であったと思われる。

ゴッキング

1944年11月24日

ミースの誕生日から我々の結婚記念日にいたっては、夜に、非常に胸焼けしたのであまり快調に過ごせなかった。どしゃぶりの雨の中、ぬかるみを二回も踏み入れねばならなかったのだ。からだにたかった南京虫をいくつか捕まえたし、蚊帳には大きなかぶと虫かゴキブリのようなものがいた。ともかく、我々が結婚して19年目となったその日、11月24日をやっと迎えた。16年間もすばらしい日々を過ごして、このことが19年間続くこともありえたのだ。その16年にわたり、毎日毎日を快適に過ごしてこられた。やさしい君のおかげで、不快な口げんかは一度もなかった。すばらしい時を過ごした。近いうちにまた共に暮らせることを祈る。私の想いは一日中、君をめぐる。愛する君のそばに、君のやさしい顔立ちに接したいと無性に思う。この日が過ぎたら、心苦しい2日間も終わりとなる。

ゴッキング

1944年11月28日

ここは何とも地獄のような所で、本当にひどい。私はともかく冷静で勇気に満ちていることもあるが、もう長く続くはずはないだろう。あとどれだけ待たされるかは、神のみぞ知る。

ボス

1944年11月29日

ちょうど読み終わったウィリー・コルサリの本「港なき船」にとっても感動した。…中略… シモーネ・メールルフとローデ・デールスの愛の物語だ。弁護士の娘である良家の少女とごく普通の少年。初め、彼にとっては事実上達成不可能なものだった愛、その愛は「港なき船」となる。二人は今すぐにも彼らの船が港に入ることを望み…（リーシェ、ぼくたちみたいだね。いつぼくたちの船は入港するのかね）。彼らも第一次世界大戦で数年間離れ離れになってしまう。彼女の感情は、「彼がしばらく不在である間に、自分が抱く肉体の欲望による苦悩から彼も解放されるように自ら切望する」ほどになる。彼が出兵する以前にすでに二人は肉体関係にあった。再会すると彼らの間には何か変わってしまう。彼女は、「戦争さえ終われば、そしてまたいつまでも一緒にいられれば、全てが順調に運び、生活も自然な普通の状態になる。戦争は無傷の何かすばらしく、美しかったものを壊してしまった。戦争は大地震のごとく二人の世界を割りさいってしまったのだ」と考えた。「女性というものは感情的な人間である。女性は自分の心に従って生き、感情をはぐくんでいく。だから男と女はお互いを

理解しがたい。お互いに理解したいのならもっと男は女らしさ、女は男らしさを備えていなければならぬ」…中略… 彼女：「私たちはお互いにしたい合っていた。でも、何か事情が変わった。戦争が邪魔をし、…そして全てを壊わしてしまった」。リーシェ、ぼくたちはこんなに長く待たされて、このあと一体どうなるのだろうか？

クラウト

1944年11月30日

最愛なる妻よ。私たちが1945年になったらやっと解放され、再び、一緒になれると思っている君はたぶん正しいかもしれない。ぼくの楽観性はぼくを支えてくれたし、一方君の悲観性が君の気分に関々大きく影響した。ぼくはいつもまた何ヶ月かは何とかやっていかれるが、実際は8月に家に帰れるとは思っていたのだ。子供たちがとてもいとおしい。

ゴッキンガ

1944年12月3日

ぼくたちはよく君たちのことを話した。元気かね。聖ニコラスはあさってここに来るかな。みんなでよく聖ニコラス祭を楽しく過ごしたことが。そうだ「した」のだ。たくさん「した」し、一体これから何が起るのだろうか。何をもっと経験することになり、そして再び「した」こととなるのか？この暮らしはむごい。これはできるだけ早いうちに「した」方が、一層良いのだ。

メンデス

1944年12月5日

収容所の住人を観察してみると、秩序あるスマトラの欧州人社会を形成していた者たちとは考えつかない。我々はヤップにクーリー同然の扱いを受け、時には、家畜のように棒で追いやられるのだ。やらされる仕事は「クーリーもの」だが、我々の外見も衣服も普通のクーリーのものになってしまった。神父も医師も、誰もが上半身裸で歩いている。幾人かは布切れとしか言えないようなズボンをはいている。テクレック [木の履き物]、靴やスリッパで歩く者がいるかと思えば、裸足の者もいる。少数を除いては、全身の肉が大分おち、中には骨と皮ばかりになってしまった者がいる。

ドライバーズ

1944年12月8日

外面上の状況が悪影響を及ぼし、各人が無気力におちいつている。ここには快適さが何もなく、耐えられない状態だ。人間の住かと言うより、畜舎も同然。そして、妻や子供たちもこのようなあばら屋に移されてしまうかを心配し、恐ろしくなってしまう。そんな訳で全体の雰囲気も非常に陰気で、無関心、単調である。そして、近いうちにここにも幾らか変化が起ころうとは思われないのである。でなければ...、だがそれを見込んではないのだ。ただ、信じるだけだ。

メンデス

1944年12月8日

本日で太平洋戦争は3年目、もう救いが来てもいい時期だ。人々は新しいことが少しも起こらない時だけに、ますますひどい「収容所疲労症」になっていく。

ドライバー

1944年12月12日

雰囲気は一層不快になる。みんなが気まぐれで、おこりっぽくなる。そこで我々は皆早く床につくが、より長い間眠つけないので厄介だ。無関心は全ての面に表れる。何かに集中することが一層困難となる。気分がそれてしまう。皆同様に感じているが、我々は歯向かうために十分な活力を失ってしまっている。もしこの状態が長く続けば、非常に深刻な結果を生むことになると私は予測する。

ボス

1944年12月12日

ぼくは君を夢に見た。いとしきリーシェ、とてもはっきりと、そしてリアルに。ぼくが見るのが大好きな君の姿だった。しゃれたキャップつきの濃紺の長いコートを着て、あのお茶目な顔つきだ。頭から爪先までトップレディのそれだった... すばらしい思い出。このことがかなうのを望むのだ。すぐにも？ そう望んでる。

ボス

1944年12月14日

ああ、リーシェ。この別れが長ければ長いほど、君が一層欲しくなる。今だからこそ、以前よりも君はぼくのまじかにいる。ぼくが無性に抱き続けることは、以前のこと、共通の思い出だ。

ゴッキンガ

1944年12月14日

鳥がさえずる。リスが枝から枝へととびかう。カリでは魚がはねる。サルが木々を飛びつたわる。そして、我々は鉄条網の中にいるが、あとどれくらい？ 14日するとまたクリスマス、我々の3回目のだ。「清しこの夜」。3回目のクリスマス。やるせない。

ゴッキンガ

1944年12月23日

日々が幸いにも早く過ぎていく。また、もうすぐクリスマス。我々はスンガイ・センコルでクリスマスを祝い、「これが最後だろう」と言ったことが昨日のようだ。今度もこれをまた言うことになるだろう。おそらくそうだ。でも違うかもしれない。私の考えでは、もう少し時間がかかると思う。3月か4月には多分もっとわかるだろう。しかし、私は一緒になれるのは来年のクリスマスと見ている。

ドライバーズ

1944年12月25日

収容所内の雰囲気はあまり良くない。降り続くモンスーン期の雨がさらに悪影響を及ぼすのだ。

クラウド

1944年12月31日

本日は1944年の最後の日だ。何とこの日を愛する妻と子供たちとともにつろいで過ごしたかったことか。1944年には解放されると願っていたのに、実現しないのは残念だが明らかだ。我々は何とすばらしく前進してきたことか。それもますますそれに近づきつつある。1945年には我々がかねてから楽しみにして待っていたことが訪れるよう望もうではないか。妻がいつもとても美味しく揚げたオーリーボルなしで大晦日を過ごす。来年には、これを満喫できるよう願うのだ。ヤップは、1945年の1日、2日、3日は全員外に出てならないと言った。愛する妻からももらったスナップ写真があってとてもうれしい。これを見つめない日はない。

ゴッキング

1944年12月31日

ぼくは1941年にサバンでひとりでいたから、君なしで大晦日を祝うのはこれで4回目だ。自由で、食べ物も十分あったけど、避難キャンプのアタップテント [ヤシの葉でできたテント] 暮らしだった。要するに、4年以上もがらくたの中に生活している。既に4年も家を離れているのだ。何と時が経つのは早いことか。あとどれくらい？ 時々、絶望的になる。何も耳にしないし、何も目にしないし、皆目わからない。しばしば非常に困難な状態になる。…中略… 変な気がした。昨夜誰かがぼくに「心配するな。3月には全て終了するよ」とはっきりと言ったのだ。恐ろしくなるほどはっきりとだ。全く驚きだよ。…中略… 我々はこれまで何とか切り抜いてこれたし、健康でいられたのをうれしく思う。ありがたいことだ。想いはいつも君たちのことにはせた。3年にわたる想い。いつになったら実現するのだろうか？

ドライバース

1944年12月31日

気分が悪い。ますますうんざりしてくる。年が憂うつに暮れようとし、新年の見通しもあまり定かでないために、少しも希望の光を予期できない。君のことを何も知れないのが一番つらいことだ。全てをととも知りたい。でも我々は、ますます困難になってきているが頑張らねばならない。妻よ、来年に幸あれと心から願っている。我々がまた早く一緒になれるように。ぼくは君が四六時中ずっと必要なのだ。それができないのでますますつらくなる。

ボス

1944年12月31日

最高にみじめな夕べを過ごした。ミサが一回だけ。食べ物も飲み物もなし。まるでいただけない。途中で抜け出してしまった。

メンデス

1945年1月1日

様々な噂が流れているが、昨晚、聖ヨーゼフスクールから来たふたりの若者により、12月21日に50機の爆撃機がメダンの上空に飛来して、その爆音も聞こえたことが明らかとなった。このことは、いたる所に衰弱した人々がいて、ファン・デン・ベルフ医師もそれに大変悲観的であるだけに、人々を勇気づけたのである。これまでの結果から明らかとなったことは、ますます人々が利己的になり、病人に対する特別食を停止し、その分を雑役に従事することにより収容所を維持している健康な者へ与えるよう医師の同意を求める者さえいるのだ。  
(適者生存)

クラウト

1945年1月1日

収容所住人の気分は上々だ。やっぱり東インドは保有できないと聖ヨーゼフスクールから来たヤップが言ったそうだ。この種のニュースは収容所に再び良好な精神をもたらすのだ。

ボス

1945年1月1日

時として困難となるが、私は希望を失わない。リーシェ、いつになったらこの張り詰めた思いに終止符が打たれるのだろうか。君とぼくとの間でこの何年間にもわたり支配する緊張感。良く考えて見ると、私の精神は本来、自由になるべき瞬間から絶え間なく満たされていくのである。また、他の多くの人々も私と同様。これが（食べ物以外の）唯一の熱情であるとも言えるのだ。「いつになったら自由に」が、日に日に毎回繰り返されるテーマである。それはぼく自身もいつも考えていることだ。そのため心に抱く希望も実際には無限となる。早



急に自由が訪れますように。さもなければ、この長期にわたる慢性的な飢餓状態後にはさらに多くがなくなっていくだろう…

ゴッキング

1945年1月2日

我々から24メートル離れたホン [バラック] 8号棟では、昨夜幼い少年が、「ママ」か「マミー」であるにせよ、ママを慕っていた。こういうことは何んともいやな感じだ。あとでその子は感情的にすすり泣き、ホンで突如また感情的に笑い出していた。何か恐ろしくなるような不気味さと悲しさ。こんなふうにかくさんの子供たちが孤独な思いに陥っている。昨日、ある少年はフェルトマンに新年の挨拶をしたかとおもえば、そのあと突然大泣きしていた。彼は、父親を失ったのである。このように収容所の隅っこやひとりで泣いている子供たちを目にするのである。ママさんよ、子供たちは非常に苦しんでいるのだ。でも、幸い子供たちの甲高い笑い声や陽気さも響き渡り、勇気づけられるのだ。またビー玉やコマでの遊び、歓喜、けんかなどもたくさん見られる。

ボス

1945年1月5日

鉄条網に囲まれて千日目。リーシェ、昨夜、また君を夢に見た。君から手紙を受け取った夢をだ。本当に手紙が届けばいいのだが。

ゴッキング

1945年1月7日

ぼくはボスコープ出身の者とオランダの花々についてすばらしい会話を持った。我々は色彩、姿、香りを満喫したのだ。我々の婚約と婚姻の日の美しい菊の花を覚えているかい？ 豪華に飾られた花々、豊かな色彩、何とすばらしい日々だったことか。そのまま続けばよかったのに。ある意味においては人生は必要以上に早く過ぎてしまうが、ある意味ではもっと早く過ぎて欲しいと思う。人間は決して満足せず。

ゴッキングガ

1945年1月9日

ぼく自身そしてスカートゥもシラミ、不潔さ、入浴なし、食事のかわりに豚のエサにはうんざりしている。ぼくはしゃくにさわっている。…中略… ファン・ゲウンスは彼の本来の陽気さと楽天性を失った。彼は今日、悩みを打ち明けにきた。彼はとても気落ちしているが、何人かの者も同じなのだ。…中略… 早々に寢床につく。不快で、じめじめした暗い夕べだった。

ゴッキングガ

1945年1月12日

「ぼくはママとミースに再会する様子が想像できない」とスカートゥが今言った。ぼくも同じである。全てがはるか遠方であり、現実的でないように思われる。全てが夢のようだ。我々はかつて一緒に生活したことがあるのだろうか。我々は家族4人幸せであったか。我々はかつて人間として暮らしたのだろうか。食べ、飲み、笑い、愛と悩みを分かち合っただろうか。家具などを所有したが、居心地の良さ、家庭的な雰囲気、快適さ、医薬品、石けん、清潔なタオルは？ シーツがはられたベッドに寝たことは？ 裸の不潔な男たち以外に誰がいるのか？ 時々、君たちがぼくの想像のつかないほど、何と遠くの存在であり、目前にはっきりとイメージを呼び起こすことができなくて、君のことを考えない時もある。そんな自分がいやになる。でもほかの男たちももちろん同じ気持ちなのだ。君も同じような体験をしたことがあるかい？

ドライバース

1945年1月12日

今日は35歳の誕生日。ぼくは幸いにもウェスとヤンにコーヒーをごちそうできた。雰囲気はこのところあまり明るくない。ぼく自身も落ち込みがちになる。特に、たくさん思い出がある今日のような日にはあまり救われない。…中略… 疲れやすいので極力安静にしている。たくさん読書する。その他は大丈夫だ。君のことを思い続けている。

メンデス

1945年1月14日

外部の進展に関して何も聞かないし、一体あと何ヶ月だけか、それとも何年間も続くのかをも推測できない。人々の士気と同じ様に肉体も悪質な食事、重労働、そして娯楽がないため非常に弱ってきている。人々は将来の生活のために何事もできるだけしないで、神が与えてくださる一日を新たに取り組むことだけはした方がいいのである。

ゴッキンガ

1945年1月25日

あとどれだけか？ 時折、非常に困難となる。幸いにも、この一日もまた暮れようとしている。新たな24時間が近づく。ぼくは一日中君たちのことを思っている。スカートゥもぼくと同じだ。一時も君たちのことを思わない時は全くないのだよ。君たちのことばかりだ。…中略… 状況は耐え難く、特に少し深く考え込むとしばしば不安になる。だから、今はくよくよしないようにしなければならない。なぜなら、本当に狂ってしまい、全てが暗く、色あせて無意味に見えてくるのだ。とても美しかったものが失われ、壊れてしまう。

ゴッキンガ

1945年1月26日

若者は勉学に劣っているので、敵と人間性に対して憎悪、ねたみ、いきどおりをもって立ち向かう教育をせねばならず、兵士やその他の仕方で兵役につかせ、国にそのような若者の面倒を完全にみさせるべきと、収容所の誰かが言った。あまりキリスト教的でない。だが私はこの見解を幻滅、失望した者のためと理解している。

クラウト

1945年1月28日

最近、礼拝や講習への参加が少ない。人々はあきあきしており、終末を切望している。

ゴッキング

1945年1月31日

まったくうんざりだ。ただいらいらして、おこりっぽくて短気になる。まったくうんざりだ。

ゴッキング

1945年2月6日

昨晩は大分遅く床に就いた。スカートゥとともに12時に。暖かく美しい星空。ぼくたちは身を包み、蚊よけにココヤシの皮を燃やした。スカートゥが君と君のお星様について語った。星の輝きはぼくたちの君を求める気持ちを強めた。ものすごく。いとしさが奥深くひそみ、どれほど苦しめられることか。

メンデス

1945年2月9日

最近ほど飽き飽きしている気持ちはこれまで一度も持ったことがなかったと思えるくらいだ。つまり時がますます早く過ぎ、ただ待っているだけなのだ。何を？ 時として、この問いに答えるのはむずかしい。そして、解放や妻や子供たちとの再会を疑いはじめるのだ。一層老人も若者もたくさん病気になって、医薬品も今後手に入らなくなると分かるからなのだ。そういう訳で長く続けば続くほど死亡数は上昇するだろうと予想しざるをえなくなる。その時はただひざまずき、上の方に顔を向けることだけはキリスト教徒の義務なのだ。

クラウト

1945年2月11日

今週はどんな恐ろしいことがもたらされるだろうか。ぼくはまた日曜日の朝、家にくつろぎ、家族とともに縁側に座り、おいしいコーヒーを楽しんでいる姿を見ている。平凡な家庭生活をどれほど欲していることか。愛する妻よ、あとどれだけ待たされるのか？

ゴッキング

1945年2月18日

キップリング「あなたの目前で全生涯かけて作ったものが壊れたときには、あなたは使い古しや壊れた道具を使って再建しなさい」。我々もそうしよう、道具が残っていればだが。

ゴッキング

1945年2月22日

陰気で冷たい日。解放がはるか彼方にあるように思える日だ。

クラウト

1945年2月27日

今日は特別に愛妻を思った。私は結婚して13年になる。この日をコーのもとにいられることを望んでいたが、他のいろいろなことと同じようにまたまた実現しなかった。愛する妻よ、心からキスを君に送り、そしてできるだけ早く再会できることを願おう。けさ7時からぼくは既に300グラムのインゲン豆を煮るために湯沸かし小屋にいた。この日を記念するいわゆるごちそうに。

ゴッキング

1945年3月3日

ぼくたち二人とも君のことをなつかしく思っている。本当に食べ物以上に、それで分かるというものだ。

メンデス

1945年3月7日

シ・ヒュープエの誕生日、この日に彼は（21歳の）おとなになった。21年前の生まれた日と同じように雨が降る、冷える日だ。現在、私のそばに彼がいたらどんなにかうれしかっただろうに。他の人たちとは話を交わすことができない心の中にある関心事について意見を交換

でき、ずいぶんお互いに助け合えたのだ。彼とエリーは今どうしているのだろうか。彼らの声を電話を通して聞いたのは既に3年前になる。ここスマトラは全てが変わってしまったことを認めざるを得ないし、ジャワでもこれよりましな状態とは思えないし、きつともっとひどいのだろう。

ゴッキング

1945年3月20日

いつか米軍が来るとい希望が我々を支えている。時には決して現状に終わりが来ないとさえ思える。若者たちはさらにやせこけ、元気がなくなりだめになっていく。恐ろしい。…中略… 私がとてもくよくよしているとスカートウが言った。あまりくよくよせず、我々の好きなことをする必要がある。

ゴッキング

1945年3月21日

チベットについての本を楽しんで読んでいる。これによると、ここで強られる暮らしよりもっと汚くて、少ないものでも生活できることがわかる。このことはみじめさの中にいる者を力づけてくれる。

ボス

1945年3月23日

昨夜、17日を4倍した時期に我々が解放される夢を見た。つまり68日目の5月29日火曜日。

ゴッキング

1945年3月26日

話しでは、病棟で誰かが自殺をはかったらしい。こんな状況、それもこの雨期の天候では驚くこともない。さらに、彼の妻も収容所で亡くなったのだ。

メンデス

1945年3月26日

黒水熱で病棟にしばらく前からいるブルースは、昨日、手首の血管を切って自殺をはかった。血管は病棟の職員が直ちに縛った。

ゴッキング

1945年3月29日

妻よ、君がとても恋しい。このいとおしきはまるで苦しい痛みのようにぼくをつきまとう。およそ3年にわたり続く、変わる事のない深い痛み。ひっきりなしにだ。無意識にあっても。だから疲れきってしまう。治療法はひとつだけ。ぼくだけの、ぼくの全ての君のそばにいたいこと。

ゴッキング

1945年4月11日

ぼくは今日おこりっぽく、反抗的だった。そこで巻きタバコを半分吸った。紙巻タバコがあればいいのだが。巻きタバコ半分5グラムが1.35ギルダーする。まったくおそれいったもんだ。幸いにもスカートゥとぼくは今まで健康でいる。神様が我々4人をお守りくださることを信じているが、我々だけをだろうか？ たくさんの問い、だが答えはどこに？ 何も問わないで、何も考えず、くよくよしないほうがいい。さもないと、恐れと心配で気が狂ってしまう。死がいたるところに忍び寄っている。

ゴッキング

1945年4月18日

けさ、ぼくの右前歯とその脇の一部が折れてしまった。歯医者がそこに塗り薬をつけたので折れ目は今は黒い。こっけいだ。いやだ。なお悪いことに叔父が来て、ぼくに払った40ギルダーがフィフーンによると払われていないことなどスンガイ・センコルでの密輸事件について語ったのだ。叔父はぼくのことばを怪しみ、ぼくをうそつきよばわりした。これが長年の友情関係にあつてのことなのだ。これはどうしたことだ？ まったくいやな朝だ。おまけにくるぶしがまたはれてしまったし、天気も陰気だった。ぼくの気分を想像してごらん。ス

カートゥは優しくしてくれ、コーヒーを沸かし、少量の米にチャベ〔唐辛子〕と魚を入れて炊いてくれた。優しい子だ。彼はとても感受性が強い。この前、霧の中を川沿いに歩いていたら涙を流していた。彼にはとても美しかったのだ。このことでぼくは、ベーチュウエの満開のさくらんぼの木を見て君が泣いたあの日を思い出す。スカートゥは全てのことを覚えていて、我々はその日のことを何度も話している。何と我々は以前はすばらしい時を過ごしたものか。実のところ、我々の結婚生活はすばらしい日々の連続だったね。17年間も。今後の生活をどんなにか欲することか。神様どうぞ我々にその機会をお与えください。

ゴッキンガ

1945年4月22日

日曜日はいやな日だ。君がいなくてとてもさびしい。愛妻と娘がとても恋しくなる。スカートゥも女性たち<sup>37</sup>をなつかしがる。あと何回の日曜日が？

クラウト

1945年4月22日

以前一番豊かな生活をしていた連中が、この収容所で一番苦しんでいることは驚くべきだ。彼らには抵抗力が少なく、すぐに傷が化膿したりする。自分でまいたタネは自分で刈れ。そんな感じがここでもする。

クラウト

1945年4月29日

大勢が引越、家族収容などの可能性を予期している。状況は別としても、愛妻に早く会えたら何と幸せだろう。戦後のためにワインや塩漬けがちょうのレバーの缶詰などを注文する連中がいる。既に2万5千ギルダー分の注文があったそうだ。これらの男たちは抑留生活で何も学ばなかったようだ。私は魚、野菜、サンバル付きのごはんを妻と子供たちと一緒に食べるだけで幸せだ。

---

<sup>37</sup> 彼の母親と姉のミース・ゴッキンガ



メンデス

1945年5月5日

患者たちの機嫌は一般に快活だが、雰囲気はあまり大したものではない。なぜならば一日中、おまるをあてがわれ、みんなが各自の便の状態について話す必要があると思っているからだ。外からは何もあたらしい見通しは伝わらない。

クラウド

1945年5月10日

本日は昇天祭だ。5年前の今日、ドイツ軍が母国に侵攻した。幸いにも、オランダはこの破壊者から解放された。同郷の人たちがいかにこの5年間の抑圧を経験したか興味ある。私の父、兄弟、義理の母がどうこれを切り抜けたのだろうか。生きて再会を願うばかりだ。我々もこの奴等から去ることができますように。あるヤップがデ・ロー（床屋）に、ここに妻を持つ男たちは来週その妻のところへ行くことになると言った。

私は、オランダ国歌「ヘット・ウイヘルムス」に続いて、昼にチャルダ・ファン・スタルケンボルフ総督が行った演説をはっきりと覚えている。とても感動的な演説を目に涙を浮かべ聞き入った。人生の中でこのような瞬間は決して忘れることがない印象を与える。アーリアンもまだ覚えている。子供たちもこの激動の時世をよく理解しなければならなくなった。これらは後の生活に強い影響を与えることはまず確実だ。私はできるだけ我慢強い青年になるよう彼を教育している。…中略… 愛妻が今度の収容所でどうしているか知りたい。彼女はこの抑留期間中、適応することをかなり学んだ。そして私は彼女が頑張っってこれを切り抜けることができると信じている。

メンデス

1945年6月8日

私の50歳の誕生日。良いニュースと噂から見ても、この日を抑留されたまま祝うとは思わなかった。いつも妻と子供たちのこと、家族でなごやかにこの日を祝ったことを思い出させる日だ。そろそろ我々がこの惨めな収容所を去る時が来てもいいだろうに。

ボス

1945年6月13日

リーシェ、ぼくはまた絶望的な気分だ。一体全体終わりはいつ来るのか？ぼくがアムステルダムを立ってから、明日でちょうど6年だ。まる6年。信じられない。東インドへ出発する前、ぼくが6年以内に結婚しないことを約束するよう問われていたとしても、この犠牲に対処できたかどうか疑問だ。我々の3年間の婚約期間に関係なく、我々の熱望と希望をかなえるまで、少なくとも1940年半ばまで待たねばならないことを1939年に我々ふたりは知っていた。しかし、これは当時も我慢できた。そしてこんなに長い間の別離なぞ想像がつかなかった。何年もの間ぼくの内面に少しづつ目覚める情熱的な感情に苦しまなかった時があっただろうか。ひとつになりたいぼくの肉体の欲望はずっと続いている。リーシェ、たびたび君を無性に恋しくなるとてもつらいんだよ。

ゴッキング

1945年6月19日

毎日をただだと過ごし、もはや思い悩むことはない。救出はまだ先のことでありそうもなく、ますます実現されそうもなく思えてくる。非常に無関心になる。人々の気持ちをさびしくするのは、毎日毎日同じ貧しい食事だ。多すぎるほどの炭水化物、変化がなく、3年間も米とトウモロコシ、またトウモロコシと米に少量のガプレック〔乾燥キャッサバ〕と汚れたサゴヤシを38ヶ月も。誰が我慢できるだろうか？ 連合軍は定時に来るだろうか。明日来ても一組の残骸を見つけることになるのだから。

クラウト

1945年7月15日

愛するコーへ、あとどれだけ？ 早急に終わることを願う。この日記帳に紙が十分あると思っていたが、やっぱり新しいのが必要だ。それが最後のだろうか？

ボス

1945年7月24日

リーシェ、ぼくは今日、悲観的だ。君とぼくとで以前と同じようにいられるかしらん？ な

にを話すか考えなければならなくなるのだろうか？本当に以前とまったく同じようになる可能性があるのかな？そして、何よりももっと良くふたりでやっていかれるのかな？リーシェ、ぼくに「あなたは変だわ。以前のあなたではないわ」「以前は私たちは愛し合っていた。今は何を話したらいいのかわからない」という風に言うだろうか。

クラウド

1945年8月15日

今日は兄ディックの誕生日。兄さん、心から幸あれと祈る。ぼくは君が家族とともに戦時中無事に過ごしたことを願う。故国のこと、特に父、カーレルそして他の家族の者たちのことをとても知りたい。我々は歴史を記しているが、君たちはこれをもう終えたのだね。

## 人間関係

ゴッキング

1944年10月12日

我々はヘンドリックス(Rubber-Restrictie)、ワイスマン(NJHB)、デーハナース少年、デンイ  
ングホッフ・ステリング 2 少年と一緒に仲間グループのようにやっている。

クラウト

1944年10月15日

私は上品な連中とともに起居していて、これが大きな特典となっている。ファン・ゲントは、  
コックが私について非常に良い印象を抱いていると言った。お互いにとても仲が良いのだ<sup>38</sup>。

ゴッキング

1944年10月22日

ワイスマン氏はもう食事の分配を行っていない。彼はいろいろな意見や批判を受けたのだ。

メンデス

1944年10月23日

私がいるホン [バラック] は非常に様々な人がいる。胸と背中に刺青をつけ、乱暴なことば  
を使う、大半が粗野な連中である植民地部隊の元兵士だ。ここでは背後にそっと身をひそめ  
ている上品な人間が一層目立つが、一方、粗野でずうずうしくて騒々しい無教養な人が支配  
している。

---

<sup>38</sup> コックはクラウトと同様にデリ鉄道会社に従事していた。

メンデス

1944年10月25日

今朝、目覚めたときベッカーとだれかがバケツ一杯の水のことでの喧嘩に驚かされた。まるでアムステルダムのスラム街。

ゴッキング

1944年10月26日

我々の仲間グループは、調理する場所が変更になり解散した。残念だ。4日前に我々に支給された半キロの砂糖をスカートゥがもうちよろまかしてしまった。このことを理解できても、やはりあまり良い気分はしない。

ゴッキング

1944年10月27日

私は軽いせん痛のために、何も、それもほんの少量だけ食べることが許されているので、スカートゥは、砂糖を食べ尽くしてしまったことをひどく後悔していた。彼は恥じているのだ。

ゴッキング

1944年10月30日

ある紳士がスカートゥに水を沸かしてくれと尋ねた。彼が国家社会運動党の者であり、好ましからざる人物として知られ、また、我々に対し無作法にふるまったことがあるのでスカートゥはこれを断った。

ゴッキング

1944年11月2日

食べ物の分配で喧嘩。かなりよくあることだが、いつも大騒動だ。

ゴッキング

1944年11月3日

ある仲間が、審議会から1日に2回の給水作業を1ヶ月間する刑罰を科された。

ゴッキング

1944年11月8日

野菜班は、軽雑役と名称が変わった。なぜならば、野菜班以外の仕事を拒否する人々がいるからだ。野菜がないから、野菜班は結局何もすることがない。それでも彼らはすでに野菜班に割り当てられているとして他の仕事を拒否するのだ。幼稚だ。収容所で人それぞれを良く知ることになり、それは残念だ。失望することだらけだ。この点はスカートゥも同じ意見だ。同胞に対する尊敬の念や信頼感がひどく失われていく。…中略… シ・ガラ・ガラの収容所仲間がタバコを盗み、刑事委員会から彼の年齢を考慮した1週間の軽雑役刑が言い渡された。

ボス

1944年11月16日

炊事場に3人からなる統制委員会の警官が採用された。彼らは炊事場に入る前に、「ココヤシの皮」（ヤップの進入を警告する合図）という呼び声で迎えられたので、怒って収容所監督のところへ行き、炊事場が彼らに対しこんな受け入れ方をしているようでは、任務を果たすことができないと言った… それでは一体どういう受け入れ方をすればいいのだろうか。

クラウト

1944年11月18日

一番高い地位にある連中が、ホン [バラック] のすぐそばで立ち小便している。毎朝、ただだけないがまだ。ノエは炊事場の統制委員会にいる。しかし、彼はうるさがれている。あまり信頼されていないのだ。

ゴッキングガ

1944年11月18日

夜、寝床に入ってスカートゥに何か話し始めると、他の人、中でもヘンドリックスが話しに割り込むのにはうんざりする。どこにもひとりになれる所がないのだ。

ゴッキングガ

1944年11月25日

炊事場で騒動が起きた。ハイル・ヒットラーと言ってお互いを侮辱したのだ。

ゴッキングガ

1944年11月26日

ホン [バラック] 7号棟で、そこにある炊事場所の使用について苦情がでた。

クラウト

1944年12月3日

人々はとてもおこりっぽくなった。つまらないことにも腹を立てる。こんなに長い間、このいやな状況のもとに抑留されていて、家族とも引き離されているのだから理解できることだ。…中略… 3 A組で、食事分配係りをしているファン・ラーイが、他の者にあげる以上の量を自分で取ってしまったと非難された。今は魚が我々の所でも板の上に並べられる。ファン・デル・リンデ・ファン・スプランクハイゼンがバケツに入った魚を勝手に取り出したのを良くないことと見たのだ。

クラウト

1944年12月10日

人々はタバコに目がない。ネズミが昨夜、ファン・ダイクの年下の息子からタバコを奪ってしまった。バスティアーンセンが、「それは俺のだ」と言った。スヘールとノールダが彼ら

を守ろうとしたが、ファン・ゲントが、「それはあの若僧のだ」と言った。彼らはタバコを巻くことが許されたが、太すぎて残ったタバコはほんの少量だった。

クラウト

1944年12月11日

昨夜、彼らは私のチェボック [ゆすぎ] 瓶を盗んだ。

ゴッキング

1944年12月18日

スカートゥは青少年全員が集まった時を過ごしてはいないが仲間はたくさんいる。彼はとても大きくなり、賢くなっていく。時折、ぼくの間違いを指摘したりする。ママさん、君の息子はたのもしくなっていくんだよ。

ゴッキング

1944年12月23日

炊事班の者は、正式には30%余計に食事がもらえるが、私が察するところ50%だ。彼らは皆デブデブで、病んでいない。多くの者が厳しい作業のためだが、しかし、例えば伐採班、木材搬入班、輸送班などの者はもっと骨折って働いているのではないか。私はこのことに関してしばしば苦情を言ったが、しりごみするだけだ。いかに反社会的で利己的な人間がいることか。どれほど私は、特に体験により、人を疑うことを学んだことか。どうしたらもっと良い世の中が得られるのだろうか。不可能。何と墮落していることか。ここでもだ。いかにそんな連中を私は憎んでいることか。集団には強力な指導とムチが必要だが、少しでも彼らから目を離すとだめになる。

ゴッキング

1944年12月24日

叔父さんにまた会った。この3ヶ月に3度目だ。彼は気が落込んでいて、不機嫌で奇妙だ。この暮らしに耐えられない様子だ。彼は我々にあまり興味を示さない。ブラスタギーの人間な



ら君たちのことを話してくれてもいいのに。まあ、はっきり言って、彼のことが理解できないし、憂うつにさせるのだ。大方の者が彼を冷たくあしらう。多分、そのためかな？クリスマスは彼なしで祝う。昔の思い出にしたるために、クリスマスと大晦日を一緒に祝えればと私は望んでいんだが、彼はこれを避けようとしている様子だ。スカートゥにも分からない。…中略…ハンは元気だ。彼と長いこと話しをした。ここでめったに会うことがない。というのは皆、雑役のあとは自分のホン [バラック] へ入り、残った時間をベッドの上で費やしているからだ。他にも場所はないし、カロリーを節約するためにもこれはとても賢明なことなのだ。ママさん、つらい日々だ。最後であれば良いのだが。

ゴッキンガ

1944年12月28日

ここでの生活は非常に単調になっていく。見るものも聞くものもない。いつもと同じ食事してもらい、同胞には心の底からうんざりしてくる。人々は些細なことでもいらいらしてくる。父親と息子ですらお互いに争い合っていて、時々、とても不謹慎なことばを使っている。全くあきれてしまう。スカートゥと私はまだうまくいっている。彼が幸いにも君と同じ性格を持って、やさしい、面倒がかからない正直で、スポーツ好きな少年であるためだ。

ゴッキンガ

1945年1月3日

収容所仲間が米を盗んでしまい、3週間の雑役刑が科された。これは2度目の盗難だ。他のひとりの収容所仲間は雑役を拒否し、現在、罰を受けている。

クラウト

1945年1月3日

ラバレットとの湯沸かし番が解消された。彼の15歳の息子は手を抜いていないが、アードリアンが相変わらずたき木を集めなければならなかった。私は今度、ファン・ゲントと一緒に水を沸かすことになる。

ゴッキング

1945年1月7日

少年棟であるホン [バラック] 8号棟では、指導員の何人かが食事を自分たちには多めに、若者には少なめにして配っているという話をよく耳にする。まったくひどいことだ。つぶらな瞳をした子供たちは全部を、ほとんどすっかり見ているのだ。若者の面倒を見ている年長の者がどうしてそんなことをできよう。キリスト教信仰があついほどもっとひどい。修道士についてだけは良いこと以外は何も聞かないので、私は我々のキリスト教徒の恥を認めざるをえないのだ。

ゴッキング

1945年1月9日

クリット・ホルストマンがいつもスカートゥを訪ね、その時は決まってスカートゥに何か味見するものや食べ物を持ってくる。彼は11歳で、スカートゥに小犬のようにまつわりついている。彼はスカートゥに全部話し、いつもここにいる。お行儀の良い、やさしい子だ。

ゴッキング

1945年1月10日

今朝、我々の炊事班の3人のデブ男がいつとき、スウェーデン式体操をしていた。特配をたくさんもらっていることは疑いなし。みんながカロリーの浪費を防ぐためベッドに横になっているのに、炊事班の連中は余分なカロリーの放出を求めているのだ。何んたることだ。

ゴッキング

1945年1月13日

食べ物の分配では、現在、たくさんのスサー [厄介事] と喧嘩が。…中略… 魚が処理されるのが大いに注目されているため、その場所のまわりに有刺鉄線の付いた棒が打ちこまれた。こうして収容所の隅々まで届くのだ。この作業は炊事班として3分の一余計に食べ物を得ているデ・ウェールトが行う。何たることか。現在の食糧事情がひどいのではなく、一日平均5時間半も仕事をしている例えば、輸送班のような厳しい雑役があるというのに、炊事班の連中は最低30%も余計に食べ物をもらうのだ。誰もがこのことをひどいと思っているが、誰

も危険をおかして難事に手をつけようとはせず、もし、これをしようとするれば、孤立することになる。だから、誰もも行わないのだ。

ゴッキング

1945年1月16日

炊事班の何人かは、元の上役に抑留生活後に何がしかを期待して余計に食べ物を与えているが、これが大変な誤り。中でも最もだめなのはそれを了承する奴だ。その際、どうしても道徳的な責任を負うことになるからだ。…中略… 給水班と炊事班との喧嘩に関連して、夕食は9時半頃になってやっと出た。闇の中で我々が食べたのは野菜入りの粥だ。でもこっけいだった。

クラウト

1945年1月18日

罰としてカリの門が閉じられる前に急いで水を取りに行く人々が川へ向けて走っていた時、蘭米大農園会社（HAPM）の重役であるリューバース「氏」が階段を降りて来て、我々（給水班）が何をしているのかと尋ねたのだ。ドルスマン（教育調査官）が彼に何をすべきかときいた。彼は言った。「そんなことになぜ興味あるのですか」。ドルスマンは、「雑役がある」と言った。氏は通りすぎていった。ドルスマンが、「下品な奴め」と、きっと彼も聞いたに違いない。そして、「政府では幸い我々は他の上役がいるのだ」と言ったのだ。リューバースは激怒した。このリューバースは時折、歩道橋の真ん中で立ち小便している。

ゴッキング

1945年1月18日

ある収容所仲間がココヤシを、それも一個だけ盗んで3週間の雑役刑に科された。

ゴッキング

1945年1月21日

野菜班の雑役で、ソース用にドゥリアン [香りの強いフルーツ] などを下準備した。その作業中に、私はワルラーベと砂糖菓子で口げんかした。あとで彼とは仲直りしたが、早々に自制心を失ってしまうものだ。不安にさせる。でも、仲直りはしたのだ。

クラウト

1945年1月22日

私がトウモロコシを無料で挽くことを断ったことがある臨時病棟で働く警察署長は、病人の皿の中をひっかけ落とし、あとで自分でタバコを巻くために病人の吸いがらを拾い集めている。

クラウト

1945年1月23日

少年棟で組長をしているある教師が、少年たちの食べ物等を自分のものにしてしまったために、今朝裁判にかけられた。少年棟でだ。ご立派！

ゴッキング

1945年1月24日

A9組の組長は彼の身分から正式におりた。彼が不適だと思っているホン [バラック] 長バウアーと仲たがいした。

ゴッキング

1945年1月26日

炊事班の者たちは金がないと言いながら全員がタバコを吸っているのだから、これは明白なことだ。石けん1個で彼らは600ccのパーム油をくれる。ともかく、3分の1余計に食事をもらい、火の近くにいて、一番楽をしているのだ。

ボス

1945年1月28日

リューバースはHAPM [蘭米大農園会社] の社長だ。デ・ブア (炊事班長) は彼のアシスタントのひとりだ。デ・ブアは毎日、食べ物が入った鍋を持ってリューバースに持って行く。リューバースのホン [バラック] ではこれを「昇進鍋」と呼ぶようになった。こっけいだ。HAPMの意味は、「Hoe (a) mployés promotie maken!」 (従業員はいかにして昇進するか) である。

クラウド

1945年1月30日

ある牧師のメンタリティー：ファン・ゲントはキニーネが必要だった。牧師はこれを十分持っていた。宣教師のためにこの薬を保存しているのだ。長い間プロテスタント信者ばかりが死んだあと、カトリック信者がひとり死んだ。彼の発言：「幸いにも、やっとローマ・カトリックでも」この牧師に保護者になって欲しいとたのんだブラスタギーからきた少年がいた。彼がローマ・カトリックだったし、牧師はローマ・カトリックの者をプロテスタントの方向に従わせる影響を与えたくなかったために、このことは困難だった。やりすぎだ。ばかな奴。…中略… ファン・ダイクはソースの分配についてハーヘンジーカーを批判した。ハーヘンジーカーは分配係をすぐにやめてしまった。話し合いが持たれたあと、彼は再び元に戻った。

ゴッキンガ

1945年2月1日

ワイスマンが炊事場で誰かの代わりをして、そのため彼の仲間グループ全員が食べていかれるようだ。相当不信感を抱くようになる。

クラウド

1945年2月1日

輸送班の連中は自分たちが不正に手に入れた米を引渡さねばならない。デ・ズワルト氏は、ほかにも1キロ半入った袋を持っているはずなのに引渡さなかった。それでいて、ほかの連中には大口をはいている。我々はそんな彼を知り尽くしている。

クラウト

1945年2月2日

昨夜、ラバレットのニワトリが盗まれた。小屋は畑にあった。また、修道士のところでもおんどりが盗まれた。…中略… 現在、すでに5羽のニワトリが盗まれてしまった。このことに関連して、午後8時半から午前7時までバラックでの調理は禁止となった。二人の者が（輸送中、米を盗んだため）10日間薪割りをする処罰を受けた。もうひとり（チャベ [唐辛子] を盗んだため）7日間の雑役刑に処された。

ゴッキング

1945年2月4日

デ・ズワルトはもう分配係りをしていない。ディードリックとけんかしたのだ。まるで子供だ。…中略… 収容所仲間から受ける態度は、しばしば低俗なものである。不親切で無作法だ。助け合いなどまったく望めない。人間は神の前に平等？ …中略… まだ2人分の粥が入っている樽を特別食用炊事場でシュキールマンの息子に洗わせた事実に対して、私はコルトレーベとともに告訴した。

ゴッキング

1945年2月8日

12月に炊事場から米がある収容所仲間により盗まれた。共犯者はいなく、単独で行われたのだが、このことを知っていた者がふたりいた。この3人は全員、炊事場とホン [バラック] 9号棟から追放された。主犯者は3ヶ月の、そして他のふたりはこの事件を報告しなかったために1ヶ月の雑役刑を科された。犯人が捕まったことがほとんどないのだから、炊事場の評判が良くないことも、こんなに大量になくなってしまうのも不思議でない。食事の分配に対するコントロールが厳しくなった。毎日、バラック長か組長がバケツに食べ物を分配する時に立ち合うことになる。これは今月の11日から始まる。その人数が足りないか、立ち入りを希望する人が十分にいない場合には、特別に担当者が指名されるようだ。…中略…

収容所仲間が盗んだこの米のことについてだが、彼は6キロの米を盗み、それをタバコと交換し、一方、タバコを渡した者はその米が盗んだものだと知っていたらしい。スキャンダルだ。炊事班の者をみんなが疑っているのは不思議でない。彼らは収容所に貸付ける金を持たず、それでも100グラム60ギルダーの高いタバコを吸い、バラックの人は少ない食事に文句を言っているというのに、彼らはたらふく食らっているのだ。「あらゆる目的で一

日に約40キロが消え失せる」とのことだ。信用できない状況が全て理由があつてのことだけにひどいものだ。彼らはますます太り、我々は皆やせていくのだ。誰もが炊事場の者にしり込みしてしまうので、彼らはそれを利用しているのだ。

クラウト

1945年2月9日

ラバレットはファン・ゲントに、私が自分の息子をいじめていると言った。ファン・ゲントはこれが理解できなかつた。実のところ、私にも分からないし、アードリアンにも私に対しそう感じるかいろいろと伺ってみた。彼の答えはこうだった。「パパ、そんなこと全然ないよ。ぼくは好きで木を切っているんだよ。ぼくが木を採りに行くのは、そうしないとパパは7時にぼくたちのお茶をいれることができなくなるからだよ。ぼくが勉強している訳は、出世するためにしないといけないことを知っているからだよ。パパはよく説明してくれるし。厳しいけど、それだけにぼくは勉強する意味がわかるんだ」。ラバレットは特に勉強に関しては、大丈夫だからとか言って彼の息子の面倒を見ない。毎日自分の子供たちの世話をするコックとは正反対だ。クラウトは朝、お茶を入れなければならないと言ったようだと、ラバレットがファン・ヘントにも言ったのだ。このようなあてこすりを聞くべきか。我々の息子たちが行く必要がなくなるよう、明日、我々は一緒に出る。どうせ我々は7時には起きているのだから。ラバレット氏は、我々がトウモロコシ挽きでたくさんもうけていることが気に入らないようだ。昨日、彼が私に言った。「一番目の客は、最も不快になる」これには私は何も答えなかつた。今日、70杯分を挽いた。言いたいように言わせておこう。文句を言われるより、うらやましがられた方がましだ。ここにいるのはもうたくさんだ。

ゴッキンガ

1945年2月13日

食事運搬班は食べ物の分配が終わるまでバケツから3メートル離れていなければならない。

クラウト

1945年2月13日

今朝、フェルベークが私に言った。「言いたいことがあるのだが。君の息子はトウモロコシ挽きに以前より2倍取るとみんなが話している。“あんなべてん師のところへはもう行かな

い”と言ってる者もいるんだ」。私は、「ぼくはいつもすくう作業をするので、彼が取っているところを全然見たことがないけど、ご忠告ありがとうございます。アードリアンによく言っておきます」と述べたのだ。アードリアンには最初るとき以上、絶対に取ってはいけないと命じた。中傷と嫉妬はいつもたくさんある。今回ももちろんそのためだ。

ゴッキング

1945年2月17日

ソースを分配することで喧嘩が。ロプケは信用されてない。これが組長なんだからすばらしい。

ゴッキング

1945年2月20日

そのヤップもたらふく食べ、盗みをする炊事班のことを見抜いている。彼は何人かの少年に奴等がたくさん奪ったかと尋ねた。質問：この飢餓期に、その連中は一体どんな様子をしているか？ 答え：おそろしくデブで、たらふく食らっている。激怒。そこでヤップは今、彼らを外部作業させるため、来ない場合には追い討ちするとの通告とともに呼び出した。

ゴッキング

1945年2月21日

内務部役人のファン・デル・ハイデンは、病棟で看護人など、彼が言うには医師すらちょろまかしてしまう食べ物のことをひどく嘆いている。そして、大炊事場で食べ物をちょろまかしていながら、たとえば今日は、誰かが特別食用炊事場で大きなスープ皿に入ったソースを口に入れていたのだが、同じに彼は大炊事場で食らい、ホン [バラック] 8号棟と食糧倉庫での不当さ、ココヤシフレークなどのことを。こうして大量に消えていく。腹立たしいことだが、誰もどうすることもできないのだ。スキャンダルだ。驚きだ。誠実さは一体どこへいってしまったのだろうか。



クラウド

1945年2月22日

65人いる粉ひき人のうち5人が無料。ワーヘナーがアドリアンに、「君は日増しに高く取る。ここに来るのはこれが最後だ」といやみを言った。私はアドリアンにもし彼がまた来たら追い返せと言っておいた。

ゴッキング

1945年2月23日

ワイスマンが洗濯の水について何か言って、私をうそつき扱いしたことから彼と口論になった。スカートゥと私は無視するようにしている。下品な奴だ。彼は我々の近くで寝起きしている。

ゴッキング

1945年2月24日

粥が焦げ付いた。現在、担当したコックをやめさせ、何人かデブの人間を役立てることができる輸送班へ配属させる計画がある。

クラウド

1945年2月25日

ゲーアリングスが5週間も雑役をさぼったことから、10日間の雑役刑に処された。

ゴッキング

1945年2月28日

エビを分配する際に喧嘩が。私はクシを放置していたら、そのクシが消え失せてしまったのだ。誠実性は一体どこに？ …中略… 誰かがフランケルの目元を殴って傷つけた。傷口は縫ってもらわねばならない。犯人は現在、収容所裁判所に訴えられていて、戦後には法廷に出頭することになっている。

ゴッキング

1945年3月3日

ゼーハンデラーは、少年棟である8号棟へ二度と行ってはならないことになった。なぜならば、マースマンの話では、彼は7人半分の粥をスプーン5杯の砂糖と引き換えたらしい。…中略…ゼーハンデラーは侮辱とかとマースマンを訴えた。

ゴッキング

1945年3月4日

ホーヘンダイクは彼の息子に殴られて、それで、息子を強く殴りかえした。平均的デリの人間、特に農園主にはがっかりさせられる。頑固で、強情で、8シリンダーの自動車、立派な家や衣服がなくなった今の小市民性のハイライト、つまり人間サジャ [のみ] がむき出しにされるのだ。精神訓練等は全然ない。ことばもマナーもだめ。これがデリの農園企業主の姿だ。

ゴッキング

1945年3月6日

今朝には、おそろしく悪質の粥をもらった。私はこれをきっかけに我々のホン[バラック]のA組とB組から半数以上の者の署名を付けて、次のような文書を作成した。「署名人は、今朝の焦げた、生煮えで水っぽい粥の給食に関連して、今後、同様な事態の再発を防ぐ的確な措置がしかれることを要求する。今回のことは初めて起こったのではない。食糧がすでに最小限の量にあることから、この損失を極力さげ、できるだけ風味豊かにはかった食事を我々に与えられることが重要となる。炊事班の者たちが多くの問題に取り組んでいることは我々も認めるが、しかしながら、我々は今朝のような粥に対して断固たる苦情を申し出る権利を持つものと信ずる。調理に関しては、適切なアドバイスや指導を提供する専門家が十分いるはずである。ともかくも、ここに我々は的確な調理が保証さるべく措置が早急にしかれることを要求するのである」

ボス

1945年3月6日

前夜はココヤシを全然もらえなくなってしまったビルと私、今夜は「下落した粥」のドラマ。

不可解だ。収容所は大騒ぎ。我々は訴えられたが、「無罪放免」された。

ゴッキング

1945年3月7日

中庭の責任者であるボーベンケルクは、ウビ[キャッサバ]、野菜、インゲン豆、チャベ[唐辛子]等を勝手に採ってきて、おいしいものを作っている。誰一人として個人の菜園を持つことは許されていないし、彼もこの点を強く警戒しているだけに、これは間違ったことと我々には思える。…中略… 規則や該当するきまりに従えばばかを見る。スカートゥと私がいつも感じている通りに、これをしない者たちは大きな利益を得ているのだ。自分の好きなように行い、誰のじゃまもせず、全てを冷たく否定し、全物、万人を否定し、反社会的であれば一番多く獲得するのだ。…中略… 粥の件での告訴が昨日調査された結果、よくある口封じにより全員が無罪となる。

ゴッキング

1945年3月8日

クリット・ホルストマンがウビの葉、バナナの若い茎と少量のチャベ[唐辛子]をスカートゥに外部から持ってきた。スカートゥは、これみんなをケルダーマン兄弟とともに昼食用に炒めている。そのあとは、我々4人、この「アパート」でトランクをテーブルとして、その上にテーブルクロスとしてタオルをかけて食事するのだ。粥は今日、変化となるが、またもや少々焦げていたが、誰にも罪はなし。みんなホスピタルのためには、倍の食事を条件にしてでしかヘルパーとして働きたがらない。全てに少々行き詰りの感あり。さみしい様相だ。

ゴッキング

1945年3月9日

若者たちは何と反抗的なのだろう。何と我々おとなに対しても逆らい、怒鳴り散らすのだろう。残念ながら、全てが不当というわけではない。我々がこの方向への動機やきっかけをたくさん与えているのであって、事実、現在もこの収容所で我々は若者を古い世代の者たちと仲たがうようにさせているくらいだ。何と彼らは我々のことを軽蔑して話すことか。時としては、これもまったく最もだと思えるが、時には、やりすぎだ。しかしながら、大抵が本当、本当すぎるのである。…中略… スカートゥにまた友達がふたりできてうれしい。彼はあ

まりにも孤立していたし、私に頼っていたが、ケルダーマン兄弟と薪割りなど全て一緒にしており、そのため活発で明るくなった。私にとっても良いことだ。

ゴッキング

1945年3月11日

ゼーハンデラーとマースマンの件では、審議会はゼーハンデラーを無罪放免した。マースマンは、あまりにもだまされやすかったとして叱責をくらった。彼はせかせかしてこの事件を適切に調査しなかった。この裁判は公開され、裁判長はルフト氏だ。

ゴッキング

1945年3月12日

チャベ[唐辛子]等が菜園から盗まれたが、実のところ菜園全体が夜中に強奪されるのだ。干してある洗濯物さえも日中、盗まれるのである。外部雑役の連中が、ウビ[キャッサバ]の塊茎を盗んだ。今度彼らは一枚の葉っぱさえも収容所に持ち帰ることは許されなくなった。…中略…

鉄条網内でチャベ[唐辛子]、ウビ等、ウビの葉でも盗むことは禁じられているし、処罰されるのだ。同じく、外の菜園でウビの葉や塊茎を盗めば処罰される。要するに、収容所に属すもの全てをだ。ガプレック[乾燥キャッサバ]を我々のホン[バラック]で下ごしらえする作業中に仲間のひとりが盗んだ。彼は14日間の雑役刑に処された。

メンデス

1945年3月15日

多くの収容所仲間の日ごとに低下するメンタリティーにはまったく驚かされる。雑役をずる賢く避けたり、…中略… 刻まなければならないガプレック[乾燥キャッサバ]を横取りしたりする「紳士」がいるだけでなく、さらに我々の敵であるヤップのところで行う雑役中に、彼らの宿舎に捨てられたタバコの吸殻をかき集めたり、ゴミの山から捨てられたエビの頭を持って来るいわゆる「オランダ人」もいる。

ボス

1945年3月17日

メルカート（金貸し業者）が76歳で亡くなった。赤痢で死んだ。彼は「白いアラブ人」と呼ばれていた。「あまりにも適切でない」条件でファン・デン・アッカー神父からかすめた指輪を彼は数日前、その所有者に返したのだが。

クラウト

1945年3月17日

またもや、ふたつの遺体が埋葬を待つ。今朝4時半に神父たちは亡くなったメルカートの金をあさった。彼は自分のトランクの中に1万4千ギルダーしまっておいたらしいのだ。しかし、見当たらず。

ゴッキンガ

1945年3月20日

スカートゥは、このところとても上手に私の間違いに注意を促す。あまり良い気分がしないこともあるが、私のために役に立つからこそ、彼にこれを行うことをあおりたてている。

クラウト

1945年3月21日

メーウセ仲間グループは、16リットルの油と見せかけではファン・ベルケルのためだが、実際はメーウセ自身の薬をもらった。彼は自分でたくさん持っているというのに病棟からキニーネももらうのだ。

ボス

1945年3月24日

特別食用炊事場から病棟へ食事を運ぶ際にそれが盗まれる。

クラウト

1945年3月26日

ある者がダジェナンの代わりにプロントシルを3錠売った。彼はこれはダジェナンだと言い張っていたが、長くは隠しきれずに買い手であるプッテラーに10ギルダーを3回返した。

ゴッキング

1945年3月30日

メダン出身の者はみんなお互いを知っている。我々は叔父とファン・ゲント以外は誰も知らない。そして前者はファン・デン・ブルフと親しくしているし、後者はクラウトと。結果：彼らを見ることもないし、スカートゥと私は結構好きなようにやってるし、プルカカス[道具]全てを貸し借りできるハン、ルフト、レース、フラーベラーとの仲間グループで快適さのみを経験している。

クラウト

1945年3月31日

今日、94杯分を挽いた。フェルマートは、アードリアンにますます高く取りすぎると不平を言った。アードリアンが、「お客さん、ぼくは前と同じきり取りませんよ。そういうお考えなら他のところでなさったらどうですか」と言った。フェルマートには彼がスプーンで出したトウモロコシが返された。彼は私のところへ来て、彼がデリ鉄道会社の従業員のために四六時中準備態勢にいたこと、そして事実上、ただで挽いてもらってもいいのだと言った。私は、デリ鉄道会社とトウモロコシ挽きとどんな関係があるのかときいた。そして、私が今、暇がないと言ったら、彼はもう挽いてもらわないということばとともに怒って去った。

ゴッキング

1945年4月1日

ハンは塩に不足していたので、ヤシの実1個を125グラムの塩と交換したがった。ここも「ユニカンボン」にあると同じように、カミソリやポット等をあげたりする親切さのお礼として、私は彼に100グラムをプレゼントした。

ゴッキング

1945年4月2日

仲間グループであるヘンドリック、2D組のワイスマン、ステリングス、デーヘナースで騒動があつて解散した。仲間グループは決して長続きしない。それだけに私はスカートゥとだけの仲間グループにいるし、これが一番うまくいくので幸いだ。…中略… 刑罰：浴場監視員に抵抗したことで14日間の雑役刑、ウビの葉っぱを集めたことで7日間の、チャベ[唐辛子]を盗んで7日間の、また、食糧用バケツからトウモロコシを盗んだウニク少年に1ヶ月の雑役刑が。同じ日に彼は丸太の下敷きになって足の骨を折ってしまった。菜園からウビ・カユ[キャッサバ]を盗んだ誰かは1ヶ月の雑役刑をくらった。バラック長を侮辱したために他のひとは3日間を。

クラウト

1945年4月6日

ファン・シュハイクによると、トウモロコシ分配役のミュラーは、2回目のトウモロコシ配り中に何度も横取りしたようだ。あきれた！ある収容所仲間の若い少年は、昨日の5時半過ぎになっても湯沸し小屋で火の前にいた。私は彼にどうしたのかと聞いた。彼の父親は腹を立てて、その子の食事を食べてしまったらしい。このことを何度もしたかと彼に尋ねた。少年はやったと答えた。彼は私のトウモロコシを2度も食べてしまったことがある。彼の子供たちは大変不潔で、汚れててやせている。そんな父親が理解できない。

ゴッキング

1945年4月6日

クロースターが我々をコーヒーに招待した。彼がシ・レンゴ・レンゴに到着した第一日目に彼が持っていた銀の鉛筆一本、タバコ一缶、太巻きのロープを盗まれてしまった。何という歓待さ。

ゴッキング

1945年4月8日

午後にスカートゥが水を大量に沸かさなければならない。あの子は一生懸命働いている。スカートゥが言う私の間違い：私はデイトマース少年と口論すべきでないこと。もっと良い身なりをすること。私も何かしたいといつも言わないこと。彼がすべてを気持ち良くやっているので、こんな不平を聞くといらいらしてくるのだ。我々の貯蔵品を節約しすぎないこと。一度は節約し、違う時には気前良くしたり不均衡にしないことやタバコにも節約しすぎないこと。私はもっと寛大でなければならないこと。彼の言うことは正しいし、私はこれらの間違いを認めているのだが、タバコ以外はだ。これは高いし、スカートゥが吸わないだけに一層他の物を買ったほうが良いのだ。しかしながら、このことは唯一の贅沢であり、くつろぎとなるのだ。そして、私は彼に食事を多目にあげないで公平に分けなければいけないのだ。さもないと私が病気になり、そうしたら君たちに対しても許せないことだから。まさに君の息子だ。一人前の男さ。我々はとても仲良くやっているし、時には言い争いもあるが楽しい。彼はすばらしい観察力を持っていて、快活、陽気、正直、勇敢、誠実、そして幸いに健康だ。年齢に大きな差があるにもかかわらず、万事うまくいっている。

ゴッキング

1945年4月17日

私はウビの葉っぱの茎も捨てないで、刻んで一緒に煮込むことを提案した。今、これが実行される。以前はすべて捨てられていたのだ。犬を飼ってる人は、お焦げやエイの皮などのようなクズをもらっている。皮をそいで、ファン・デル・フォッセン氏などはこれを細かく刻んで、スープを作って食べている。私はこれに関して文句を言い、我々の食事にもこれを取り入れることができないかと尋ねた。このことが現在検討されている。いつも私が悪者になって評判を落としてきたが、どうにでもなれ。しゃくにさわる。

今日、ゼーハンデラーとボーベンケルクとの間でネズミやチャベ[唐辛子]のことなどで大喧嘩が。何と彼らはどなりつけていたことか。殴り合いになるところだった。

ゴッキング

1945年4月23日

私はスカートゥと譲ることについて口論した。彼は、現状からしてもこのことに寛大過ぎるのだ。今日彼はコショウをスプーン2杯簡単にあげてしまった。他の人たちはものを探し求



めたり、せつびたりしているけれど、我々は儉約していることから全部持ち合わせているし、残りもあるのだ。彼が時々軽率に行動するにつけ、私はまったく腹が立ってしまったのだ。今は、何か自分で必要な時に誰も助けてくれないことがよくあるだけに、これ以上譲ることをしている時勢ではないのだ。私は物を無料で提供するなんてもういやだ。加えて、貯蔵品は我々共有のものだから各自が勝手に譲ってしまうことはできないし、特に我慢がならなかったのは、彼が我々の缶詰のあるあたりを探し回っているのを目にした時、「ここで何してるんだ」と聞いたら、「何もしてない」と言っていたが、一方ではジョージ・ケルダーマンが彼のポケットに缶詰を入れていた事だった。

ママさん。その時は、ばつが悪い気分だったし、腹も立てた。しかし、まったくもって苦痛を感じたのだ。スカートゥにこれについて注意を促したら、彼は「ぼくがあげてしまったらきっと怒られると思ったから」と言った。彼は誤りとは知りながら、私よりケルダーマンをひいきしたのだった。結局のところ、たいして重要な問題ではないが、どこか私の深い、ものすごく深いところまで細い針で傷つけられた思いがした。もう譲らないこと、ともかくもまず相談することに決めていただけにことさらだ。ママさん。君ならこのことをどう思うか知りたいが。私は彼をもっと立派だと思っていたのでとても失望した。このような事に関して彼は弱腰で、しばしば「ボーイスカウトは毎日善行をひとつしなければならぬ」と言って身を隠してしまうのだ。彼はこのことばをいつでも使い、言い訳として多くのことに使っている。ここでの彼はこのきまりにおける全体の関係と意味を見失っている。要するに、我々はこのエピソードを終わらせるべきなのだろう。残念だが。

ゴッキング

1945年4月25日

昨日出た苦情：魚が入荷分より少なく配給された。回答：そんなはずはない。魚が非常に湿っていて、焼き縮まった。不信の念はものすごい。炊事場では分配作業に毎日厳しいコントロールがある。これはホン[バラック]別に行われる。ある者は真昼間にチャベ[唐辛子]を4つ摘み取ったために14日間の雑役刑を科された。

ゴッキング

1945年4月26日

フラワーベラーは私のクシが盗まれたと聞いて、私にクシをプレゼントしてくれた。親切だ。

ボス

1945年4月29日

給食が増量される予定：米250グラム。トウモロコシ150グラム。これは食糧が一日に実質100グラムふえることを意味する。ここでは最低10%は重量不足していることを指摘しておきたいのである。前もって、つまり何の入荷もなしに我々の収容所監督は、我々が食事の特配に対して3分の1以上をもらわないとの「意思表示」を望んでいる。何と云うことだ。これは全部で4皿の食べ物がなくなり、そのことで節約し、収容所のためになろうとでも思っているのだろうか。まったく幼稚だ。

ゴッキング

1945年5月4日

我々は米に不足していた。食事としていくつかのホン[バラック]では一人あたり30グラムだけだ。その結果として、ホン6号棟では一種の反乱が。結果：倉庫から炊事場へ搬入する際、また、炊事場と分配の際にコントロールが行われる予定。

ゴッキング

1945年5月5日

ドゥース・デヘナールスを炊事場を見た。私はスカートゥが炊事場に加わることが許されなかったので収容所運営部へ苦情を申し出た<sup>39</sup>。彼らは少年を必要としていないのだ。なぜ、デヘナールスはいいのだろう。調査が行われる。

ゴッキング

1945年5月6日

昨日、汚れた白いスポンを2本灰汁の中につけておいた。スカートゥが今それをカリですすいでいる。あの子は一生懸命働き、立派で、やさしく世話をするので、私にとっても良いことだ。彼は本当にすばらしい友人なのである。私は誇りに思っている。君の息子をとても誇りに思っているのだ。君の性格を持ったとてもいいやつだ。それだけに無意識に彼を傷つけ

---

<sup>39</sup> 「就労状況」1945年1月28日の抜粋参照。

ているのではないかと心配になる。我々はこれまで一時として不愉快さを経験したことがなかったけれども。…中略… スカートゥが炊事場で働く件についての収容所監督の回答。年齢制限20歳。このことは規則に反して20歳の者を採用したあとに決定された。炊事場ではひどい不正とえこひいきが。いやだ。何と言う人間のくず。栄養十分なデリ出身者はまったく下品な人種だ。その何人かが以前は上層部にいたとは信じられない。

ボス

1945年5月6日

我々は、33の3分の1～25%までの減給に関しては無感情。

ゴッキンガ

1945年5月7日

ホン[バラック]では大興奮が。炊事班が出した最後通告により蜂の巣を突いたようにブンブンしているようだ。収容所監督は、我々がヤップからもらっていたより80グラム余計に得ていた炊事班の者たちへは、その3分の1を認めないことを決定したので、これに関して不和が生じ、収容所の意見を知りたがったのだ。内輪もめ。加えて、間違っただけであり、それぞれが混じって意見することに努力していた。収容所監督も、私の考えでは、罪がないわけではない。提案したこと自体が私には間違いのように思えるのだ。

クラウト

1945年5月7日

炊事班内で騒ぎが起こる。収容所監督は、炊事班の者たち（51名）に3分の1の給食の増量を認めないと決定したのだ。現在、従業員はこれに要求を出している。彼らの要望が達成されない場合には、炊事場の仕事をやめるつもりだ。いわゆるこの最後通告が朗読された時、すべてのホン[バラック]で万歳の気分が盛り上がった。そして今、炊事班のほかの連中たちはこの要求は不意のことであったと言っている。

クラウト

1945年5月8日

炊事班に対する30%の許可に関する投票は次の結果が出た。賛成114票、反対934票、白紙123票。その結果、現在、炊事班全体がほかの者たちと交代することが予定されている。

ボス

1945年5月8日

私の収容所生活で重大な日：炊事班での3年以上にもわたる活発な就業後、班の全員とともに非常に不愉快な事件の直後にやめさせられることになった。現在、給食が約100グラム増量され、収容所運営部は「白いアラブ人」ドレーセ（メダン機械工場長）の提案に従いこの増量における3分の1の追加を認めないことにした。ルイース・ハーン等のさまざまな誤解、愚かさ、間違いにより、また、我々の意に従おうとする収容所監督の強情さでこの件はまぐいかなかった。炊事場から特定な分子を取り除きためにこの機会を利用しようとしたことが明らかとなった。しかし、10人のいわゆる「従順な羊」が戻るよう願われた時、彼らも連帯性を主張し、断ったのだ。

ゴッキンガ

1945年5月9日

炊事場が3分の1の特配を得るべきかの投票が行われ、結果は次の通り。反対934票、賛成140票、白紙103票。炊事班の全員が今やめることになり、新しい班が作られる。収容所じゅうが夜遅くまで大騒ぎしていて、炊事場のこと以外、すべての悲惨なことや戦争を忘れていた。…中略… 炊事場の年齢制限が低くなったと私が報告を受けたのは収容所監督からだった。スカートゥにとり炊事場で働く良いチャンスが来た。

メンデス

1945年5月9日

毎回新たに、欧州人がどんなにか下品であるかびっくりする。ここ病棟にあっても同様に、おならをしたり、ゲップをしたり、一日中、口をクチャクチャとさせているだけだ。からだを一度も洗ったことがない私の隣人もそのうちのひとりだ。

クラウト

1945年5月10日

ある収容所仲間により今朝7時15分に湯沸し小屋でバックカー牧師のおなべが略奪された件で裁判が今日の午前中にあった。犯人は3週間の雑役刑に処された。さらに、スローテグラーフによるS.に対する告訴があった。S.は5時半に道端で排便したのだ。見物人が大喜び。

クラウト

1945年5月13日

グダン[倉庫]班にいるマースとデ・ウェールトも今、やめさせられた。4人の墓掘り人も彼らの食事がこれからは墓地まで運ばれないために。後者の仕事に志願者が募られたが、新しい炊事班へは求められていない。墓穴掘りは、雨天の時には他の穴から遺体の水が流れているためにやっかいな仕事だ。

ボス

1945年5月13日

私は、（3分の一の特配なし、お焦げなし、コップ一杯のトウモロコシ汁なし、無料の紅茶なし、無料の井戸水なし、時たまの熱い湯での入浴なし、予備炊事場での調理なし等で現在、個人的に失望していることは本音だが）ホーヘンボーム、ファン・ブルメンダール、ドレーセ、ノエ「殿」に我々がだまされたという事実に対してあとで恥じる必要もないと思う。私も今までこれらの殿方に対してあまりにも多くの信用を持って対応していた。ホーヘンボームとファン・ブルメンダール両お偉方は、この炊事場事件は単に若干の分子（お焦げ、米、クラン[甲殻類]を食べる者等がいるため。その他同上、第三にお焦げ、第四はクダン）を取り除くことを（ノエから聞いて）公に認めた。その他の人たちを再び順次入れ直されると思われていた。この人目を引く行為は失敗したため、その他の人たちも犠牲を余儀なくされ、回復の見込みもなくなった。本日、ホン[バラック]でふたつの公式声明が発表された。ファン・ワーニング弁護士とディルクズワーガー弁護士作成の我々の文書と収容所監督の説明。これにより我々炊事班は、我々の気持ちを収容所に対し真実を伝える義務を果たしたのだ。

ゴッキング

1945年5月13日

元炊事班の者たちの覚書と収容所監督の回答が発表された。悲しい光景だ。両者とも全款的を得てないし、意気地がない。何と心が狭い振る舞いであろうか。

ゴッキング

1945年5月16日

組長は収容所の食糧の交換や販売を嚴重に監視する予定である。これに罪を犯した者は、特別な食事を与えなければならないような病気の場合には問題を起こすことになる。何人かはタバコのためにたくさんの食べ物を交換しているが、少年もだ。そして、収容所住人の負担となる栄養不良におちいることとなる。これは適切でない。

クラウト

1945年5月19日

新しい炊事班の者たちは大はりきりで働いている。食事はとてもおいしく調理される。前の炊事班は弁明書を作成して全部のホン[バラック]で朗読した。しかし、誰一人として彼らが戻ることを望んでいないのだ。

ボス

1945年5月21日

7人いる我々の仲間グループは、エディ・マイエルと他に5人が加わった。合計で13人だ。この新しいメンバーは恐ろしいほど大量のバラン[物資]: 米、トウモロコシ、インゲン豆、魚、コーヒーを持っている。我々7人（ともかくも「持たない者」なのである）とひとつの仲間グループを作ろうとする彼らはとても好意的だ。こうあるべきだったのだとも思える。我々が炊事場から去ったあとにも、十分においしく食べれるのだ。オトは毎日サユール[野菜]を上手に炊いている。

ゴッキング

1945年5月21日

食べ物を分配する際に、ロプケとズワルトの間でののしりあいや喧嘩が、それも空腹の時にだ。しばしの安らぎと教養が何となつかしいことか。ともかく、きっと来る。平和が。…中略… 喧嘩のあと、新しい分配係りが採用された。

クラウト

1945年5月22日

午後1時に、上の階でファン・デル・ウエイとマオリテ（メナド人）との間で殴り合いがあった。あきれたもんだ。

クラウト

1945年5月28日

ホン[バラック]4号棟の二階にイスラエルと彼の息子たち（彼らはユダヤ人）が暮らして、下ではウィレムセンが座ってゆったりと本を読んでいた。その時、息子のひとりが窓から何か不潔なものを投げたため、それがちょうど彼の本の上に落ちた。ウィレムセンは怒りながらテーブルの周りを歩き、上に向かって怒り叫んだ。「これは借りた本なんだ。お前らは不潔な奴、汚いユダヤ人だ。お前たちはユダヤ人地区にすっかり慣れきっているのがわかる」要するに、なかなか手ごわかったのだ。

ゴッキング

1945年5月29日

ある収容所仲間が炊事場から米を盗んだが、彼は炊事班に属しているのにだ。彼を審議会に訴えたスカートゥは、班の責任者ファン・レー氏からこのことをほめられた。ひどいではないか。犯人は現在、収容所裁判所に出頭させられ、また炊事場をすでにやめさせられた。

クラウト

1945年5月30日

ホン[バラック]8号棟（少年棟）にいるリーゼンベルク医師とヨングブルート、このふたりの男が薪割りをしていた。数人の若い少年がこれを見物しながら言った。「この人たちを焼き上げたら、カリカリの脂身がたくさんできあがるだろうね」と。同じホン8号棟に住んでいるこれら少年指導員は、つまりすごいデブなのだ。

ゴッキンガ

1945年6月2日

ゼーハンデラーは、雑役班長と収容所監督は全員不正を行ったと言ったために14日間の雑役刑を受けている。オランダ人であるよりもヤップであるほうがましだとか。ルフト[収容所裁判長]とクンツェ[元メダン市長]等はみんな不正を行ったことなど。

クラウト

1945年6月5日

法廷が最近はまだ公開されない。これは時として興行の舞台となった。今は図書館の隅で行われている。今朝は、炊事場に従事していて、米を盗んだ者の件が扱われた。彼は率直に認めた。彼は自分の行為を理解できなかった。ともかくも何かを持ち去ろうとする単なる欲求からだった。数人の少年たちが証人として尋問された。

メンデス

1945年6月8日

「内務部」の役人さえも他の人の食べ物を欲しがったりしているのを見るにつけ、いらだちをここでも必要以上に経験するのだ。また、魚の特配に関しても、正当性というものが戦前と同じように依然と確立していない。



ボス

1945年6月9日

ホン[バラック]1号棟で夜中に大盗難が。15個のトランクが空っぽにされた。金、カッチャン[落花生]、米などが盗まれた。

クラウト

1945年6月11日

輸送班が魚などを盗んでいることはずっと前から知られていた。今朝、約1キロの魚が入った布で覆われたバケツが木材班のある少年によって収容所監督のところへ持ちこまれた。ファン・ダイク（教育調査官）は、川向こうで輸送班が完璧なるディナーパーティーを行ったと言った。輸送班による魚の盗みについて多く語られている。ドゥベ氏はこの連中をかばり、言った。「この魚はスカリラにより盗まれ、あとで取りに行くために道端に放り投げられるのだ。欧州人がそれを再びスカリラから盗む」。勝手にしろ。作り話。…中略… この魚の盗みは審議会で調査中だ。

ゴッキング

1945年6月13日

バラック内での多発する盗難に関連して、すべてのホンではヤシ油のランプが2個夜中に燃えていなければならない。「子牛がおぼれる前に井戸の…」だ。今ならできる。バケツの水さえも夜中に盗まれるのだから。

クラウト

1945年6月22日

魚の盗みが昨日調査された。何回も魚と野菜が盗まれたことが判明した。この盗まれた魚は、ファン・グリュウティンクによると、カシェ（デリ鉄道会社）の布の中にあったということだ。この布を彼は他のものに2枚の小さな布と引き換えに貸したらしい。犯人を挙げることはできない。そのため、輸送班全員をやめさせることに決定された。

ボス

1945年6月24日

何人かの少年たちの話を盗み聞きしたこと：「ぼくたちの父さんを仲間グループから“出してしまった” 食い荒らすだけだったから…」

ゴッキング

1945年6月24日

私の内臓がとても調子悪かった。 …中略… ファン・グリュエティングのところへ行ったらホメオパシーの薬をくれた。ベラワンでも私は彼の助けで回復したし、ここでも痔が完治した。彼は喜んで手助けしてくれる。ただでだ。

クラウド

1945年6月26日

裁判官は今朝またまた大忙し。ファン・ハーブスはマイエリンクをゲイで信用のおけない奴だとののしった。彼はひきょうだなど。

ボス

1945年6月28日

この収容所での不精さは頂点に。「彼はマラリアに感染しているのだからだをふるわず気持ちさえないほどだらけている」

ゴッキング

1945年6月30日

林で見つけたもの：やめさせられた輸送班が盗んで、自分たちのために隠しておいた一缶のヤシ油。恥を知れ。何と言う連中だ。

クラウト

1945年7月6日

マコン（フリーメーソン団員）間の助け合いの例。ラバレットとボットは「兄弟」だ。後者はラバレットの息子にスルンデン[おろしたココナツを焼いたもの]4分の一皿を代償に、ココヤシ1個でスルンデンを作ってくれと尋ねた。年長のラバレットはこれを少なすぎるとし、皿半分を要求した。ボットに注意もしないで、このココヤシは一日中、日差しの中に置かれてあった。夕方、ボットはなぜスルンデンができていないのかとラバレットに聞いた。ラバレットは4分の一は少なすぎると答えたため、ボットはそれならもっと前に言うべきだったのにと強情に主張した。年長のラバレットはご立派な紳士で、最高にエゴイスト。こうして人を深く知ることができるのだ。

ボス

1945年7月10日

ホン[バラック]ではバナナの分配で口げんかがあり、誰かがこれを注意して言った。「静かに。ここをおきまりのホンにしてはならぬ」。我々はずっと何か特別な存在（炊事場班のいるホン）であった。このままにさせてくれたまえ。

クラウト

1945年7月10日

新しい病棟の建設は好調だ。欧州人によってクギが持ち去られてしまうことはとても残念だ。建築家<sup>40</sup>ルーステンブルフが現在クギを配給している。

クラウト

1945年7月14日

灰汁<sup>41</sup>が彼らによって特別食用炊事場から盗まれた。これもまさにひどいこと。…中略…これからは菜園からウビの葉っぱを持ってくることはできない。おなべにこれを入れている

---

<sup>40</sup> ルーステンブルフは病棟の建設を監督した建築技師。

<sup>41</sup> 灰汁（アク）は灰と水で作られ、洗剤として使用された。

者は、出所を明らかにしなければならない。我々はきまりをさらに受けた。外からのチャベ[唐辛子]にもだ。

ボス

1945年7月17日

ある収容所仲間（HVAアムステルダム貿易協会の従業員）が2回も特別食用炊事場で不正に食べ物をもたらしてきたために、1ヶ月の雑役刑に処された。今言われているHVAの意味は：「haalt voor anderen(他の者のために取ってくる)」一方では、「heeft veel aanleg（多くの才能を有し）」が良かろうという意見だった。ナンバー3は「これは、heeft vuile ambities（汚れた野望を持ち）」ある言及されてないDSM デリ鉄道会社の男性については、「doet stiekem mee（こっそり加わる）」とされた。

クラウド

1945年7月18日

二人の収容所仲間が何週間か前に2回も続けて魚の煮込み作りを受け持った。今日は我々のプタック[部]が再び1キロのタマネギを入れたエイのシチュー作りの当番だった。この二人は自分たちの番のはずだと抗議した。彼らは最近にはとりわけ炊事場で働いていた。ファン・シュハイク（分配係り）は強気に何もあげなかった。あとで二人のうちのひとりが言ったそうだ。「まったくファン・シュハイクの記憶力はいまわしいほどに鋭いな」。まさに最高潮である。

クラウド

1945年7月19日

今日、私は伐採作業が非番だった。ヒュット（伐採班リーダー）のところへ行き、私が非番であること、そして数日前には木材が不十分であったと言った。氏は怒りながら降りてきて言った。「構わん。お前が木材を盗むくせして」。そのことばに私は、「いいかげんにしてください。では、失礼」と答え、引き返した。彼はさんざん恥をかいたのだ。ドゥベ（同じく伐採係り）が今朝木材を少し持ってきた。

クラウト

1945年7月20日

ヒュットは、今朝我々に他の者よりも余計に木材をくれた。私の考えでは、彼は昨日の午後のことは自分の間違いだったと認めたらしく、そのことについては何も話さなかった。

クラウト

1945年7月22日

今夜、8時頃にファン・デル・リンデン（バラック長）が来て、フランク・ファン・ゲントと私に明日からは伐採係りではなくなり、雑役運営部と他の雑役を検討せよと言った。ここではまるで自分がクーリーであるかのように扱われるのだ。我々の班は、斧が7本きりないというのに元炊事班の者を加えて増員（全12名）された。それでヒュット氏（HVAの主任アシスタント）は、突然、以前よりももっと少ない人を使って作業できるのである。

ボス

1945年7月28日

収容所住人の多くは：「ティラムの不平屋」または「ティラムの運動選手」〔ティラム＝マットレス〕

ゴッキング

1945年7月28日

カリでけがをして溺れ死んだ小鹿が見つかり、収容所の病棟へ運ばれた。肉が約10キロだ。これを持ち込んだ少年たち、およそ10人は250グラムもらい、処理したアウドマンとピカルドはそれぞれ半キロもらった。私はこれについてすぐに文句を言った。病人には不利となるため無償ですべきだったことを。何と利己的な。この件を収容所で組織的に告訴するつもりだ。

クラウト

1945年7月29日

当時、コーパーベルフ医師による第1回目の薬品回収の際、ファン・デン・ベルフ医師とスレッテナー医師も来て、薬品収集の発表前には魚油とタバコに代わってダジェナンとキニーネが病棟へ提供されたことを報告した。コーパーベルフ医師が要求する品を与えた。彼らはこのひどい行為を第2回目の薬品収集のあとも繰り返した。フッフナーヘルス医師が持っていた薬品に関しては、医師団はこれを服用させないようにと決定した。この紳士は薬を薬局に引き渡したが、もちろんすでに使用されていたのだ。ファン・デン・ベルフ医師とスレッテナー医師は、相変わらずダジェナン錠剤を私有しているようだ。ご立派なお医者様。

ゴッキング

1945年8月1日

スカートゥが炊事場の当番の時は、魚の特配を受けて、いつも私にも少し持って来てくれる。良い子だ。ボーイスカウトの団長マイエリンクはマラリアだ。彼は名を名乗ろうとしないあんなボーイスカウトの者からキニーネを1グラムもらった。彼はとても感動していた。

クラウト

1945年8月1日

今日の午後、私の隣人レナールデン・デ・ラバレットとまたけんかをした。ガブレック [乾燥キャッサバ] を下準備することについてだった。私は彼が他人事に干渉し過ぎると非難した。

ボス

1945年8月4日

明日、我々自身で作った「路面電車」がオープンする。二人の少年がそのそばに立って見ている。そのひとりが相手に向かって言った。「どうなってるの？ あした理事官がウンコシに来るのか？」返事：「まさか。BB（内務部）は今もう、見栄もクソもないんだよ」

ゴッキング

1945年8月4日

明日、新しいトイレが使用できる。これについてのジョーク：トイレにいた少年二人が新しいトイレの開設式について話していて、そのひとりが言った。「それでは、公式にウンつけるべきだね。でも、誰がするのか？」返事：「BB（内務部）によって」返事：「とんでもない。BBはとっくにクソつたれだよ」。これは多数の気持ちを表現したもの。

クラウト

1945年8月7日

明け方、彼らが私の上等な亜鉛のバケツを盗んだ。卑劣ないたずらだが、とにかく、あまり気にしてもしょうがない。病棟を建築する者26人のうち9人がやめた。彼らは食事の増量を望み、ルーステンブルフによる監督を評価していなかった。再び主に元炊事班の者が反乱を起こしたのだ。日本軍将校が屋根はりをした者にひとりづつ70グラムのタバコをあげた。ファン・ダイクとラバレットは自分たちの居場所についていつもけんかをしている。ひとりがマットレスをずらすと、他も続けて。

クラウト

1945年8月8日

私のバケツについてはまだ何も聞いていない。残念だが、それ以上に、運命をともにする仲間によって簡単に盗まれてしまうことが一層悲しくさせるのだ。他のところでは、中華なべとフライパンがなくなった。私は10ギルダーの賞金を払う約束を書いた紙切れを製粉所に張った。

ゴッキング

1945年8月11日

我々が聞いたことによると、アーケ・パミーンケにいる君たちはたくさんの物を持ちこむことが許され、雰囲気もすばらしいようだね。ああ、君たち女性をお手本にできたらいいのだが。この雰囲気は非常に悪く、お互いに助け合うなど何か未知なもので珍事なのだ。我々はみじめな人間、不潔で汚れている。何と言う男たちだ。

ゴッキング

1945年8月12日

シーメリンクは収容所の費用で一日につき75グラムの干し魚をもらっている。彼はマラリアで衰弱しているのだ。このようなことがまだ実行されるのはすばらしい。

ボス

1945年8月12日

マールテン・フィッサー（漁師）は炊事場でけんかした。ある者が彼に尋ねた。「どんな学校に行ったのか」。フィッサー：「普通のだ」。返事：「おかしいぞ。そこではいつもABCから始めるのに」。フィッサー：「どういうこと?」。返事：「やあ、どうも君の場合は、GVD (godverdomme 畜生) から始めたようだね」

ゴッキング

1945年8月14日

スカートゥはひどくおこりっぽい。雑役が厳しすぎるのか、それとも私のせいなのか？私だって不機嫌になることもある。私が行いを改めるべきなのか。…中略… スカートゥと話した。彼は収容所の生活でいらいらしていることを認めた。彼は全部自分のせいだったと言った。やさしい子だ。我々は、他人に対するよりもお互の間でもっと丁重にし、もっと自制することに努力し、一緒に最善を尽くそうと約束した。

クラウト

1945年8月16日

何人かの少年たちが鉄条網の外へ出たために、4週間の雑役刑を言い渡された。年配の者に対して、なげやりなのは注目すべきだ。



ボス

1945年8月19日

デ・フローム（ものすごいほらふき）は、8ヶ月も入院している。今度、新しい患者の提案で、朝食の濃い粥が薄い粥に変わった。デ・フロームが言った。「どうかね？こんな重大な変更の際に、私に内緒ですとは本当におかしなことだ。私は何せもっと強い権利をもっているのだから」（ウィリー・ワルデンまたはペーター・ペッヒの声で）収容所の新語：「あとひとこと言ったら、お前を粉々に打ちのめす」

ボス

1945年8月22日

ヤップは「上位」5名をリストに載せたい。（ベック、ブルッフマン、ワルラーベ、テイメル、スタールチェス）これら5人がベック（理事官で知事代理）を中心として、ランタウパラパトの本営に到着し、我々の「ファースト・マン」を見た時、日本軍の大佐が言ったそうだ。「だめだ、我々自身でやったほうがましだ」

クラウト

1945年8月22日

次のお笑いは、あの上位5人についてである。彼らはランタウパラパトのヤップのところに赴いたそうだ。ベックを先頭とした一団が入場すると、ヤップはすぐにも、「みなさんご苦労さま。我々は自分たちで実行すべきでしょう」と言った。

## 収容所外部との接触

ゴッキンガ

1944年10月16日

ブリューズ氏が日本人所長のもとに呼ばれ、「あなたの奥さんは、スタ・サトゥー・ブラン・マティ」[1ヶ月前に亡くなりました]との簡単な報告とともに彼の妻のトランクを渡された。考えてもごらん。これは我々みんなにも起こりえることなのだ。何という有り様だ。

クラウト

1944年10月17日

ブリューズは昨日、送られてきた奥さんのトランクとともに、彼女が9月25日にプラウ・ブラヤンで死亡した知らせを受けた。メルカートは奥さんが一年前に亡くなったとの報告をラウエ・シ・ガラ・ガラの人から受けた。

クラウト

1944年11月1日

ケース・ファン・ウェーゼルから私の妻と子供たちについての報告を受けた。幸いにも、みんな無事な様子で、ユーもとても元気だということで私は安心した。成り行きを見守ろうと、このことづけにあり。

ゴッキンガ

1944年11月3日

何ともうれしい日だ。君たちの手紙が届いた。日付がないが、我々がおよそ2ヶ月前に送った時と同じ日に書いたようだね。君たちが無事であり、健康であることは神様のおかげだ。君が私と同じ気持ちで書いたことが察せられるので、君の思っていること、言いたいことや感じていることを全て理解できる。君もきっと私がどんな気持ちでひとこと、ひとこと読み、感じたか分かると思う。本当にすぐそばにいますようで、それでもはるか遠くかけ離れている。手紙をもらってとてもうれしいが、つらい日であることは君も分かると思う。こうしている

今も、この不潔で汚れた混乱した状況のことが頭から離れないのだ。何と君が恋しいことか。…中略… 早く寝ることにして（仕方がない）、君のハガキのことを夢に見よう。ママさん、何と君は遠いところにいることか。再び会うことができないのではないかと、しばしばひどい恐怖心におちいるのだ。これは誰しもがきつと抱くであろう、時折の暗い気持ちなのだ。

ドライバース

1944年11月22日

ここでいかなるニュースからも完全に取り残されているというのは何と云っても不利だ。プラウ・ブラヤン収容所についても何も聞かない。何部かの「ニッポン・タイムス」は届いている。しかし、日付は1944年8月5日と25日であるから、時には面白いが、全部古いニュースなのである。近況などはやはり我々には知らされないのだ。そして君たちから何か便りがあるチャンスも当分ないだろう。

ゴッキング

1944年11月28日

本日、東京（日本）芝公園3にある日本赤十字社を通して私の父から62.587番のタイプされた手紙を受け取った。オランダ汽船会社が行ったようだ。その内容は、「ゴッキングS.、オランダ国スヘーベニンゲン、ベルギッシュェプレイン8 —anxious for news（一報を願う）—日付、1942年4月1日（1943年5月3日）—ゴッキング・ヘンリー・コルネイレ・ウォルター、蘭領東インド、サバン（消印；1944年3月27日日本赤十字社）、戦争捕虜救援サービス」何と言う扱いだ。これの返事は我々には許されていないのに。まったく無意味。要するに1943年5月3日には、父はまだ93歳の年齢で生存中なのだ。哀れなおじいちゃん。彼と再会できるのだろうか。

ボス

1944年12月7日

多数の者が再度、オランダ、英国、タイからの手紙を受け取った。私には残念ながらまた何もなかった。これほど待ち焦がれているのに。私宛に届いたものはバタビアより先へは送られなかったのだろう。

ボス

1944年12月17日

婦女子収容所から少年たちがシ・レンゴ・レンゴに到着した。フォルダースへはその中のひとりの少年がプラウ・ブラヤンにいる奥さんからのクリスマスカードを添えた小包を持って来た。フォルダースはすでにベラワン・エステートにいる時、つまり10月3日以前の8月28日に死亡していた。ベラワン・エステートからブラン・ブラヤンまでの距離はおよそ20キロで両方の収容所には電話があるのだ。

ゴッキンガ

1944年12月17日

君が私からの赤十字郵便を受け取ったと聞いた。…中略… [ママさんとミースからの手紙]  
「最愛の人へ、がんばってください。私たちも同じ思いで暮らしています。早急に平和で幸ある時が訪れ、再会できることを願っています。みなさん、良きクリスマスをお過ごしください。ミースとママより」。我々は君たちからまた良いニュースを受けた。ありがたい。小さなビン入りのテンテン [ピーナッツクッキー] とは何とすばらしい。長い間、食べたこともなかった。とってもおいしい。舌がとろけるほどだ。これを我々はデ・カイザース一家からもらった。クリスマスと正月のために取っておこうとは努力するが、できるかな？何と気持ち良いものだ。ミースの絵も手にして喜んでいいる。とてもきれいにかけてるし、ミースも何と立派になったことか。誇りにすべき娘さんだと、ゲルダーマンも言った。そのあと、君とPSV [農園企業学校協会] でのミースのスケッチがついている小さい紙でテンテンを包んだりもした。すばらしい。…中略… これらの便りに元気づけられる。本当にだよ。上出来だ。

メンデス

1944年12月17日

ブラスタギーとプラウ・ブラヤンから少年と男子の第2班目（約240名）が到着した。その中のひとりの少年から、一持ってきた1本の赤いクリスマス用のろうそくとパンツを1枚とともに一リーケが相変わらずとても活動的であり、子供たちに教理を教えているから、よろしくとの報告を直接受けた。プラウ・ブラヤンでも我々がシ・レンゴ・レンゴに収容されていることが知られていた。プラウ・ブラヤンでの食事は不十分であった。これら入手したニュースはあまり信頼できない。

ゴッキング

1944年12月18日

まるで収容所は聖ニコラス祭の様だ。みんなが他の収容所から来た少年たちから受け取った小包などを手に歩いている。また、これで雰囲気は少しは良くなるのだ。

ドライバース

1944年12月19日

[婦女子収容所から少年たちが到着] 要するに、様々なニュースが。グルゴールでも同じく赤痢が多発し、何人か死亡。日曜日には、フランス・コーエンとニコ・ファン・ゲルダーが到着し、二人はアルフ・コーヘンのところに収容された。ニコは父親に出会えずとても残念がっていた。彼らは君とニークからよろしくと伝えてくれた。加えて、君たちの菜園からのテロン [ナス]、ケテムン [キュウリ]、チャベ [唐辛子] のような野菜を少しもらった。さらに、アールデワイン少年から小さなビンに入れた塩魚とウィム・ポット・ホフステーデが持ってきた君の作った1945年のカレンダーをもらった。後者は多分、彼が年上であるからか、一番たくさんの情報をもたらした。

君はまだ教えているようだけど、きつとこっそりとでしょう。子供たちの話から正確な様子を得ることはむずかしいが、一般的に君たちのところの食糧事情はまずまずだという印象を受けた。私が十分なインシュリンを持っていることを分かってくれてうれしい。ヒルから私の手紙を受け取ったのかね。ビタミンBとCの錠剤をオハラ<sup>42</sup>を介して今後ここに届くようはかってくれたそうだが。…中略… 君たちがこの子供たちにこっそりと手紙を持たせるのをあえてしなかったことは理解できるが残念だ。いずれにしても、現在、君たちが元気に暮らしていることは分かったのである。一般的に、いろいろな収容所からここに到着した人々の情報はあまり興奮させるものでない。食糧事情はごく普通。扱いは悪し。多数の病人と死亡者。…中略… 結論としては、情勢が次第にとっても悪化していくこと、そして早急に終りをむかえる必要があることだ。

クラウト

1944年12月19日

[婦女子収容所から到着したアードリアンの報告] コーは1944年3月10日以来、生理がない。

---

<sup>42</sup> オハラはブラウ・ブラヤン収容所の日本人所長であった。

女性に多くみられる症状だ。…中略… 幸いにも、彼女は連絡メモとともに私の最後の手紙を受け取ったのだ。プラウ・ブラヤンではずっと長い間野菜を食べられない。アードリアンの様子からもこの食事の方が良く、量も多いことが分かる。スナップ写真とコーが書いた手紙をもらってうれしい。夕暮れ前に彼女はベッドの上で息子とたくさんおしゃべりしたのだ。

メンデス

1944年12月25日

11時に突然、私をやっと探し当て、妻のことづけを伝えにきたプラウ・ブラヤンからのハンス・ハーゲジーケルが目前に立っていた。

ゴッキング

1945年1月14日

来月に女性と子供全員がこの近くにある収容所、すなわち、欧州人（200人の丈夫な男たち）と中国人に今、建築の仕上げがされているらしいアーク・パミーンケへ移る予定だというニュースがずっと流れ続けていて気がかりだ。君たちがそこへ移ることになったなら、神様のご加護を願うのみ。

クラウト

1945年1月22日

新しいスカリラとの接触多数。しかし、タバコとの物々交換にだけ。

ゴッキング

1945年2月16日

アーク・パミーンケにいる人々にバラン〔荷物〕を送付することが許されている。我々はこれと同じきまりでアーク・パミーンケからも届くようにはかるべきだ。

ボス

1945年2月21日

スカリラのところでタバコが没収された。何百本ものタバコの細い束が金とともにヤップにスンゲイ [川] へ捨てられた。罰として、彼らは4日間サゴを食べさせられる。

ゴッキング

1945年2月21日

スカリラから400本のタバコの細い束約4キロが密輸タバコとしてヤップによりカリに捨てられた。収容所でこの価格は10グラムにつき3.50ギルダーから6.50ギルダーまでに達していた。罰としてスカリラは今日からサゴを食べなければならないとのことだ。冗談か、それともヤップはこれをみだらなことと理解した証拠なのかな。

クラウト

1945年3月22日

4時半に、25人の男たちがヤップのもとへ行かされた。欧州人の衣類が見つかった場所にいた原住民との対面。そのあと、当時、外に出ていた4人が行かされた<sup>43</sup>。何も成果を見なかったために、我々が点呼を受けた。雨のため幸い屋内で行われた。3人のガキを連れたヤップがホン [バラック] の中央通路を歩いて行った。全員が徹底的に観察された。

ゴッキング

1945年3月22日

密輸問題に関連して不意打ちの点呼。憲兵がランタウパラパトでC.R.と印のついた衣類を売り、罪を犯した原住民とともに現われた。彼は該当人物を指摘しなけりなかつた。HAPM[蘭米大農園会社]の全員は別に集合させられた。成果は皆無。犯人が名乗り出ない場合には、今度、カリを封鎖するとヤップがおどす。

---

<sup>43</sup> 「日本人による被抑留者の扱い」1945年2月24日、27日の抜粋参照。

ボス

1945年3月22日

ヤン・ホルツウィルダー事件。ヤンは「スマトラ新聞」を持ちこんだ。1ヶ月前に原住民がつかまった。ホルツウィルダーはおびえ続けている。ヤップは「ヤン」という名前と「トゥアン・ダリHAPM」ということだけを知っていた。HAPMからの者全員は正門へ行かされた。ホルツウィルダーは隠れていた。ヤップと憲兵とその原住民が収容所内を歩いていた。ホン[バラック]の中で点呼（雨天のため）。その原住民は全員の顔を見て回った。ホルツウィルダーの恐怖。彼は地面をはって、パリット[溝]へ、排出口へと…最後に、ふた付きのドラム缶の中に隠れた。ビル、ルイス、そして私は炊事場にいた。ルイスは不安げだった。結局、ホルツウィルダーは鉄条網の下をくぐって抜け出した。点呼の終了。我々も「観察」された。ホルツウィルダーは発見されなかった。全てがうまくいった。興奮高き昼。ヤップは不成功に終わり、ずぶぬれだった。この「スマトラ新聞」のタネは結局、残念にも干されたのだ。何とドキドキしたことか。

ボス

1945年4月12日

今日、郵便が届いた。何百通と。オランダからの赤十字社製用紙とジャワからのハガキ。中にはビル宛てのものあり。私には残念ながら今度も何もなし。

メンデス

1945年4月12日

本日、欧州、ジャワ、日本などからの赤十字社製用紙が届いた。しかし、ジャワにいる子供たちから私宛てのものが何もなかったのは大いに期待外れであった。なぜならば、いくつかの便りの中には最近の日付（1944年8月）のものがあったからだ。

ゴッキング

1945年4月13日

ジャワとオランダ、海外からの赤十字郵便が着いた。昨日亡くなったクランプは、ジャワに



いる奥さんからの手紙をずっと待ち受けていた。死亡直後になって、奥さんの手紙が届いた。痛ましい。彼の埋葬は今日の午後5時にあった。

ゴッキング

1945年4月14日

我々は再び、手紙を書くことを許された。まあヤッペンもまんざらでない。書いてはならないこと：収容所の名称、引越のこと、軍事またはヤップに不利となる記述（すばらしい扱いを受けているので、こんなことあるはずないのに）、暗号または秘密。ひとりに付きハガキ1枚のみ、住所を含め最高50語まで。読みやすい字、できるだけ活字体で、鉛筆またはインク使用、英語かマレー語で、全ての仕向け地にだ。違反した場合の罰は、今後、通信が絶対にできないことである。渡す期限は不明だ。ハガキは班長に渡さねばならない。

クラウド

1945年4月15日

我々は次のような手紙を書いた。アードリアン：「ママとアリへ。ここに学校はない。到着後、2月24日までパパからレッスンを。そのあと、ザイルストラ調査官から毎日1時間半。現在、パパがフランス語を教えてくれし、ぼくたちの健康状態はとても良い。ぼくはたくさん食べるし、体重は31.7。ママとアリのことをいつも思っている。3週間前にはぼくの誕生日だった。たくさんのキスを。アードリアンより」

私の手紙：「最愛なるコーとアリへ。アードリアンと私はとても健康。幸いにも、病気でない。私は彼の面倒をととても良くみている。他の人にもトウモロコシ挽きをしてるため、一層多く食糧がある。アードリアンはザイルストラから毎日1時間半、フランス語は私から受ける。早急の再会を願う。体重58kg。がんばって。3週間前にアードリアンの誕生日。たくさんのキスを。ヤースより」

ゴッキング

1945年4月16日

スカートゥはアムステルダムにあるオランダ汽船会社気付でおじいさん宛てに次のように書いた。「1945年4月。お父さんと私も元気ですが、ともに腹を空かしています。お母さんとお姉さんも今年の1月にはふたりとも元気です。みなさんによろしく。あなたからの赤十

字社製ハガキを受け取りました。お母さんとお姉さんに3年も会っていません。私たちはネズミを食べます」。私は君宛てに：「4月。ふたりとも健康、空腹、やせ細り日焼けしている。息子ははしかになったが、完全に回復。ふたりとも働いている。焼いたネズミを食べるが、チキン味が。息子がおじいさんに便りを出した。いつも君のことを語り、思っている。がんばってね。息子がミースとネティによろしくと。愛をこめて」。幸運を祈りながら投函した。…中略…

ママさん宛ての手紙を次のように変えた。「4月。ふたりとも健康、空腹、やせ細り日焼けしている。息子ははしかになったが、完全に回復。がんばっている。食用にネズミを捕まえる。チキン味。200人がいる小屋の1階に寝ている。息子がおじいさんに便りを、また、ミースとネティにもよろしくと。少量の予備食とヤシ油がまだあり。川で水浴し、毎日飲み水を沸かしている。愛をこめて」…中略… 来たる4月21日土曜日に、我々は全ての収容所の監督に宛てて死亡者に関連したリストの交換を願う旨、書く予定だ。まだまだいろいろと嫌なことがたくさん分かってくることだろう。心配だ。

ボス

1945年4月16日

抑留生活で2度目に（前回は7ヶ月半前）、我々はヤップから筆記用の粗末な紙を1枚もらった。「1945年4月16日。親愛なるみなさんへ 抑留生活（3年間）で2度目に書くことを許されました。とても元気ですが、非常に哀れな暮らしです。リーシェをいつもなつかしく思っています。多分、今年には再会できるかもしれません。母、父、リーシェ、バートによろしくお伝えください。心からTより」。許可されてないことは、収容所の名称の記載、ヤップに不利となる報告、引越等についてであった。

クラウド

1945年4月16日

用紙は今度の土曜日の昼食前に出さなければならない。収容所監督は、死亡者と若干の細目のリストを他の収容所宛てに送ることを許されている。向こうからもそのようなリストが要求されることになろう。

メンデス

1945年4月21日

折り返し、リークへハガキを送った。これが目的地に届くか、そして私も彼女の便りをもらうことができるか興味ある。

ゴッキング

1945年4月27日

2千人の女性と子供がここの近くのアーク・パミーンケにある収容所に到着した知らせが再び入った。かわいそうに。神様お助けください。これからどうなるのだろうか。

クラウト

1945年4月28日

プラウ・ブラヤンの女性たちがすでにアーク・パミーンケにいることは絶対確かなようだ。彼女たちは午前中に出発し、夜11時に着いた。彼女たちには十分に木材が与えられ、中国人のところで物資を買えるのだ。タンジュンバライの女性たちは明日発つそうだ。その婦女子収容所はアーク・パミーンケ駅から1.5キロのところにあるらしい。

クラウト

1945年5月18日

取引はあまりない。カチャン・イジョー[小粒のグリーンピース]は1キロあたり30ギルダーする。キニーネの取引等はなし。ヤップはスカリラのところで2つの籠に入った衣類を見つけた。このことは、ある収容所仲間がヤップ宛てに匿名で出した手紙の結果による。ご立派な紳士だ。ひとりのスカリラはヤップに丸裸にされた一方、その他のスカリラたちはチャンクル[鋏]作業刑を受けた。

ゴッキング

1945年5月18日

他の収容所で死亡した者の不完全なリストあり。まったくありがたいことに、君たちの名前はなかった。

クラウト

1945年6月16日

アードリアンは昨日、息子が2日前に亡くなったカウエナルのところへことづけを伝えに行った。アードリアンは、夕方来たファン・ダムにもことづけを伝えに行った。彼は、「あなたの奥さんはとても丈夫そうですよ」と言った。[アードリアンは1944年12月に婦女子収容所から来た]その時ファン・ダムに彼は「何かご質問があればなさってください。お答えしますから」と言った。「むずかしい」とファン・ダムが言った。そして「私の妻はもう白髪でいっぱいか」。「まだごま塩です」とアードリアンが答えた。インタビューみたいだった。

ゴッキング

1945年7月3日

スカートゥは炊事当番をしてから4時半に戻り、スカリラと炊事場からのキャベツ少しと交換した小さな一束のタバコとわらを何本か私に持って来てくれた。スカリラは「トゥアン・ミンタ・アピ」[火をお借りできますか]と言った。

クラウト

1945年7月9日

今晚遅く、連絡用紙が配られた。それは主に、ブラスタギーからの者にであった。

ゴッキング

1945年7月10日

オランダ、ジャワなどにさえ各地からたくさんの郵便が届いた。ブラスタギーからも何と早く4月の日付けで。我々にはない。とっさに我々は祈ってしまった。

クラウト

1945年7月13日

アーク・パミーンケにいる女性たちに衣類を入れた小包を送る機会がある。コーは私よりたくさん持っているので、何を送ったら良いのか分からない。唯一のものは、生きているあかしであろう。…中略… アーク・パミーンケに向けた小包は7月16日月曜日に出さなければならない。私はコーにアドリアンには小さくなってしまったズボンをアリのために送る。ズボンの前開きに手紙を縫いこんだ。

ゴッキング

1945年7月13日

衣類をアーク・パミーンケへ送ることが許されているが、ブラスタギーの女性たちだけへはできないことから、我々は君たちがまだブラスタギーにいるものとの結論を導き出した。どうかこれが本当であり、君たちがそこにそのままいられますように。それならすばらしいのだが。

メンデス

1945年7月15日

我々は今日、アーク・パミーンケ婦女子収容所へ衣類の入った小包を送ることが許され、私はそのため、生きているあかしとしてこっそりと鉛筆で「Jから愛と誠実、心からキスを送る」と書いた1枚の新しいハンカチをリークに送った。無事に届いたか、とても疑わしい。なぜならば、そのうちの多くが盗まれてしまうだろうからだ。

クラウト

1945年7月16日

女性たちへの小包の引き渡し時は大にぎわい。目的地に到達するか興味あり。…中略… アーク・パミーンケへかなり大量に送った人がある。名前と中身は通し番号で記録された。私は200番以上だった。さらに、中に手紙が入ってないことイニシャルで署名しなければならなかった。私の最愛の妻が前開きの中のメモを見つけられるかやはり気になる。変な場所だけれど、アリガズボンを試着する時には必ず、ボタン穴を開けてくれるよう母親に頼むだろう。だから、うまくいくことを祈るのみだ。

クラウト

1945年7月17日

小包係りは昨日、短い休憩を一度して午後6時まで働きづめだった。いっぱい大きな籠が5つあった。今日は、これから病棟とホン[バラック]8号棟（少年棟）の番が来るはずだ。ヤップは、これらの小包を彼の車に入れて持って行くと言っていたので、さぞかし驚くことだろう。ある人たちはやりすぎでもある。中でも木靴を8足送った人がいた。

クラウト

1945年7月20日

その日本軍将校は昨日、アーク・パミーンケを訪れた。小包は彼が持って行ったはずである。彼は女性20人の報告を1枚に書き込んだ紙を持ち帰った。ある女性は、彼女の書いたことに署名するのを忘れてしまったと、とても困惑すらしていた。

ゴッキンガ

1945年7月23日

便りを受け取った。そしてブラスタギーから我々に小包2つ。すばらしい。一種の生きているあかしだが、あまりにもわずかなものである。君たちふたりとも生存しているのか？元気が？知りたいことはたくさんあるが、でも一体全体、この白物をどうしたら良いやら。タオルはとてもうれしい。白い衣服はここでは今のところ何の役にも立たない。売れないし、目

下は無価値である。だから、しまい込んでおき、白物の中で窒息するほど。全くここでは役立たずなんだ。

クラウト

1945年7月27日

婦女子収容所で死亡した女性と子供40人のリストがある。

ゴッキング

1945年7月28日

日本軍将校によると、ブラスタギーの女性と子供全員はアーク・パミーンケに収容されているはずだ。ああ、ママさん、何といたましい知らせか。でも、やっとのことで。何といたましい知らせか。君たちが向こうに居続ければとどれほど願っていたことか。ここと同じようなマラリアや赤痢での混乱状態にあるならば、君たちに神様のご加護ありきを願う。君たちは最悪の収容所である第3収容所において、我々の収容所の死亡者リストを君たちは知っているはずだ。これには大勢の人がびっくりもしたであろう。

クラウト

1945年7月29日

93人の名前が載っているこの収容所の死亡者リストは、日本軍将校により婦女子収容所へ手渡されたい。この将校は彼の上官にいろいろとあたっている。コーが私の手紙を受け取ったこと心から願うのだ。

ゴッキング

1945年8月4日

小包を1個君たちのところ、アーク・パミーンケへ送ったが、その中身にはエプロン4枚、PSVのアンダーシャツ4枚、ブラスタギーの蚊帳1本、枕カバー1枚を古いキモノで包み、118の番号で、神のご加護が君たちにあらんことを心から祈るとともに。我々の名前の中で下線を引いた文字OとKは分かったことだ。エプロンに印刷されている重量に+32と書き足して

我々の体重を表し、印刷された「packed」の「ed」を削って「ontvangen受け取った」と書き足し、差出人はH+Sと記した。つまりふたりは生存中。…中略… 小包の第一便は、無事到着を知らせる収容所監督ハイマンス夫人の報告ではアーク・パミーンケに到着。これで我々の小包も期待できる。

メンデス

1945年8月13日

アーク・パミーンケ婦女子収容所からのニュースが、スホーンベーフとペニンクによってもたらされた。彼らは女性たちの精神力を語った。食事はこことほとんど同じ。赤痢とマラリアは少ない。約80人の病人がいて、その多くが足の傷。

ゴッキンガ

1945年8月14日

英国とオランダから1100通の赤十字郵便が届いた。…中略… まるで祭日だ。その郵便物の中に4月17日の君たちからの1通があった。君たちが無事だということが分かってうれしい。安心した。神様のご加護に感謝する思いだ。これはブラスタギーとランタウパラパト間4ヶ月かかった速い便だった。参った。

メンデス

1945年8月14日

今日再度、郵便ハガキの一便が届き、その中にリークから私宛てのが1通あったが、そのハガキが4月に出され、プラウ・ブライヤンで書かれたものであったけれどうれしかった。要するに、4ヶ月前なのだ。

クラウト

1945年8月14日

午後、連絡用紙が配られた。幸いにも、我々にも1枚あった。とてもうれしかったが、この手紙はおよそ4ヶ月も歳月を要していたのだ。内容は次の通り。「最愛の夫、そしてアード



リアンへ。健康、体重私52、アリ21。通信簿、尿良好。ヒルとも前より一層良好。菜園良好。雄鶏4羽。アードリアン、そしてパパもお誕生日おめでとう。ふたりとも元気なことを願う。アードリアンはパパと仲良くやっている？最愛のヤヌスへ。あなたとアードリアンを想いつつ。コーとアリからキスを」。それでもまた妻のことが知れるのはすばらしい。彼女の体重がだいぶ減ったことが気がかりだ。愛する妻よ、がんばっておくれ。また一緒に暮らせるようになったら、すぐにもばんかいさせようね。

## 戦況の報道と流言

ボス

1944年10月8日

「スマトラ新聞」10月3日のニュース。米軍は、何百機もの航空機に援護され、ジークフリート線上を攻撃開始。アーヘン近郊で開始された同攻撃は、この戦争で最大級のものであった。ベルフォール付近を突破。ビルマ：英印軍がモガウンへ進軍。ヤッペンに周囲150キロを撤退。ソ連軍はベルグラードから40マイルのところ。バルカン半島のドイツ人20万人が監禁される。チャーチルはある演説で言ったそうだ。「欧州での戦争はさらに1945年まで続く可能性がある」（もちろん、彼のことばが完全に歪曲されているのだ）。

メンデス

1944年10月14日

聖ヨーゼフスクールから男子が今夕到着し、魚雷攻撃にあい、溺れて輸送された兵士のとても悲惨なリストを持ってきた。このリストには、HVA [アムステルダム貿易協会]の従業員21人を含む、およそ105人の名前が載っていた。これは収容所の人々にとり、各自が抱えている嫌な気持ちに加え、意気消沈させたことだった。もたらされたその他のニュース：連合軍はブダペストから60キロにあり、また、アーネム近郊の橋頭を制御しており、リューネブルク原野へ進攻予定。ギリシャに上陸。ワルシャワがドイツ軍に再占領される。タイとサンギール諸島が連合軍の手中に。

クラウト

1944年10月25日

うわさ：ピラのスルタンが収容所の管理をまかされる。近衛が政権を握る（日本）。皇太子の息子をリーダーにドイツで革命が。ドイツの軍艦4隻がスウェーデンへ向け撤退。期待とすところだ。

メンデス

1944年10月29日

「スマトラ新聞」ラジオが、ヘルゴラント島上陸、アーヘン全滅、東プロイセンとブダペストがソ連の手中にあり、台湾上陸とルソン島（フィリピン）上陸を伝えた。

クラウト

1944年10月31日

1944年7月20日、ヒットラー暗殺未遂。彼は軽傷を負った。引退した大将と、その他ある人物がベルリンにいる司令官のところへ行き、ヒットラーの死亡と彼らが政権を代わって握るであろうと伝えた。この司令官は彼らを捕らえ殺させた。ヒットラーは7月24日に演説を行った。ゲッペルスが国内の指導者で、その下にヒムラー。要するに、いろいろあったようだ。

ボス

1944年11月1日

ウィングフートで収容所仲間ウェーダに盲腸の手術を施したことがあるスモーク医師の談話（「スマトラ新聞」ニュース）：「欧州北部2地点に連合軍上陸、ひとつはブレーメン近郊、他はユトランド。ヘルゴラント島は完全に連合軍の手中に。ブダペスト陥落。オランダ全土が解放される（ありがたいことに）。東プロイセンはソ連軍の手中に。ジークフリート線上2地点を突破。フィリピンでの最初の上陸はレイテ島で行われたが、これは偽装上陸だった。その後、台湾上陸が実行され、ここで戦闘はほとんど終了した。その後に、ヤップがルソン島に上陸した当時と同じ場所であるフィリピンのマリラ北方にある入り江、リングエン湾に再び上陸が行われた」。ここ最近の10日間は、新聞には欧州に関して何も伝えられていないようだ。スモーク医師は、「あとせいぜい3ヶ月は続行すると言ってもよかろう」と言った。これが本当ならば…

メンデス

1944年11月4日

本当かうそか、皆目見当がつかなくなるような、すばらしいわさが流れている。非常に残

念だ。なぜならば、全ての苦悩がすぐにも過去のものになるとを示すようなことがあるからだ。

クラウト

1944年11月5日

ものすごいうわさが再び立ち上っている。米軍がベルリンに等。こうして信頼できるニュースがない時は、いつもみんなが空想にふけるようになる。

ゴッキング

1944年11月7日

スカリラが、マラッカに連合軍が上陸したこと、そして彼らは今、日本の皇軍に配属され、そのため新しいユニフォームを着ていると言ったらしい。

クラウト

1944年11月18日

ここ5週間にわたり、何のニュースも聞いていない。全てどういう方向に進展して行くか、非常に気がかりだ。ヤップは、我々に何の食事も出なかった時は、ブスーク・セカリ[最悪]であったルーズベルトに責任があったのだと言った。これが当然、彼らには不都合なのだ。

ボス

1944年11月18日

7月と8月の「ニッポン・タイムス」30部：「チャーチルがこれまでに行った中で一番楽観的な演説。欧州での戦争は10月に終了されえると期待。米国でも、戦争がに二・三ヶ月のうちに終了することが一般的観測。反米プロパガンダ：野蛮な米国人、戦死したヤップの頭蓋骨と骨を本国にいる妻に送る。ヤップの上腕骨で作ったペーパーナイフをルーズベルトへ進呈。東京のあるローマ・カトリックの高位聖職者はこれを非難し、全ての米国人を滅亡するべきことは明確であり、これが実行されない場合、米国人は、9千万の日本人全ての骨をガチャガチャと集めるまで安心できないだろうからと言った。ヒットラー暗殺未遂に関する詳細。

特殊戦闘部隊英国艦隊（フレイザー大将）が太平洋へ移動。首相が聖なる啓示と天皇家の勝利を期待する」。良い傾向の報道。あとどれくらい？

メンデス

1944年11月20日

今日もまたうわさに明け暮れた。すなわち：アルー湾（パンカラン・スス近郊）上陸とタンジュンバライ爆撃。

クラウト

1944年12月8日

あとどれくらい？ここ2ヶ月にわたって何も聞いていない。有線ニュースも入らない。こんなことは初めてだ。ラウエ・シ・ガラ・ガラからの人々は1年間何も知らされなかった。

クラウト

1944年12月10日

8月22日、23日、24日の「ニッポン・タイムス」は、またも陰気だった。チャーチルが欧州での戦争は今年中に終了するだろうと発表した。ある攻撃のために、ヤップによれば76個師団が準備されていて、英軍戦闘機5千機、米軍爆撃機2千機。日本を巨大機B29が空襲。ヤップはその出撃地を知らなかった。中国人4万人以上がこの巨大機用の飛行場に従事した。…中略… 日本国内の状況も悪いようである。国民にはずっと緊急事態が指摘されていた。軍事力、生産の増大など。周知のことだ。

クラウト

1944年12月11日

しばらくぶりに再びうわさが。ビルマでの戦闘は終了した模様。ベルンハルト王子がオランダに。長崎が重爆撃。不意打ちなこと：日本が和平を要求したようだ。欧州その他の国々については、11月の新聞に何も載っていなかった。最新のものはいわゆるカワット（有線）ニュースだった。

クラウト

1944年12月12日

うわさ：ソ連と日本間で戦争。さらに、日本との停戦交渉が進行中。このサトー（所長）は、ある少年に「収容所にいる君たちは、戦争がどうなっているかよく分かっているはず」と言った。

ゴッキンガ

1944年12月13日

ヘンドリックス（隣人）が今日、大きなこと、例えば停戦とか何かが起こると言い、いずれにしても彼は大きなことを予言したのだ。しかしまあ、ありえる。まだ正午だから。

メンデス

1944年12月16日

夕刻に、ブラスタギー収容所とグルゴール収容所から少年97人とブラスタギーと聖ヨーゼフスクールから少数の男子が到着し、女性たちについての特別な報告等、種々の死亡報告、また、ドイツに革命、オランダでの戦闘が続行、連合軍艦隊は欧州を出港し、インド洋へ向かうことや、フィリピンと台湾の占領、そして中国沿岸とクラ地峡に上陸など、様々なニュース報道やうわさを持ちこんだ。メダンラジオ放送局：侵入時には、鐘の音や砲声でこれが知らされる予定。

ボス

1944年12月16日

ニュース（信頼できる？）：連合軍はケルン東方80キロに進駐。ジークフリート線上多地点を突破した。デュースブルクを占領。ドイツ軍はロンドン、ブリュッセル、アントワープを砲撃するためにV-2兵器（長距離ミサイル）を使用する。北イタリア、恐らくドイツでも革命が起こった。ドイツでは新政府が成立した模様だ。4日前からドイツとの接続が全て途絶えた。11月15日、オランダではムールダイク近辺など川沿いで依然戦闘が行われた。ソ連軍がダンツィヒとウィーンを占領。連合軍が台湾、フィリピン、セレベス島占領に成功。ファン・デル・プラス省知事は、マノクワリ（ニューギニア）から原住民社会に向けてラジオ演

説を行った。メダンでは、スマトラに「敵」が上陸した場合にベルがなることになっている。全ての自動車が破壊されることになろう（当時の我々の場合と同じように）。ビルマ：連合軍、攻勢に成功。ビルマの部族はニッポンに対して反乱を起こした。コロンボに極東向けの連合軍艦隊（米軍、英軍、イタリア軍とフランス軍部隊）が到着した。

メンデス

1944年12月25日

ニュース：ノルウェーをドイツ軍が撤兵。デンマークは奴らによる撤兵が予定され、スウェーデンへは最後通告が。ギリシャが解放され、オーストリアの大半は占領中、東部戦線に関しては10月以降不明であり、西部戦線に関してもすでに長い間何も報道されていない。ニコバル諸島を英・蘭軍艦隊が攻撃した。サバンが爆撃され、ベラワンでは40機の航空機による爆撃が、日本は四六時中爆撃が。（ウイングフートのステーンが報告したニュース）。

ボス

1945年1月1日

少年ふたりが加わる。ファン・デン・アッカーという婦人からの手紙を持ってきた。「定期的に鳥が飛んで行く。時々、落ちてくる小さいボール。すばらしい灼熱の空」。というわけで、ベラワンで爆撃があったのだ。少年たち自身も爆弾が落下する音を聞いたということだ。

ゴッキンガ

1945年1月4日

ここの輸送班は、ランタウパラパトで空襲警報を10時から2時まで体験した。原住民は車両の下に隠れ場所を探さねばならなかった。欧州人はそのそばにいることを許された。近くまで来ているようだが、ああ、あとどれくらい？もうこれ以上耐えられない時がある。悲鳴をあげたくなる。

クラウト

1945年1月7日

今朝、29人の新しいスカリラが鉄条網沿いを所長と一緒に歩いていた。交代だった。話によると、その中にはいい奴もいて、すでに接触が行われたのだ。そのひとは次のように語った。「1月4日にメダン飛行場が爆撃され、同時に、ポロニアにある航空機部品の修理場も。駅は機銃射撃を受けた。10日後に復帰予定と書かれたビラがメダン上空より。多数のスカリラが戦死し、激戦となったアチェ襲撃。ベラワン上空で航空機が撃墜され、搭乗員はパラシュートで無事避難。これらはランタウパラパトの空襲警報と一致する。クサワンは完全に放棄された。彼らは最近訓練されたスカリラだ。新しい見張りの話が盛んに語られている。ヤップが塹壕にいる間に、飛行場では多数のスカリラが死亡した模様だ。この連中はパダンへ向かうはずであったとヤップが言った。報酬に関しては、スカリラは無視されている。

クラウト

1945年1月10日

うわさ；コタラジャは3日間の戦闘のあと陥落した。3千人のスカリラと6百人のヤッペンが戦死した。

ゴッキンガ

1945年1月16日

ものすごいうわさが流れている。スカリラは、我々が今月に出られることに賭けたがっている。話によると、もともと女性の訪問によるものというニュースが今なお続いている。何人かは、これが最後の月と信じきって非常用の食糧を平らげてしまった。私自身は、もう少し長い時期、だいたい今年の後半と考えている。

ゴッキンガ

1945年1月19日

ルーズベルトが、太平洋戦争はまだ長い間続くであろうと語ったそうだ。このひどいところでクリスマスを祝うことになるのかは神のみぞ知る。



クラウト

1945年1月21日

1944年9月17日の「ニッポン・タイムス」が読み上げられた。アーヘン攻撃、ルーズベルト - チャーチル会談、（ドイツ陥落後に日本を全滅）。ソ連軍はソフィアに。フィンランド軍はドイツ軍に対戦。英印の物資は中国へ送られる。B24爆撃機は2時間半でそれを遂行。マウントバッテン卿は上陸用舟艇を欧州に貸与するためにビルマ攻撃を延期した。

ゴッキング

1945年1月23日

ここで上役に出会ったあるスカリラは、事実、コタラジャのスタッフ商店とサバンのヘルダーマン社が占拠され、ニルワナも明け渡されたが、南部に所在のものは今だに同じだと言った。鳥の数が増加しているが、狩られることがないので不思議でない。追うものも何もいないし、だから、彼らは一層厚かましくなるのだ。

クラウト

1945年1月26日

サバンとコタラジャが占領されたうわさが。日本に毎日爆撃が。クラ付近の地峡で戦闘が。日本の上空からビラがまかれたらしい。

クラウト

1945年2月1日

ナイメーヘン南方で戦闘、また、アルデンヌ高地では戦車戦。ドイツ軍がマジノ線を防御。ドイツ軍はV1を使ってロンドン、アントワープ、リエージュを狙っている。ワルシャワ南方とブタペストで戦闘、ルソン島戦。フィリピン人はヤップを背後から攻める。ヤップ総理大臣は緊急事態を指示。新聞には1月7日から21日まで欧州について何も出ていない。アキャブに上陸。パンカラン・ブランダンとパレンバンが重爆撃を。

ゴッキンガ

1945年2月2日

昨日、ランタウパラパトで空襲警報があった。我々の輸送班がそこに到着した時、赤い旗がおろされ、緑色のが揚げられた。毎日のようにあるらしい。我々とはどういう関係があるのやら。

クラウト

1945年2月5日

今日もまた新聞10紙から集めたような様々な話がのぼっている。中国軍は上海と広東へ進軍。米軍がセレベスとアンボンを一部占領。米軍がミュンスターへ進攻。航空機125機のうち何機かがメダン上空からビラをばらまいた。米軍は早々にこの支配者になろう。毒づきながらヤップは書きしるす：それなら、まず最初にアンブン[許し]をニッポンに願えでろ。ニアスが占領される。

ボス

1945年2月7日

1月25日の「スマトラ新聞」の報道：マース川沿いとルールモントとガイレンキルヒェン近郊ゲールトラウデンベルグ東方で戦闘、英軍がガイレンキルヒェンを攻撃。…中略…ものすごい失望感。私ははっきりと確信していたのだけれども、オランダはまだ完全に解放されていないのである。違う報道では、すでに10月には解放されたはずなのに。そして今、ブラバントとリンブルクだけが連合軍の手中にあり、その他は未だ占領されているようだ。さらに、オランダはもう何ヶ月も戦場となっていたとのこと。まったく消沈してしまう。どうなるだろう？何が起こったのだろうか？みんなは無事だろうか？いつになったら分かるのだろうか？いつ安心できるのだろうか？ひどいことだ。

メンデス

1945年2月7日

もたらされた信頼できる情報はすばらしい。ソ連軍の冬季攻勢、ブレスラウとメーメル川流域が連合軍の手に。西部ではストラスブール近辺まで進軍、「日本の敗北もしくは勝利はフ

フィリピンでの戦況に依存する」等との日本の総理大臣の非常に悲観的な演説。また、彼はドイツの復帰を期待した。ビルマでは、ヤップが連合軍の大勢力に向い合っている。メダンに投下されたビラは、そのいくらかがプラウ・ブラヤン収容所にも落ちてきたらしい。期待ありき。女性たちを元気づけるだろう。これらの情報がきっかけとなって、様々な人々が早急に（2・3週間内とすら）終わることを予期しているのだ。

クラウト

1945年2月10日

1月9日と10日にルソン島上陸。レイテ島では米軍部隊8個が上陸。1944年6月16日に初めてB29戦闘機が日本上空を飛来。その日から現在までに14%（178機）が撃墜されたらしい。フィリピンではミアウエ湾とバンコンガ川に2回の重爆撃、また、ルパ湾と、2月3日にはルソン島西部（サン・パレット）に上陸が。…中略… 2月5日、フランクフルト・アン・デル・オーデル近辺にソ連軍が。ドイツ人の密告で、ジークフリート線に大きな突破口が開かれた。そこから、何十万の連合軍兵士がドイツに入っている。終戦は私の見るところ間近である。早急に、最愛の妻子との再会が実現することを望む。日は昇るなり。

メンデス

1945年2月13日

ものすごいうわさが漂い続けている：ベルリンが占領される。ヒットラー自殺、ゲーリングとヒムラーが暗殺される。ヘスがベルリンに戻る。東欧の解放地域及び日本とのソ連同盟、反米英。

ボス

1945年2月14日

2月4日の「スマトラ新聞」記事：ヴァルテ北方でソ連軍はオーデル川（ベルリンから約100キロのところ）を制覇した。…中略… フィリピンでの日本の軍令：「レイテ島を奪還せねばならない。さもなくば、兵士の日本帰還が許されないからだ。陸軍が勝利を遂げない場合、海空軍も同じくこれを遂げることはできない。日本の運命はフィリピンにいる兵士の手中にある」。

メンデス

1945年2月22日

うわさが漂い続ける：スマトラ西海岸にあるタパッチェアン、ベンクルン、ベンガリスに上陸、パダン前方にあるメンタワイ諸島占領。マニラとビルマが占領され、マラッカでは戦闘、スマトラの各地に爆撃続行。

ゴッキンガ

1945年2月22日

つまりは、渡り鳥の大群：私自身はそれをこの目でみたことがないが、「来月には終了」と言われている。この世の明白でごく普通のことであるかのように「テントュー」[確実に]。

ゴッキンガ

1945年2月25日

ファン・デル・フェルデが言っていること：満月の2日後、つまりは3月2日に攻撃が実行される。そう願う。

メンデス

1945年2月27日

また、幸いにも、人々がまさしく必要としている勇気を出させる「金縁」の情報もある。というのは、みんな待ちに待ち続け、終わりが一体来るのかと疑問をいだき始めているからである。ビルマ全域が占領され、北マラッカで戦闘が、フィリピンの一部の地域を除き占領される。連合軍機動部隊はスマトラからオーバーウォールへ向けた日本軍部隊の不測の移動を妨げるためにストラート・マラッカで作戦に出る。プラジョーは、ヤップが防御できなかったため壊滅的爆撃を受けた。なぜならば、彼らはこれに関して知らされたのが遅すぎ、ジャワから航空機を送らせることができなかったのである。東欧ではソ連軍がベルリン東方にある湖の近辺に駐軍。

メンデス

1945年3月3日

ペナンとシンガポールが占領され、ヤップに爆撃されたらしいとかのうわさが漂い続ける。スマトラで列車は夜間にのみ走行し、自動車は全部なくなり、自転車は解体されてしまい、また、ヤップは工場を破壊する作業に取りかかっているなどだ。

クラウト

1945年3月3日

今朝はココヤシなしの粥。輸送に困難が多数生じているらしい。魚と野菜はその全部が腐って今日の正午に届いた。全てを破壊せねばならぬ。ヤップはブラスタギーメダン線間北側にある鉄橋を破壊したと言われている。自転車のペダルは除去され、要するに破壊部隊はその任務を実行しているのだ。その他にアチェでの戦闘に関する話が出ている。2月18日の新聞には、ペナンとポート・ワラバイがすでにヤップに爆撃されたと出ていたらしい。シンガポールで三方からの襲撃のうわさ。解放が間近いことを願おう。

クラウト

1945年3月6日

もううわさがない。大半の人々の忍耐は尽きた。どんな話にも不信を抱き、「金縁」と言われるものさえにもだ。

クラウト

1945年3月8日

あるヤップが語ったらしい。「ブラン・デュア・ミンゲー・ハビス」[戦争はあと2週間したら終わる]。セラワク、リンガ島、リアウ諸島占領についての話が広まり続けている。ひとりがシンガポールは陥落したと言えば、他方は米軍が1日に20キロ進攻していると言う。あるヤップも、米軍が2.3ヶ月後にはここに来るはずだと言った。対抗できなかったのだ。ヤッペン山間部に行くようだ。列車は夜間にのみ走っている。

メンデス

1945年3月9日

収容所のヤッペンも「あと14日ここに留まり、そのあとは山間部へ行く。なぜならば、連合軍が来たら低地で戦わず、山間部で抗戦することになるだろうから。自分たちの資材はもうあまり適切なものでないが、米軍のはまったく逆なのでこのことを計算にいれている」と報告するようになったのだ。

ゴッキング

1945年3月10日

連合軍は一体どこに？「空騒ぎ」の気分になってくる。我々はここに完全にそれこそ完全に閉じ込められている。全てが密閉状態。

ボス

1945年3月11日

「スマトラ新聞」のニュースは（信頼できる）。ラングーンが包囲された。シンガポールは陸地側を英軍に、そして海側を米軍に包囲された。

ゴッキング

1945年3月12日

ヤップは、米軍が火縄銃を大量に持っていたこと、また、反撃がうまくいかなかったことを伐採班の者たちに言った。米軍はその時どこにいたのかとの問いに、コタラジャと言い、笑い出した。まったく何と云うことだ。この狭い鉄条網の世界には耐え難くなる。君がとっても、とってもなつかしい。

クラウト

1945年3月12日

話：ヤップは食糧と貯蔵品をシデカランに集めている。このヤッペンは野戦時の必需品を

整えるらしい。…中略… 我々は軍政部のもとに置かれるとのうわさが流れている。…中略… あるヤップは今日、まったく気狂いじみた話をした。コタラジャに落下傘兵たちがと。…中略…

米軍はラリ[敗走]等をするそう。要するに、いくらかその気配はしているのだ。以前なら彼らは絶対にそんな話をしなかつただろう。

ゴッキング

1945年3月22日

ホスピタル・ヤップがここでは食事、場所等に関して非常に悪かったと文句を言ったら、我々の医師のひとりがこれに答えた。「我々も同様だし、加えて自由も奪われているのである」。そのヤップが答えた。「ご心配なく。来月に我々が死に、君たちは自由に」。

ボス

1945年3月24日

ヤップは活気なく、彼らの苦境をブランダ[オランダ人]に訴えている。「君たちは近いうちに解放されるが…我々は…」。出っ腹のサミーとホスピタル・ヤップの悲観度は非常に大きいのだ。

クラウト

1945年4月18日

あるヤップは、日本は米国と交渉中だったと言った。日本は撤退こそするが、満州国などいくつかの地域の保有を望んだ。車の運転手は、ベルリンにはソ連軍がいると言った。望むらくは。

ゴッキング

1945年4月20日

再度、ヤップから葉をもらった。これは戦況報告や新聞紙で包まれていた。面白い。大きなクンプラン[会談]がベルリンで、等々。

クラウト

1945年4月23日

3月18日の新聞記事:ベルリン陥落。スターリンが駆り立てた晩餐会がベルリンで行われた。ドイツから連合軍オランダ北部に侵入。ラングーン陥落、その際、7万5千人の連合軍兵士が犠牲となったらしい。琉球諸島のひとつが占領された。その結果、日本は定期的に爆撃されることとなる。特殊戦闘部隊がハルマヘラ島近辺に。1月中旬の「ニッポン・タイムス」は、185個師団によるソ連軍の大攻勢を伝えた。いずれにしても、上々だ。…中略…

ふたりがウィングフートの病院から戻った。ルーズベルトが心臓マヒで死亡した。ソ連軍と連合軍が会談した。日本の内閣は辞職し、近衛を背後に、華族や財界人による内閣に代わったようだ。交渉についてうわさは、一体、本当なのだろうか？次のような追加の情報がさらに出回っている。すでにニュールンベルクを占領し、ミュンヘン方向へ進攻。ソ連、米国、英国がブランデンブルクで会談する。カナダ軍と蘭国軍はハンブルクも占領したあと、東からオランダに行軍している。琉球諸島全体が米軍の手中に。神戸が重爆撃を受ける。高射砲なし。長崎が壊滅。この町に対しては1500~2000機の航空機が遂行した。真珠湾どころでない。この攻撃のおよそ7倍。さらに、日本における内閣改造は非常に重大。ルーズベルトの死去へは深い遺憾が表される。

これらのニュースは収容所内の雰囲気を再び明るくしたのだ。ヤップの態度もとても柔軟である。殴打されることがもうない。日本軍将校はスカリラが魚を盗まないよう毎日そばで見張っている。同様に、収容所監督と話し合える参謀将校が医師とともに来るということもその特徴を表している。また、日本軍将校が日曜日（4月22日）夕刻の9時半になっても収容所監督を視察<sup>44</sup>したこともその特徴を表しているのだ。これで終わりも間近とうかがえる。

クラウト

1945年4月26日

東京が米軍に占領されたうわさがのぼる。…中略… 東京が米軍に占領されたという話は、ルーズベルトが死去したと、10日前に伝えられた時と同じ出所であるが、かかるニュースの発表は許可されていなかったのだ。さらに、この消息筋はマラッカでの戦闘を常に否定していた模様だ。

---

<sup>44</sup> 「収容所組織 — 欧州人並びに日本人幹部」1945年4月23日の抜粋参照。



クラウト

1945年5月2日

うわさ：3ヶ月分の食糧が再び入荷する。ジュネーブで日本との停戦交渉が進行中であったが、結局、中断した。要求：東インドの欧州人をすぐに解放し、かつての職場に復帰させ、2ヶ月分の給料を彼らに支払うこと。

ゴッキンガ

1945年5月4日

ヤップは日本とアメリカとの話し合いのことに一辺倒。…中略… アメリカとの和平協議とそれがドイツで終了したことと同時に、近日中に行われる引越についてのうわさが漂り続けている。女性たちはすでにアーク・パミーンケいるらしいこと、家族収容、また、一人につき45ギルダの支払いで雇用がなされること等々。これはまったく神経戦だ。スローガンは「アパ・ボレー・ブアット」[仕方がない]、しかし、無意識のうちに不安でいらいらの気持ちにさせるのだ。

ボス

1945年5月6日

4月23日の「スマトラ新聞」からのニュース。ベルリンでは中心部と西部を除いて激しい戦闘が。…中略… パリで参謀長は組織的なドイツ軍の抗戦は現在終了したことを認めたが、楽観のし過ぎに対し警告した。この抗戦はまだ長く続く可能性もあり。（ルーズベルトが死亡したうわさは正しいことが明白となった）。…中略… 日本の新内閣は華族で元大将の指揮下にある。

琉球諸島南方にある沖縄本島で激しい戦闘が。東京、横浜、神戸が重爆撃を。

ボス

1945年5月7日

ヒットラーがこの5月3日に死亡したとのうわさ。

クラウト

1945年5月8日

4月24日：沖縄本島は米艦隊により完全に包囲された（4月19日）。米軍3個師団が砲撃隊の重攻撃による援護を受けて上陸。重爆撃。本土と九州が爆撃される。70機のB29が神戸を、24機のB29が横浜南部を爆撃。79歳の首相官邸が火炎で包囲された。4月1日：マンダレー南方に英軍が。

ボス

1945年5月9日

オランダが今、蘭国軍部隊とカナダ軍との合同で完全に解放されたようだ。いたるところで、再び赤白青がはためいている。オランダでは急きよ、オランダ警備隊が編成された。どうかこのうわさが本当でありますように。

クラウト

1945年5月10日

ドイツは5月5日に降伏したらしい。クアラ・シンパンとメダンのオレンジスクールが爆撃された。…中略… 5月3日、ヒットラー死亡。我々の同胞はとても喜んだにちがいない。サバンとコタラジャは海上から砲撃を受けた。

ボス

1945年5月10日

オシंगाはすぐまたウイングフートから戻ったが、手術はされなかった。彼はヒットラーが死んだことの裏付けを持ちこんだ。

ゴッキンガ

1945年5月10日

美しき夜、そして見事な日の出。明けの明星は月のように大きく、その下に三日月、そして

やっと太陽と空気中にすばらしい色彩が。満喫した。近いうちには家族4人で観賞しよう。5年間占領されていたオランダが同じ日に解放されることになれば、何とすばらしいだろうし、不思議でもない。考えてもごらん。…中略… ジャワにいる抑留者は全員解放され、ここは5月17日に？…中略… 今度、未だに自由の身でいる全ての国籍の欧州人と500人の印欧人のためにホン[バラック]が12棟別に建てられるなどと情報が行き交うのだ。

クラウト

1945年5月11日

ベルリンは事実上壊滅した。日本人所長は、ソ連軍は残忍であったが、いかに米軍が日本の町々を爆撃したかは野蛮さ以上のものだったと語った。収容所に来た日本人の建設請負業者は、「プラン・アンピル・ハビス」[戦争は大方終わった]と言った。メダンのオレンジスクールは確かに爆撃されたのだ。

クラウト

1945年5月13日

あるスカリラからのうわさ：既婚者は家族収容となるだろう。11歳以上の少年少女は別個の収容所に移される。私の最愛の息子を後に残さねばならないことになったら、私はとても惨めな思いをするだろう。彼自身も非常にいやなことと思っている。だが、彼は元気に言った。パパ、ぼくはフランクと一緒にやっていくし、そしたら、同時にぼくは自立もするよ。何とすばらしいことばだ。喜びとエネルギーに満ちた、たくましい子だ。

クラウト

1945年5月15日

中国援軍に守られ、米軍精鋭連隊の30万人が（日本）本土に上陸のうわさが。彼らはまるでアリのように本土を駆けあがっている。10人に戦車1台。これが本当ならば良いのだが。医師がアーク・パミンケのために外科用器具を頼んだ。ヤップが言った。構うな。どうせ、しばらくしたら君たちは解放されるのだ。他のヤップが言った。ドイツは無政府だ。人々は飢えて死んでいく。

クラウト

1945年5月16日

まだもっとお話が、それも80%が良いニュースを伝えた男のものだ。ソ連は日本に最後通告を突き付けたらしい。その中で、1904年に日本へ譲渡した土地の返還が要求された。日本はこれを拒否したらしく、そのため現在ソ連と日本間に戦争が。昨日とても怒っていたヤップがここにいる。彼は言った。バンジャック・オラン・マティ[たくさんの人が死んだ]。

メンデス

1945年5月18日

今夜、ボス医師の指揮のもと、聖ヨーゼフスクールから病人7人が到着した。彼らは真実のニュースをもたらした。ヒットラーとムッソリーニは死亡した。ドイツ降伏がスウェーデンで調印された。タラカンは連合軍の手中に、テルナテも同様。1945年4月13日付けで、ソ連は日本に対し中立条約の解消を通告。日本のスポークスマンによりソ連の威嚇と日本の緊急事態について語られた。

クラウト

1945年5月18日

ヤップのひとりが、自分たちにとり非常に困難な状況にあると発言した。彼らは今後約2ヶ月間がんばり通し、そのあと山間部へ行くそうだ。人々の雰囲気はとても楽観的だ。…中略…5月10日以降は、レックス映画館による欧州に関するラジオニュースが全然入らなかった。ドイツの降伏は、当日に放送された。インドネシア人に向けたヤップの演説は陰気であった。東インド海上をふたつの英国艦隊が。日本は頻繁に重爆撃を受けている。…中略… 戦況はうまく具合いだし、何年か前に夢見たように、7月5日には再会できるとした愛妻が正しかったとますます信じるようになる。

ゴッキング

1945年5月19日

この日記帳は収容所でいっぱいになるのだろうか？そうは思わない。なぜならば、6月23日の君の誕生日には一緒に祝える様子だから。もうそんなこと考えるのはやめよう。

メンデス

1945年5月20日

いわゆる本当のうわさ：本土3地点に上陸、そしてウラジオストックでソ連を介した日本と  
連合国との和平交渉。

クラウト

1945年5月22日

うわさ：日本は連合国の要求を全て受け入れた。日本人の長官は、この地域が撤兵され、他  
の部隊が来ると住民に向けて発表した。収容所監督は明日、報告を受けるようだ。もうひと  
つうわさが。アメリカ人を撃つなとスカリラへ命令が出された。

クラウト

1945年5月23日

この収容所に抑留されているあるひとりのバタク族の者は、我々が6月8日に解放されること  
に、どんな金額に対してでも賭けに応じている。さらに、白い人種がこの地方を3年3ヶ月支  
配するであろうというジャワの伝説もあるということ。その心配がしないでもない。5月14  
日の新聞で、ドイツ陥落を確認。ソ連と2百万の有色人のせいにしている。有色人はヤッペ  
ンと争うことがないであろうが、前述のロシア人は日本人と仲良くやっていたのだ。まった  
くの無駄話だよ。

クラウト

1945年5月29日

新聞によると、4月27日のニュースでは米空軍が東方への移動をすでに開始した。第一線に  
は10万の航空機が。ある日本の大臣が、戦い抜くことと公正な和平について語った。その他、  
5月4日か5日頃にタラカンが攻撃された。ヒットラーの死去に関連して、ヤップがドイツ代  
表のもとに弔問。ある司令長官がドイツで戦い抜いている。日本人の病棟助手が言った。

「Victory in peace better than victory in war.平和における勝利は、戦争における勝利よりま  
さる」。さらに、彼は紙に書いた。「Next month, great month.来月は大きな月」。これら全

ては注目すべき言葉だ。殴打はほとんどされていない。ヤップ将校はもう長いこと点呼を実行していない。確かなる気配がする。

クラウト

1945年5月30日

あるスカリラが鉄条網越しに小さな包みを投げたために、ヤップ（出っ腹のサミー）から平手打ちを食らった。そのスカリラは、「ダラム・ドゥア・ブラン・ダパット・コンバリ」[2ヶ月以内に仕返すぞ]と言った。3年前には絶対に出されなかった言葉である。…中略… 1週間したら我々が解放されようと言ったヤップがまたひとりいた。

クラウト

1945年6月2日

「トゥング・トゥジュー・ハリ ダパット・カバー・バグス」[7日したらいいニュースがある]と言ったヤップがまたひとり。本当に8日が重大な日になるのだろうか？願いがかないます様に。

ゴッキンガ

1945年6月3日

我々の新しい日本人所長は、来週、つまり明日月曜日の週には戦争が終わると言った。そして、メダンに家族収容が行われるのだ。我々がここにいる間、彼は我々の無事を？面倒みるらしい。ヤップはみんな来週のことを話している。我々は日本と同じように神経を張り詰めて過ごしている。

クラウト

1945年6月3日

また違うヤップが言った。「5日して、君たちはメダンに集められる」。そして、その他のヤップも。「日本と米国は停戦中」。さらに、日本の太陽神についての話が：このものが世界を滅亡から守らねばならない。6月8日以前にこれがなされることが必要だ。さもなければ、

日本の宗教に従い、太陽と地球が接触することになる。日本はこれを望まないであろう。5月18日の新聞：沖縄本島で激しい戦闘が。米軍が中心部に進攻する。日本の内閣が再び改造された。今度は、公爵やそのたぐいの閣僚がたくさんいる。何かありそうだ。解放が間近なことを願う。

クラウト

1945年6月5日

出っ腹のサミー（ヤップ）がアーク・パミンケから戻った。ある少年が彼に母親を見たかと尋ねた時、彼は、女性たちは一部プラウ・ブラヤンへ送り返された。そして残りは近日中に出る。君たちは二・三日してメダンへ向かう。プラン・ハビス[戦争は終わった]と言った。6月8日をめぐり、うわさが続いている。…中略… 「内務部」が3日したら収容所を出て、そのあと警察官が、そして5日目に農園企業主が出るらしいといううわさが今夕広まった。残りはここにそのまま留まる。この話はヤップがゴンフライブ検査官にしたらしい。それらのことが調べられたが、ゴンフライブは何も知らなかった。第五列作業みたいだ。

クラウト

1945年6月8日

今日は、その大きな日のはずだ。どうなるだろうか。…中略… いつも6月8日のことを話していたヤップ（出っ腹のサミー）が今は、日本は戦争を続け、あと1年はかかるだろうと言った。

ボス

1945年6月8日

今日、大きなことが起こるといろいろ噂されたにもかかわらず、…いつもと同じように日が暮れた。

メンデス

1945年6月14日

6月8日のことでいろいろあった噂が本当にならなかったあとは、静まり返り、一言も聞かれなくなった。

クラウト

1945年6月25日

我々がドロック・メランギール近郊のララス（HVAの農園企業）へ行くであろうとうわさされている。加えて、和平が締結されたことが。勝手にしろ。我々はこのんびり構えるから。

ゴッキング

1945年6月26日

話によると、この7月にはスマトラが正式に委譲され、シヤムでは全ての軍隊が武装解除されるが、軍政部はここに留まる。これらのニュースがどこから入ったのかは誰も知らない。することがあまりないので、やっぱりこれは収容所でのでっち上げかも。夢想する人はいつもいるのだ。

クラウト

1945年7月1日

新しいスカリラが6人来た。彼らは6月21日に和平が調印された知らせを持ち込んだ。

クラウト

1945年7月2日

平和になったという話がランタウパラパトの住民に伝わった。みんなこのことで頭がいっぱいだ。あるスカリラは、我々は今はカワン[友達]だから、お辞儀をする必要はないと言った。他のスカリラは、14日したら（以内に）、我々には詳しく知らされるだろうと語った。



クラウド

1945年7月5日

本日は愛妻によると重大な日となるはずだ。7月5日が、何年か前にはっきりと彼女が夢の中に現われたのだ。どうか何か特別なことが起こりますように。

ボス

1945年7月20日

6月27日の「スマトラ新聞」からのニュース。沖縄での戦闘は終わった。バリクパパン前方に「機動部隊」[連合艦隊]がいる。上陸か？日本国内での来たる「決戦」に関連して、日本の航空機産業に改造が。

クラウド

1945年7月23日

バンタンと南スマトラへの上陸についてのうわさが続く。期待とするところだ。

ボス

1945年7月24日

7月18日の「スマトラ新聞」ニュース。ベルリンで三国会談：チャーチル、スターリン、トルーマン大統領。テルナテで米軍部隊によるヤップ撤退作戦。その際、300人が死亡。ボルネオでは：バリクパパンとサマリダで戦闘が。

クラウド

1945年7月28日

アンダマン諸島が占領され、バリクパパンで市街戦が。サバンが重爆撃される。米軍が多数中国に上陸。

クラウド

1945年8月7日

うわさ：パレンバン周辺で戦闘が。昨日、前哨隊の将校がしばらくぶりで歩哨を連れて再び訪れた。何か意味しているのだろうか？パレンバンとスラバヤは我々側にあるらしい。長崎が重爆撃を受けた（上陸準備）。スマトラにある橋が監視されるようだ。中立の人が抑留されたらしい。

クラウド

1945年8月15日

昨夜は、日本が和平を締結したという話があった。こうして、近頃はオランダがフランドルとヴェストファーレン他を獲得した話もあるのだ。本当かそのうちに分かるだろう。

ゴッキング

1945年8月17日

ル・ヤポンによると、8月1日にソ連が日本と戦争。

クラウド

1945年8月20日

日本の首都が10日前に大きな被害を受けたらしい。…中略… ソ連が本当に参戦していれば、もう長くは続かないと思う。もう潮時だ。

ゴッキング

1945年8月22日

平和について、たくさんのニュースが広まっている。アーク・パミンケの女性はメダンへ戻され、我々が数日したら行くことがすでに通告されたらしいこと。新しいリストを作成しなければならず、徹夜で作業だ。外部作業にあたっては監視なし等々。何かありそうだが、何だろう？

ボス

1945年8月23日

戦争が昨日終わったとのうわさがいろいろな所から出ている。今月の20日からは、給食の不可解な増量：1日につき米約500グラムとトウモロコシ200グラム。こんなこと初めてだ。ヤップのひとりが、戦争が終わり、連合軍がここにやって来るため、紙に彼が一度もジャハット[悪人]でなかったこと、そして一度も殴打したことはないと書いてくれと外部作業班のふたりのクパラ[責任者]に願った。驚きだ。願わくば… これが本当だとしたら！

クラウト

1945年8月23日

次の話が未だに広まっている。

1. あるヤップがジャック・ファン・ドルモーレンに「プラン・ハビス」[戦争は終わった]、そして各自へはその私有地が返還されるであろうと言った。
2. 日本軍将校が、昨夜リストをタイプした連中<sup>45</sup>に言った。「戦争が終わったら、君たちは何をするのかね」。彼らは「ここに留まります」と言った。
3. 野菜運搬車の運転手が、戦争は終わったと言った。
4. アーク・パミンケの女性がメダンへ行くらしいという話。
5. あるスカリラは、鉄条網脇にファン・アステンを呼んで、戦争が終わったと言って、彼に以前と同じように彼の所での再就職を願ったらしい。
6. 住民が外に出た連中に、戦争は終わったのになぜまだ来るのかと尋ねた。
7. 年老いた宣教師ノイマンは週のはじめに言ったそうだ。「今週大きなことが起こる。平和が生じる」
8. 木材搬入班と伐採班の者たちと一緒にいったヤップが、リーダーのロメニーとステブラーに彼は一度も殴ったことがないとの言明書を願ったらしい。つまり平和となり、彼は米軍を恐れているのだ。
9. スカリラたちは昨日、給料の1ヶ月分追加と貯めた金をもらった。
10. あるスカリラは我々の小教区神父に言ったそうだ。「あと3日したら出る。鉄条網脇に夜11時に来い。そして教区民にあてた手紙を俺に渡せ」
11. 巡査が今朝ランタウパラパトで、平和だとヤップに伝えられたらしい。（これは昨日の午後5時だったはずなので、8月22日水曜日だ）
12. 占領はランタウパラパトから解除される。

---

<sup>45</sup> 「収容所組織 — 欧州人並びに日本人収容所幹部」1945年8月22日、23日の抜粋参照。

13. あるスカリラがひとりの欧州人を呼び、タバコをあげて言ったそうだ。「プラン・ハビス、タバコだ。我々はカワン（友達）だ」

14. あるヤップはデ・フローテに万年筆と鉛筆を売るかと聞いたらしい。彼は200ギルダー要求した。「バンジャック」[高い]とヤップは言った。「メダンで売ったらどうだ。プラン・ハビス」。デ・フローテは誰がそのことを決めるのかと尋ねた。ヤップは5本の指を突き出して言った。「リマ・オラン」[5人]。これはつまり、ベック、ブルッヘマン（内務部員）、ワルラーベ（HVA）、ヤンセン（タンジュンムラワの大きいヤンセン）、リューバース<sup>46</sup>（HAPM）だ。さらに、そのヤップは米軍はブカン・マイン[強力]だったと言った。「バンジャック・ボン、バンジャック・オラン・マティ」[たくさんの爆弾、たくさんの死者]こんな調子で続くのだ。…中略…

収容所監督ホーヘンボームが今朝、HVAの代理店主ワルラーベのところに行った。一度もこんなことはなかった。HVAの業務代理人ローゼンボームがあれこれ書きとめる中、ワルラーベは彼と長い時間話していた。コック[デリ鉄道会社]は、デ・フローテ、フェルセプット、ワウツマ、ファン・ヘット・ホーヘルハウスとともにミーティングをした。収容所の雰囲気は緊張気味。その他にもまだある。女王がラジオ演説をした際、その中で、蘭領東インドは女王の誕生日（8月31日）前に解放されるであろうと述べたことが数週間前に知らされた。注目すべきだ。収容所の住人に金製品を売っていたランタウパラパトの中国人が昨日来て、プラン・ハビスであり、日本の紙幣はパンタット[尻]を拭うためだけに有用だから、ご自分で保管しておくようにと告げながら返したのだ。加えて、今週には密輸業者がカンボンで存分にもてなされた。彼らは、なぜ欧州人はもう来ないのかと尋ねさえしたのだ。以前はカンボンの人々は非常に怖がっていて、なるべくならお客はできるだけ早く去ってくれればと思っていた。…中略… これを述べたあとにも、何でもないと云わなければならないのかな？

---

<sup>46</sup> 「収容所組織 — 欧州人並びに日本人収容所幹部」1945年8月18日の抜粋参照。

## 収容所への平和通告

ボス

1945年8月24日

ついに、やっとのことで、我々にとって大いなる日が。ホン[バラック]長と医師全員に加え、収容所監督が日本軍将校のもとに行かされた。長いスピーチ（ヤップはみんなとても感動していたのだ！）があった。**戦争は終わった**（万歳！）。8月14日頃日本が降伏した。ウィルヘルミーナ女王はすでにかかなりの時間オランダに戻っている。ヤップは早急に撤退し、この収容所の世話を任されるはずの連合軍と交代する。全員通常どおりに各自の作業をしなければならない。我々には良きオランダ人として行動することが望まれている。数週間以内にこの収容所は解散することになっている。医師たちは日本人軍医から別にスピーチを聞かされた。重症患者は医師とともにウイングフートへ運ばれる。タバコと火酒が提供された。我々の医師により女王に乾杯する音頭がとられた。「テンノウヘイカ」に乾杯は期待しても無駄… 明日アーク・パミーンケの婦女子収容所への最初の訪問が始まる。ジャワとスマトラでは戦闘が行われず、つまり何も破壊されない。感動と興奮の渦がそのあとに。（バラック長）フェッターが我々に向かって話をした時は、残念ながら雨が激しく降っていた。どのホンの中でもヘット・ウィルヘルムスが歌われた。私にはそれができなかった。感動で胸がいっぱいになり、涙にむせたのだ。多くの人も私と同じだった。ホンでは、握手し、お互いに心から喜びを分かち合った。食べ物がのどを通らなかつた。驚いたことに、長いマストには大きな三色旗が現われたのだ。早々にも病人にはミルクが届けられた。注：終戦後10日目。今日、最後のトウモロコシを食べた。いたるところで歌声が。我々のホンにピアノが持ち込まれた。全員が格別にすばらしい気分だった。

ゴッキンガ

1945年8月24日

ヤップから入手：ゴム手袋、…中略… ヤップの包帯。ウビ班は掘り出し作業のみをし、植付けはしないこと。これはティダック・ウサ[不必要]なのか？我々がここから出る時には、どう行ふべきかの計画を収容所内でいろいろ耳にする。幸い、これまでと違う話が広まり始めた。…中略… **7 P. M. 終戦**

クラウト

1945年8月24日

スカリラの責任者は、今月末前には大半の人々が引越しているはずだと言っらしい。あるスカリラが鉄条網脇でひとりの抑留者に葉巻を2本あげた。スカリラたちは平服に変わる時を待ち望み、これがかなえばそのあとは退散できるとする。あるスカリラは今朝伐採班の者に12本の葉巻を配った。平和になったと野菜運搬車の運転手が再度言った。我々が**明日非常に重大な通告**を受けるであろうという話が出ている。さらに、ヤップは圧倒的な勢力に対しこの戦争に敗北せざるをえなかったとの布告が新聞に載っていた。ひとつのことを彼らは達成したのだ。彼らはインドネシアをオランダ統治から解放したのだ。または、米国がもっとうまかったかどうかは、成り行きを待たねばなるまい。スカリラたちは今日の午後ヤップから終わりを告げられた。医師たちは午後5時にヤップのもとに呼ばれ、**平和**を知った。すぐにも最愛の妻子とともに暮らせることのすばらしさ。うれしさに胸がいっぱいだ。なんと感動的な日々が！ やっとここにも我々が待ちに待った**平和**が来たのだ。私のコーからの便りが欲しくてたまらない。

ホン[バラック]長と収容所監督がヤップのもとに呼ばれた。ものすごいどしゃ降りの雨の中を彼らは戻った。ファン・デル・リンデン（バラック長）が報告した。1. 戦争が終わった。2. 毎日100名がアーク・パミーンケの婦女子収容所へ行かれる。3. 近日中に我々は帰宅する。この報告のあと、ヘット・ウィルヘルムスの演奏が始まり力強い声で斉唱された。いよいよ本当に終戦という報告だった。モンスマが今日埋葬されるとは遺憾なことだ。これから緊張の日々を迎えることだろう。いたるところで握手されている。再び、報告が。我々が**女王はオランダ**におられる。管理は、収容所監督と警察の援護のもと、ベック理事官とブルッヘマンに任された。三色旗が収容所に翻っている。雰囲気は興奮気味。ヤップがミルクと薬品を送った。今になって、これを行えるようになったのだ。

メンデス

1945年8月24日

万歳、万歳、万歳三唱！ やっと、待ちに待った平和が。うわさが本当となった。降り続く激しい雨の今日の午後、医師とバラック長全員が様々な日本軍将校と軍医が集合しているヤップのもとへ呼ばれ、この8月14日頃に和平が締結され、収容所へは安全と平静がはかれるべきこととの朗報を受けた。食糧と医薬品の状況に改善がもたらされるようだ。すぐにも我々は収容所に三色旗を揚げ、大きな声で斉唱した。毎日約60人がアーク・パミーンケにいる配偶者を訪問できるのだ。